

台東区障害者実態調査 報告書

令和4年12月

台東区

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
(1) 調査対象.....	3
(2) 調査方法.....	3
(3) 調査期間.....	3
(4) 調査票回収数及び回収率.....	3
3. 報告書の見方	4
(1) 百分率について.....	4
(2) 単純集計及び分析について.....	4
(3) クロス集計及び分析について.....	4
(4) 令和元年度調査との比較について.....	4
第2章 調査の結果.....	5
I 障害者	7
1. 基本的属性.....	7
(1) 調査回答者.....	7
(2) 年齢.....	8
(3) 障害の種類.....	9
(4) 難病医療費助成受給者の権利認知.....	10
(5) 手帳の等級.....	11
(6) 手帳の取得年齢.....	13
2. 暮らし方について.....	15
(1) 現在の暮らし方.....	15
(2) 将来希望する暮らし方.....	16
(3) 共同生活住居希望時期.....	18
(4) 現在の居住地と将来希望する居住地.....	19
3. 日常生活について.....	21
(1) 生活の支援者、支援者の年齢、必要な時間帯・日数・内容.....	21
(2) 悩みごと・困りごと.....	28
(3) 悩みごと・困りごとの相談先.....	31
(4) 現在の日中の過ごし方.....	34

(5) 希望する日中の過ごし方	36
(6) 外出の頻度	39
(7) 外出における困りごと	40
(8) まちのバリアフリー対応の満足度	43
4. 仕事について	44
(1) 就労状況	44
(2) 働き方、就労時間、平均収入	45
(3) 仕事における悩みごと・困りごと	48
(4) 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度	50
(5) 希望する働き方	51
(6) 仕事をしていない理由	53
(7) 障害者が働きやすい環境	55
5. コミュニケーション・意思疎通について	57
(1) コミュニケーションの頻度	57
(2) コミュニケーションに困った場所や場面	58
(3) 利用する意思疎通手段・支援	60
(4) 充実を希望する情報媒体	61
6. 障害福祉サービスについて	63
(1) 障害福祉サービスの利用状況、利用していない理由	63
(2) 障害支援区分の認定状況	65
(3) サービスの申請手続き等を行っている人	67
(4) サービス等利用計画の作成者	69
(5) 相談支援事業所利用の満足度	70
(6) セルフプランを選んだ理由	71
(7) サービスの支給決定内容の満足度	72
(8) 事業者の対応の満足度	73
(9) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況	74
(10) 今後、充実を希望するサービス	75
(11) 介護保険サービスの利用状況	78
(12) 介護保険サービスの満足度	80
7. 医療的ケアについて	81
(1) 必要とする医療的ケア	81
(2) 医療的ケアに関し充実が必要な支援	84
8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について	86
(1) 成年後見制度の認知度	86
(2) 成年後見制度の利用意向	87
(3) 虐待を受けた経験	88
(4) 虐待の内容、虐待者	90
(5) 虐待を受けた際の相談先	93
(6) 虐待場面に遭遇した経験	96

(7) 障害者虐待防止法の認知度	97
(8) 障害者虐待防止センターの認知度	98
(9) 障害者差別解消法の認知度	99
(10) 障害を理由とする差別を受けた経験	100
(11) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面	101
(12) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先	103
9. 災害・緊急時のことについて	104
(1) 災害時の困難・不安	104
(2) 緊急時の連絡先	106
(3) 災害時の避難方法の理解・把握	108
10. 新型コロナウイルス感染症について	109
(1) 新型コロナウイルス感染症による困りごと	109
(2) 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの	111
11. 台東区への要望等について	113
(1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策	113
(2) 自由意見	116
II 障害児	121
1. 基本的属性	121
(1) 調査回答者	121
(2) 年齢	122
(3) 手帳の等級	123
(4) 手帳の取得年齢	125
(5) 障害の種類	127
2. 暮らし方について	128
(1) 現在の暮らし方	128
(2) 将来希望する暮らし方	129
3. 日常の生活について	130
(1) 生活の支援者、支援者の年齢、必要な内容	130
(2) 外出の頻度	135
(3) 外出における困りごと	136
(4) まちのバリアフリー対応の満足度	139
4. 生活を支援している方の仕事について	140
(1) 支援者の就業状況	140
(2) 支援者の就業時間	142
5. 療育・教育について	144
(1) 日中の活動の場	144
(2) 放課後の過ごし方	146
(3) 休日や余暇時間の過ごし方	147
(4) 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ	149

(5) 成長や発達について気がかり・心配になった時期	150
(6) 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先	151
(7) 育児における悩みや不安	153
(8) 育児における悩みや不安の相談先	156
6. コミュニケーション・意思疎通について	158
(1) 利用する意思疎通手段・支援	158
(2) 充実を希望する情報媒体	159
7. 障害福祉サービスについて	160
(1) 障害福祉サービスの利用状況、利用していない理由	160
(2) サービスの申請手続き等を行っている人	162
(3) 障害児支援利用計画の作成者	163
(4) 相談支援事業所利用の満足度	164
(5) セルフプランを選んだ理由	165
(6) 事業者の対応の満足度	166
(7) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況	167
(8) 今後、充実を希望するサービス	168
8. 医療的ケアについて	172
(1) 必要とする医療的ケア	172
(2) 医療的ケアに関し充実が必要な支援	173
9. 障害者の権利擁護、虐待、差別について	174
(1) 虐待を受けた経験	174
(2) 虐待の内容、虐待者	176
(3) 虐待を受けた際の相談先	178
(4) 虐待場面に遭遇した経験	179
(5) 障害者虐待防止法の認知度	180
(6) 障害者虐待防止センターの認知度	181
(7) 障害者差別解消法の認知度	182
(8) 障害を理由とする差別を受けた経験	183
(9) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面	184
(10) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先	185
10. 新型コロナウイルス感染症について	186
(1) 新型コロナウイルス感染症による困りごと	186
(2) 新型コロナウイルス感染症に関し行政に求めるもの	188
11. 台東区への要望等について	190
(1) 障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策	190
(2) 自由意見	193

第3章 調査票.....	197
1. 障害者調査票.....	199
2. 障害児調査票.....	217

本書は、「台東区カラーユニバーサルデザインガイドライン」に基づき、より多くの人に見やすく、読みやすいようにデザインされた書体である「ユニバーサルデザインフォント」を使用しています。

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、障害者（児）の生活実態及び要望等を把握し、「第7期台東区障害福祉計画」（令和6年度～令和8年度）を策定するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査概要

(1) 調査対象

障害者（18歳以上）1,100件

障害児（18歳未満）100件 ※今回から新たに障害児に特化した調査票を作成

(内訳)

区分	対象	抽出方法	対象者数
身体障害者	①身体障害者手帳所持者	無作為抽出	600人
知的障害者	②愛の手帳（療育手帳）所持者	無作為抽出	100人
精神障害者	③精神障害者保健福祉手帳所持者	無作為抽出	200人
難病患者等	④難病医療費等助成の受給者	無作為抽出	200人
障害児等	上記①～④または障害児通所支援利用者	無作為抽出	100人
合計			1,200人

(2) 調査方法

配布：郵送配布

回答：郵送、訪問またはインターネット回答（全て無記名回答）

(3) 調査期間

令和4年9月1日（木）～令和4年10月2日（日）

(4) 調査票回収数及び回収率

A:対象者数	B:回収数	C:回収率 ($B/A \times 100$)
障害者：1,100人	594人	54.0%
障害児：100人	65人	65.0%
合計：1,200人	659人	54.9%

3. 報告書の見方

(1) 百分率について

調査結果の比率は、その設問の回答数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

(2) 単純集計及び分析について

設問ごとに「単純集計」を行い、その特徴等を記述している。

(3) クロス集計及び分析について

設問の回答者全員の合計を「全体」と表記し、特徴的なものについては、障害別等を分析の柱とするクロス集計表を掲載し、分析を行っている。

クロス集計表においては、障害別は複数回答項目であり、また障害の種別で「無回答」は含んでいないため、分析軸（縦軸）の回答者数の合計値と「全体」の数値は一致しない。

また、特定の選択肢を選んだ回答者だけに質問するなどの質問の流れによっては、質問の回答者数が少なくなる場合がある。回答者が30人未満の場合、有効な分析をする回答者数を満たしているとは言えないが、参考として図表並びに分析を掲載している。

障害児のクロス集計の障害別の区分は、身体障害者手帳、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを持っていると回答した方（問3）の障害の種類（問3-2）を基に集計している。

障害児の年齢別クロス集計における、年齢層の区分は以下のように定めている。

（未就学児：0～5歳、就学期：6～11歳、中高生：12～17歳）

※クロス集計・・・障害別の調査回答者など、2つの項目に着目してデータの集計や分析を行うこと。

(4) 令和元年度調査との比較について

令和元年度に実施した障害者実態調査（以下、「令和元年度調査」という。）は、障害者・障害児に対する調査を1つの調査票で実施した。令和4年度に実施した障害者実態調査（以下、「令和4年度調査」という。）は、より詳細な実態把握のため、障害者・障害児それぞれで調査票を作成し、実施した。

このため、令和元年度調査が全年齢層を調査対象者としているのに対し、令和4年度調査の「障害者」調査票は18歳以上を調査対象者としているという点で対象年齢に一部差異があるが、参考値として令和元年度調査の結果を掲載する。

第2章 調査の結果

I 障害者

1. 基本的属性

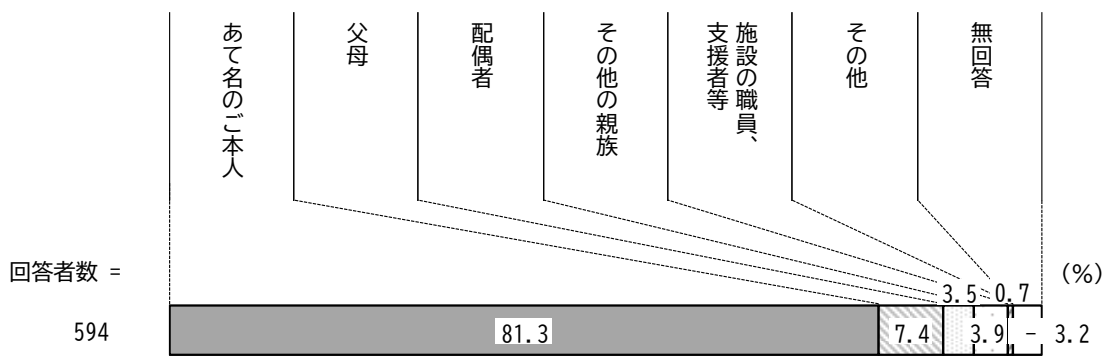
(1) 調査回答者

問1 はじめに、このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。(1つに○)

調査回答者は、「あて名のご本人」が81.3%と最も高くなっている。

障害別にみると、身体障害、精神障害、難病（特定疾病）で「あて名のご本人」が80%を超えるが、知的障害では「父母」が42.7%と高くなっている。

<図表 I - 1 - 1 調査回答者（全体）>



<図表 I - 1 - 2 調査回答者（障害別）>

区分	回答者数 (件)	あて名のご本人 (%)	父母 (%)	配偶者 (%)	その他の親族 (%)	施設の職員、支援者等 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	594	81.3	7.4	3.5	3.9	0.7	-	3.2
身体障害	286	84.6	5.9	3.8	3.1	-	-	2.4
知的障害	75	32.0	42.7	1.3	13.3	5.3	-	5.3
精神障害	92	87.0	3.3	5.4	2.2	-	-	2.2
難病（特定疾病）	161	88.2	1.9	5.6	2.5	-	-	1.9
高次脳機能障害	19	42.1	26.3	21.1	5.3	-	-	5.3
発達障害	36	66.7	22.2	2.8	-	-	-	8.3
その他	30	83.3	6.7	-	6.7	-	-	3.3

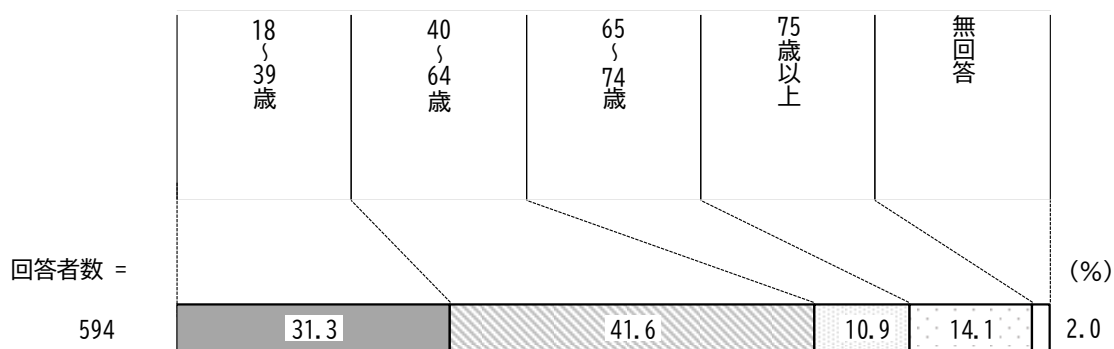
(2) 年齢

問2 あなたの令和4年9月1日現在の年齢をお答えください。

年齢は、「40～64歳」が41.6%と最も高く、次いで「18～39歳」が31.3%、「75歳以上」が14.1%となっている。

障害別にみると、発達障害で「18～39歳」が72.2%と最も高くなっている。

<図表I-2-1 年齢（全体）>



<図表I-2-2 年齢（障害別）>

区分	回答者数(件)	18～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全体	594	31.3	41.6	10.9	14.1	2.0
身体障害	286	29.0	42.3	11.2	16.1	1.4
知的障害	75	45.3	36.0	13.3	2.7	2.7
精神障害	92	27.2	48.9	19.6	4.3	-
難病（特定疾病）	161	32.3	41.0	8.7	16.8	1.2
高次脳機能障害	19	36.8	42.1	5.3	15.8	-
発達障害	36	72.2	22.2	5.6	-	-
その他	30	20.0	36.7	6.7	36.7	-

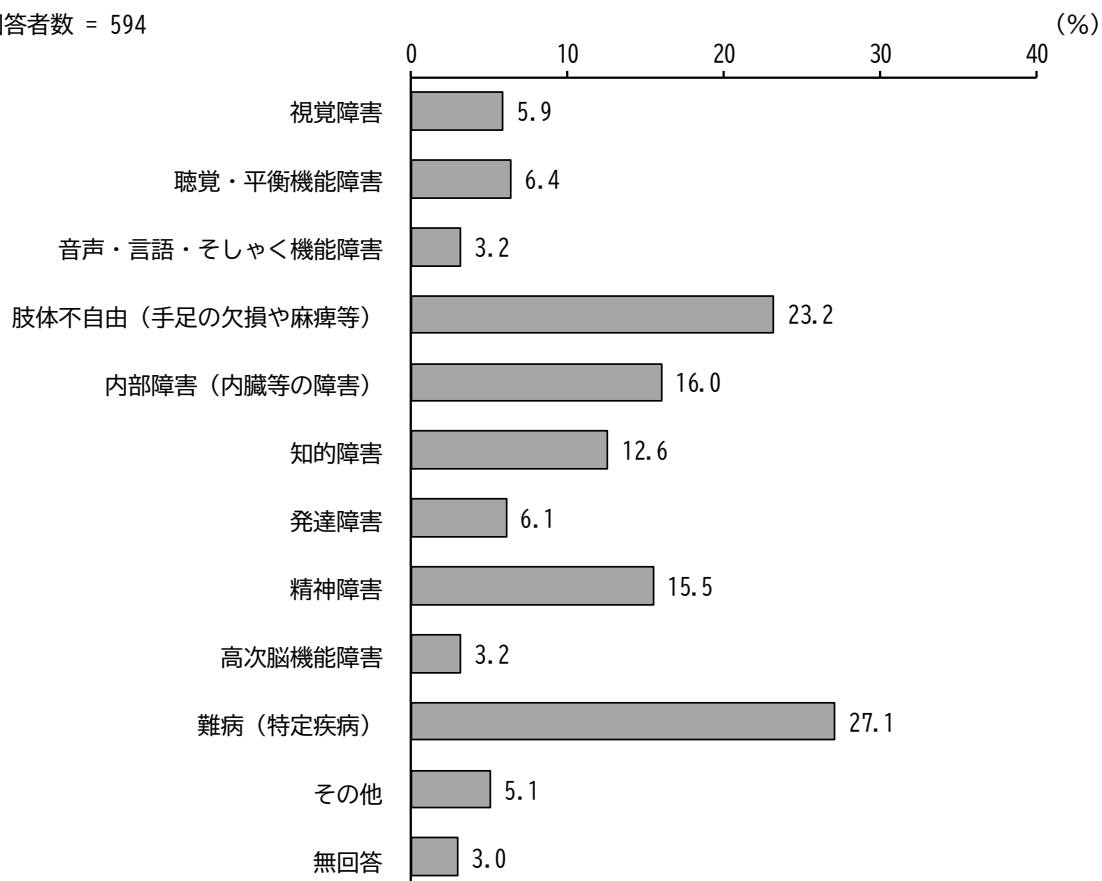
(3) 障害の種類

問3 あなたの障害は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害の種類は、「難病（特定疾病）」が27.1%と最も高く、次いで「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が23.2%、「内部障害（内臓等の障害）」が16.0%となっている。

<図表 I - 3 - 1 障害の種類（全体）>

回答者数 = 594

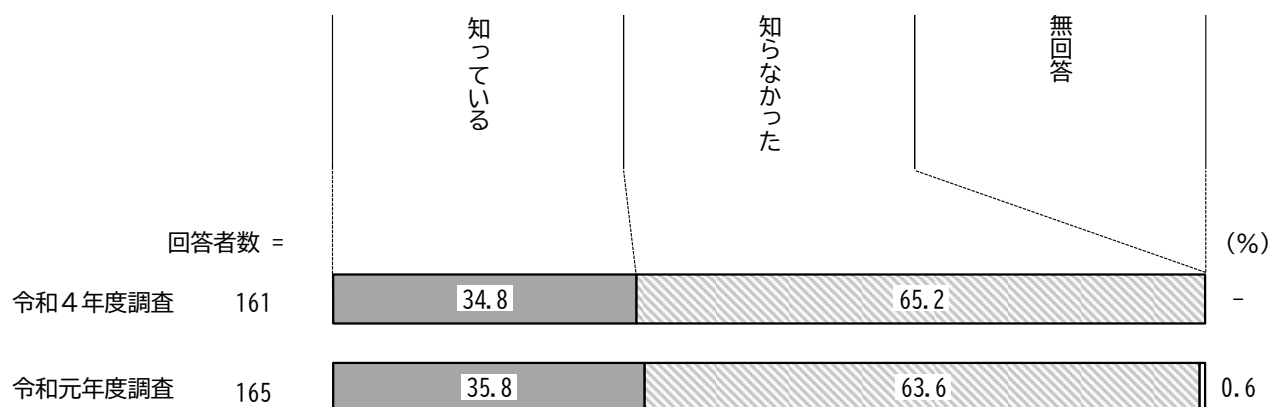


(4) 難病医療費助成受給者の権利認知

問3-1 問3で「10. 難病（特定疾病）」に○をした方におたずねします。
 難病医療費助成を受けている方は、身体障害者手帳を持っていなくても、
 必要と認められた障害福祉サービス等の利用が可能です。
 あなたはこのことを知っていますか。（1つに○）

難病等の方が障害福祉サービス等の対象であることについて、「知っている」が34.8%、「知らなかった」が65.2%となっている。

<図表 I - 3 - 2 難病医療費助成受給者の権利認知（全体）>

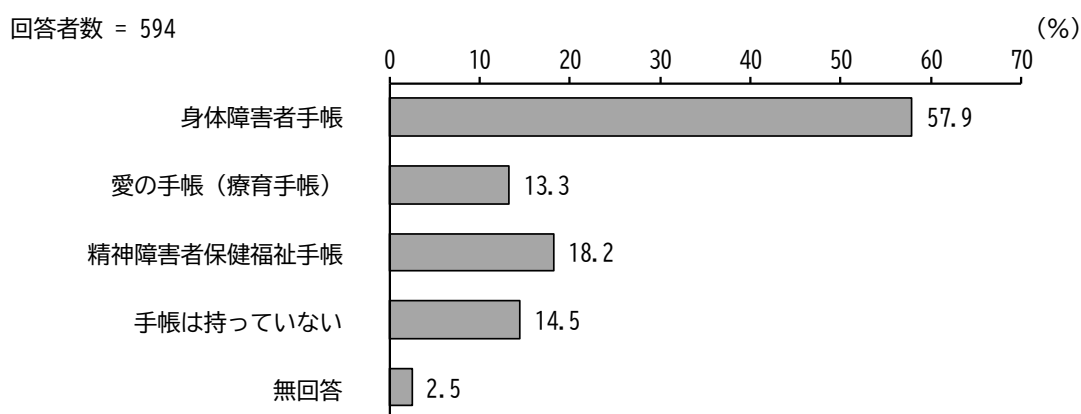


(5) 手帳の等級

問4 あなたがお持ちの手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

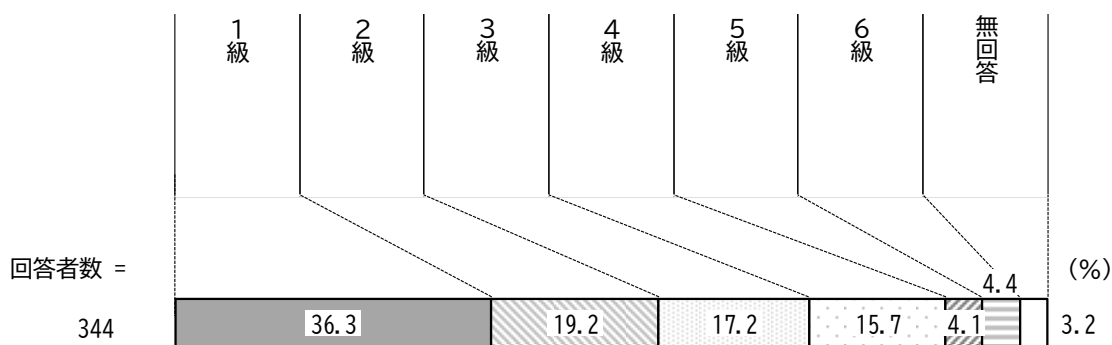
所持している手帳の種類は、「身体障害者手帳」が57.9%と最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が18.2%となっている。

<図表 I - 4 - 1 障害者手帳 (全体) >



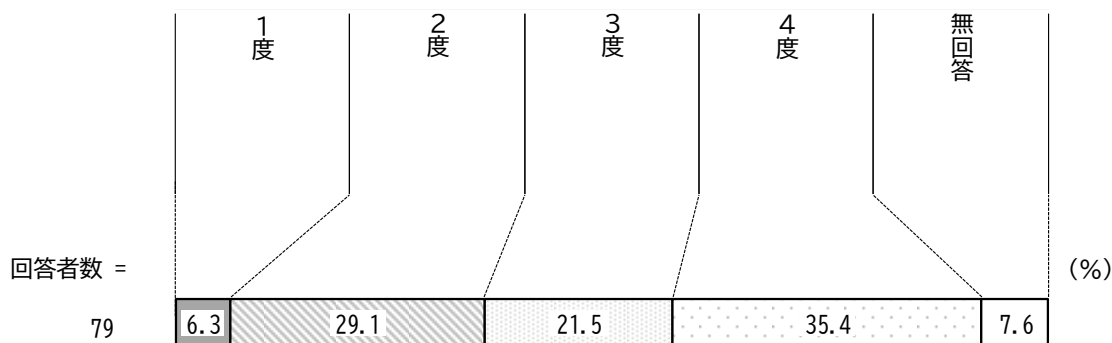
身体障害者手帳の等級は、「1級」が36.3%と最も高く、次いで「2級」が19.2%、「3級」が17.2%となっている。

<図表 I - 4 - 2 身体障害者手帳の等級 (全体) >



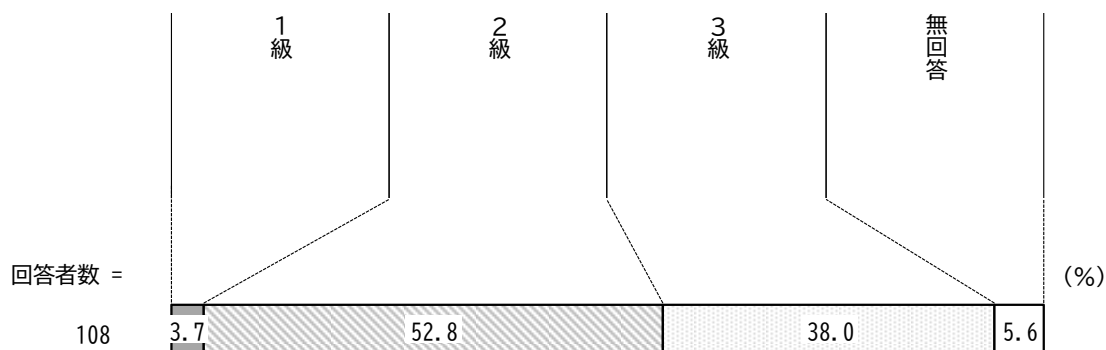
愛の手帳（療育手帳）の等級は、「4度」が35.4%と最も高く、次いで「2度」が29.1%、「3度」が21.5%となっている。

<図表 I - 4 - 3 愛の手帳（療育手帳）の等級（全体）>



精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が52.8%と最も高く、次いで「3級」が38.0%となっている。

<図表 I - 4 - 4 精神障害者保健福祉手帳の等級（全体）>

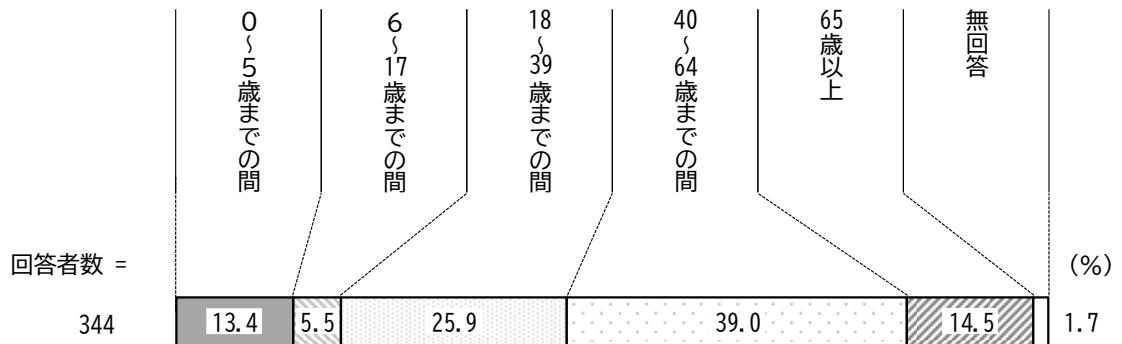


(6) 手帳の取得年齢

問4-1 問4で1~3に○をした方におたずねします。
 あなたがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。(手帳ごとに○は1つ)

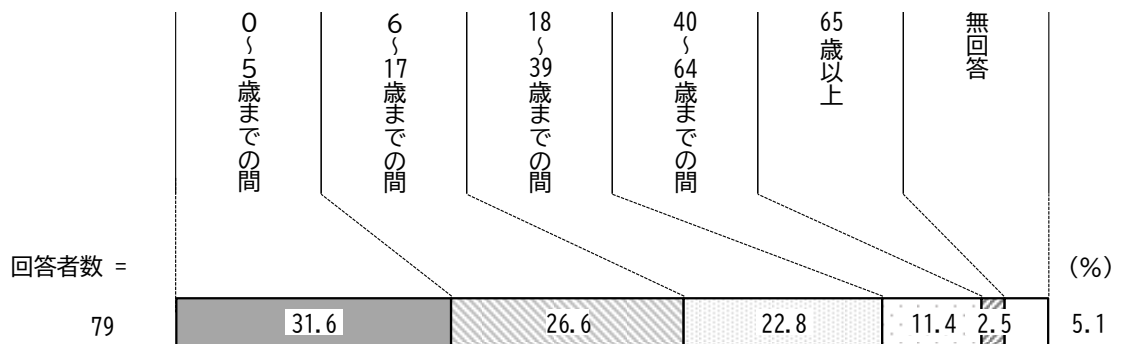
身体障害者手帳の取得年齢は、「40～64歳までの間」が39.0%と最も高く、次いで「18～39歳までの間」が25.9%、「65歳以上」が14.5%となっている。

<図表 I - 4 - 5 身体障害者手帳の取得時期 (全体) >



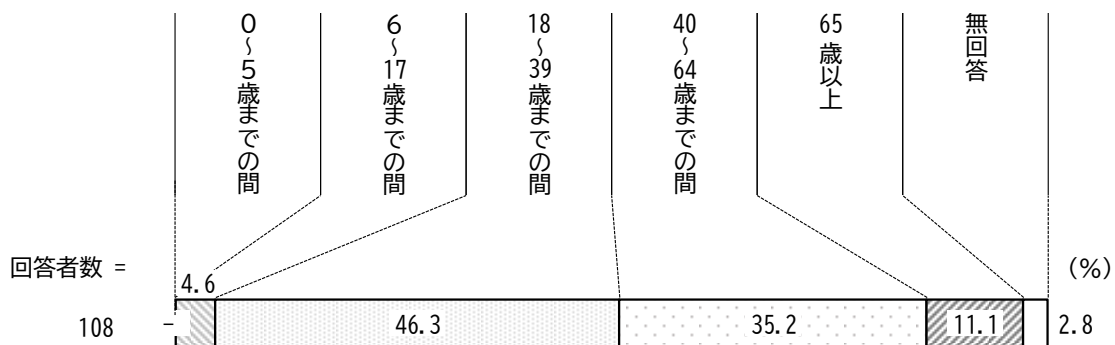
愛の手帳（療育手帳）の取得年齢は、「0～5歳までの間」が31.6%と最も高く、次いで「6～17歳までの間」が26.6%、「18～39歳までの間」が22.8%となっている。

<図表 I - 4 - 6 愛の手帳（療育手帳）の取得時期 (全体) >



精神障害者保健福祉手帳の取得年齢は、「18～39 歳までの間」が 46.3%と最も高く、次いで「40～64 歳までの間」が 35.2%、「65 歳以上」が 11.1%となっている。

<図表 I - 4 - 7 精神障害者保健福祉手帳の取得時期（全体）>



2. 暮らし方について

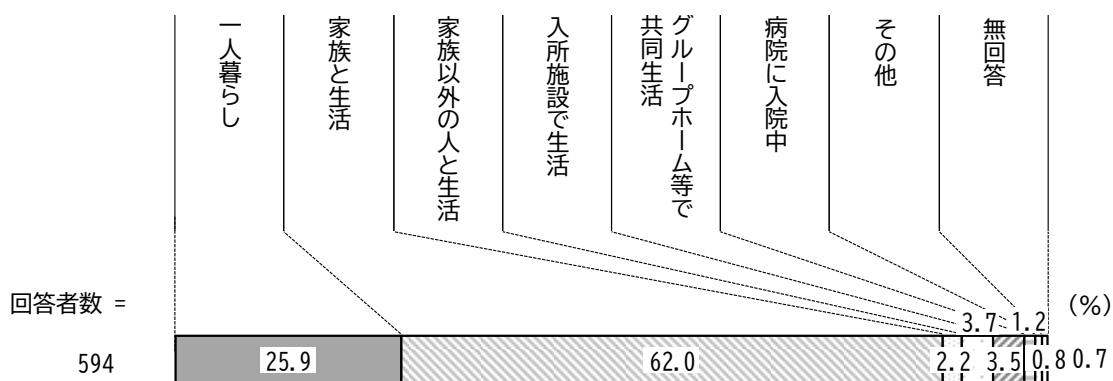
(1) 現在の暮らし方

問5 あなたは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

現在の暮らし方は、「家族と生活」が62.0%と最も高く、次いで「一人暮らし」が25.9%となっている。

障害別にみると、知的障害で「入所施設で生活」、「グループホーム等で共同生活」が比較的高くなっている。

<図表 I-5-1 暮らし方 (全体) >



<図表 I-5-2 暮らし方 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	一人暮らし	家族と生活	家族以外の人と生活	入所施設で生活	グループホーム等で共同生活	病院に入院中	その他	無回答
全体	594	25.9	62.0	2.2	3.7	3.5	1.2	0.8	0.7
身体障害	286	27.3	63.3	2.4	3.5	1.7	1.0	0.7	-
知的障害	75	5.3	45.3	1.3	20.0	24.0	-	2.7	1.3
精神障害	92	34.8	56.5	2.2	2.2	1.1	-	1.1	2.2
難病 (特定疾病)	161	26.7	65.2	2.5	1.9	1.2	1.2	0.6	0.6
高次脳機能障害	19	15.8	57.9	-	15.8	-	10.5	-	-
発達障害	36	33.3	50.0	2.8	8.3	5.6	-	-	-
その他	30	26.7	56.7	-	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3

(2) 将来希望する暮らし方

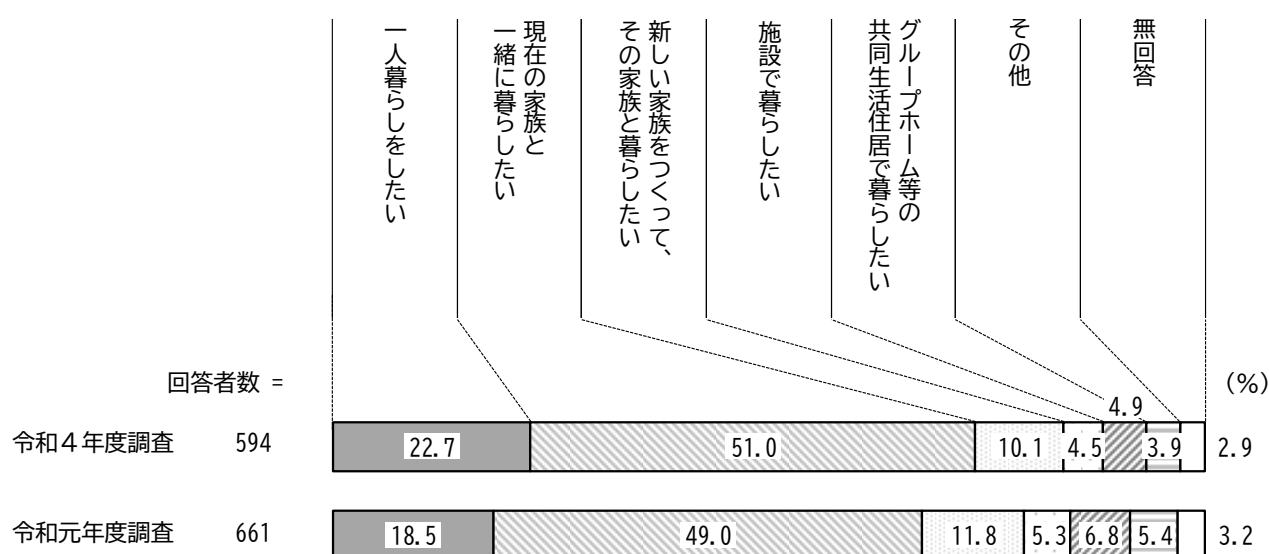
問6 あなたは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が51.0%と最も高く、次いで「一人暮らしをしたい」が22.7%、「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が10.1%となっている。

障害別にみると、知的障害で「施設で暮らしたい」、「グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」が比較的高くなっている。

生活形態別にみると、引き続き現在の暮らし方を続けたいと望んでいる人が多い。一方、入所施設で生活している人が「現在の家族と一緒に暮らしたい」が36.4%と、現在と違う暮らし方を望んでいる。

<図表I-6-1 将来望む暮らし方(全体)>



<図表 I - 6 - 2 将来望む暮らし方（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	施設で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
全体	594	22.7	51.0	10.1	4.5	4.9	3.9	2.9
身体障害	286	23.4	54.5	8.7	3.5	4.5	2.4	2.8
知的障害	75	17.3	32.0	1.3	16.0	24.0	4.0	5.3
精神障害	92	37.0	37.0	13.0	4.3	-	6.5	2.2
難病（特定疾病）	161	16.8	59.0	11.8	4.3	3.1	2.5	2.5
高次脳機能障害	19	10.5	57.9	10.5	-	-	-	21.1
発達障害	36	36.1	19.4	22.2	8.3	2.8	5.6	5.6
その他	30	26.7	53.3	3.3	3.3	3.3	10.0	-

<図表 I - 6 - 3 将来望む暮らし方（生活形態別）>

(%)

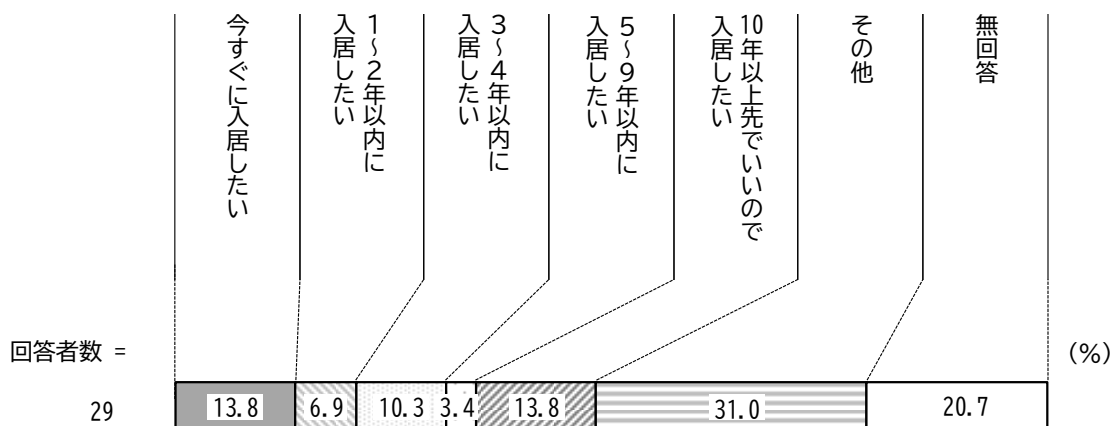
区分	回答者数 (件)	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	施設で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
全体	594	22.7	51.0	10.1	4.5	4.9	3.9	2.9
一人暮らし	154	55.2	2.6	20.1	7.8	3.9	6.5	3.9
家族と生活	368	10.9	77.4	5.2	1.1	2.2	1.9	1.4
家族以外の人と生活	13	7.7	7.7	69.2	-	15.4	-	-
入所施設で生活	22	13.6	36.4	-	31.8	-	-	18.2
グループホーム等で共同生活	21	14.3	4.8	-	9.5	61.9	9.5	-
病院に入院中	7	-	42.9	-	-	-	42.9	14.3
その他	5	40.0	-	20.0	20.0	-	20.0	-

(3) 共同生活住居希望時期

問6-1 問6で「5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」に○をした方におたずねします。いつからグループホーム等の共同生活住居で暮らしたいですか。(1つに○)

共同生活住居で暮らし始めたい時期は、「今すぐに入居したい」、「10年以上先でいいので入居したい」が13.8%と最も高く、次いで「3～4年以内に入居したい」が10.3%となっている。

<図表 I-6-4 共同生活住居で暮らしたい時期(全体)>



<図表 I-6-5 共同生活住居で暮らしたい時期(障害別)>

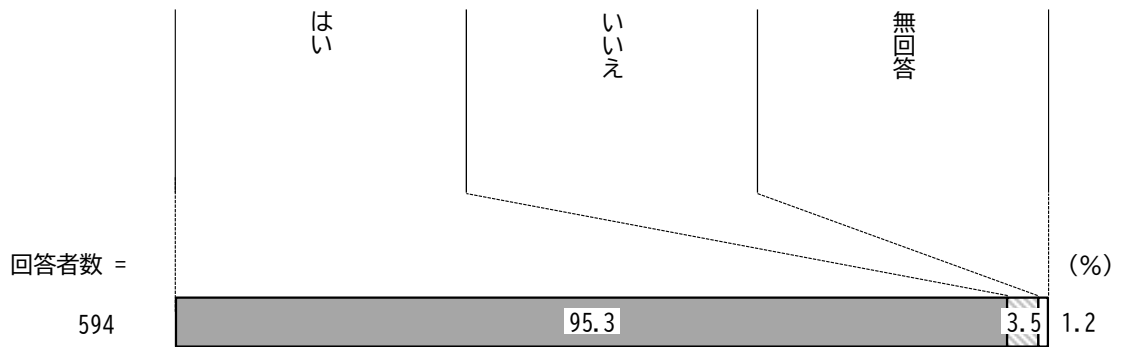
区分	回答者数(件)	今すぐに入居したい	1～2年以内に入居したい	3～4年以内に入居したい	5～9年以内に入居したい	10年以上先でいいので入居したい	その他	無回答
全体	29	13.8	6.9	10.3	3.4	13.8	31.0	20.7
身体障害	13	23.1	7.7	-	-	15.4	30.8	23.1
知的障害	18	16.7	5.6	16.7	-	5.6	33.3	22.2
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	5	20.0	20.0	-	-	20.0	20.0	20.0
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-
発達障害	1	-	-	-	-	-	-	100.0
その他	1	-	-	-	-	-	100.0	-

(4) 現在の居住地と将来希望する居住地

問7 あなたは現在、台東区に住んでいますか。(1つに○)

現在の居住地は、台東区内の人(「はい」と回答)が95.3%を占めている。

<図表I-7-1 台東区在住(全体)>

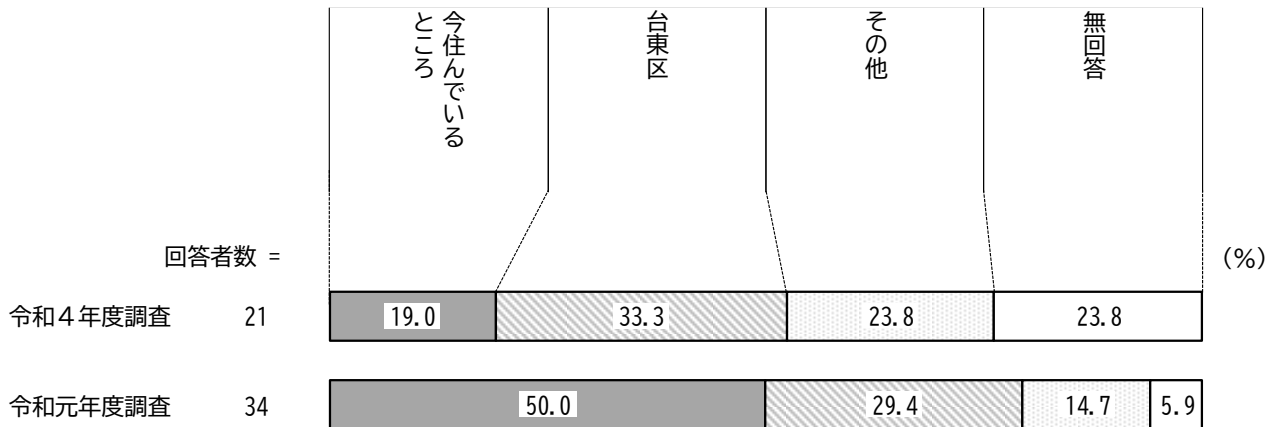


問 7-1 問 7 で「2. いいえ」に○をした方におたずねします。
 将来、住みたい地域はどこですか。(1つに○)

台東区外に居住している人が将来希望する居住地は、「今住んでいるところ」が 19.0%、「台東区」が 33.3%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「今住んでいるところ」の割合が減少している。

<図表 I - 7 - 2 将来住みたい地域 (全体) >



<図表 I - 7 - 3 将来住みたい地域 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	今住んでいるところ (%)	台東区 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	21	19.0	33.3	23.8	23.8
身体障害	8	12.5	37.5	25.0	25.0
知的障害	13	30.8	23.1	15.4	30.8
精神障害	4	25.0	25.0	-	50.0
難病 (特定疾病)	3	-	33.3	33.3	33.3
高次脳機能障害	3	33.3	33.3	-	33.3
発達障害	3	-	33.3	-	66.7
その他	1	-	-	100.0	-

3. 日常生活について

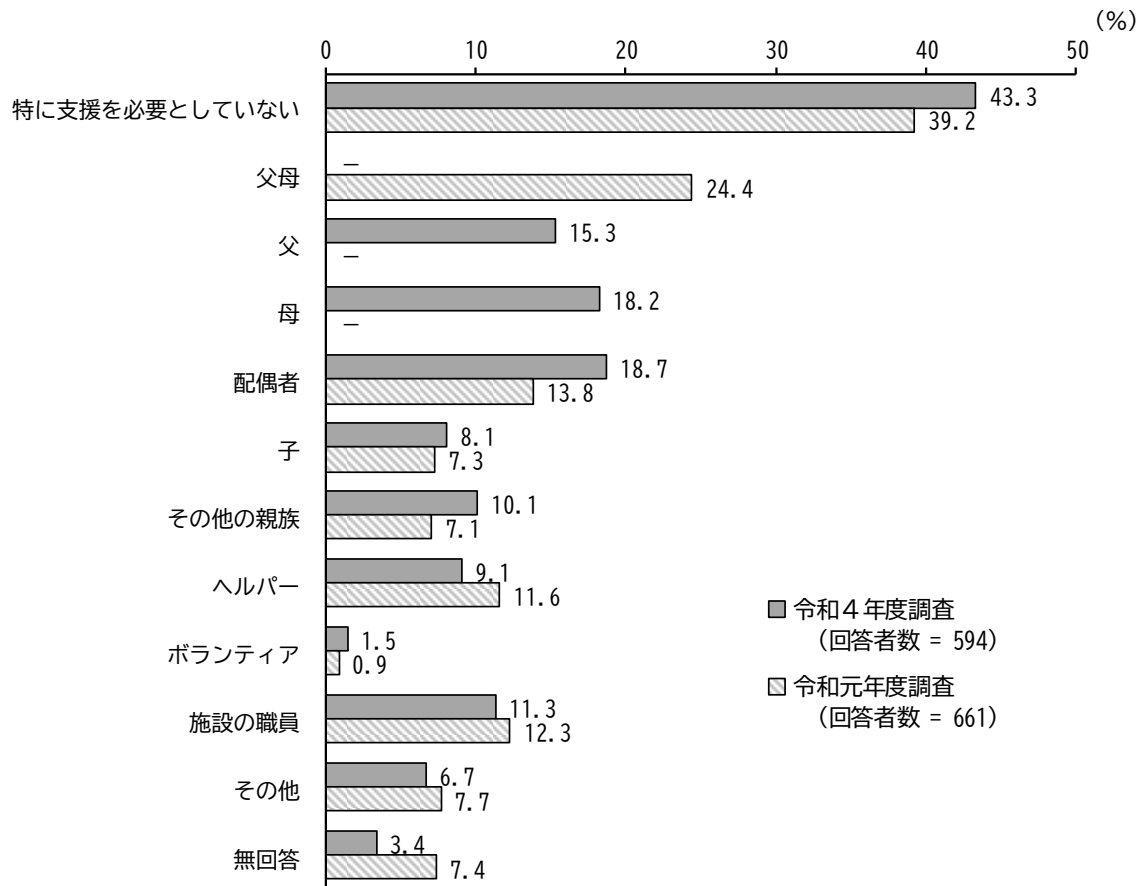
(1) 生活の支援者、支援者の年齢、必要な時間帯・日数・内容

問8 日常生活を送るうえで、あなたの生活の支援をしている方はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活の支援状況について、支援が必要な割合は、53.3%（全体から「特に支援を必要としない」43.3%と「無回答」3.4%を除いたもの）となっている。具体的な支援者は、「母」が18.2%、「配偶者」が18.7%となっている。

障害別にみると、知的障害で「母」が45.3%、「その他の親族」が30.7%、「施設の職員」が52.0%と高くなっている。また、高次脳機能障害で「配偶者」、「子」が比較的高くなっている。

<図表 I-8-1 生活の支援状況（全体）>



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
父	父母
母	

<図表 I - 8 - 2 生活の支援状況（障害別）>

(%)

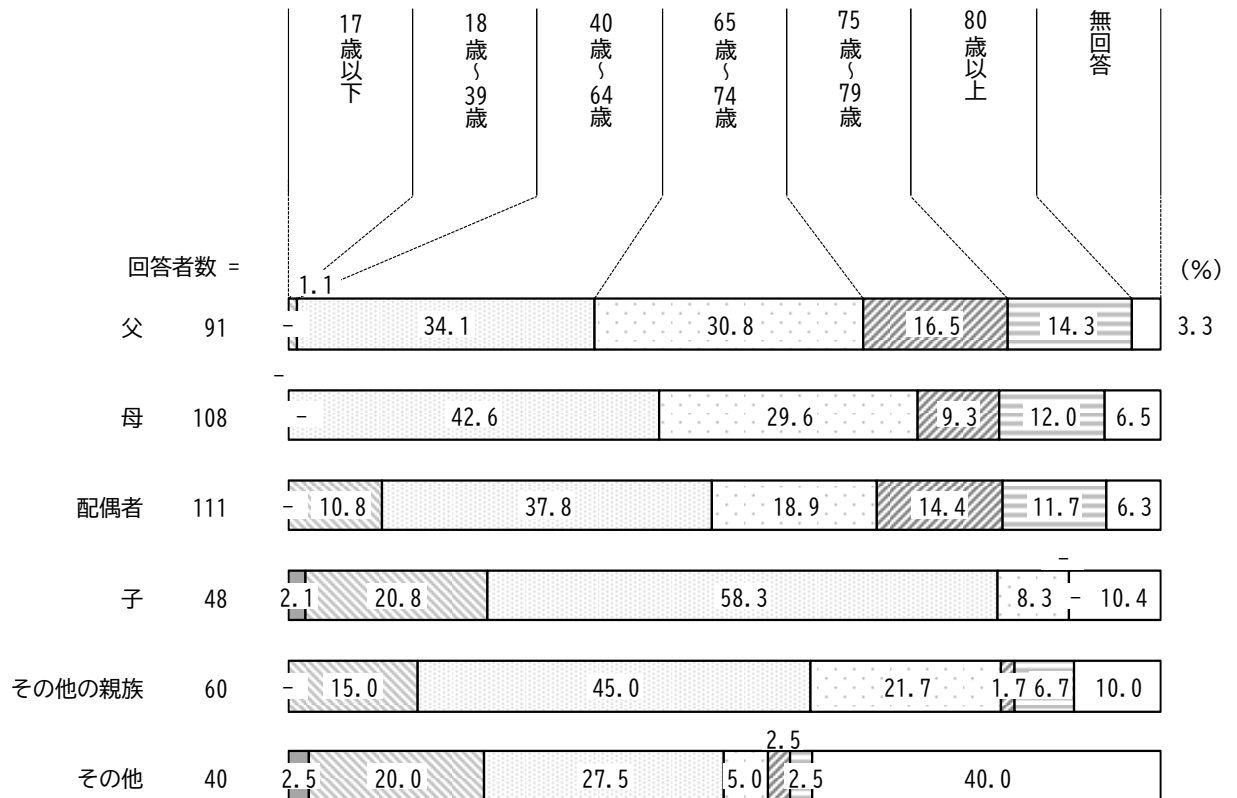
区分	回答者数 (件)	特に支援を必要と していない	父	母	配偶者	子	その他の親族	ヘルパー	ボランティア	施設の職員	その他	無回答
全体	594	43.3	15.3	18.2	18.7	8.1	10.1	9.1	1.5	11.3	6.7	3.4
身体障害	286	41.3	12.9	17.1	25.5	10.8	9.1	10.8	1.0	8.7	7.7	2.8
知的障害	75	9.3	36.0	45.3	6.7	-	30.7	17.3	6.7	52.0	6.7	2.7
精神障害	92	31.5	20.7	25.0	17.4	2.2	12.0	5.4	-	5.4	16.3	6.5
難病（特定疾病）	161	60.9	9.9	8.1	14.9	9.3	5.6	9.9	1.2	5.0	3.7	2.5
高次脳機能障害	19	21.1	31.6	26.3	31.6	21.1	21.1	5.3	-	21.1	5.3	-
発達障害	36	33.3	27.8	38.9	5.6	-	5.6	8.3	-	25.0	16.7	2.8
その他	30	40.0	20.0	16.7	23.3	16.7	6.7	16.7	-	13.3	6.7	-

問 8-1 から問 8-4 は、問 8 で 2~10 に○をした方におたずねします。

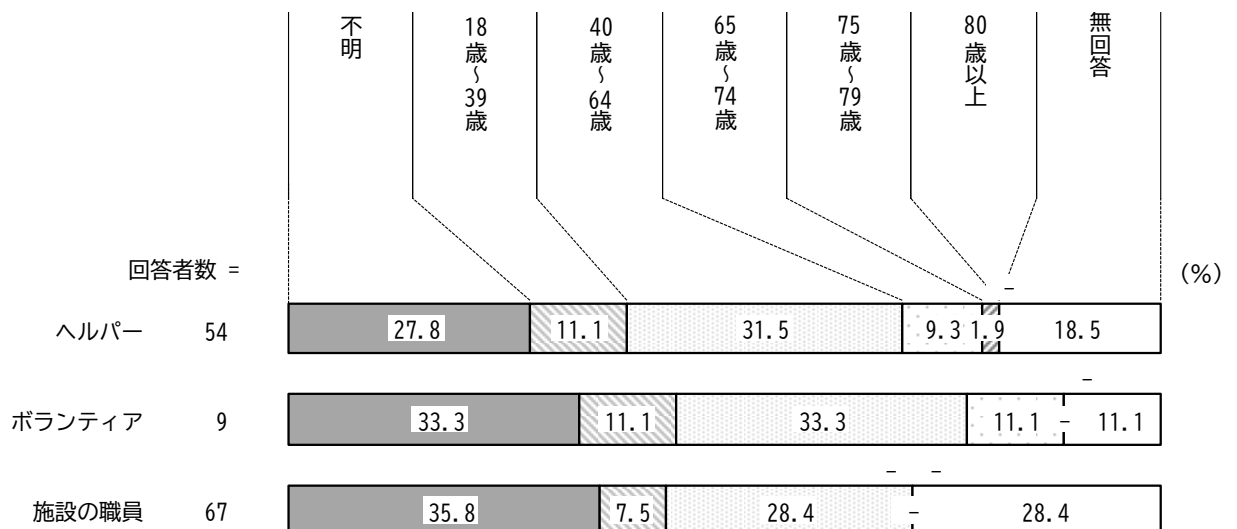
問 8-1 あなたの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。
(○をした項目すべてについて○)

生活の支援者は、家族・親族においては「40歳～64歳」が高くなっている。特に、「子」で「40歳～64歳」が58.3%と高くなっている。

<図表 I - 8 - 3 生活の支援者の年齢 (全体) >



<図表 I - 8 - 4 生活の支援者の年齢 (全体) >

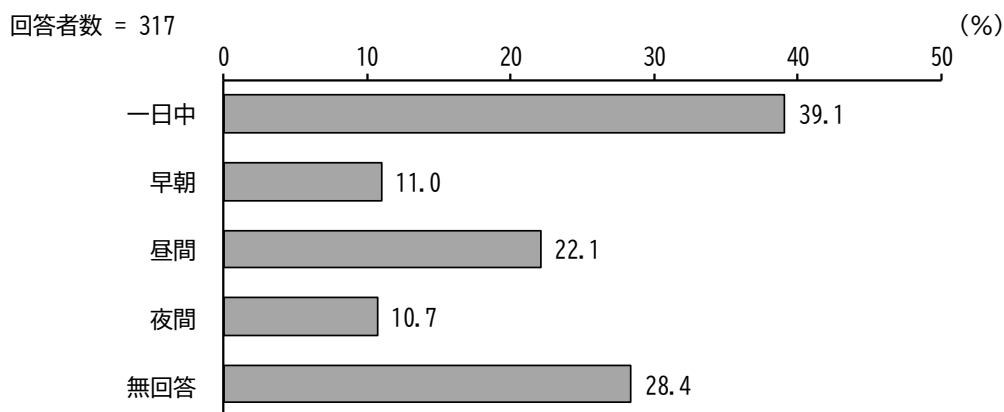


問 8-2 支援が必要な時間帯はいつですか。(あてはまるものすべてに○)

支援が必要な時間帯は、「一日中」が 39.1%と最も高く、次いで「昼間」が 22.1%、「早朝」が 11.0%となっている。

障害別にみると、知的障害、高次脳機能障害、発達障害で「一日中」が 50%以上を占めている。

<図表 I - 8 - 5 支援が必要な時間帯（全体）>



<図表 I - 8 - 6 支援が必要な時間帯（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	一日中	早朝	昼間	夜間	無回答
全体	317	39.1	11.0	22.1	10.7	28.4
身体障害	160	38.8	9.4	22.5	12.5	28.8
知的障害	66	53.0	13.6	18.2	12.1	19.7
精神障害	57	47.4	14.0	22.8	5.3	21.1
難病（特定疾病）	59	30.5	8.5	33.9	5.1	33.9
高次脳機能障害	15	53.3	13.3	13.3	6.7	20.0
発達障害	23	52.2	4.3	26.1	-	26.1
その他	18	27.8	16.7	33.3	11.1	22.2

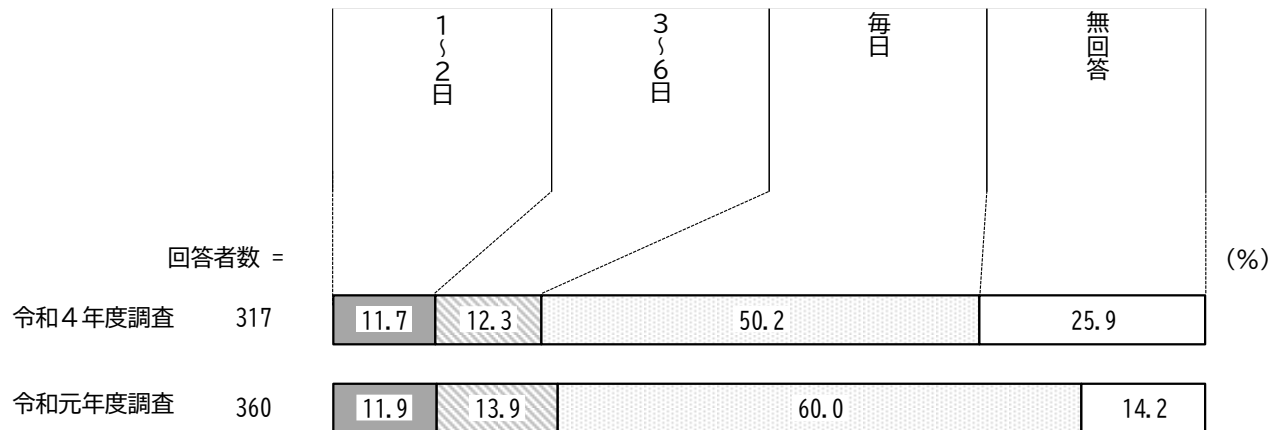
問 8-3 支援が必要となるのは週に何日くらいですか。(1つに○)

1週間に支援が必要な日数は、「毎日」が50.2%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「毎日」の割合が減少している。

障害別にみると、知的障害で「毎日」が74.2%、精神障害で「3～6日」が21.1%、発達障害は「1～2日」が21.7%と高くなっている。

<図表 I - 8 - 7 支援が必要な日数 (全体) >



<図表 I - 8 - 8 支援が必要な日数 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	1～2日 (%)	3～6日 (%)	毎日 (%)	無回答 (%)
全体	317	11.7	12.3	50.2	25.9
身体障害	160	11.9	13.1	48.8	26.3
知的障害	66	4.5	3.0	74.2	18.2
精神障害	57	19.3	21.1	45.6	14.0
難病 (特定疾病)	59	10.2	16.9	40.7	32.2
高次脳機能障害	15	-	13.3	66.7	20.0
発達障害	23	21.7	8.7	47.8	21.7
その他	18	5.6	27.8	44.4	22.2

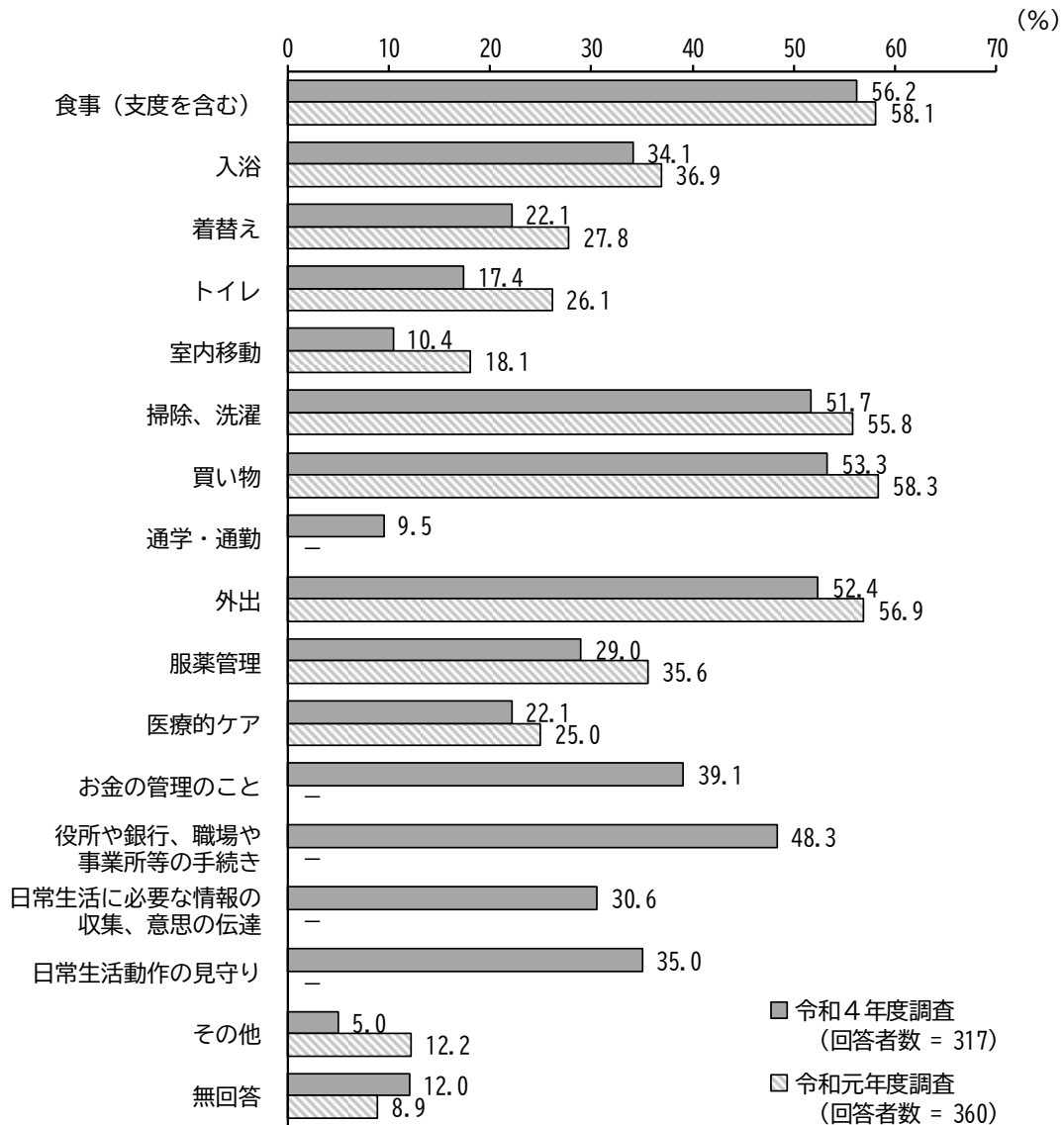
問 8-4 支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

支援の内容は、「食事（支度を含む）」が 56.2%と最も高く、次いで「買い物」が 53.3%、「外出」が 52.4%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「着替え」、「トイレ」、「室内移動」、「服薬管理」の割合が減少している。

障害別にみると、知的障害で「食事（支度を含む）」が 81.8%、「お金の管理のことが 80.3%、「役所や銀行、職場や事業所等の手続き」が 81.8%と高くなっている。また、高次脳機能障害で「入浴」が 60.0%、「着替え」が 46.7%、「トイレ」が 40.0%と高くなっている。

<図表 I - 8 - 9 支援の内容（全体）>



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
通学・通勤	—
お金の管理のことが	—
役所や銀行、職場や事業所等の手続き	—
日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達	—
日常生活動作の見守り	—

<図表 I - 8 - 10 支援内容 (障害別) >

(%)

区分	回答者数 (件)	食事 (支度を含む)	入浴	着替え	トイレ	室内移動	掃除、洗濯	買い物	通学・通勤
全体	317	56.2	34.1	22.1	17.4	10.4	51.7	53.3	9.5
身体障害	160	51.9	38.1	25.6	16.9	15.0	53.8	52.5	10.6
知的障害	66	81.8	47.0	28.8	33.3	13.6	65.2	72.7	22.7
精神障害	57	61.4	22.8	12.3	7.0	3.5	52.6	47.4	3.5
難病 (特定疾病)	59	50.8	37.3	20.3	13.6	13.6	54.2	54.2	5.1
高次脳機能障害	15	60.0	60.0	46.7	40.0	33.3	66.7	46.7	-
発達障害	23	60.9	34.8	17.4	17.4	4.3	52.2	56.5	13.0
その他	18	61.1	44.4	27.8	44.4	16.7	38.9	44.4	-

区分	外出	服薬管理	医療的ケア	お金の管理のこと	役所や銀行、職場や 事業所等の手続き	日常生活に必要な 情報の収集、意思の 伝達	日常生活動作の 見守り	その他	無回答
全体	52.4	29.0	22.1	39.1	48.3	30.6	35.0	5.0	12.0
身体障害	54.4	23.8	20.0	32.5	44.4	26.3	33.1	6.3	12.5
知的障害	72.7	63.6	39.4	80.3	81.8	68.2	63.6	4.5	7.6
精神障害	35.1	24.6	19.3	38.6	38.6	26.3	31.6	3.5	7.0
難病 (特定疾病)	57.6	23.7	20.3	25.4	47.5	22.0	23.7	3.4	15.3
高次脳機能障害	46.7	53.3	40.0	53.3	60.0	53.3	60.0	6.7	13.3
発達障害	43.5	34.8	26.1	52.2	56.5	43.5	34.8	8.7	8.7
その他	66.7	33.3	22.2	22.2	44.4	33.3	38.9	5.6	5.6

(2) 悩みごと・困りごと

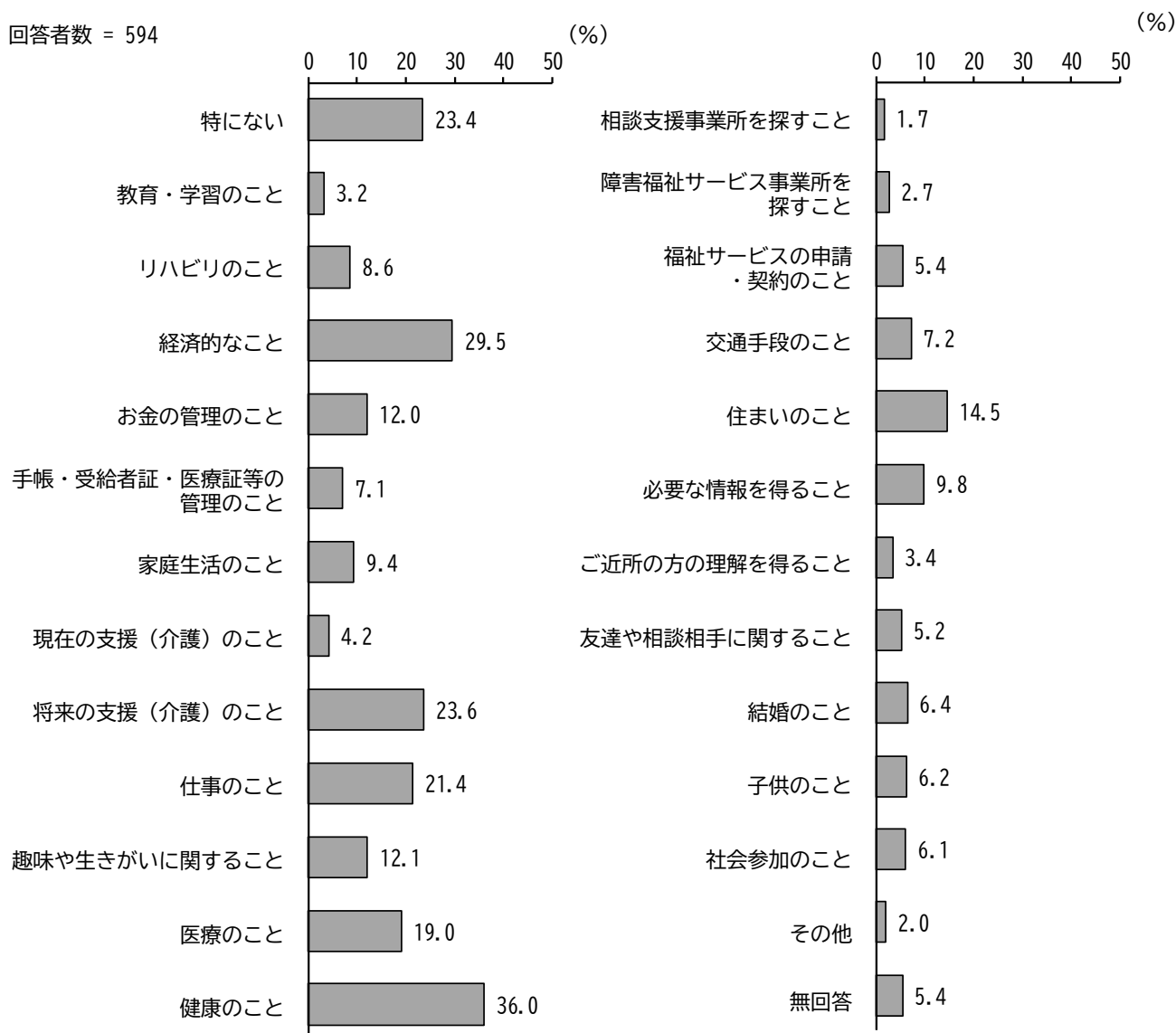
問9 悩みごとや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活の中での悩みごと・困りごとがある割合は、71.2%（全体から「特にない」23.4%と「無回答」5.4%を除いたもの）となっている。具体的には、「健康のこと」が36.0%と最も高く、次いで「経済的なこと」が29.5%、「将来の支援（介護）のこと」が23.6%となっている。

障害別にみると、精神障害と発達障害で「経済的なこと」がそれぞれ55.4%、52.8%と高くなっており、高次脳機能障害で「リハビリのこと」が31.6%と高くなっている。

年齢別にみると、65～74歳で「健康のこと」が47.7%、18～39歳で「仕事のこと」が33.3%と高くなっている。

<図表 I-9-1 悩みごと・困りごと（全体）>



<図表 I-9-2 悩みごと・困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数(件)	特 に ない	教 育 ・ 学 習 の こ と	リ ハ ビ リ の こ と	経 済 的 な こ と	お 金 の 管 理 の こ と	手 帳 ・ 受 給 者 証 ・ 医 療 証 等 の 管 理 の こ と	家 庭 生 活 の こ と	現 在 の 支 援 (介 護) の こ と	将 来 の 支 援 (介 護) の こ と	仕 事 の こ と	趣 味 や 生 き が い に 関 する こ と	医 療 の こ と	健 康 の こ と
全体	594	23.4	3.2	8.6	29.5	12.0	7.1	9.4	4.2	23.6	21.4	12.1	19.0	36.0
身体障害	286	22.4	2.1	10.8	28.0	8.7	4.2	9.1	4.9	27.6	21.3	12.6	19.6	35.0
知的障害	75	26.7	2.7	5.3	16.0	17.3	12.0	5.3	4.0	28.0	13.3	10.7	14.7	25.3
精神障害	92	10.9	3.3	8.7	55.4	23.9	10.9	22.8	4.3	18.5	30.4	18.5	22.8	45.7
難病（特定疾病）	161	24.2	4.3	9.3	29.8	8.1	6.8	8.1	4.3	25.5	19.9	9.3	22.4	41.6
高次脳機能障害	19	15.8	5.3	31.6	21.1	5.3	10.5	5.3	5.3	26.3	15.8	10.5	26.3	31.6
発達障害	36	11.1	11.1	8.3	52.8	30.6	16.7	13.9	2.8	22.2	41.7	16.7	22.2	41.7
その他	30	23.3	-	3.3	20.0	6.7	10.0	10.0	6.7	20.0	6.7	13.3	23.3	40.0

区分	相 談 支 援 事 業 所 を 探 す こ と	障 害 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 所 を 探 す こ と	福 祉 サ ー ビ ス の 申 請 ・ 契 約 の こ と	交 通 手 段 の こ と	住 ま い の こ と	必 要 な 情 報 を 得 る こ と	ご 近 所 の 方 の 理 解 を 得 る こ と	友 達 や 相 談 相 手 に 関 する こ と	結 婚 の こ と	子 供 の こ と	社 会 参 加 の こ と	そ の 他	無 回 答
全体	1.7	2.7	5.4	7.2	14.5	9.8	3.4	5.2	6.4	6.2	6.1	2.0	5.4
身体障害	1.7	2.1	4.9	9.4	14.7	9.4	3.1	5.2	5.9	5.2	6.6	1.4	5.9
知的障害	2.7	6.7	6.7	6.7	8.0	6.7	2.7	5.3	5.3	4.0	5.3	2.7	8.0
精神障害	5.4	4.3	6.5	9.8	17.4	21.7	6.5	12.0	13.0	7.6	16.3	3.3	2.2
難病（特定疾病）	-	0.6	3.7	5.0	14.3	11.2	-	2.5	5.6	8.7	2.5	1.9	3.7
高次脳機能障害	-	-	15.8	21.1	15.8	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	-	-	26.3
発達障害	8.3	8.3	19.4	11.1	27.8	22.2	5.6	13.9	22.2	5.6	16.7	2.8	2.8
その他	-	3.3	3.3	16.7	13.3	10.0	3.3	3.3	-	3.3	-	10.0	6.7

<図表I-9-3 悩みごと・困りごと（年齢別）>

(%)

区分	回答者数(件)	特にな い	教育・学 習のこと	リハビ リのこ と	経済的 なこと	お金の 管理の こと	手帳・受 給者証・ 医療証 等の管 理のこ と	家庭生 活のこ と	現在 の支 援(介 護)の こ と	将来 の支 援(介 護)の こ と	仕事 のこ と	趣味 や生 きがい に 関す ること	医療 のこ と	健康 のこ と
全体	594	23.4	3.2	8.6	29.5	12.0	7.1	9.4	4.2	23.6	21.4	12.1	19.0	36.0
18～39歳	186	23.1	5.4	6.5	34.9	17.2	10.8	9.1	3.2	17.7	33.3	12.4	15.6	28.5
40～64歳	247	21.9	3.2	8.1	33.6	9.7	5.7	10.5	4.9	27.1	22.3	15.4	21.9	38.5
65～74歳	65	20.0	1.5	15.4	26.2	12.3	4.6	12.3	4.6	27.7	13.8	9.2	20.0	47.7
75歳以上	84	28.6	—	10.7	8.3	6.0	4.8	6.0	4.8	23.8	—	6.0	16.7	40.5

区分	相談支 援事業 所を 探すこ と	障害福 祉サー ビス事 業所を 探すこ と	福祉サ ービス の申 請・契 約のこ と	交通手 段のこ と	住まい のこ と	必要 な情 報を 得る こ と	ご近 所の方 の理 解を 得る こ と	友 達や 相談 相手 に 関す ること	結 婚の こ と	子 供の こ と	社 会参 加の こ と	そ の 他	無 回 答
全体	1.7	2.7	5.4	7.2	14.5	9.8	3.4	5.2	6.4	6.2	6.1	2.0	5.4
18～39歳	2.2	2.7	6.5	5.9	15.6	8.1	3.2	7.5	15.1	9.7	9.7	2.7	2.2
40～64歳	2.0	3.2	5.7	8.9	17.0	11.3	4.0	5.7	4.0	5.3	6.1	2.0	4.0
65～74歳	1.5	3.1	4.6	7.7	13.8	12.3	6.2	3.1	—	1.5	4.6	1.5	7.7
75歳以上	—	1.2	3.6	6.0	6.0	8.3	—	1.2	—	6.0	—	1.2	13.1

(3) 悩みごと・困りごとの相談先

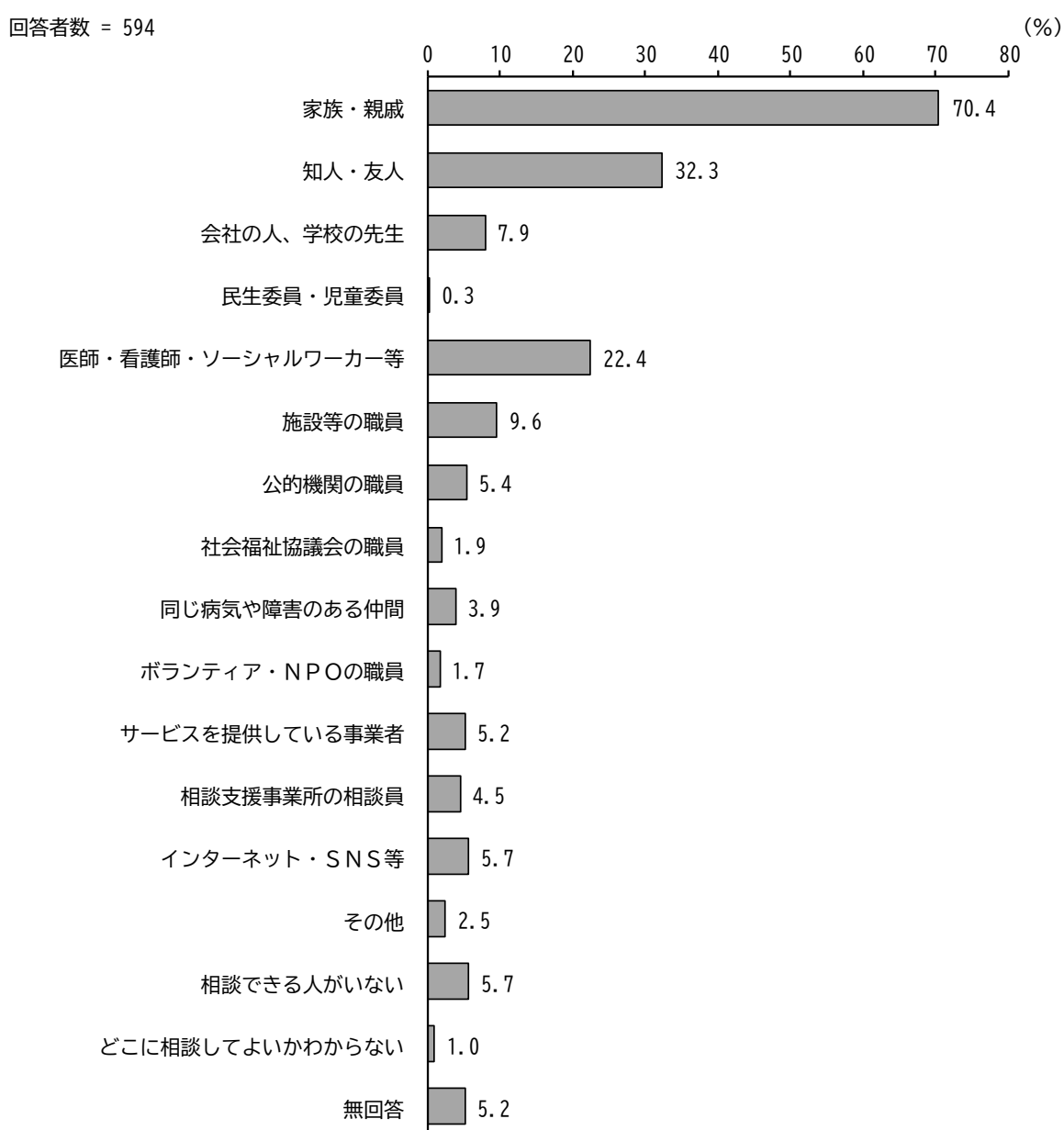
問 10 悩みや困っていることを相談する相手はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

悩みごと・困りごとの相談先は、「家族・親戚」が 70.4%と最も高く、次いで「知人・友人」が 32.3%、「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が 22.4%となっている。

障害別にみると、いずれの障害においても「家族・親戚」が最も高くなっている。また、難病（特定疾病）で「知人・友人」が 41.0%、知的障害で「施設等の職員」が 48.0%、精神障害、発達障害で「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」がそれぞれ 38.0%、38.9%と高くなっている。

年齢別にみると、18～39歳で「知人・友人」が 41.4%、「インターネット・SNS等」が 11.3%と高くなっている。

<図表 I-10-1 悩みごと・困りごとの相談先（全体）>



<図表 I-10-2 悩みごと・困りごとの相談先（障害別）>

(%)

区分	回答者数(件)	家族・親戚	知人・友人	会社の人、学校の先生	民生委員・児童委員	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	施設等の職員	公的機関の職員	社会福祉協議会の職員
全体	594	70.4	32.3	7.9	0.3	22.4	9.6	5.4	1.9
身体障害	286	71.7	34.6	7.3	0.7	19.2	8.4	7.0	2.1
知的障害	75	69.3	8.0	6.7	-	16.0	48.0	8.0	1.3
精神障害	92	52.2	28.3	1.1	1.1	38.0	7.6	6.5	3.3
難病（特定疾病）	161	81.4	41.0	10.6	-	22.4	4.3	2.5	-
高次脳機能障害	19	73.7	21.1	-	-	15.8	15.8	10.5	10.5
発達障害	36	61.1	27.8	13.9	-	38.9	25.0	13.9	-
その他	30	73.3	23.3	10.0	-	23.3	3.3	-	3.3

区分	同じ病気や障害のある仲間	ボランティア・NPOの職員	サービスを提供している事業者	相談支援事業所の相談員	SNS等	インターネット・SNS等	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	無回答
全体	3.9	1.7	5.2	4.5	5.7	2.5	5.7	1.0	5.2	
身体障害	3.8	1.7	5.6	4.2	5.6	2.1	5.6	1.0	5.6	
知的障害	4.0	9.3	13.3	18.7	5.3	5.3	1.3	1.3	4.0	
精神障害	3.3	2.2	5.4	6.5	9.8	4.3	7.6	-	4.3	
難病（特定疾病）	6.2	1.2	4.3	1.2	3.7	1.2	6.2	1.2	1.2	
高次脳機能障害	10.5	-	10.5	-	5.3	-	-	-	21.1	
発達障害	11.1	5.6	8.3	19.4	11.1	5.6	8.3	-	5.6	
その他	6.7	-	3.3	3.3	6.7	3.3	3.3	-	3.3	

<図表 I-10-3 悩みごと・困りごとの相談先（年齢別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	会社の人、 学校の先生	民生委員・ 児童委員	医師・看護師・ ソーシャルワーカー等	施設等の職員	公的機関の職員	社会福祉協議会の職員
全体	594	70.4	32.3	7.9	0.3	22.4	9.6	5.4	1.9
18～39 歳	186	78.5	41.4	14.0	—	17.7	12.9	5.9	1.6
40～64 歳	247	67.2	36.0	8.5	—	25.5	7.7	4.5	1.6
65～74 歳	65	60.0	12.3	—	1.5	24.6	13.8	6.2	4.6
75 歳以上	84	69.0	19.0	—	1.2	22.6	6.0	7.1	1.2

区分	同じ病気や障害の ある仲間	ボランティア・NPOの 職員	事業者 サービスを提供している	相談支援事業所の相談員	インターネット・ SNS等	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいか わからない	無回答
全体	3.9	1.7	5.2	4.5	5.7	2.5	5.7	1.0	5.2
18～39 歳	6.5	2.7	5.9	9.1	11.3	2.2	4.3	1.1	3.2
40～64 歳	2.8	2.0	5.3	3.2	4.5	2.8	6.9	1.2	2.8
65～74 歳	3.1	—	6.2	3.1	3.1	1.5	6.2	—	6.2
75 歳以上	2.4	—	3.6	—	—	2.4	4.8	1.2	14.3

(4) 現在の日中の過ごし方

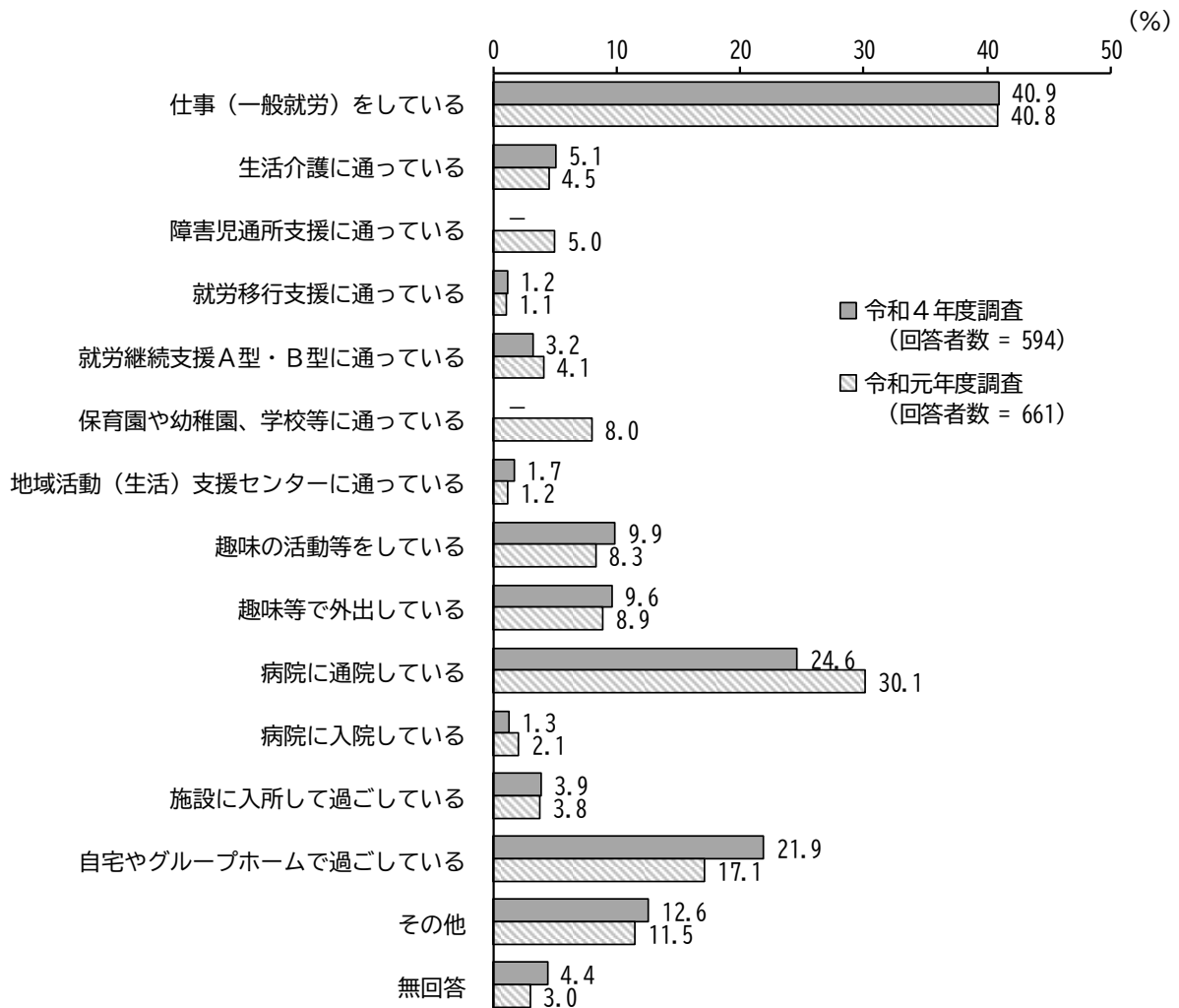
問 11 平日（月曜日から金曜日）の日中は、主にどのように過ごしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

現在の日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしている」が40.9%と最も高く、次いで「病院に通院している」が24.6%、「自宅やグループホームで過ごしている」が21.9%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「病院に通院している」の割合が減少し、「自宅やグループホームで過ごしている」の割合が増加している。

障害別にみると、難病（特定疾病）で「仕事（一般就労）をしている」が51.6%と高くなっている。また、知的障害で「生活介護に通っている」が25.3%、「就労継続支援A型・B型に通っている」が18.7%、「施設に入所して過ごしている」が20.0%と高くなっている一方、「仕事（一般就労）をしている」が17.3%、「病院に通院している」が13.3%と低くなっている。精神障害で「自宅やグループホームで過ごしている」が39.1%と高くなっている。

<図表 I-11-1 現在の平日日中の過ごし方（全体）>



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
—	障害児通所支援に通っている
—	保育園や幼稚園、学校等に通っている

<図表 I - 11 - 2 現在の平日日中の過ごし方（障害別）>

(%)

区分	回答者数(件)	仕事(一般就労)をしている	生活介護に通っている	就労移行支援に通っている	就労継続支援A型・B型に通っている	地域活動(生活)支援センターに通っている	趣味の活動等をしている	趣味等で外出している	病院に通院している	病院に入院している	施設に入所して過ごしている	自宅やグループホームで過ごしている	その他	無回答
全体	594	40.9	5.1	1.2	3.2	1.7	9.9	9.6	24.6	1.3	3.9	21.9	12.6	4.4
身体障害	286	42.7	5.6	0.7	0.7	1.0	9.1	8.7	24.8	1.4	3.5	20.3	12.9	4.9
知的障害	75	17.3	25.3	4.0	18.7	4.0	2.7	4.0	13.3	-	20.0	12.0	8.0	-
精神障害	92	21.7	1.1	2.2	3.3	1.1	16.3	15.2	33.7	1.1	3.3	39.1	25.0	3.3
難病(特定疾病)	161	51.6	2.5	0.6	0.6	1.9	8.7	8.7	31.1	1.9	2.5	22.4	9.9	3.1
高次脳機能障害	19	21.1	-	-	-	5.3	10.5	5.3	21.1	10.5	15.8	21.1	21.1	5.3
発達障害	36	41.7	13.9	8.3	8.3	-	16.7	13.9	16.7	-	5.6	27.8	-	-
その他	30	26.7	6.7	-	-	6.7	10.0	13.3	30.0	-	-	30.0	23.3	6.7

(5) 希望する日中の過ごし方

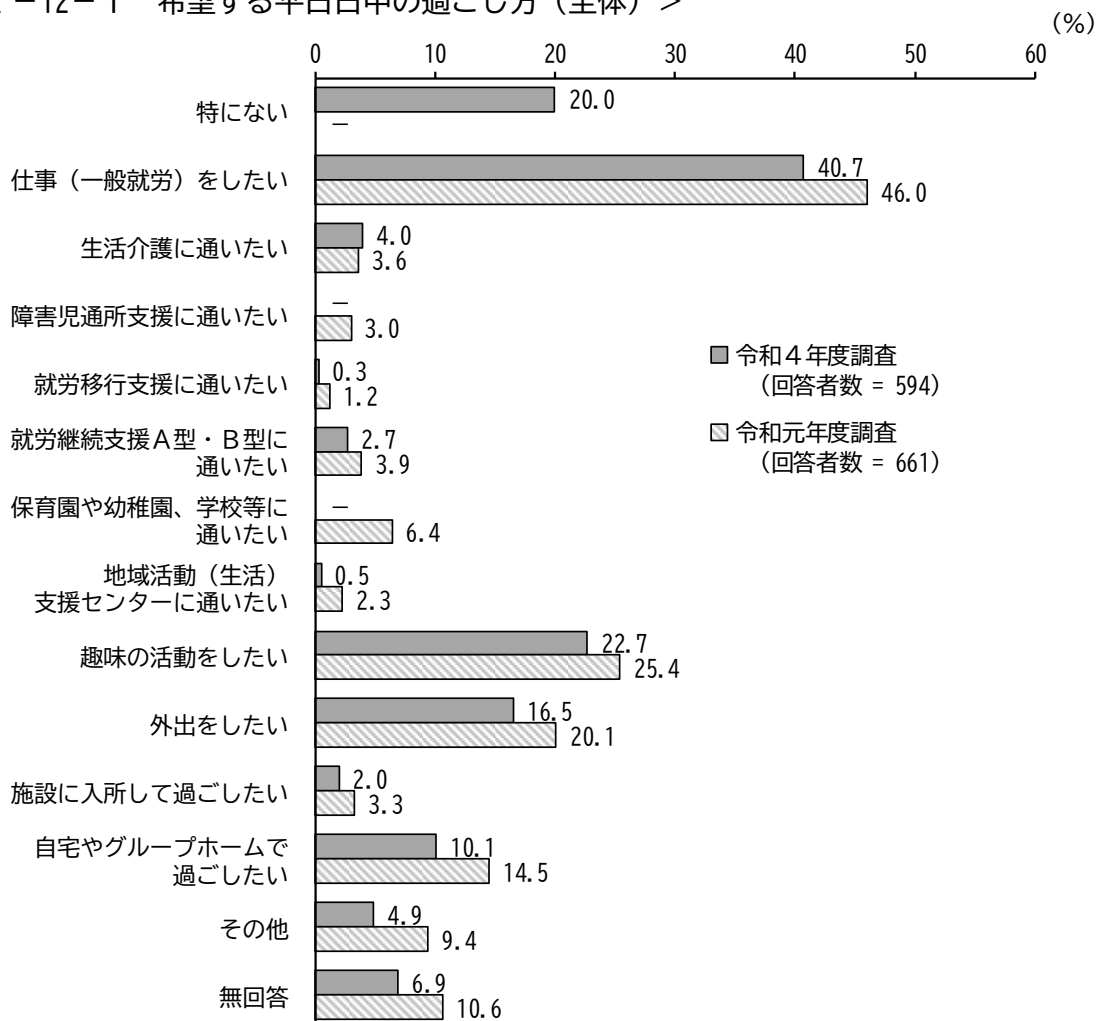
問12 今後、平日（月曜日から金曜日）の日中は、主にどのように過ごしたいですか。
（あてはまるものすべてに○）

希望する平日日中の過ごし方は、「仕事（一般就労）をしたい」が40.7%と最も高く、次いで「趣味の活動をしたい」が22.7%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「仕事（一般就労）をしたい」の割合が減少している。

障害別にみると、難病（特定疾病）で「仕事（一般就労）をしたい」が50.9%と高くなっている。また、知的障害で「生活介護に通いたい」が21.3%、「就労継続支援A型・B型に通いたい」が14.7%、「施設に入所して過ごしたい」が10.7%と高くなっている。

<図表 I-12-1 希望する平日日中の過ごし方（全体）>



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
—	障害児通所支援に通いたい
—	保育園や幼稚園、学校等に通いたい
特にない	—
外出をしたい	外出等をしたい

<図表 I-12-2 希望する平日日中の過ごし方（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	仕 事 (一 般 就 労) を し た い	生 活 介 護 に 通 い た い	就 労 移 行 支 援 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 A 型 ・ B 型 に 通 い た い	地 域 活 動 (生 活) 支 援 セ ン タ ー に 通 い た い	趣 味 の 活 動 を し た い	外 出 を し た い	施 設 に 入 所 し て 過 ご し た い	自 宅 や グ ル ー プ ホ ー ム で 過 ご し た い	そ の 他	無 回 答
全体	594	20.0	40.7	4.0	0.3	2.7	0.5	22.7	16.5	2.0	10.1	4.9	6.9
身体障害	286	21.3	41.6	4.5	-	0.7	0.7	22.7	17.5	1.7	9.8	4.9	7.0
知的障害	75	12.0	17.3	21.3	-	14.7	1.3	9.3	12.0	10.7	8.0	2.7	10.7
精神障害	92	22.8	33.7	1.1	2.2	3.3	-	25.0	26.1	1.1	14.1	9.8	7.6
難病（特定疾病）	161	19.3	50.9	1.9	-	-	1.2	23.6	14.3	0.6	13.7	3.7	2.5
高次脳機能障害	19	15.8	31.6	-	-	-	-	15.8	15.8	-	10.5	-	26.3
発達障害	36	11.1	38.9	11.1	-	8.3	-	25.0	27.8	5.6	11.1	2.8	2.8
その他	30	20.0	33.3	3.3	-	-	-	16.7	16.7	-	13.3	10.0	13.3

<図表 I-12-3 希望する平日日中の過ごし方（現在の平日日中の過ごし方別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	仕 事 (一 般 就 労) を し た い	生 活 介 護 に 通 い た い	就 労 移 行 支 援 に 通 い た い	就 労 継 続 支 援 A 型 ・ B 型 に 通 い た い	地 域 活 動 (生 活) 支 援 セ ン タ ー に 通 い た い	趣 味 の 活 動 を し た い	外 出 を し た い	施 設 に 入 所 し て 過 ご し た い	自 宅 や グ ル ー プ ホ ー ム で 過 ご し た い	そ の 他	無 回 答
全体	594	20.0	40.7	4.0	0.3	2.7	0.5	22.7	16.5	2.0	10.1	4.9	6.9
仕事（一般就労）をしている	243	12.3	74.9	—	0.4	—	—	24.3	10.7	0.4	3.3	1.6	3.7
生活介護に通っている	30	3.3	10.0	76.7	—	3.3	3.3	13.3	13.3	3.3	20.0	3.3	3.3
就労移行支援に通っている	7	—	100.0	—	—	—	—	28.6	28.6	—	—	—	—
就労継続支援A型・B型に通っている	19	5.3	10.5	—	—	68.4	—	15.8	15.8	—	5.3	5.3	5.3
地域活動（生活）支援センターに通っている	10	10.0	10.0	—	10.0	—	20.0	20.0	30.0	—	40.0	10.0	20.0
趣味の活動等をしている	59	18.6	27.1	—	1.7	—	1.7	57.6	42.4	1.7	16.9	6.8	5.1
趣味等で外出している	57	22.8	26.3	—	1.8	—	—	57.9	49.1	—	12.3	3.5	8.8
病院に通院している	146	30.1	24.7	1.4	0.7	2.1	1.4	29.5	28.1	—	15.8	6.8	7.5
病院に入院している	8	—	25.0	—	—	—	—	37.5	25.0	—	37.5	25.0	12.5
施設に入所して過ごしている	23	26.1	—	4.3	—	—	—	4.3	8.7	47.8	4.3	—	13.0
自宅やグループホームで過ごしている	130	21.5	25.4	3.1	0.8	3.8	0.8	24.6	20.8	—	35.4	6.9	3.1
その他	75	21.3	33.3	2.7	1.3	—	—	26.7	25.3	1.3	12.0	20.0	4.0

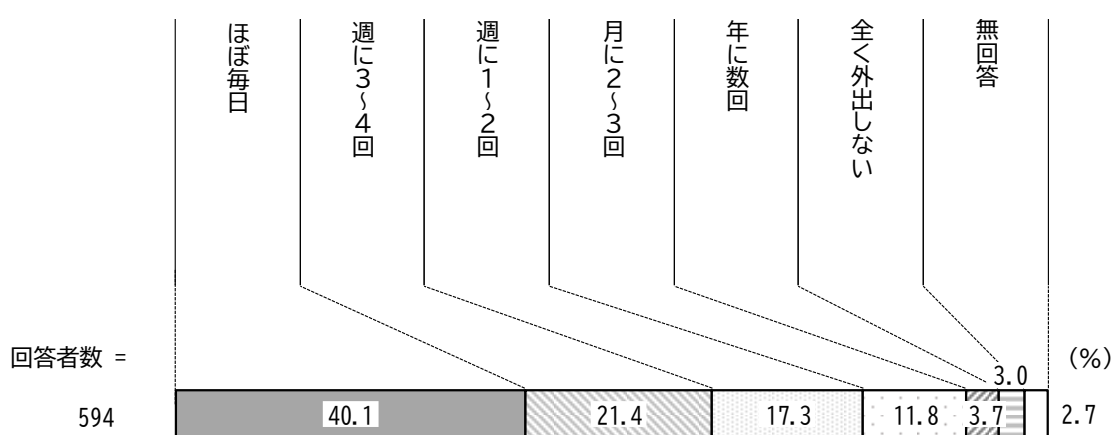
(6) 外出の頻度

問13 通院を含め、外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

外出の頻度は、「ほぼ毎日」が40.1%と最も高く、次いで「週に3～4回」が21.4%、「週に1～2回」が17.3%となっている。

障害別にみると、難病（特定疾病）で「ほぼ毎日」が47.8%と高くなっている。また、発達障害で「週に1～2回」が27.8%、知的障害で「月に2～3回」が24.0%と高くなっている。

<図表 I-13-1 外出の頻度（全体）>



<図表 I-13-2 外出の頻度（障害別）>

区分	回答者数 (件)	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に2～3回	年に数回	全く外出しない	無回答
全体	594	40.1	21.4	17.3	11.8	3.7	3.0	2.7
身体障害	286	38.1	22.0	17.8	11.9	5.2	2.1	2.8
知的障害	75	37.3	5.3	18.7	24.0	6.7	2.7	5.3
精神障害	92	33.7	23.9	26.1	9.8	3.3	1.1	2.2
難病（特定疾病）	161	47.8	20.5	13.7	11.2	3.1	3.1	0.6
高次脳機能障害	19	26.3	21.1	21.1	10.5	5.3	5.3	10.5
発達障害	36	36.1	16.7	27.8	11.1	2.8	2.8	2.8
その他	30	13.3	40.0	20.0	20.0	3.3	3.3	-

(7) 外出における困りごと

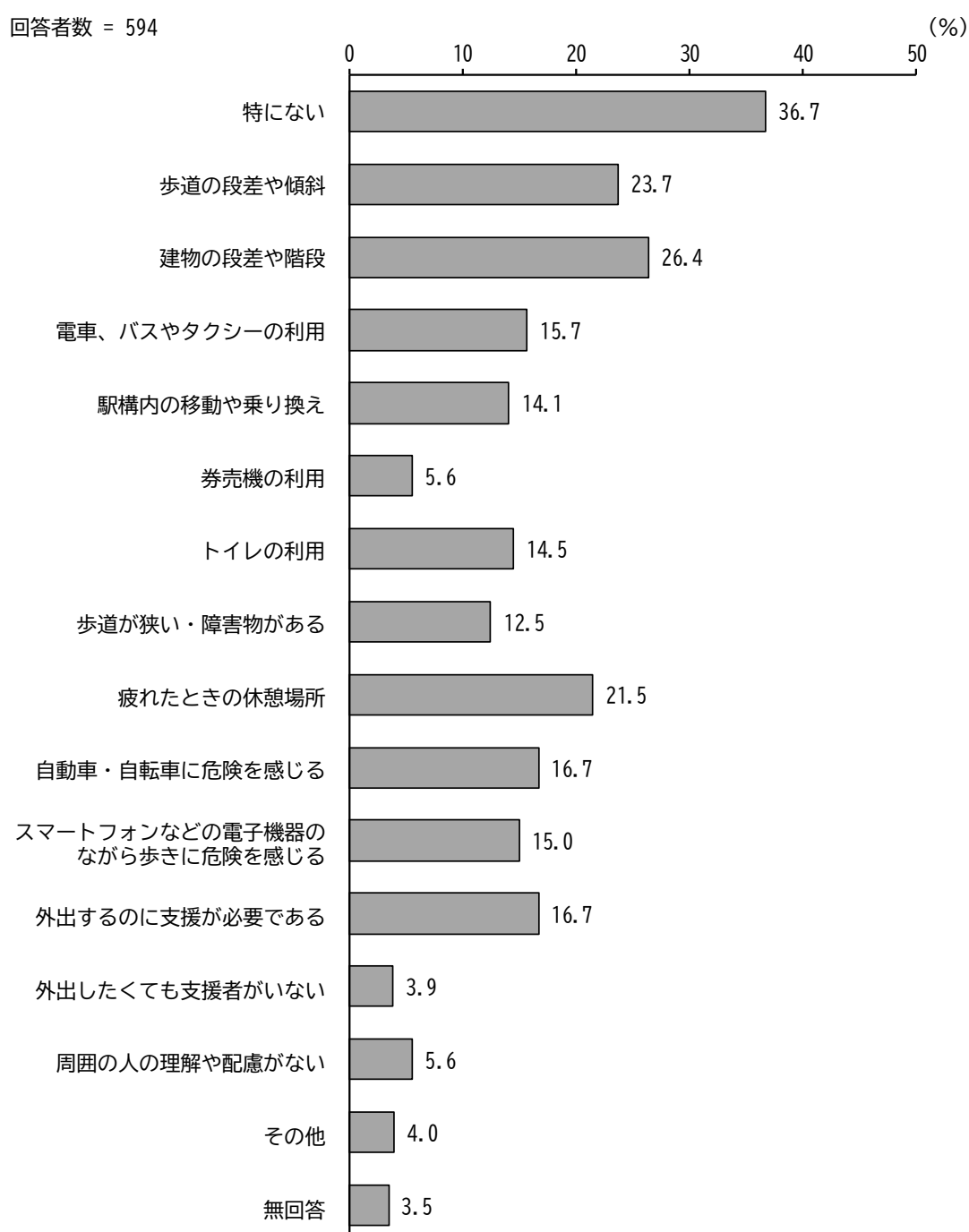
問 14 あなたは、外出について困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

外出における困りごとがある割合は、59.8% (全体から「特にない」36.7%と「無回答」3.5%を除いたもの) となっている。具体的には、「建物の段差や階段」が26.4%、「歩道の段差や傾斜」が23.7%と高くなっている。

障害別にみると、身体障害で「歩道の段差や傾斜」が32.5%、「建物の段差や階段」が35.7%と高くなっている。

外出頻度別にみると、月に2～3回の人で「歩道の段差や傾斜」、「建物の段差や階段」が37.1%、年に数回の人で「外出するのに支援が必要である」が54.5%と高くなっている。

<図表 I-14-1 外出における困りごと (全体) >



<図表 I-14-2 外出における困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る
全体	594	36.7	23.7	26.4	15.7	14.1	5.6	14.5	12.5
身体障害	286	28.3	32.5	35.7	20.3	17.8	7.0	17.1	18.2
知的障害	75	30.7	18.7	21.3	18.7	17.3	10.7	17.3	13.3
精神障害	92	40.2	13.0	16.3	12.0	12.0	2.2	16.3	7.6
難病（特定疾病）	161	41.6	21.1	27.3	11.8	13.0	5.6	16.1	9.3
高次脳機能障害	19	10.5	21.1	26.3	31.6	21.1	5.3	10.5	21.1
発達障害	36	36.1	13.9	19.4	19.4	13.9	5.6	13.9	2.8
その他	30	26.7	40.0	33.3	30.0	26.7	10.0	20.0	3.3

区分	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る	ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き に 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 で あ る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 圍 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	そ の 他	無 回 答
全体	21.5	16.7	15.0	16.7	3.9	5.6	4.0	3.5
身体障害	25.5	19.6	20.6	19.2	4.9	5.9	4.9	4.5
知的障害	12.0	16.0	6.7	40.0	6.7	8.0	1.3	2.7
精神障害	30.4	19.6	12.0	14.1	6.5	8.7	5.4	3.3
難病（特定疾病）	19.3	13.7	13.0	13.0	3.1	3.7	3.7	1.2
高次脳機能障害	15.8	10.5	10.5	36.8	5.3	21.1	10.5	15.8
発達障害	25.0	19.4	-	22.2	2.8	11.1	2.8	-
その他	36.7	23.3	23.3	20.0	10.0	6.7	6.7	-

<図表 I-14-3 外出における困りごと（通院を含めた外出の頻度別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る
全体	594	36.7	23.7	26.4	15.7	14.1	5.6	14.5	12.5
ほぼ毎日	238	48.7	18.9	22.7	11.3	11.3	5.5	9.7	12.6
週に3～4回	127	34.6	24.4	27.6	19.7	14.2	3.9	12.6	13.4
週に1～2回	103	26.2	29.1	29.1	16.5	21.4	4.9	22.3	10.7
月に2～3回	70	20.0	37.1	37.1	18.6	14.3	10.0	24.3	14.3
年に数回	22	22.7	27.3	27.3	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1
全く外出しない	18	33.3	11.1	16.7	16.7	11.1	5.6	11.1	16.7

区分	疲れたときの休憩場所	自動車・自転車に危険を感じる	スマートフォンなどの電子機器のながら歩きに危険を感じる	外出するのに支援が必要である	外出したくても支援者がいない	周囲の人の理解や配慮がない	その他	無回答
全体	21.5	16.7	15.0	16.7	3.9	5.6	4.0	3.5
ほぼ毎日	13.9	14.7	12.6	6.7	0.8	3.4	4.2	1.7
週に3～4回	29.1	16.5	15.7	11.8	0.8	3.9	3.9	2.4
週に1～2回	33.0	22.3	21.4	27.2	5.8	5.8	1.9	1.0
月に2～3回	22.9	18.6	15.7	30.0	8.6	14.3	5.7	2.9
年に数回	18.2	13.6	13.6	54.5	13.6	9.1	4.5	4.5
全く外出しない	11.1	16.7	11.1	27.8	16.7	5.6	11.1	16.7

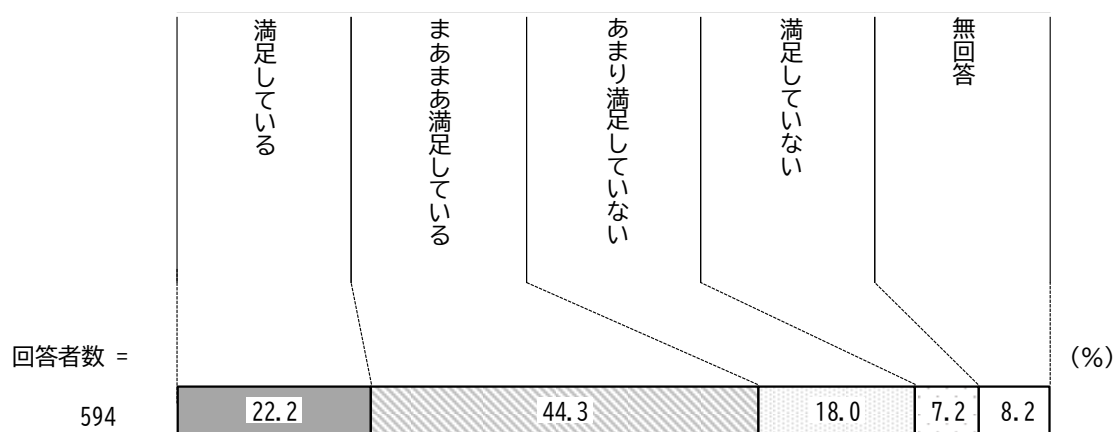
(8) まちのバリアフリー対応の満足度

問 15 あなたはまちのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

まちのバリアフリー対応の満足度は、「満足している」22.2%と「まあまあ満足している」44.3%をあわせた『満足』が66.5%となっている。

障害別にみると、難病（特定疾病）で『満足』が70.2%と高くなっている。

<図表 I-15-1 まちのバリアフリー対応の満足度（全体）>



<図表 I-15-2 まちのバリアフリー対応の満足度（障害別）>

区分	回答者数 (件)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	594	22.2	44.3	18.0	7.2	8.2
身体障害	286	17.5	43.4	23.1	8.4	7.7
知的障害	75	24.0	44.0	14.7	4.0	13.3
精神障害	92	26.1	43.5	14.1	9.8	6.5
難病（特定疾病）	161	23.6	46.6	18.6	6.8	4.3
高次脳機能障害	19	15.8	15.8	26.3	10.5	31.6
発達障害	36	33.3	33.3	19.4	8.3	5.6
その他	30	23.3	50.0	6.7	10.0	10.0

4. 仕事について

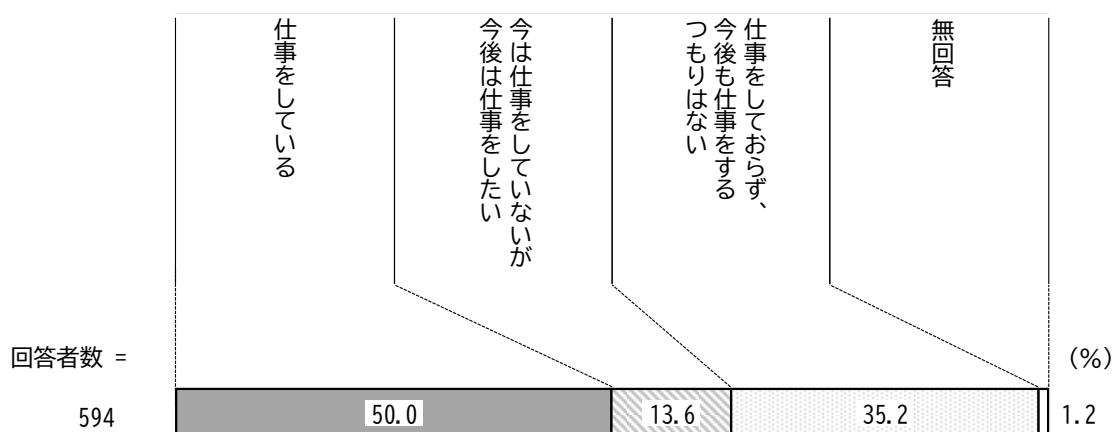
(1) 就労状況

問 16 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

現在の就労状況は、「仕事をしている」が 50.0%と最も高く、次いで「仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない」が 35.2%、「今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」が 13.6%となっている。

障害別にみると、知的障害、難病（特定疾病）、発達障害で「仕事をしている」が 50%を超えて高く、精神障害で「今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」が 27.2%と高くなっている。

<図表 I-16-1 現在の就労状況（全体）>



<図表 I-16-2 現在の就労状況（障害別）>

区分	回答者数 (件)	仕事をしている (%)	今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい (%)	仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない (%)	無回答 (%)
全体	594	50.0	13.6	35.2	1.2
身体障害	286	49.3	13.3	37.1	0.3
知的障害	75	52.0	4.0	44.0	-
精神障害	92	32.6	27.2	37.0	3.3
難病（特定疾病）	161	55.9	8.1	35.4	0.6
高次脳機能障害	19	31.6	15.8	47.4	5.3
発達障害	36	55.6	19.4	25.0	-
その他	30	33.3	16.7	46.7	3.3

(2) 働き方、就労時間、平均収入

問16-1から問16-5は、問16で「1. 仕事をしている」に○をした方におたずねします。

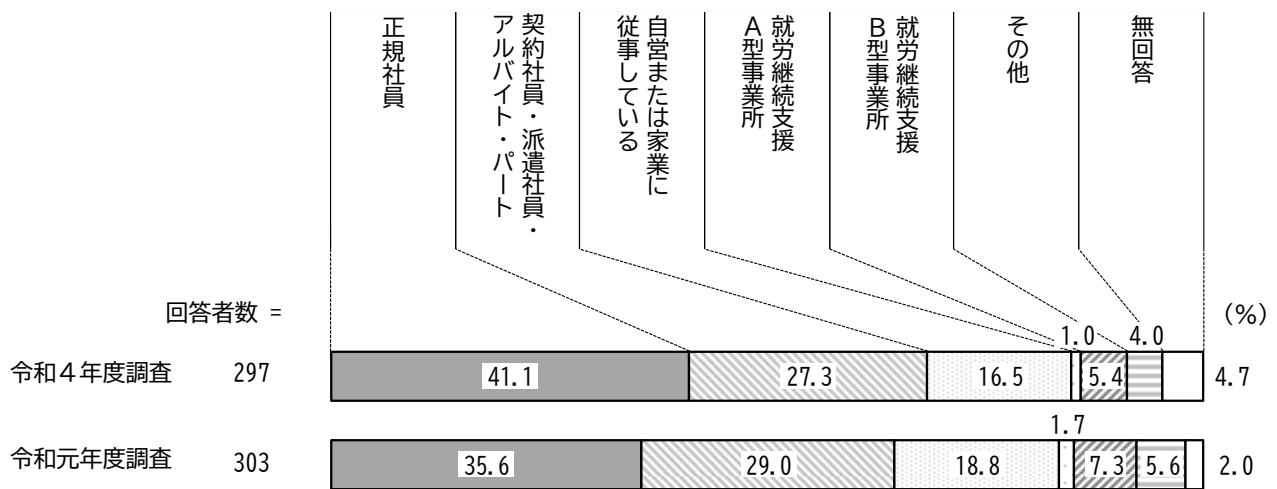
問16-1 どのような働き方をしていますか。(1つに○)

働き方は、「正規社員」が41.1%と最も高く、次いで「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が27.3%、「自営または家業に従事している」が16.5%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「正規社員」の割合が増加している。

障害別にみると、難病(特定疾病)で「正規社員」が55.6%、精神障害、発達障害で「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が40.0%と高くなっている。また、知的障害で「就労継続支援B型事業所」が30.8%と高くなっている。

<図表 I-16-3 働き方(全体)>



<図表 I-16-4 働き方(障害別)>

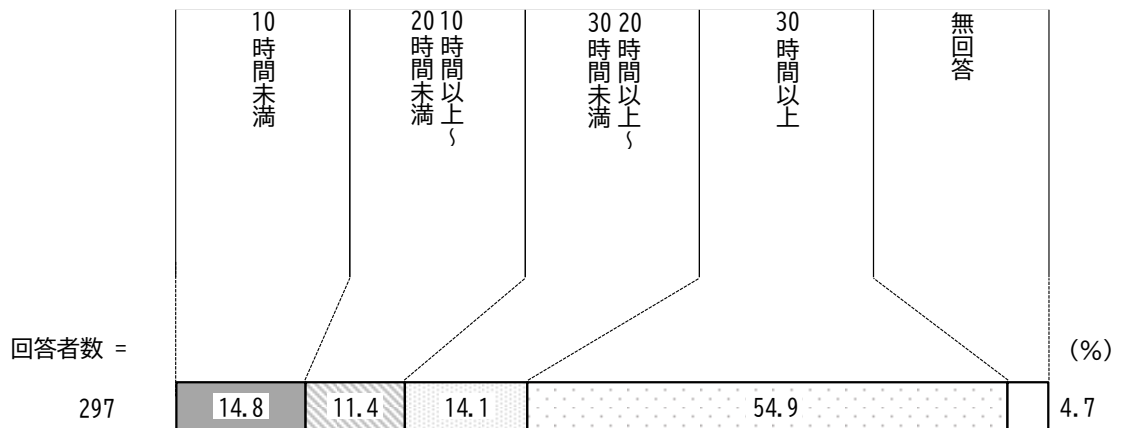
区分	回答者数(件)	正規社員 (%)	契約社員・派遣社員・アルバイト・パート (%)	自営または家業に従事している (%)	就労継続支援A型事業所 (%)	就労継続支援B型事業所 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体	297	41.1	27.3	16.5	1.0	5.4	4.0	4.7
身体障害	141	46.1	28.4	16.3	-	1.4	3.5	4.3
知的障害	39	10.3	23.1	2.6	5.1	30.8	15.4	12.8
精神障害	30	20.0	40.0	20.0	-	10.0	-	10.0
難病(特定疾病)	90	55.6	24.4	16.7	-	-	1.1	2.2
高次脳機能障害	6	16.7	-	66.7	-	-	-	16.7
発達障害	20	30.0	40.0	5.0	-	15.0	10.0	-
その他	10	30.0	20.0	50.0	-	-	-	-

問 16-2 働いているのは、週に何時間くらいですか。(1つに○)

1週間の労働時間は、「30時間以上」が54.9%と最も高く、次いで「10時間未満」が14.8%、「20時間以上～30時間未満」が14.1%となっている。

障害別にみると、知的障害を除いては「30時間以上」が最も高く、知的障害は「10時間未満」が最も高くなっている。

<図表 I-16-5 1週間の労働時間（全体）>



<図表 I-16-6 1週間の労働時間（障害別）>

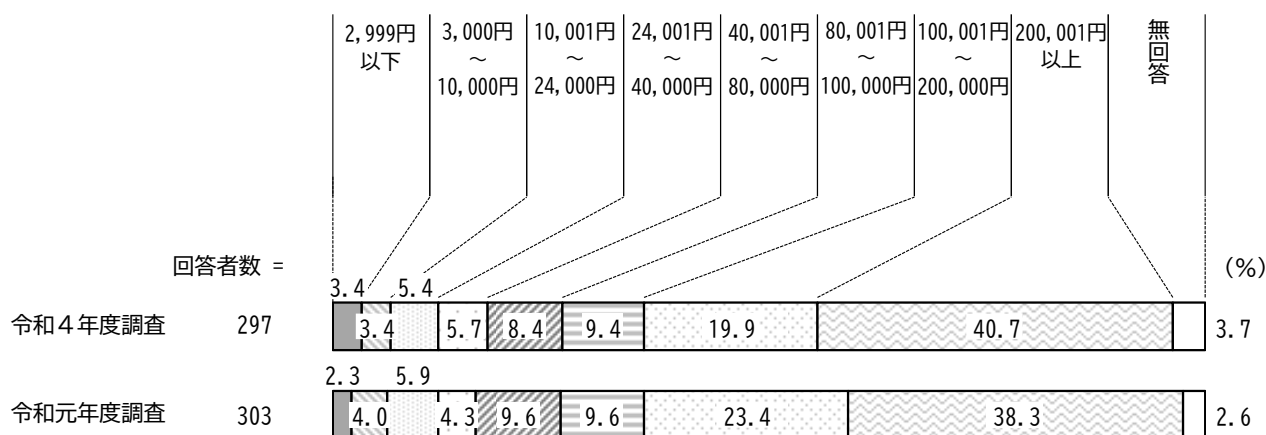
区分	回答者数 (件)	10時間未満	10時間以上～20時間未満	20時間以上～30時間未満	30時間以上	無回答
全体	297	14.8	11.4	14.1	54.9	4.7
身体障害	141	12.1	14.2	11.3	58.2	4.3
知的障害	39	33.3	5.1	23.1	28.2	10.3
精神障害	30	30.0	16.7	10.0	40.0	3.3
難病（特定疾病）	90	13.3	8.9	12.2	63.3	2.2
高次脳機能障害	6	16.7	-	-	66.7	16.7
発達障害	20	30.0	15.0	15.0	40.0	-
その他	10	20.0	10.0	10.0	60.0	-

問 16-3 ひと月あたりの仕事による収入は、平均してどれくらいですか。(1つに○)

ひと月あたりの平均収入額は、「200,001円以上」が40.7%と最も高く、次いで「100,001円～200,000円」が19.9%となっている。

障害別にみると、知的障害で「10,001円～24,000円」が20.5%、難病（特定疾病）で「200,001円以上」が54.4%と高くなっている。

<図表 I-16-7 ひと月あたりの平均収入（全体）>



<図表 I-16-8 ひと月あたりの平均収入（障害別）> (%)

区分	回答者数(件)	2,999円以下	3,000円～10,000円	10,001円～24,000円	24,001円～40,000円	40,001円～80,000円	80,001円～100,000円	100,001円～200,000円	200,001円以上	無回答
全体	297	3.4	3.4	5.4	5.7	8.4	9.4	19.9	40.7	3.7
身体障害	141	1.4	2.1	2.8	5.7	10.6	9.2	19.9	44.7	3.5
知的障害	39	17.9	12.8	20.5	15.4	2.6	15.4	7.7	-	7.7
精神障害	30	3.3	6.7	6.7	6.7	10.0	6.7	23.3	33.3	3.3
難病（特定疾病）	90	-	1.1	2.2	6.7	5.6	6.7	21.1	54.4	2.2
高次脳機能障害	6	16.7	-	-	-	-	16.7	16.7	50.0	-
発達障害	20	-	15.0	5.0	5.0	20.0	10.0	25.0	20.0	-
その他	10	10.0	-	10.0	-	-	-	20.0	60.0	-

(3) 仕事における悩みごと・困りごと

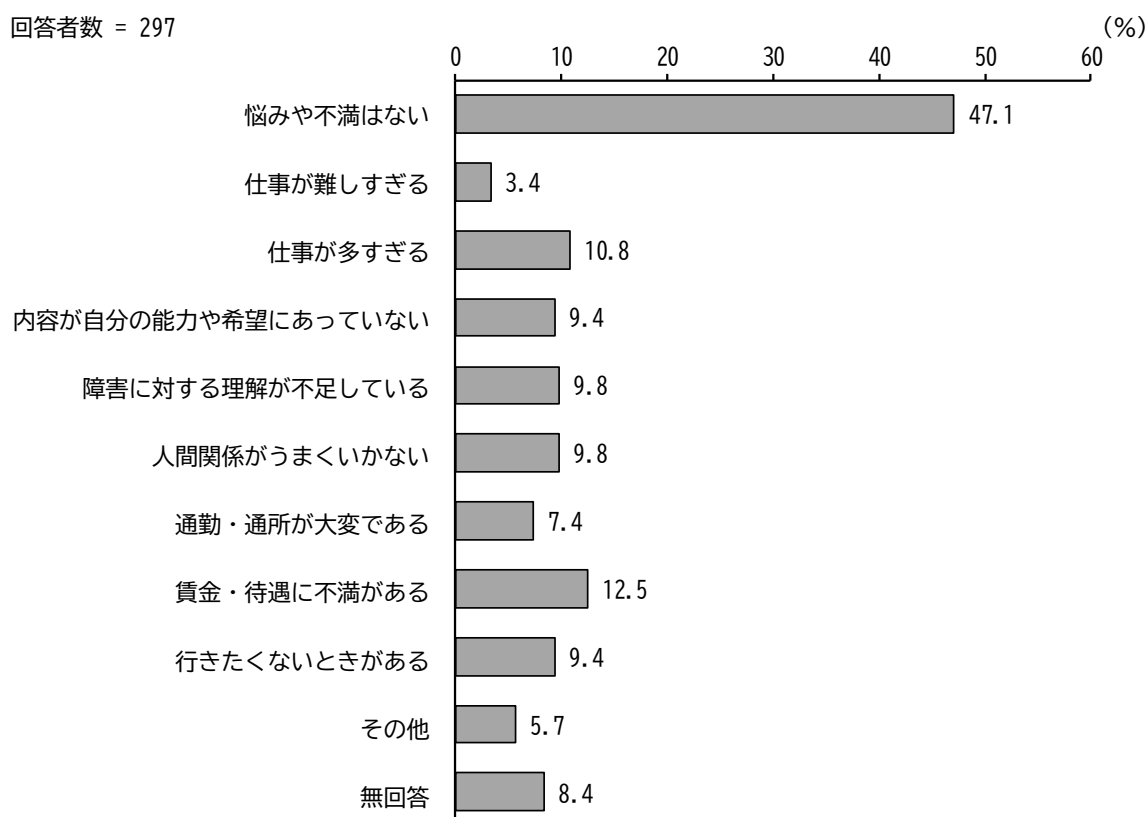
問 16-4 今の仕事について、悩みごとや困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

仕事における悩みごと・困りごとがある人は、44.5% (全体から「悩みや不満はない」47.1%と「無回答」8.4%を除いたもの)となっている。具体的には、「賃金・待遇に不満がある」が12.5%、「仕事が多すぎる」が10.8%と高くなっている。

障害別にみると、精神障害で「行きたくないときがある」が30.0%、発達障害で「人間関係がうまくいかない」が35.0%と高くなっている。

<図表 I-16-9 仕事における悩みごと・困りごと (全体) >

回答者数 = 297



<図表 I - 16 - 10 仕事における悩みごと・困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	悩みや不満はない	仕事 が難しすぎる	仕事 が多すぎる	内容が自分の能力や 希望にあっていない	障害に対する理解が 不足している	人間関係がうまく いかない	通勤・通所が大変 である	賃金・待遇に 不満がある	行きたくないときが ある	その他	無回答
全体	297	47.1	3.4	10.8	9.4	9.8	9.8	7.4	12.5	9.4	5.7	8.4
身体障害	141	46.1	2.8	9.2	10.6	11.3	7.8	10.6	14.2	7.1	5.7	7.8
知的障害	39	59.0	2.6	5.1	12.8	2.6	2.6	2.6	5.1	5.1	10.3	10.3
精神障害	30	26.7	10.0	3.3	16.7	13.3	16.7	3.3	10.0	30.0	16.7	6.7
難病（特定疾病）	90	48.9	2.2	15.6	6.7	6.7	5.6	6.7	14.4	8.9	3.3	10.0
高次脳機能障害	6	16.7	16.7	16.7	-	16.7	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7
発達障害	20	30.0	10.0	20.0	15.0	20.0	35.0	5.0	20.0	15.0	20.0	5.0
その他	10	40.0	10.0	20.0	-	30.0	20.0	20.0	10.0	-	-	10.0

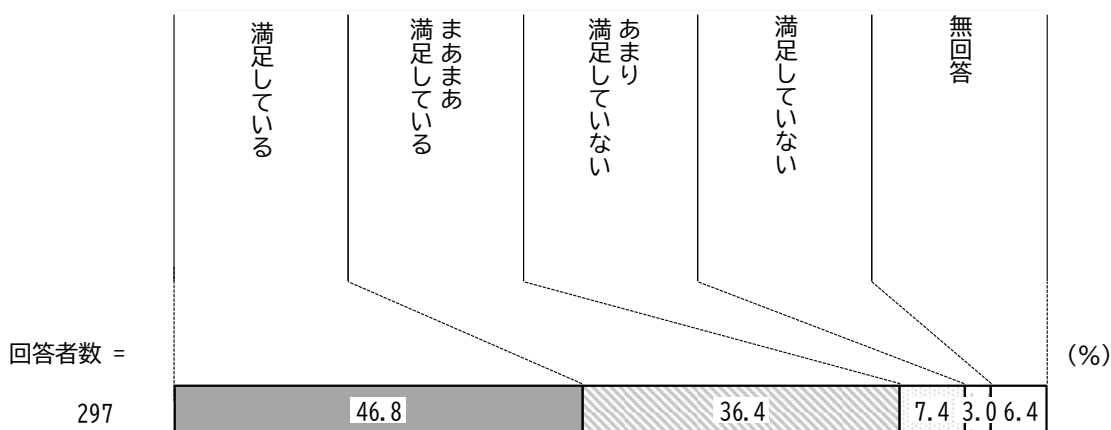
(4) 職場や作業所のバリアフリー対応の満足度

問 16-5 あなたは、職場や作業所のバリアフリーについて満足していますか。
(1つに○)

職場や作業所のバリアフリーの満足度は、「満足している」46.8%と「まあまあ満足している」36.4%をあわせた『満足』が83.2%となっている。

障害別にみると、発達障害で『満足』が95.0%と高くなっている。

<図表 I - 16 - 11 職場や作業所のバリアフリーの満足度（全体）>



<図表 I - 16 - 12 職場や作業所のバリアフリーの満足度（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	297	46.8	36.4	7.4	3.0	6.4
身体障害	141	39.0	40.4	9.9	5.0	5.7
知的障害	39	61.5	25.6	-	2.6	10.3
精神障害	30	36.7	46.7	3.3	10.0	3.3
難病（特定疾病）	90	48.9	32.2	10.0	1.1	7.8
高次脳機能障害	6	-	50.0	-	50.0	-
発達障害	20	65.0	30.0	-	5.0	-
その他	10	60.0	40.0	-	-	-

(5) 希望する働き方

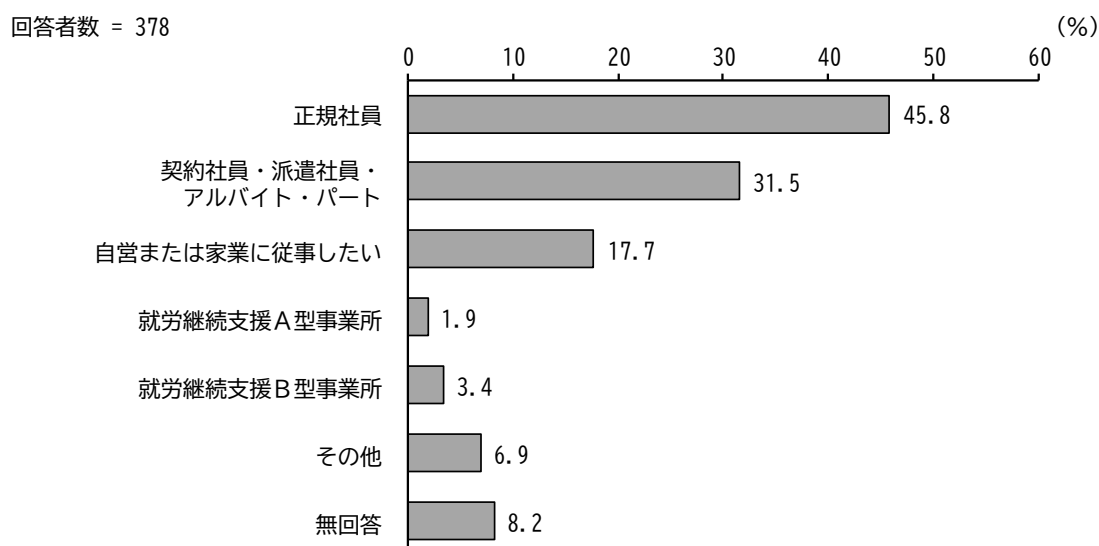
問17 問16で「1. 仕事をしている」または「2. 今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」に○をした方におたずねします。今後は、どのような働き方をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

希望する働き方は、「正規社員」が45.8%と最も高く、次いで「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」が31.5%、「自営または家業に従事したい」が17.7%となっている。

障害別にみると、身体障害、難病（特定疾病）で「正規社員」がそれぞれ49.7%、54.4%と高くなっている。また、知的障害で「就労継続支援B型事業所」が28.6%、精神障害、発達障害で「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」がそれぞれ47.3%、44.4%と高くなっている。

働き方別にみると、現在の働き方を希望する人が多い。また、「契約社員・派遣社員・アルバイト・パート」の人で「正規社員」を希望する人が32.1%と高くなっている。

<図表 I-17-1 希望する働き方（全体）>



<図表 I-17-2 希望する働き方（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	正規社員	パート 契約社員・派遣社 員・アルバイト・	自営または家業に 従事したい	事業所 就労継続支援A型	事業所 就労継続支援B型	その他	無回答
全体	378	45.8	31.5	17.7	1.9	3.4	6.9	8.2
身体障害	179	49.7	29.1	17.3	-	1.1	6.7	6.7
知的障害	42	19.0	14.3	2.4	7.1	28.6	7.1	26.2
精神障害	55	41.8	47.3	21.8	5.5	1.8	9.1	5.5
難病（特定疾病）	103	54.4	31.1	18.4	-	-	4.9	5.8
高次脳機能障害	9	22.2	22.2	44.4	-	-	22.2	11.1
発達障害	27	40.7	44.4	11.1	11.1	7.4	3.7	11.1
その他	15	26.7	46.7	26.7	-	-	20.0	-

<図表 I-17-3 希望する働き方（働き方別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	正規社員	パート 契約社員・派遣社 員・アルバイト・	自営または家業に 従事したい	事業所 就労継続支援A型	事業所 就労継続支援B型	その他	無回答
全体	297	49.8	21.9	17.8	1.7	4.0	4.7	9.8
正規社員	122	92.6	6.6	2.5	0.8	-	1.6	3.3
契約社員・派遣社員・ アルバイト・パート	81	32.1	63.0	8.6	1.2	1.2	1.2	8.6
自営または家業に従事し ている	49	8.2	4.1	81.6	-	-	6.1	8.2
就労継続支援A型事業所	3	-	-	-	100.0	-	-	-
就労継続支援B型事業所	16	18.8	12.5	6.3	-	62.5	-	6.3
その他	12	8.3	-	-	-	-	58.3	33.3

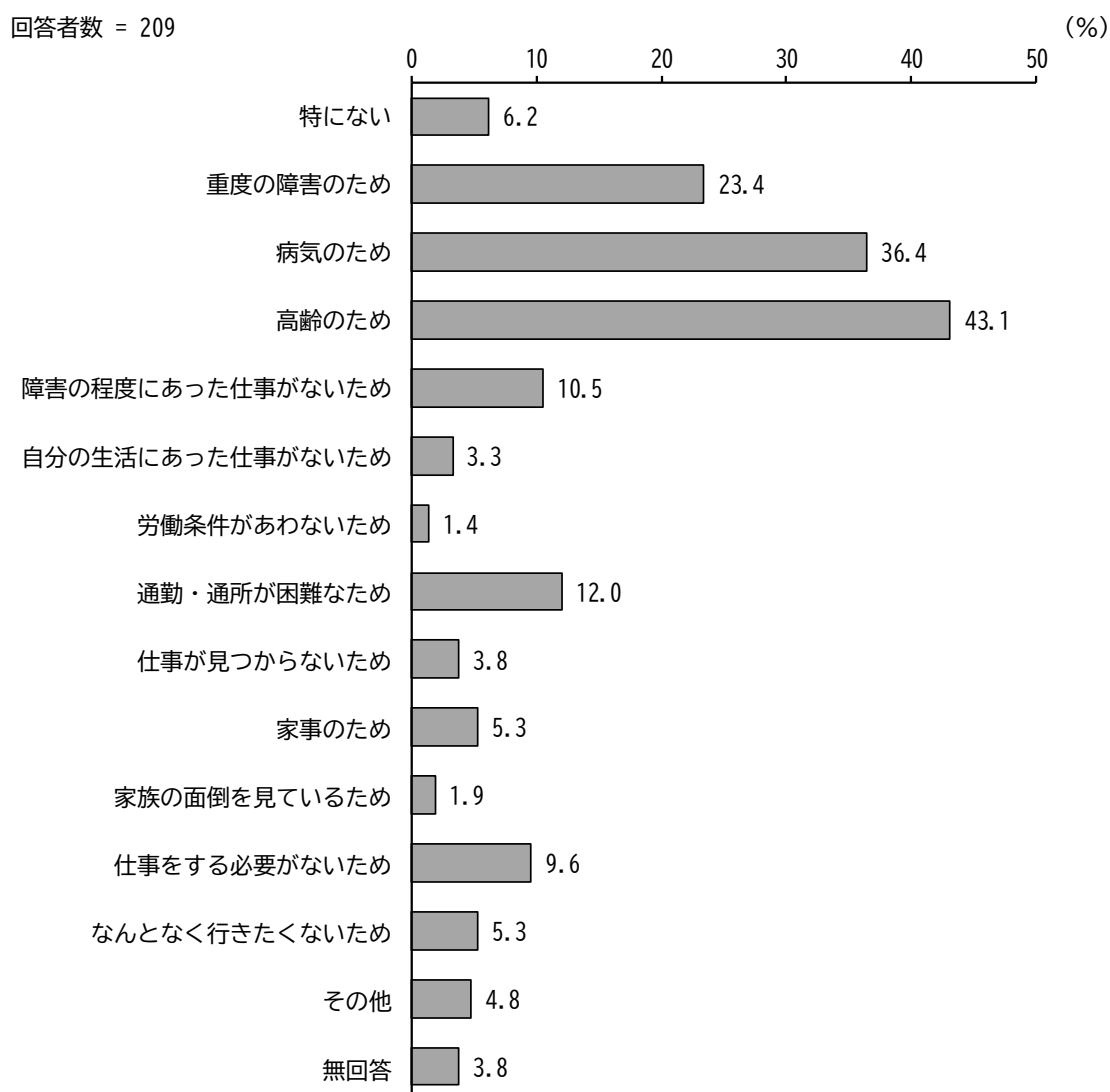
(6) 仕事をしていない理由

問 18 問 16 で「3. 仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない」に○をした方におたずねします。仕事をしていない理由は次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

仕事をしていない理由は、「高齢のため」が 43.1%と最も高く、次いで「病気のため」が 36.4%、「重度の障害のため」が 23.4%となっている。

障害別にみると、知的障害で「重度の障害のため」が 54.5%、精神障害で「病気のため」が 61.8%、身体障害、難病（特定疾病）で「高齢のため」がそれぞれ 45.3%、47.4%と高くなっている。

<図表 I-18-1 仕事をしていない理由（全体）>



<図表 I-18-2 仕事をしていない理由（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	重 度 の 障 害 の た め	病 気 の た め	高 齢 の た め	障 害 の 程 度 に あ っ た 仕 事 が な い た め	自 分 の 生 活 に あ っ た 仕 事 が な い た め	労 働 条 件 が あ わ な い た め
全体	209	6.2	23.4	36.4	43.1	10.5	3.3	1.4
身体障害	106	4.7	27.4	29.2	45.3	12.3	2.8	0.9
知的障害	33	9.1	54.5	18.2	24.2	15.2	-	-
精神障害	34	5.9	23.5	61.8	38.2	5.9	5.9	2.9
難病（特定疾病）	57	7.0	22.8	50.9	47.4	10.5	3.5	1.8
高次脳機能障害	9	-	88.9	11.1	22.2	-	-	-
発達障害	9	-	66.7	44.4	22.2	11.1	11.1	11.1
その他	14	14.3	14.3	35.7	50.0	7.1	7.1	7.1

区分	通 勤 ・ 通 所 が 困 難 な た め	仕 事 が 見 つ か ら な い た め	家 事 の た め	家 族 の 面 倒 を 見 て い る た め	仕 事 を す る 必 要 が な い た め	な ん と な く 行 き た く な い た め	そ の 他	無 回 答
全体	12.0	3.8	5.3	1.9	9.6	5.3	4.8	3.8
身体障害	11.3	2.8	5.7	2.8	10.4	0.9	5.7	3.8
知的障害	3.0	3.0	-	-	3.0	3.0	9.1	-
精神障害	20.6	5.9	5.9	2.9	2.9	14.7	11.8	5.9
難病（特定疾病）	12.3	1.8	5.3	-	12.3	5.3	3.5	1.8
高次脳機能障害	11.1	-	-	-	-	-	11.1	-
発達障害	22.2	11.1	-	-	-	22.2	22.2	-
その他	21.4	7.1	7.1	-	7.1	-	-	-

(7) 障害者が働きやすい環境

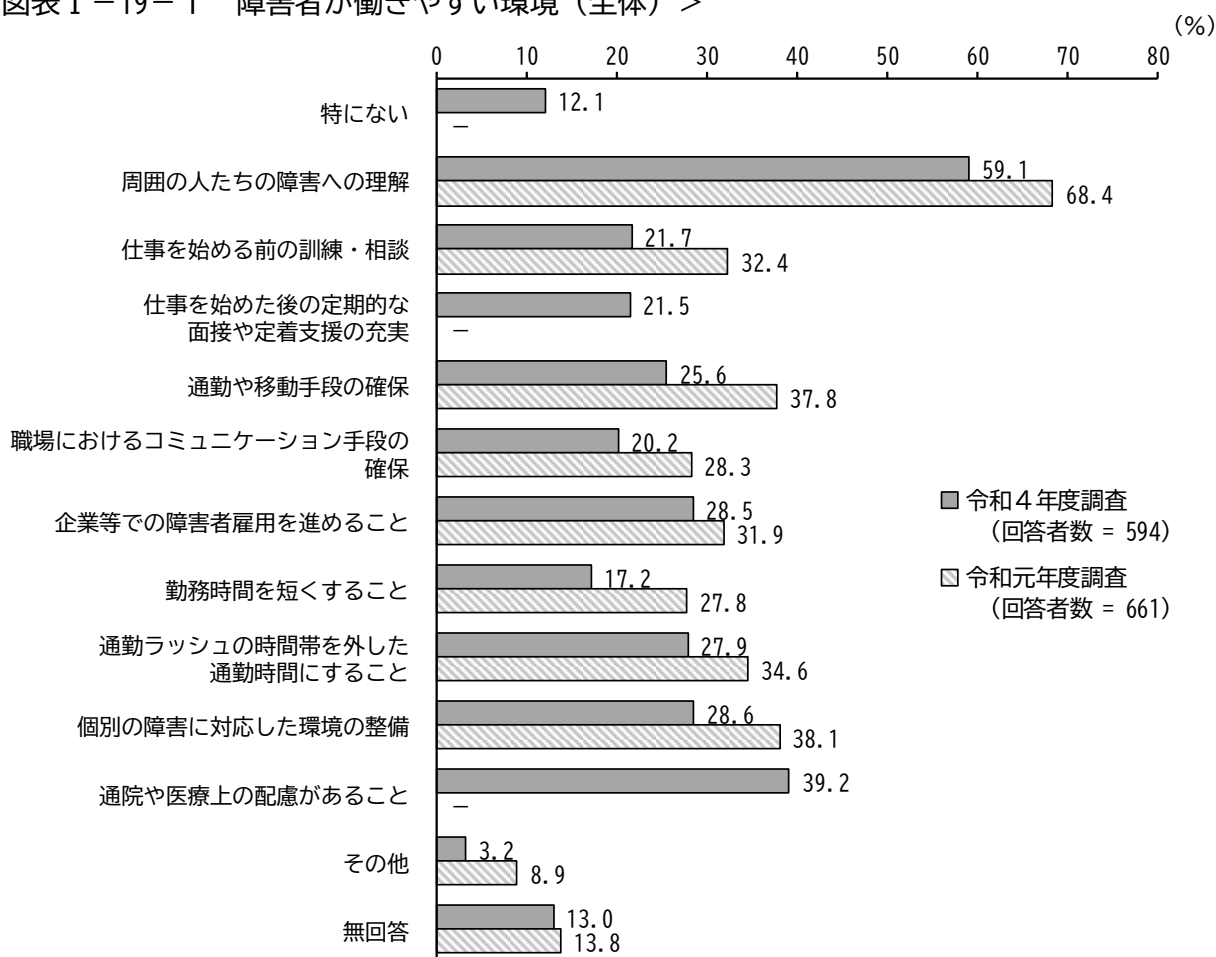
問 19 障害がある方が働きやすい環境にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

働きやすい環境にするために必要なこととしては、「周囲の人たちの障害への理解」が 59.1%と最も高く、次いで「通院や医療上の配慮があること」が 39.2%、「個別の障害に対応した環境の整備」が 28.6%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「周囲の人たちの障害への理解」、「仕事を始める前の訓練・相談」、「通勤や移動手段の確保」、「職場におけるコミュニケーション手段の確保」、「勤務時間を短くすること」、「通勤ラッシュの時間帯を外した通勤時間にする」、「個別の障害に対応した環境の整備」の割合が減少している。

障害別にみると、いずれの障害においても「周囲の人たちの障害への理解」が最も高くなっている。また、発達障害で「仕事を始める前の訓練・相談」が 50.0%、「仕事を始めた後の定期的な面接や定着支援の充実」が 55.6%、「企業等での障害者雇用を進めること」が 47.2%と高くなっている。

<図表 I-19-1 障害者が働きやすい環境 (全体) >



※項目比較

令和4年度調査	令和元年度調査
特になし	—
仕事を始めた後の定期的な面接や定着支援の充実	—
通院や医療上の配慮があること	—

<図表 I-19-2 障害者が働きやすい環境（障害別）>

(%)

区分	回答者数（件）	特 に な い	周 圍 の 人 た ち の 障 害 へ の 理 解	仕 事 を 始 め る 前 の 訓 練 ・ 相 談	仕 事 を 始 め た 後 の 定 期 的 な 面 接 や 定 着 支 援 の 充 実	通 勤 や 移 動 手 段 の 確 保	職 場 に お け る コ ミ ュ ニ ケー ション 手 段 の 確 保	企 業 等 で の 障 害 者 雇 用 を 進 め る こ と	勤 務 時 間 を 短 く す る こ と	通 勤 ラ ッ シ ュ の 時 間 帯 を 外 し た 通 勤 時 間 に す る こ と	個 別 の 障 害 に 対 応 し た 環 境 の 整 備	通 院 や 医 療 上 の 配 慮 が あ る こ と	そ の 他	無 回 答
全体	594	12.1	59.1	21.7	21.5	25.6	20.2	28.5	17.2	27.9	28.6	39.2	3.2	13.0
身体障害	286	10.5	61.9	21.0	19.6	30.8	21.7	33.6	15.7	30.1	35.0	43.0	2.8	11.2
知的障害	75	17.3	62.7	24.0	25.3	22.7	14.7	24.0	10.7	12.0	20.0	18.7	1.3	14.7
精神障害	92	10.9	54.3	33.7	29.3	19.6	15.2	30.4	27.2	29.3	23.9	41.3	5.4	14.1
難病（特定疾病）	161	11.8	59.0	18.0	18.0	25.5	20.5	25.5	18.0	31.7	31.7	47.8	2.5	14.9
高次脳機能障害	19	5.3	36.8	31.6	21.1	26.3	31.6	26.3	26.3	21.1	31.6	31.6	-	42.1
発達障害	36	2.8	88.9	50.0	55.6	30.6	27.8	47.2	22.2	33.3	27.8	41.7	5.6	2.8
その他	30	26.7	43.3	16.7	16.7	26.7	23.3	23.3	33.3	33.3	13.3	43.3	-	10.0

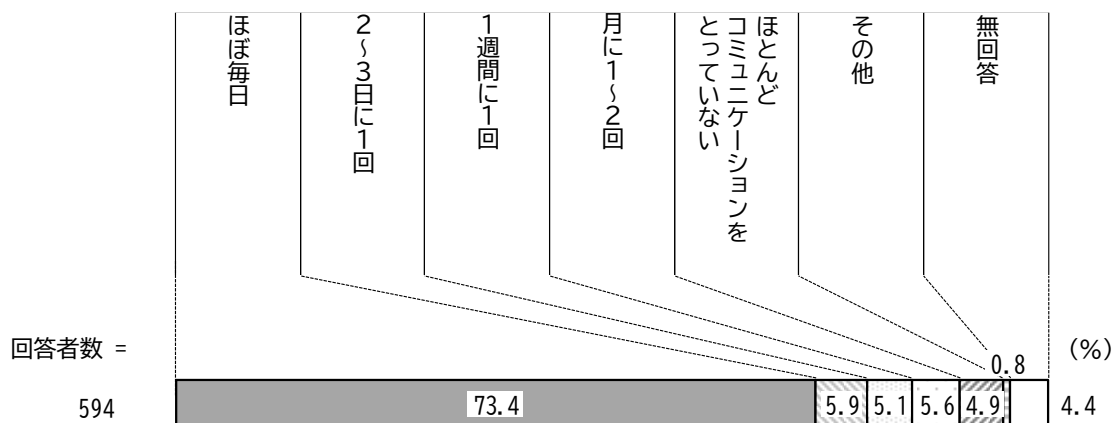
5. コミュニケーション・意思疎通について

(1) コミュニケーションの頻度

問 20 あなたは、ふだん、どのくらい家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとっていますか。(電話やメール等を含む) (1つに○)

コミュニケーションの頻度は、「ほぼ毎日」が73.4%となっている。

<図表 I-20-1 コミュニケーションの頻度 (全体) >



<図表 I-20-2 コミュニケーションの頻度 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	ほぼ毎日	2〜3日に1回	1週間に1回	月に1〜2回	ほとんどコミュニケーションをとっていない	その他	無回答
全体	594	73.4	5.9	5.1	5.6	4.9	0.8	4.4
身体障害	286	72.4	5.9	5.6	6.3	4.5	0.3	4.9
知的障害	75	69.3	2.7	2.7	5.3	4.0	5.3	10.7
精神障害	92	69.6	4.3	2.2	12.0	8.7	1.1	2.2
難病 (特定疾病)	161	76.4	8.7	5.6	1.9	3.7	-	3.7
高次脳機能障害	19	68.4	-	-	15.8	10.5	-	5.3
発達障害	36	63.9	8.3	8.3	2.8	5.6	5.6	5.6
その他	30	60.0	6.7	13.3	6.7	6.7	3.3	3.3

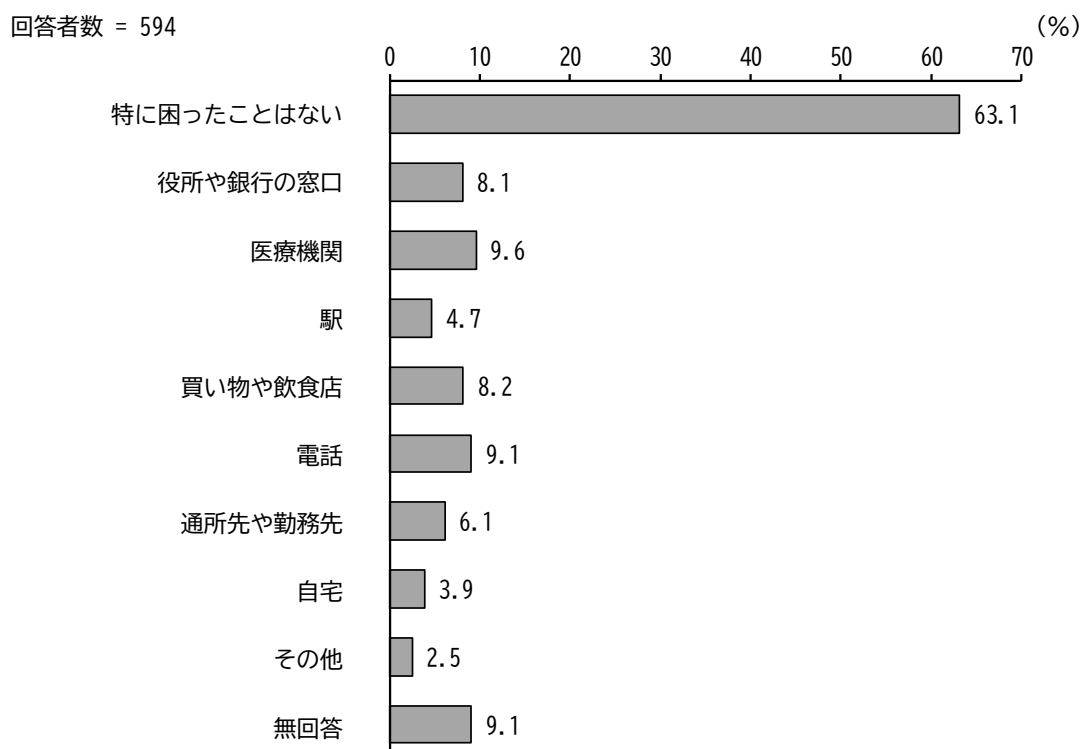
(2) コミュニケーションに困った場所や場面

問 21 この1年間に、コミュニケーションに困った場所や場面はどこでしたか。
(あてはまるものすべてに○)

コミュニケーションに困った場所や場面がある人は、27.8%（全体から「特に困ったことはない」63.1%と「無回答」9.1%を除いたもの）となっている。具体的には、「医療機関」が9.6%、「電話」が9.1%と高くなっている。

障害別にみると、発達障害で「医療機関」、「電話」が19.4%、「通所先や勤務先」が30.6%と高くなっている。

<図表 I-21-1 コミュニケーションに困った場所や場面（全体）>



<図表 I-21-2 コミュニケーションに困った場所や場面（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特に困ったことはない	役所や銀行の窓口	医療機関	駅	買い物や飲食店	電話	通所先や勤務先	自宅	その他	無回答
全体	594	63.1	8.1	9.6	4.7	8.2	9.1	6.1	3.9	2.5	9.1
身体障害	286	62.9	7.3	10.1	6.6	11.9	10.5	5.2	3.5	2.8	8.4
知的障害	75	45.3	17.3	13.3	2.7	10.7	9.3	8.0	4.0	4.0	20.0
精神障害	92	59.8	8.7	12.0	4.3	7.6	13.0	5.4	3.3	5.4	8.7
難病（特定疾病）	161	71.4	5.6	7.5	1.9	2.5	4.3	3.7	3.7	2.5	5.6
高次脳機能障害	19	42.1	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	5.3	-	10.5	21.1
発達障害	36	38.9	16.7	19.4	8.3	13.9	19.4	30.6	5.6	2.8	5.6
その他	30	63.3	16.7	10.0	3.3	3.3	20.0	3.3	10.0	-	6.7

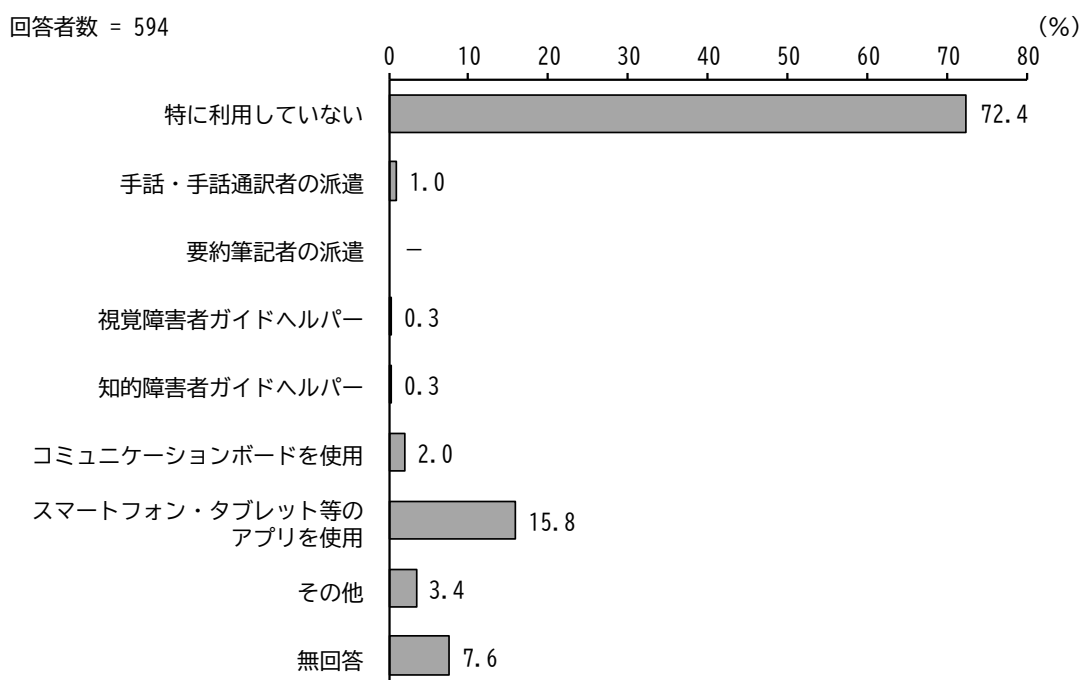
(3) 利用する意思疎通手段・支援

問 22 あなたは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

コミュニケーションをとるときに意思疎通手段・支援を利用する人は、20.0%（全体から「特に利用していない」72.4%と「無回答」7.6%を除いたもの）であり、そのうち「スマートフォン・タブレット等のアプリを使用」が15.8%となっている。

障害別にみると、知的障害で「スマートフォン・タブレット等のアプリを使用」は6.7%と低くなっている。

<図表 I - 22 - 1 利用する意思疎通手段・支援（全体）>



<図表 I - 22 - 2 利用する意思疎通手段・支援（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特に利用 しない	手話・ 手話通訳 者の派 遣	要約 筆記者 の派 遣	視覚 障害者 ガイ ド ヘル パー	知的 障害 者 ガイ ド ヘル パー	コ ミュ ニ ケー シ ョ ン ボ ー ド を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ を 使 用
全体	594	72.4	1.0	-	0.3	0.3	2.0	15.8	3.4	7.6									
身体障害	286	71.7	2.1	-	0.3	-	2.4	15.7	4.5	7.7									
知的障害	75	69.3	-	-	-	1.3	4.0	6.7	5.3	16.0									
精神障害	92	73.9	-	-	1.1	1.1	-	16.3	3.3	6.5									
難病（特定疾病）	161	75.8	-	-	-	-	1.2	16.1	2.5	5.0									
高次脳機能障害	19	63.2	-	-	-	-	5.3	10.5	5.3	15.8									
発達障害	36	72.2	-	-	-	-	-	19.4	5.6	2.8									
その他	30	56.7	3.3	-	-	-	10.0	26.7	6.7	3.3									

(4) 充実を希望する情報媒体

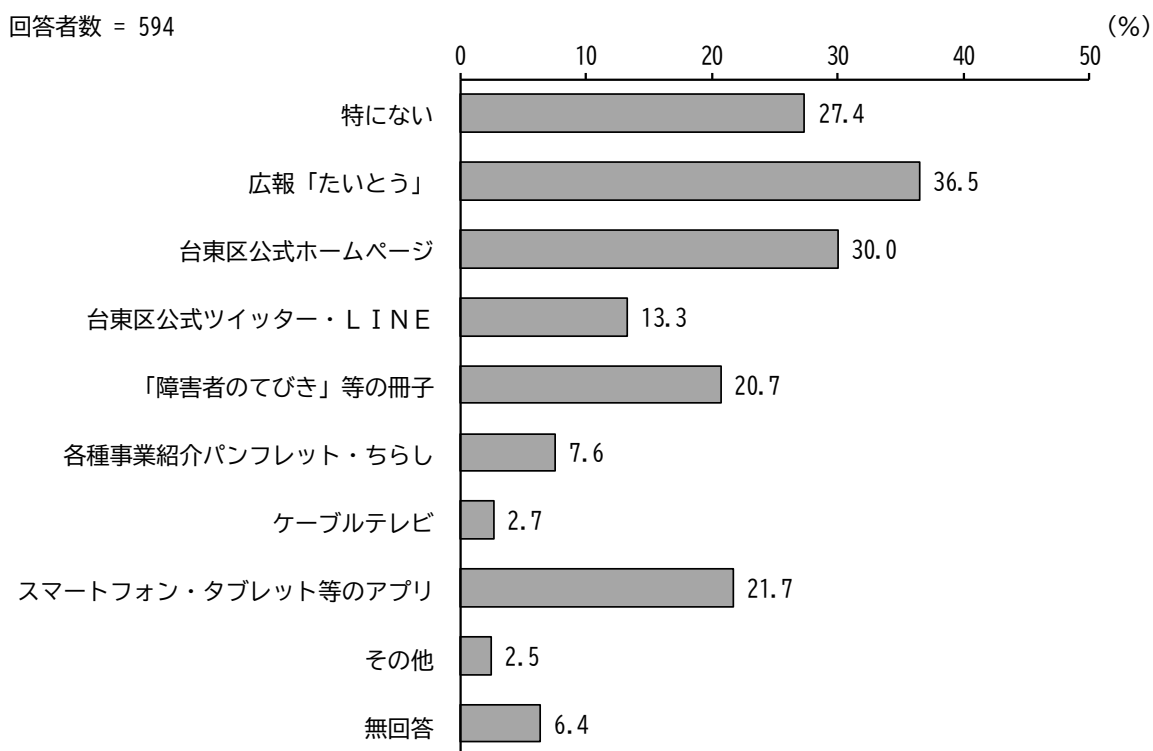
問 23 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

充実を希望する情報媒体は、「広報『たいとう』」が36.5%と最も高く、次いで「台東区公式ホームページ」が30.0%となっている。

障害別にみると、発達障害で「広報『たいとう』」が55.6%と高くなっている。また、精神障害で「台東区公式ホームページ」が38.0%、高次脳機能障害で「『障害者のてびき』等の冊子」が31.6%と高くなっている。

年齢別にみると、75歳以上で「広報『たいとう』」、「『障害者のてびき』等の冊子」が、18歳～39歳、40～64歳では「台東区公式ホームページ」、「スマートフォン・タブレット等のアプリ」が比較的高くなっている。

<図表 I-23-1 充実を希望する情報媒体 (全体) >



<図表 I-23-2 充実を希望する情報媒体（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	広 報 「 た い と う 」	台 東 区 公 式 ホ ー ム ペ ー ジ	台 東 区 公 式 ツ ィ ッ タ ー ・ L I N E	冊 子 「 障 害 者 の て び き 」 等 の	各 種 事 業 紹 介 パ ン フ レ ッ ト ・ ち ら し	ケ ー ブ ル テ レ ビ	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ	そ の 他	無 回 答
全体	594	27.4	36.5	30.0	13.3	20.7	7.6	2.7	21.7	2.5	6.4
身体障害	286	26.2	40.6	30.4	10.5	26.6	5.6	3.1	21.3	2.4	5.6
知的障害	75	38.7	33.3	16.0	8.0	25.3	10.7	-	13.3	4.0	13.3
精神障害	92	19.6	38.0	38.0	12.0	23.9	13.0	3.3	26.1	4.3	4.3
難病（特定疾病）	161	24.8	37.3	34.8	21.1	18.0	8.1	2.5	24.2	1.9	4.3
高次脳機能障害	19	15.8	15.8	10.5	5.3	31.6	-	5.3	15.8	5.3	21.1
発達障害	36	16.7	55.6	33.3	16.7	25.0	8.3	-	16.7	5.6	-
その他	30	33.3	33.3	26.7	3.3	13.3	3.3	-	13.3	3.3	10.0

<図表 I-23-3 充実を希望する情報媒体（年齢別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	広 報 「 た い と う 」	台 東 区 公 式 ホ ー ム ペ ー ジ	台 東 区 公 式 ツ ィ ッ タ ー ・ L I N E	冊 子 「 障 害 者 の て び き 」 等 の	各 種 事 業 紹 介 パ ン フ レ ッ ト ・ ち ら し	ケ ー ブ ル テ レ ビ	ス マ ー ト フ ォ ン ・ タ ブ レ ッ ト 等 の ア プ リ	そ の 他	無 回 答
全体	594	27.4	36.5	30.0	13.3	20.7	7.6	2.7	21.7	2.5	6.4
18～39 歳	186	26.3	35.5	36.0	19.9	17.2	8.1	2.2	25.8	2.2	3.8
40～64 歳	247	22.7	37.2	36.0	15.4	22.3	9.7	3.6	27.5	2.8	5.7
65～74 歳	65	40.0	36.9	13.8	1.5	16.9	1.5	3.1	12.3	1.5	6.2
75 歳以上	84	33.3	40.5	11.9	2.4	27.4	6.0	1.2	4.8	2.4	10.7

6. 障害福祉サービスについて

(1) 障害福祉サービスの利用状況、利用していない理由

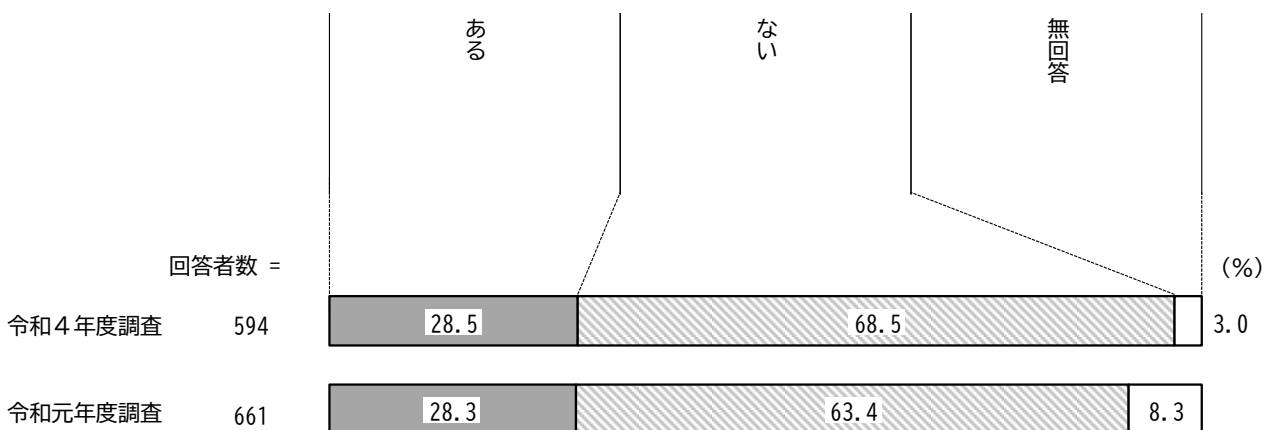
問 24 あなたは現在、利用している障害福祉サービスはありますか。(1つに○)

障害福祉サービスの利用状況は、「ある」が28.5%、「ない」が68.5%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「ない」の割合が増加している。

障害別にみると、知的障害で「ある」が77.3%と高くなっている一方、身体障害、難病（特定疾病）は「ない」が70%を超えている。

<図表 I-24-1 障害福祉サービスの利用状況（全体）>



<図表 I-24-2 障害福祉サービスの利用状況（障害別）>

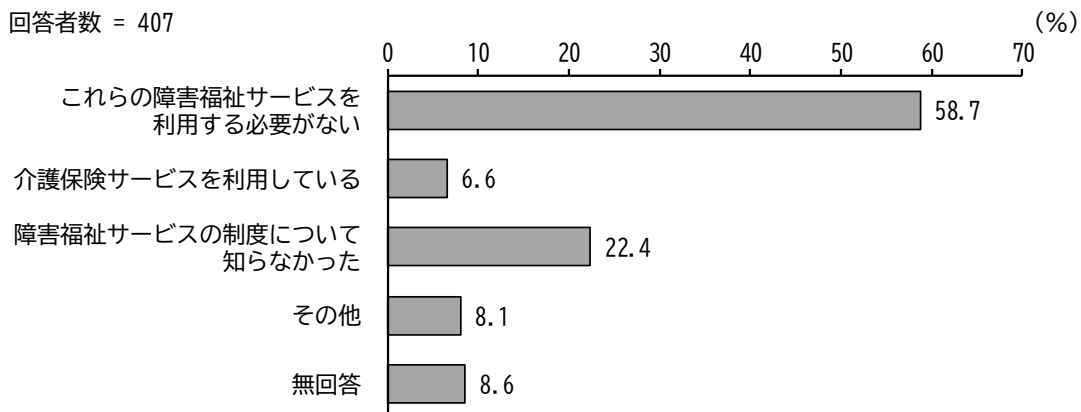
区分	回答者数 (件)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	594	28.5	68.5	3.0
身体障害	286	25.2	71.7	3.1
知的障害	75	77.3	20.0	2.7
精神障害	92	34.8	64.1	1.1
難病（特定疾病）	161	18.6	79.5	1.9
高次脳機能障害	19	36.8	52.6	10.5
発達障害	36	55.6	41.7	2.8
その他	30	30.0	70.0	-

問 24-1 問 24 で「2. ない」に○をした方におたずねします。利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

障害福祉サービスを利用していない理由は、「これらの障害福祉サービスを利用する必要がない」が 58.7%と最も高く、次いで「障害福祉サービスの制度について知らなかった」が 22.4%となっている。

障害別にみると、難病（特定疾病）で「これらの障害福祉サービスを利用する必要がない」が 67.2%、発達障害で「障害福祉サービスの制度について知らなかった」が 46.7%と高くなっている。

<図表 I-24-3 障害福祉サービスを利用していない理由（全体）>



<図表 I-24-4 障害福祉サービスを利用していない理由（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	これらの障害福祉サービスを利用する必要がない	介護保険サービスを利用している	障害福祉サービスの制度について知らなかった	その他	無回答
全体	407	58.7	6.6	22.4	8.1	8.6
身体障害	205	57.1	8.3	22.4	6.8	8.3
知的障害	15	26.7	13.3	33.3	13.3	20.0
精神障害	59	44.1	1.7	28.8	16.9	16.9
難病（特定疾病）	128	67.2	3.9	21.9	5.5	6.3
高次脳機能障害	10	40.0	10.0	30.0	30.0	-
発達障害	15	46.7	-	46.7	6.7	-
その他	21	38.1	19.0	38.1	9.5	4.8

(2) 障害支援区分の認定状況

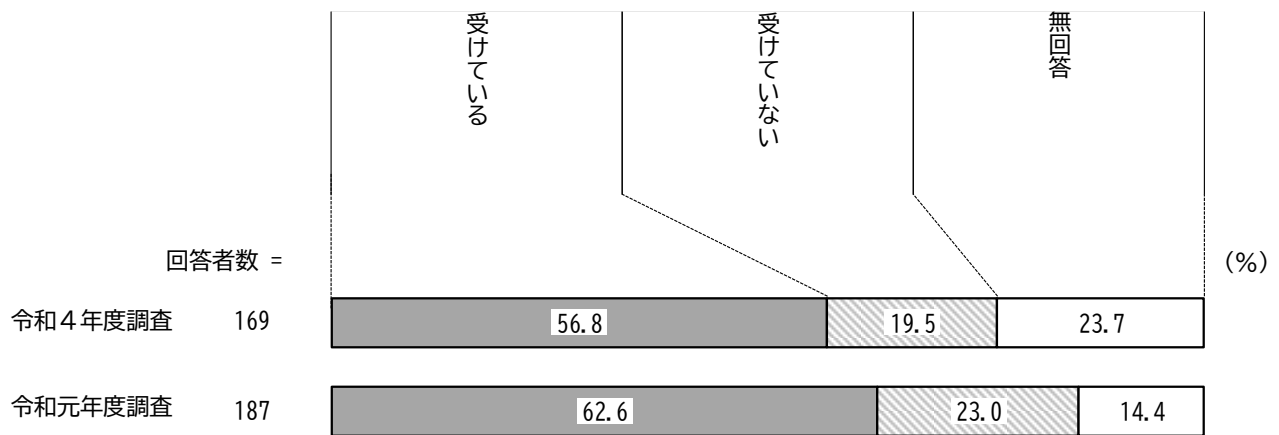
問 25～問 30 は、問 24 で「1. ある」に○をした方におたずねします。

問 25 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。
 受けている場合は、その区分にも○をしてください。

障害支援区分の認定は、「受けている」が 56.8%、「受けていない」が 19.5%となっている。
 令和元年度調査と比較すると、「受けている」の割合が減少している。

障害別にみると、知的障害で「受けている」が 75.9%と高くなっている。また、難病（特定疾病）で「受けていない」が 36.7%と高くなっている。

<図表 I - 25 - 1 障害支援区分の認定状況（全体）>



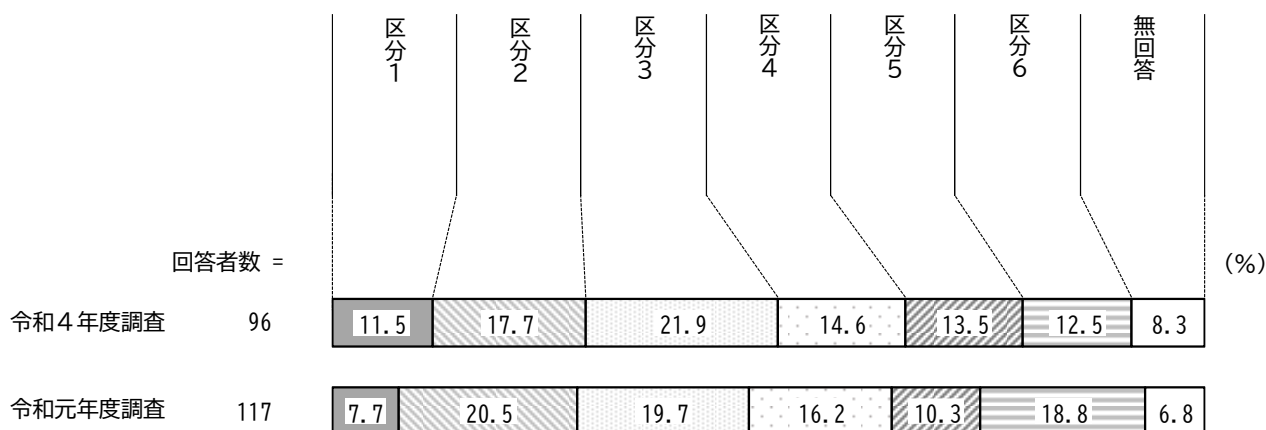
<図表 I - 25 - 2 障害支援区分の認定状況（障害別）>

区分	回答者数 (件)	受けている (%)	受けていない (%)	無回答 (%)
全体	169	56.8	19.5	23.7
身体障害	72	58.3	18.1	23.6
知的障害	58	75.9	5.2	19.0
精神障害	32	53.1	18.8	28.1
難病（特定疾病）	30	50.0	36.7	13.3
高次脳機能障害	7	57.1	14.3	28.6
発達障害	20	70.0	20.0	10.0
その他	9	55.6	22.2	22.2

障害支援区分の認定を受けている場合の区分は、「区分3」が21.9%と最も高く、次いで「区分2」が17.7%、「区分4」が14.6%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「区分6」の割合が減少している。

<図表 I - 25 - 3 障害支援区分（全体）>



<図表 I - 25 - 4 障害支援区分（障害別）>

区分	回答者数 (件)	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	無回答
全体	96	11.5	17.7	21.9	14.6	13.5	12.5	8.3
身体障害	42	16.7	11.9	14.3	14.3	16.7	21.4	4.8
知的障害	44	2.3	11.4	18.2	22.7	15.9	20.5	9.1
精神障害	17	17.6	23.5	41.2	-	5.9	5.9	5.9
難病（特定疾病）	15	20.0	26.7	-	6.7	20.0	6.7	20.0
高次脳機能障害	4	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-
発達障害	14	7.1	28.6	7.1	7.1	21.4	14.3	14.3
その他	5	-	40.0	40.0	-	-	20.0	-

(3) サービスの申請手続き等を行っている人

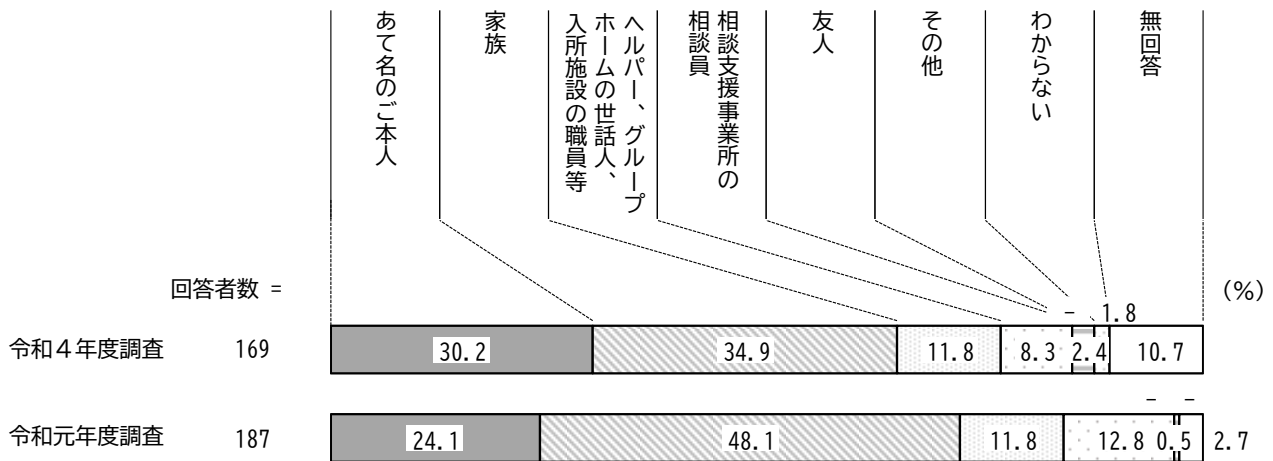
問 26 あなたがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

サービスの申請手続き等を行っている人は、「家族」が 34.9%と最も高く、次いで「あて名のご本人」が 30.2%、「ヘルパー、グループホームの世話人、入所施設の職員等」が 11.8%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「あて名のご本人」の割合が増加している一方、「家族」の割合が減少している。

障害別にみると、精神障害、難病（特定疾病）で「あて名のご本人」が 40%を超える一方、知的障害では 6.9%と最も低くなっており、「家族」、「ヘルパー、グループホームの世話人、入所施設の職員等」がそれぞれ 46.6%、20.7%と高くなっている。また、発達障害で「相談支援事業所の相談員」が 25.0%と高くなっている。

<図表 I-26-1 サービスの申請手続き等を行っている人（全体）>



※項目比較

	令和4年度調査	令和元年度調査
わからない		—

<図表 I-26-2 サービスの申請手続き等を行っている人（障害別）> (%)

区分	回答者数(件)	あて名のご本人	家族	ヘルパー、グループホームの世話人、入所施設の職員等	相談支援事業所の相談員	友人	その他	わからない	無回答
全体	169	30.2	34.9	11.8	8.3	-	2.4	1.8	10.7
身体障害	72	33.3	36.1	2.8	8.3	-	1.4	2.8	15.3
知的障害	58	6.9	46.6	20.7	12.1	-	3.4	1.7	8.6
精神障害	32	43.8	18.8	6.3	9.4	-	3.1	6.3	12.5
難病（特定疾病）	30	46.7	30.0	6.7	3.3	-	3.3	-	10.0
高次脳機能障害	7	14.3	28.6	-	28.6	-	-	-	28.6
発達障害	20	30.0	25.0	-	25.0	-	-	5.0	15.0
その他	9	33.3	44.4	-	11.1	-	-	-	11.1

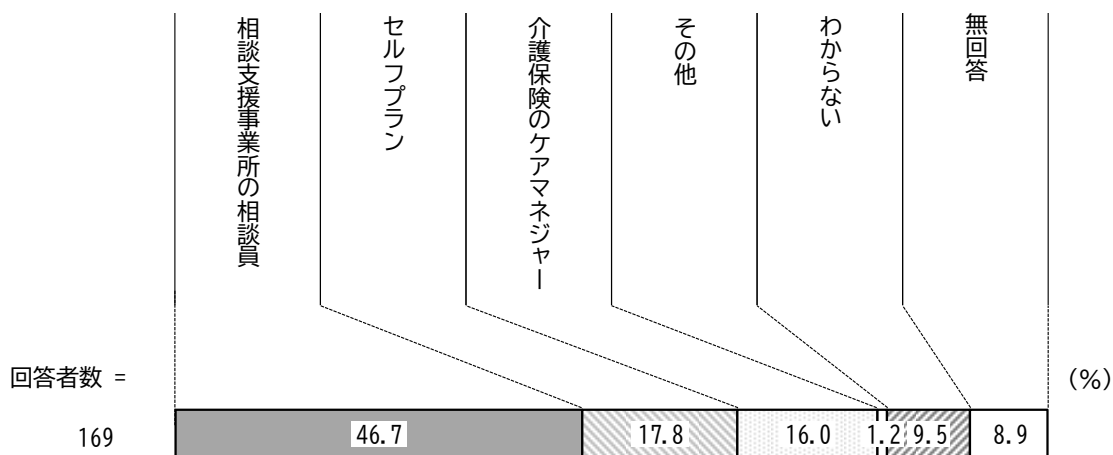
(4) サービス等利用計画の作成者

問 27 あなたのサービス等利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

サービス等利用計画の作成者は、「相談支援事業所の相談員」が46.7%と最も高く、次いで「セルフプラン」が17.8%、「介護保険のケアマネジャー」が16.0%となっている。

障害別にみると、知的障害と発達障害で「相談支援事業所の相談員」がそれぞれ82.8%、75.0%と高くなっている。また、精神障害で「セルフプラン」が31.3%と高くなっている。

<図表 I-27-1 サービス等利用計画の作成者（全体）>



<図表 I-27-2 サービス等利用計画の作成者（障害別）>

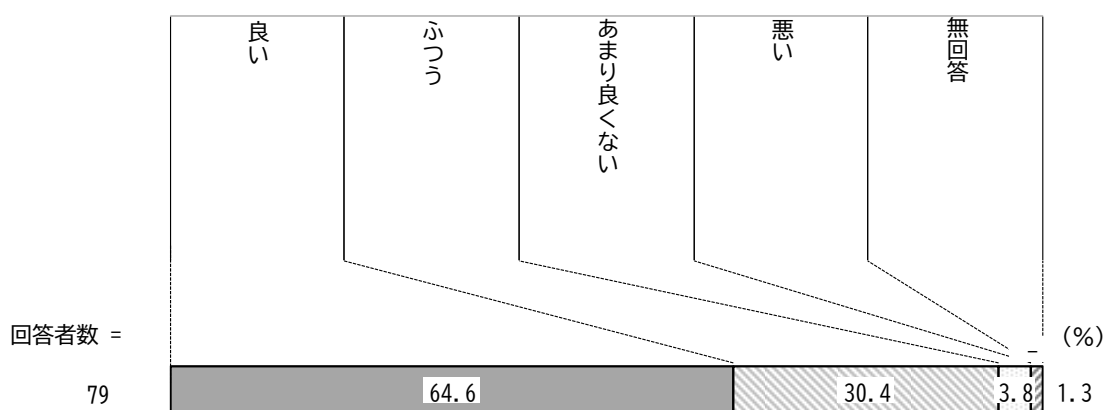
区分	回答者数 (件)	相談支援事業所の相談員 (%)	セルフプラン (%)	介護保険のケアマネジャー (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	169	46.7	17.8	16.0	1.2	9.5	8.9
身体障害	72	36.1	19.4	20.8	1.4	12.5	9.7
知的障害	58	82.8	6.9	3.4	-	5.2	1.7
精神障害	32	28.1	31.3	12.5	-	15.6	12.5
難病（特定疾病）	30	30.0	20.0	30.0	-	6.7	13.3
高次脳機能障害	7	57.1	14.3	14.3	-	-	14.3
発達障害	20	75.0	10.0	5.0	5.0	-	5.0
その他	9	33.3	-	33.3	-	33.3	-

(5) 相談支援事業所利用の満足度

問 27-1 問 27 で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。
相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

相談支援事業所を利用した満足度は、「良い」が64.6%、「ふつう」が30.4%となっている。

<図表 I - 27 - 3 相談支援事業所利用の満足度 (全体) >



<図表 I - 27 - 4 相談支援事業所利用の満足度 (障害別) > (%)

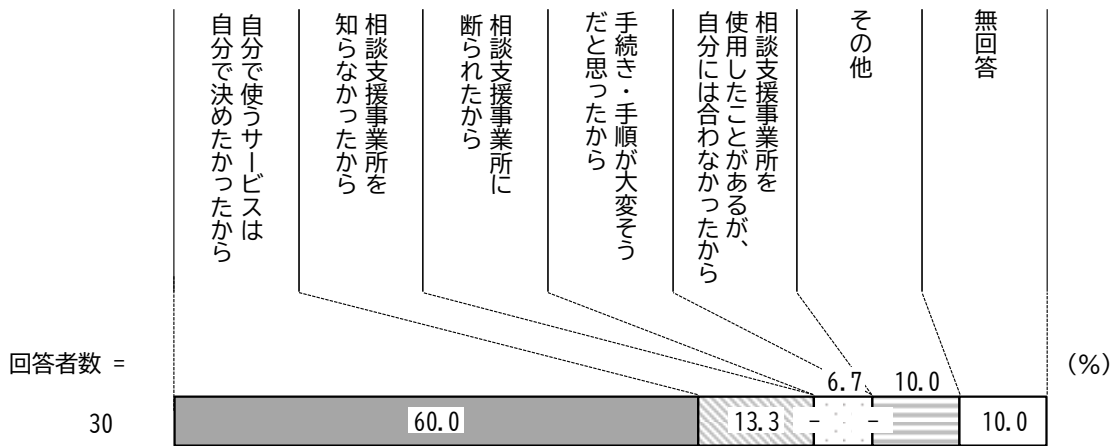
区分	回答者数 (件)	良い	ふつう	あまり良くない	悪い	無回答
全体	79	64.6	30.4	3.8	-	1.3
身体障害	26	69.2	26.9	3.8	-	-
知的障害	48	70.8	25.0	2.1	-	2.1
精神障害	9	22.2	44.4	22.2	-	11.1
難病 (特定疾病)	9	88.9	11.1	-	-	-
高次脳機能障害	4	75.0	25.0	-	-	-
発達障害	15	53.3	46.7	-	-	-
その他	3	33.3	66.7	-	-	-

(6) セルフプランを選んだ理由

問 27-2 問 27 で「2.セルフプラン」に○をした方におたずねします。
なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

サービス等利用計画を自分で作成している人の理由は、「自分で使うサービスは自分で決めたから」が 60.0%と最も高く、次いで「相談支援事業所を知らなかったから」が 13.3%となっている。

<図表 I-27-5 セルフプランを選んだ理由(全体)>



<図表 I-27-6 セルフプランを選んだ理由(障害別)>

区分	回答者数(件)	自分で使うサービスは自分で決めたから	相談支援事業所を知らなかったから	相談支援事業所に断られたから	手続き・手順が大変そうだったから	相談支援事業所を使用したことがあるが、自分には合わなかったから	その他	無回答
全体	30	60.0	13.3	-	6.7	-	10.0	10.0
身体障害	14	50.0	21.4	-	-	-	14.3	14.3
知的障害	4	25.0	-	-	25.0	-	25.0	25.0
精神障害	10	70.0	10.0	-	-	-	10.0	10.0
難病(特定疾病)	6	16.7	33.3	-	16.7	-	16.7	16.7
高次脳機能障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-
発達障害	2	100.0	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-

(7) サービスの支給決定内容の満足度

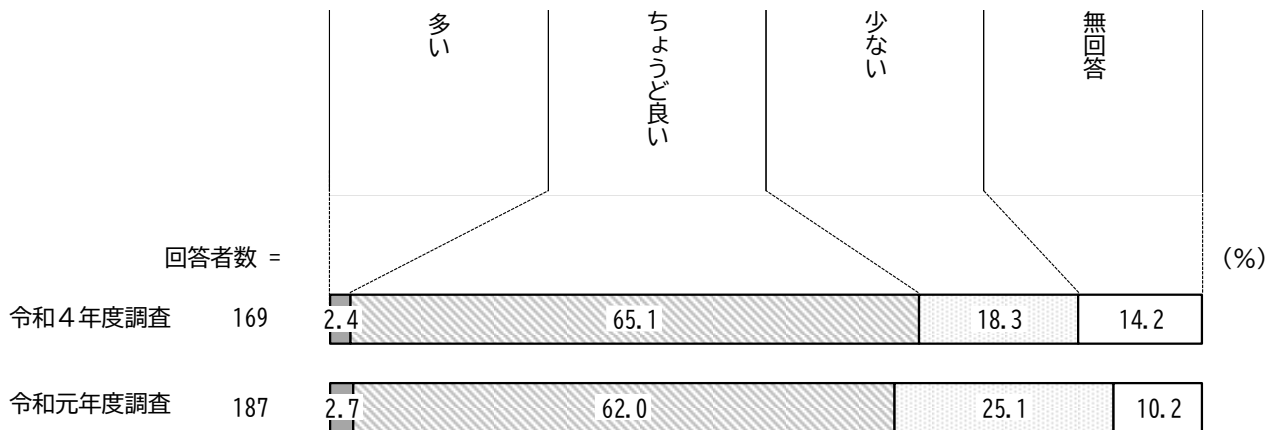
問 28 あなたは、ご自身の障害福祉サービスの支給決定内容（量）について、どのように感じていますか。（1つに○）

サービスの支給決定内容（量）は、「ちょうど良い」が65.1%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「少ない」の割合が減少している。

障害別にみると、知的障害で「ちょうど良い」が79.3%と高くなっている。また、難病（特定疾病）で「少ない」が26.7%と高くなっている。

<図表 I - 28 - 1 サービスの支給決定内容の満足度（全体）>



<図表 I - 28 - 2 障害福祉サービスの支給決定内容（量）について（障害別）> (%)

区分	回答者数（件）	多い	ちょうど良い	少ない	無回答
全体	169	2.4	65.1	18.3	14.2
身体障害	72	-	62.5	20.8	16.7
知的障害	58	3.4	79.3	5.2	12.1
精神障害	32	3.1	56.3	18.8	21.9
難病（特定疾病）	30	3.3	50.0	26.7	20.0
高次脳機能障害	7	-	57.1	42.9	-
発達障害	20	15.0	50.0	25.0	10.0
その他	9	-	77.8	11.1	11.1

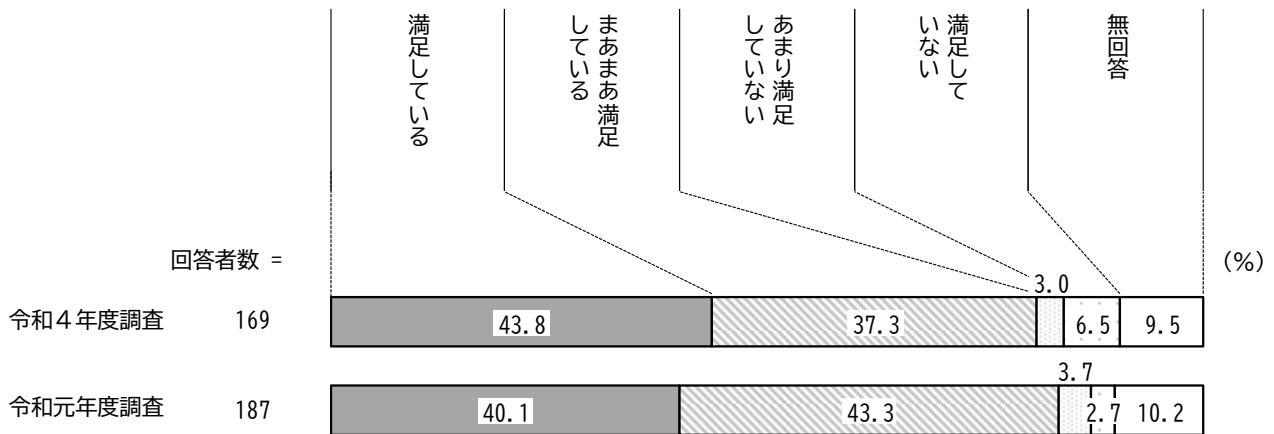
(8) 事業者の対応の満足度

問 29 あなたは、障害福祉サービス事業者の対応について、満足していますか。
(1つに○)

事業者の対応の満足度は、「満足している」43.8%と「まあまあ満足している」37.3%をあわせた『満足』が81.1%となっている。

障害別にみると、知的障害で『満足』が89.6%と高くなっている。

<図表 I-29-1 事業者の対応の満足度 (全体) >



<図表 I-29-2 事業者の対応の満足度 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	169	43.8	37.3	3.0	6.5	9.5
身体障害	72	34.7	44.4	2.8	8.3	9.7
知的障害	58	60.3	29.3	1.7	6.9	1.7
精神障害	32	34.4	34.4	3.1	9.4	18.8
難病 (特定疾病)	30	53.3	23.3	6.7	-	16.7
高次脳機能障害	7	42.9	42.9	-	-	14.3
発達障害	20	40.0	40.0	5.0	10.0	5.0
その他	9	77.8	-	-	22.2	-

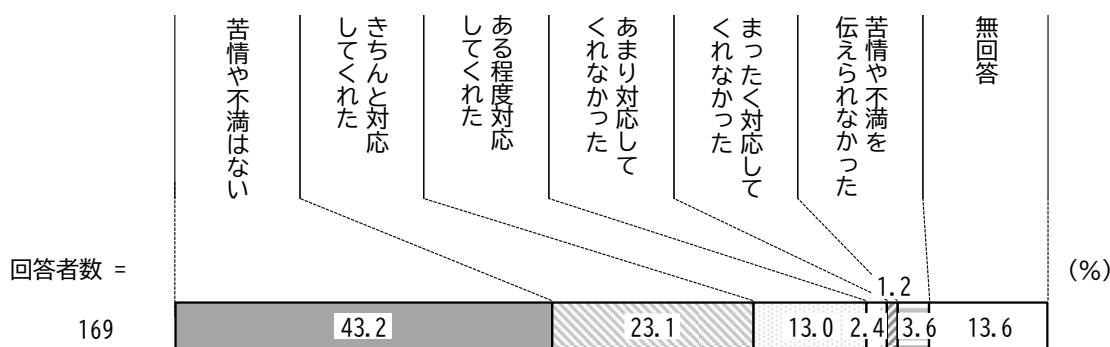
(9) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況

問 30 障害福祉サービス事業者に苦情や不満を伝えたとき、その事業者は、十分に内容を聞き、あなたに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

苦情や不満があったときの事業者の対応状況は、「きちんと対応してくれた」23.1%と「ある程度対応してくれた」13.0%をあわせた『対応してくれた』が36.1%、「あまり対応しなかった」2.4%と「まったく対応しなかった」1.2%をあわせた『対応しなかった』は3.6%となっている。

障害別にみると、発達障害で『対応してくれた』は55.0%と高くなっている。

<図表 I-30-1 苦情や不満があったときの事業者の対応状況(全体)>



<図表 I-30-2 苦情や不満があったときの事業者の対応状況(障害別)> (%)

区分	回答者数(件)	苦情や不満はない	きちんと対応してくれた	ある程度対応してくれた	あまり対応しなかった	まったく対応しなかった	苦情や不満を伝えられなかった	無回答
全体	169	43.2	23.1	13.0	2.4	1.2	3.6	13.6
身体障害	72	31.9	23.6	20.8	4.2	1.4	2.8	15.3
知的障害	58	55.2	20.7	12.1	-	-	3.4	8.6
精神障害	32	34.4	25.0	12.5	-	-	-	28.1
難病(特定疾病)	30	40.0	30.0	10.0	-	-	6.7	13.3
高次脳機能障害	7	42.9	28.6	14.3	-	-	-	14.3
発達障害	20	30.0	40.0	15.0	-	-	10.0	5.0
その他	9	66.7	11.1	-	11.1	11.1	-	-

(10) 今後、充実を希望するサービス

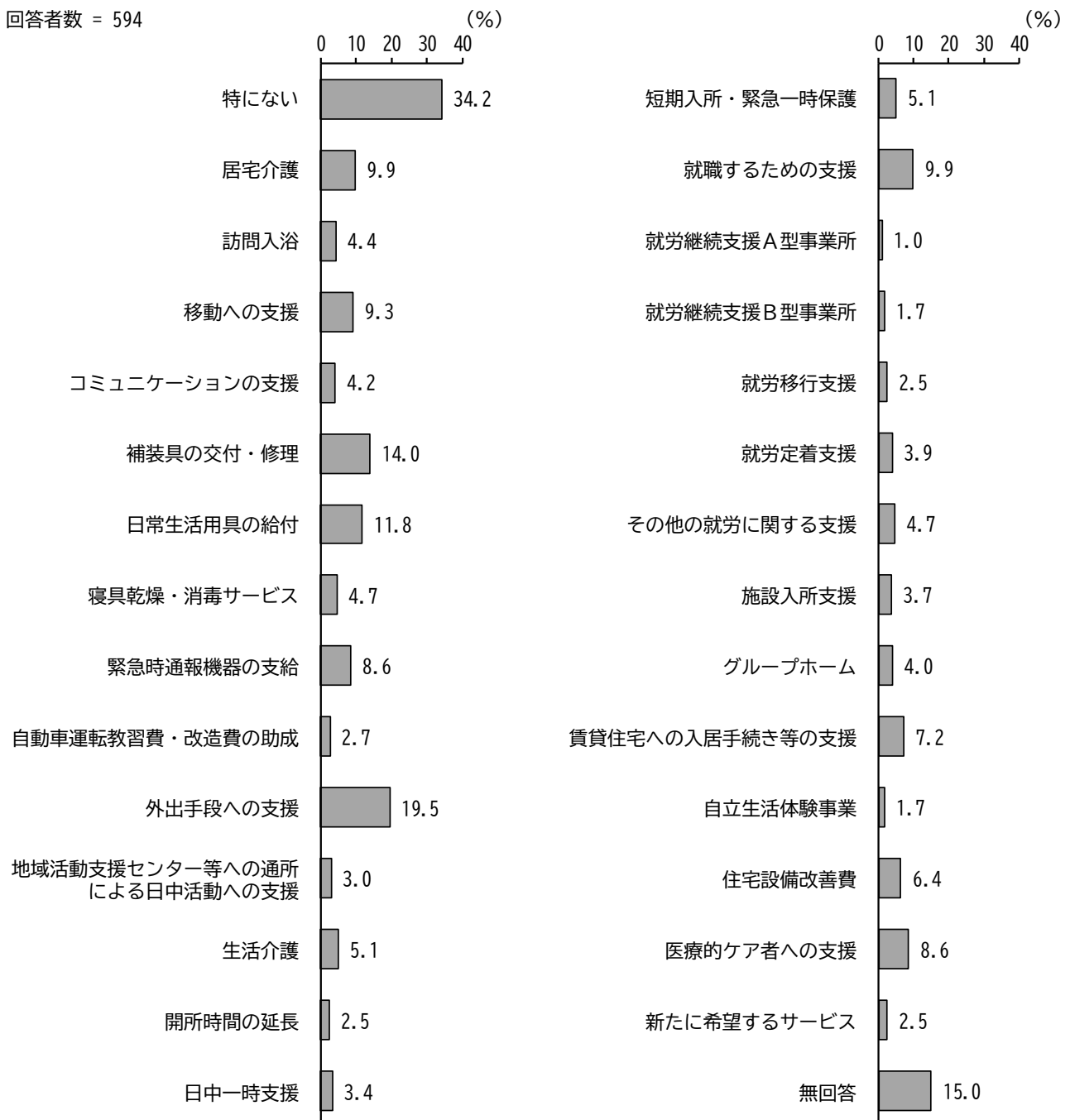
問 31 今後、あなたが充実を希望するサービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

今後、充実を希望するサービスがある割合は、50.8% (全体から「特にない」34.2%と「無回答」15.0%を除いたもの) となっている。具体的には、「外出手段への支援」が19.5%、「補装具の交付・修理」が14.0%、「日常生活用具の給付」が11.8%と高くなっている。

障害別にみると、身体障害で「外出手段への支援」が28.0%、知的障害で「短期入所・緊急一時保護」が18.7%、「グループホーム」が20.0%、高次脳機能障害で「医療的ケア者への支援」が21.1%と高くなっている。

<図表 I - 31 - 1 今後、充実を希望するサービス (全体) >

回答者数 = 594



<図表 I-31-2 今後、充実を希望するサービス（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	居 宅 介 護	訪 問 入 浴	移 動 へ の 支 援	コ ミ ュ ニ ケー ション の 支 援	補 装 具 の 交 付 ・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	寝 具 乾 燥 ・ 消 毒 サ ー ビ ス	緊 急 時 通 報 機 器 の 支 給	自 動 車 運 転 教 習 費 ・ 改 造 費 の 助 成
全体	594	34.2	9.9	4.4	9.3	4.2	14.0	11.8	4.7	8.6	2.7
身体障害	286	25.9	9.8	4.2	10.8	7.0	26.2	19.2	4.9	12.6	3.5
知的障害	75	30.7	8.0	2.7	17.3	4.0	13.3	12.0	6.7	8.0	-
精神障害	92	29.3	9.8	4.3	8.7	2.2	6.5	10.9	10.9	6.5	6.5
難病（特定疾病）	161	42.2	14.3	5.6	8.7	3.1	6.2	10.6	4.3	8.1	1.2
高次脳機能障害	19	21.1	15.8	5.3	21.1	-	26.3	21.1	10.5	10.5	-
発達障害	36	38.9	5.6	2.8	2.8	5.6	11.1	8.3	11.1	8.3	2.8
その他	30	36.7	13.3	10.0	10.0	3.3	-	3.3	3.3	6.7	-

区分	外 出 手 段 へ の 支 援	地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー 等 へ の 通 所 に よ る 日 中 活 動 へ の 支 援	生 活 介 護	開 所 時 間 の 延 長	日 中 一 時 支 援	短 期 入 所 ・ 緊 急 一 時 保 護	就 職 す る た め の 支 援	就 労 継 続 支 援 A 型 事 業 所	就 労 継 続 支 援 B 型 事 業 所	就 労 移 行 支 援	就 労 定 着 支 援
全体	19.5	3.0	5.1	2.5	3.4	5.1	9.9	1.0	1.7	2.5	3.9
身体障害	28.0	1.0	5.6	3.5	2.4	4.5	9.8	0.7	0.7	1.7	2.8
知的障害	20.0	8.0	14.7	9.3	8.0	18.7	8.0	1.3	9.3	2.7	4.0
精神障害	12.0	3.3	3.3	-	2.2	2.2	16.3	3.3	3.3	9.8	12.0
難病（特定疾病）	19.3	4.3	6.2	1.9	4.3	4.3	6.8	-	-	0.6	1.9
高次脳機能障害	26.3	5.3	5.3	5.3	5.3	10.5	5.3	-	-	-	-
発達障害	16.7	5.6	5.6	5.6	5.6	2.8	13.9	8.3	2.8	11.1	11.1
その他	20.0	3.3	6.7	3.3	-	3.3	6.7	-	-	-	-

<図表 I-31-3 今後、充実を希望するサービス（障害別 続き）> (%)

区分	その他の就労に関する支援	施設入所支援	グループホーム	賃貸住宅への入居手続き等の支援	自立生活体験事業	住宅設備改善費	医療的ケア者への支援	新たに希望するサービス	無回答
全体	4.7	3.7	4.0	7.2	1.7	6.4	8.6	2.5	15.0
身体障害	4.2	2.8	2.8	8.0	2.1	9.4	9.4	3.1	14.0
知的障害	5.3	8.0	20.0	2.7	4.0	5.3	4.0	1.3	10.7
精神障害	13.0	1.1	1.1	12.0	2.2	5.4	7.6	5.4	20.7
難病（特定疾病）	3.1	6.8	2.5	5.0	-	5.6	11.2	2.5	15.5
高次脳機能障害	15.8	-	-	5.3	-	15.8	21.1	5.3	21.1
発達障害	8.3	8.3	8.3	8.3	-	2.8	-	5.6	2.8
その他	-	3.3	3.3	6.7	-	3.3	3.3	-	13.3

(11) 介護保険サービスの利用状況

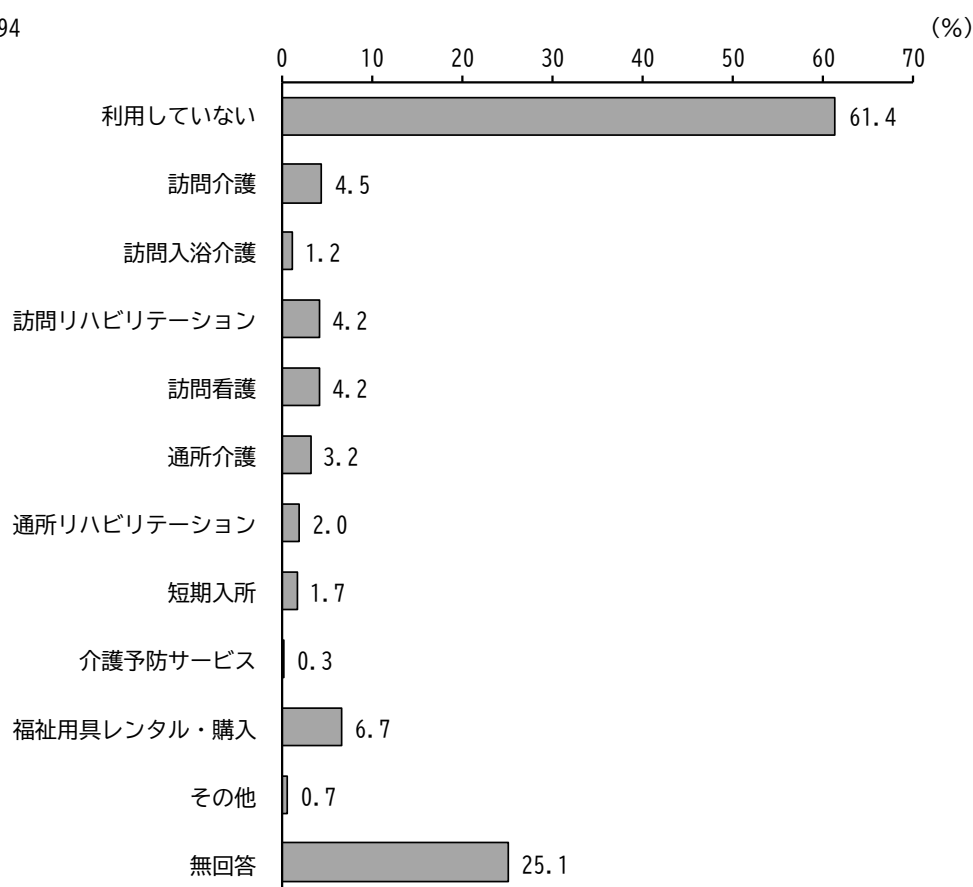
問 32 介護保険サービスを利用している方はその内容を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを利用している人は、13.5%（全体から「利用していない」61.4%と「無回答」25.1%を除いたもの）となっている。

障害別にみると、高次脳機能障害で「通所介護」、「通所リハビリテーション」が10.5%、「福祉用具レンタル・購入」が15.8%と高くなっている。

<図表 I - 32 - 1 介護保険サービスの利用状況（全体）>

回答者数 = 594



<図表 I - 32 - 2 介護保険サービスの利用状況（障害別）>

(%)

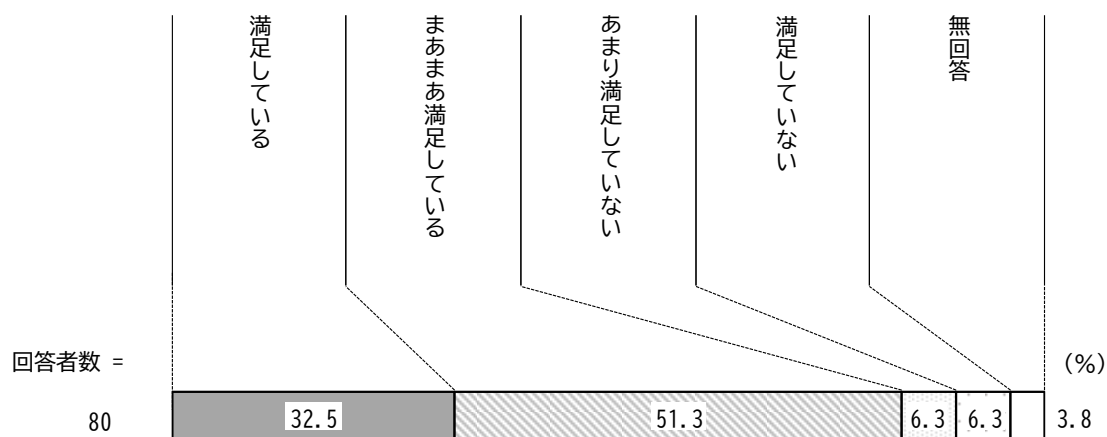
区分	回答者数 (件)	利用していない	訪問介護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	訪問看護	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所	介護予防サービス	福祉用具レンタル・購入	その他	無回答
全体	594	61.4	4.5	1.2	4.2	4.2	3.2	2.0	1.7	0.3	6.7	0.7	25.1
身体障害	286	58.4	4.2	1.4	5.2	4.2	3.5	3.5	1.4	0.3	8.4	1.0	25.5
知的障害	75	52.0	2.7	-	1.3	2.7	4.0	-	6.7	-	2.7	-	37.3
精神障害	92	57.6	4.3	-	2.2	7.6	2.2	1.1	-	1.1	4.3	-	29.3
難病（特定疾病）	161	70.2	6.8	1.9	5.6	6.2	3.1	2.5	1.2	0.6	9.9	-	15.5
高次脳機能障害	19	31.6	-	-	5.3	5.3	10.5	10.5	-	-	15.8	5.3	47.4
発達障害	36	66.7	-	-	-	5.6	2.8	-	2.8	-	-	-	25.0
その他	30	53.3	10.0	6.7	10.0	6.7	10.0	3.3	6.7	-	10.0	-	23.3

(12) 介護保険サービスの満足度

問 33 問 32 で、2～11 に○をつけた方におたずねします。
あなたは、介護保険サービス移行後のサービス内容について満足していますか。
(1つに○)

介護保険サービスの満足度は、「満足している」32.5%と「まあまあ満足している」51.3%をあ
わせた『満足』が83.8%となっている。

<図表 I - 33 - 1 介護保険サービスの満足度 (全体) >



7. 医療的ケアについて

(1) 必要とする医療的ケア

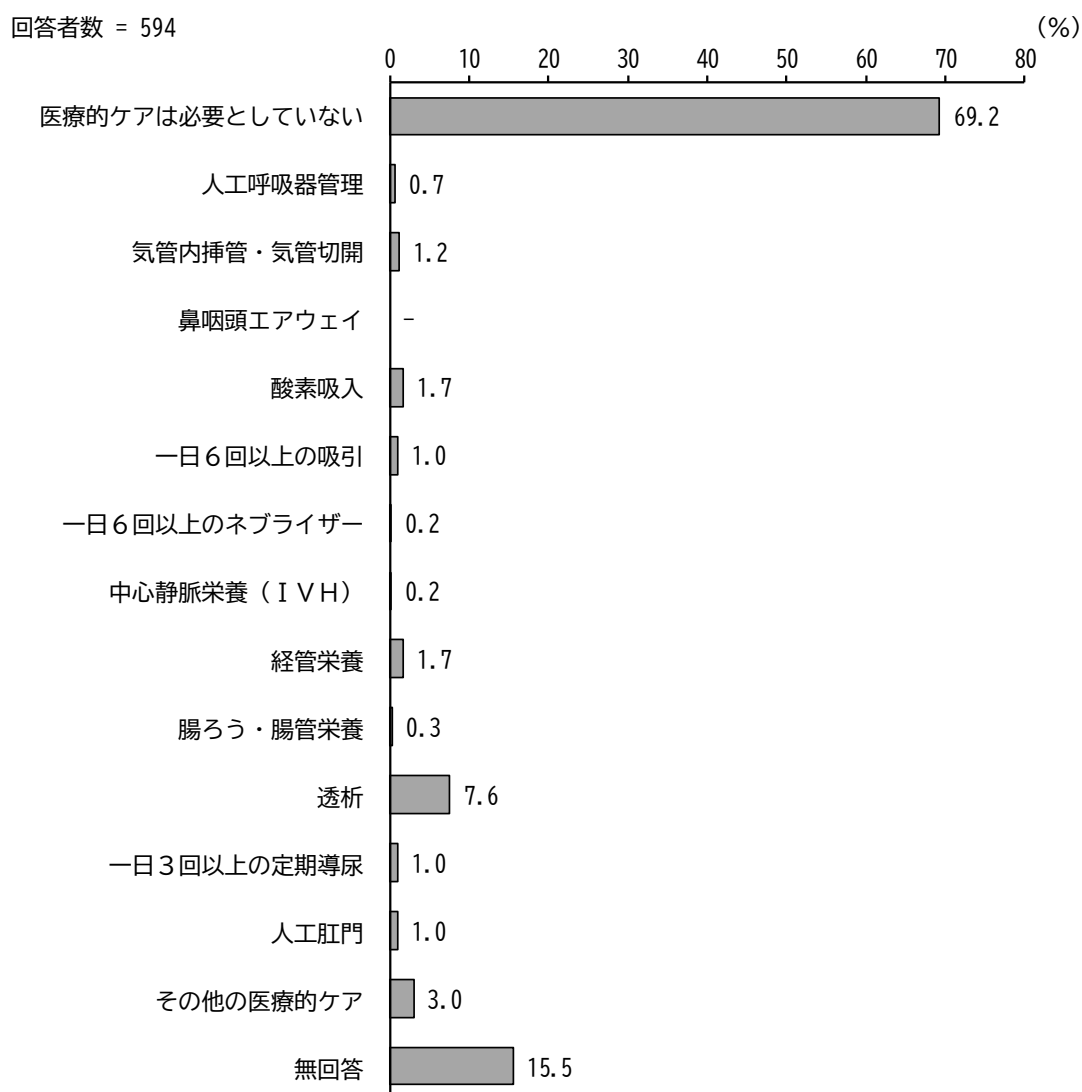
問 34 あなたは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

医療的ケアの必要性がある割合は、15.3% (全体から「医療的ケアは必要としていない」69.2%と「無回答」15.5%を除いたもの) となっている。

障害別にみると、身体障害、難病（特定疾病）で「透析」がそれぞれ10.1%、10.6%となっており、高次脳機能障害で「経管栄養」が15.8%となっている。

年齢別にみると、75歳以上で「透析」が11.9%と高くなっている。

<図表 I - 34 - 1 必要とする医療的ケア（全体）>



<図表 I-34-2 必要とする医療的ケア（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	医療的ケアは必要と していない	人工呼吸器管理	気管内挿管・気管切開	鼻咽頭エアウェイ	酸素吸入	一日6回以上の吸引	一日6回以上の ネブライザー
全体	594	69.2	0.7	1.2	-	1.7	1.0	0.2
身体障害	286	64.7	0.3	1.7	-	1.7	1.0	0.3
知的障害	75	66.7	-	-	-	-	-	-
精神障害	92	78.3	-	-	-	1.1	1.1	1.1
難病（特定疾病）	161	72.7	1.2	1.2	-	1.9	1.2	-
高次脳機能障害	19	52.6	-	5.3	-	5.3	5.3	-
発達障害	36	86.1	-	-	-	-	-	-
その他	30	56.7	6.7	3.3	-	-	3.3	-

区分	中心静脈栄養 (I.V.H)	経管栄養	腸ろう・腸管栄養	透析	一日3回以上の定期導尿	人工肛門	その他の医療的ケア	無回答
全体	0.2	1.7	0.3	7.6	1.0	1.0	3.0	15.5
身体障害	0.3	2.4	0.7	10.1	1.7	2.1	3.5	14.3
知的障害	-	1.3	-	-	-	-	-	32.0
精神障害	-	-	-	-	1.1	-	2.2	17.4
難病（特定疾病）	-	1.9	-	10.6	-	0.6	4.3	8.7
高次脳機能障害	-	15.8	5.3	-	-	-	-	26.3
発達障害	-	-	-	-	-	-	2.8	11.1
その他	-	3.3	-	10.0	3.3	-	10.0	16.7

<図表 I-34-3 必要とする医療的ケア（年齢別）>

(%)

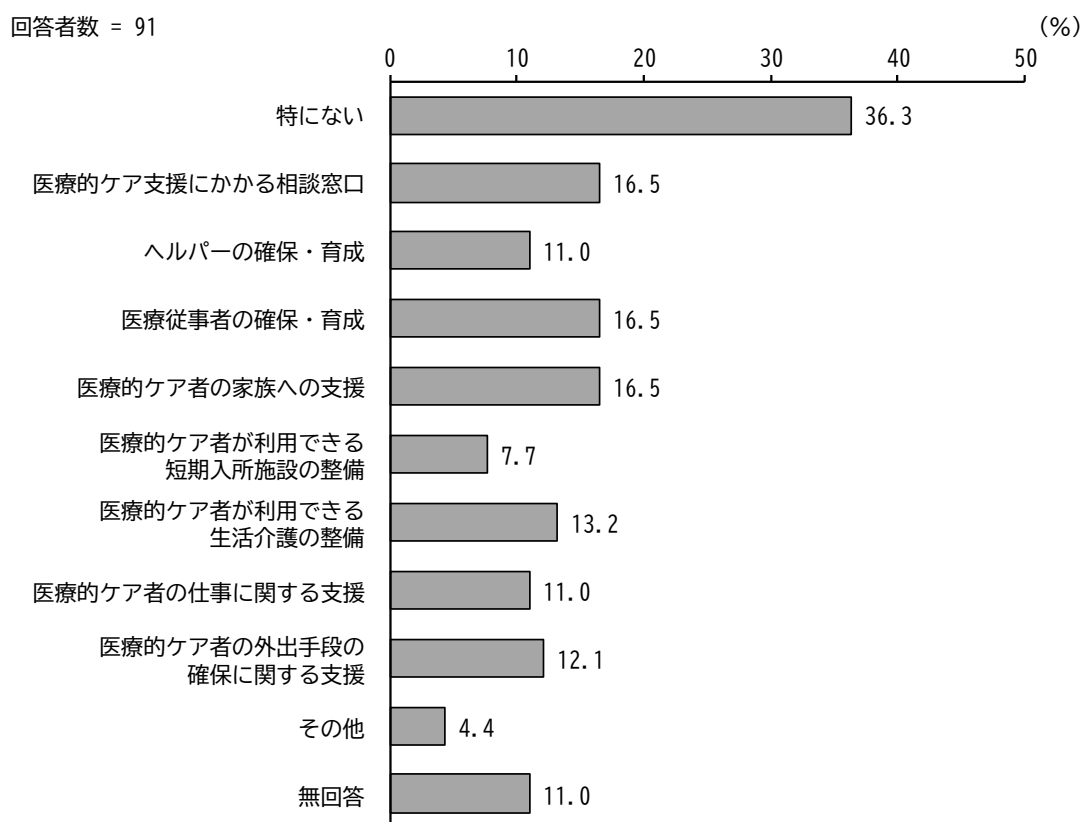
区分	回答者数(件)	医療的ケアは必要としていない	人工呼吸器管理	気管内挿管・気管切開	鼻咽頭エアウェイ	酸素吸入	一日6回以上の吸引	一日6回以上のネブライザー	中心静脈栄養(IVH)	経管栄養	腸ろう・腸管栄養	透析	一日3回以上の定期導尿	人工肛門	その他の医療的ケア	無回答
全体	594	69.2	0.7	1.2	-	1.7	1.0	0.2	0.2	1.7	0.3	7.6	1.0	1.0	3.0	15.5
18～39歳	186	84.4	1.1	1.1	-	-	1.1	-	-	1.6	-	2.7	2.2	-	3.2	7.0
40～64歳	247	70.9	0.4	1.6	-	2.8	1.2	-	0.4	2.0	0.8	9.3	0.8	2.0	3.6	9.7
65～74歳	65	50.8	1.5	1.5	-	1.5	1.5	1.5	-	-	-	6.2	-	-	4.6	33.8
75歳以上	84	53.6	-	-	-	1.2	-	-	-	1.2	-	11.9	-	1.2	-	31.0

(2) 医療的ケアに関し充実が必要な支援

問 35 問 34 で、2～14 に○をつけた方におたずねします。
医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

医療的ケアを必要としている人が充実を希望する支援は、「医療的ケア支援にかかる相談窓口」、「医療従事者の確保・育成」、「医療的ケア者の家族への支援」が 16.5%、「医療的ケア者が利用できる生活介護の整備」が 13.2%、「医療的ケア者の外出手段の確保に関する支援」が 12.1%となっている。

<図表 I - 35 - 1 医療的ケアの充実に必要な支援（全体）>



<図表 I - 35 - 2 医療的ケアの充実に必要な支援（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	医 療 的 ケ ア 支 援 に か か る 相 談 窓 口	ハ ル パ ー の 確 保 ・ 育 成	医 療 従 事 者 の 確 保 ・ 育 成	医 療 的 ケ ア 者 の 家 族 へ の 支 援	医 療 的 ケ ア 者 が 利 用 で き る 短 期 入 所 施 設 の 整 備	医 療 的 ケ ア 者 が 利 用 で き る 生 活 介 護 の 整 備	医 療 的 ケ ア 者 の 仕 事 に 関 する 支 援	医 療 的 ケ ア 者 の 外 出 手 段 の 確 保 に 関 する 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	91	36.3	16.5	11.0	16.5	16.5	7.7	13.2	11.0	12.1	4.4	11.0
身体障害	60	31.7	15.0	6.7	18.3	15.0	3.3	11.7	13.3	11.7	3.3	15.0
知的障害	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
精神障害	4	50.0	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0
難病（特定疾病）	30	40.0	16.7	20.0	23.3	23.3	20.0	16.7	10.0	16.7	3.3	-
高次脳機能障害	4	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-	25.0	-	50.0
発達障害	1	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
その他	8	37.5	-	-	-	12.5	12.5	25.0	-	25.0	12.5	-

8. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

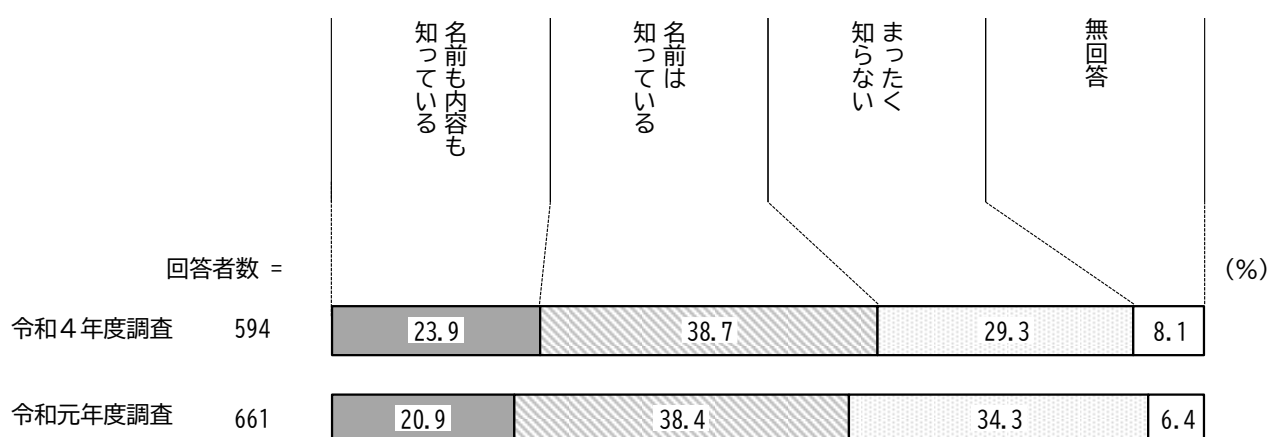
(1) 成年後見制度の認知度

問 36 あなたは、知的障害、精神障害、認知症等により、判断能力が十分ではない方の権利を守る「成年後見制度」について知っていますか。(1つに○)

成年後見制度は、「名前も内容も知っている」23.9%と「名前は知っている」38.7%をあわせた『知っている』は62.6%となっている。

障害別にみると、高次機能障害で『知っている』は57.9%と低くなっている。

<図表 I - 36 - 1 成年後見制度の認知度 (全体) >



<図表 I - 36 - 2 成年後見制度の認知度 (障害別) > (%)

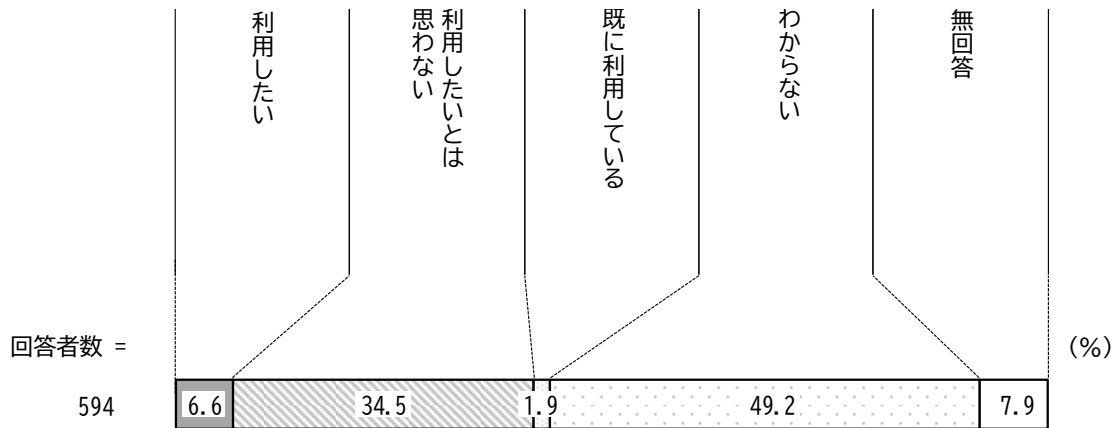
区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	23.9	38.7	29.3	8.1
身体障害	286	28.0	38.5	26.6	7.0
知的障害	75	22.7	42.7	22.7	12.0
精神障害	92	22.8	41.3	32.6	3.3
難病 (特定疾病)	161	26.1	40.4	28.6	5.0
高次脳機能障害	19	26.3	31.6	26.3	15.8
発達障害	36	27.8	47.2	25.0	-
その他	30	16.7	23.3	53.3	6.7

(2) 成年後見制度の利用意向

問 37 あなたは、成年後見制度を利用したいですか。(1つに○)

成年後見制度の利用意向は、「わからない」が49.2%と約半数を占めている。
障害別にみると、知的障害と発達障害で「利用したい」がそれぞれで12.0%、16.7%と高くなっている。

<図表 I - 37 - 1 成年後見制度の利用意思 (全体) >



<図表 I - 37 - 2 成年後見制度の利用意思 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	利用したい	利用したいとは思わない	既に利用している	わからない	無回答
全体	594	6.6	34.5	1.9	49.2	7.9
身体障害	286	7.3	38.1	1.7	45.1	7.7
知的障害	75	12.0	10.7	5.3	62.7	9.3
精神障害	92	9.8	34.8	1.1	51.1	3.3
難病 (特定疾病)	161	3.7	41.6	0.6	48.4	5.6
高次脳機能障害	19	-	36.8	10.5	42.1	10.5
発達障害	36	16.7	27.8	2.8	52.8	-
その他	30	3.3	30.0	-	56.7	10.0

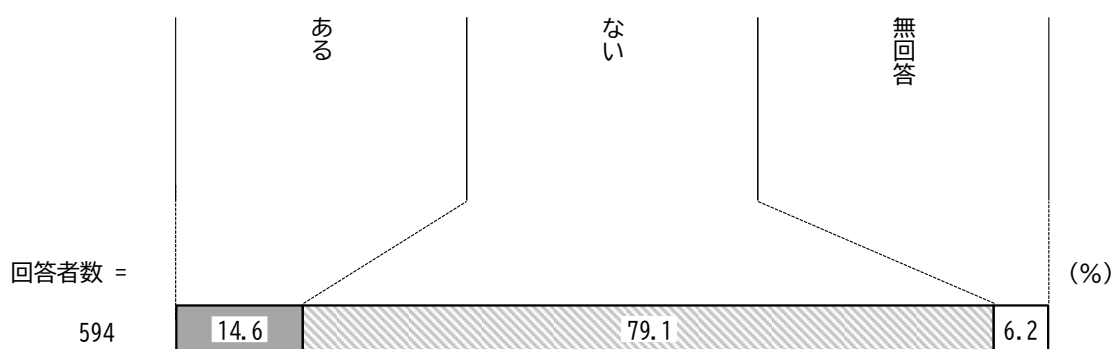
(3) 虐待を受けた経験

問 38 あなたは、いままでに自分の体や心を傷つけられた（虐待された）ことはありますか。（1つに○）

虐待を受けた経験は、「ない」が79.1%と大半を占めている一方、「ある」が14.6%となっている。

障害別にみると、精神障害と発達障害で「ある」がそれぞれ38.0%、44.4%と高くなっている。年齢別にみると、40～64歳で「ある」が比較的高くなっている。

<図表 I - 38 - 1 虐待を受けた経験（全体）>



<図表 I - 38 - 2 虐待を受けた経験（障害別）> (%)

区分	回答者数（件）	ある	ない	無回答
全体	594	14.6	79.1	6.2
身体障害	286	11.2	82.9	5.9
知的障害	75	22.7	69.3	8.0
精神障害	92	38.0	59.8	2.2
難病（特定疾病）	161	8.7	85.1	6.2
高次脳機能障害	19	10.5	68.4	21.1
発達障害	36	44.4	52.8	2.8
その他	30	13.3	86.7	-

<図表 I - 38 - 3 虐待を受けた経験（年齢別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	594	14.6	79.1	6.2
18～39 歳	186	15.1	82.3	2.7
40～64 歳	247	19.0	76.1	4.9
65～74 歳	65	13.8	76.9	9.2
75 歳以上	84	2.4	85.7	11.9

(4) 虐待の内容、虐待者

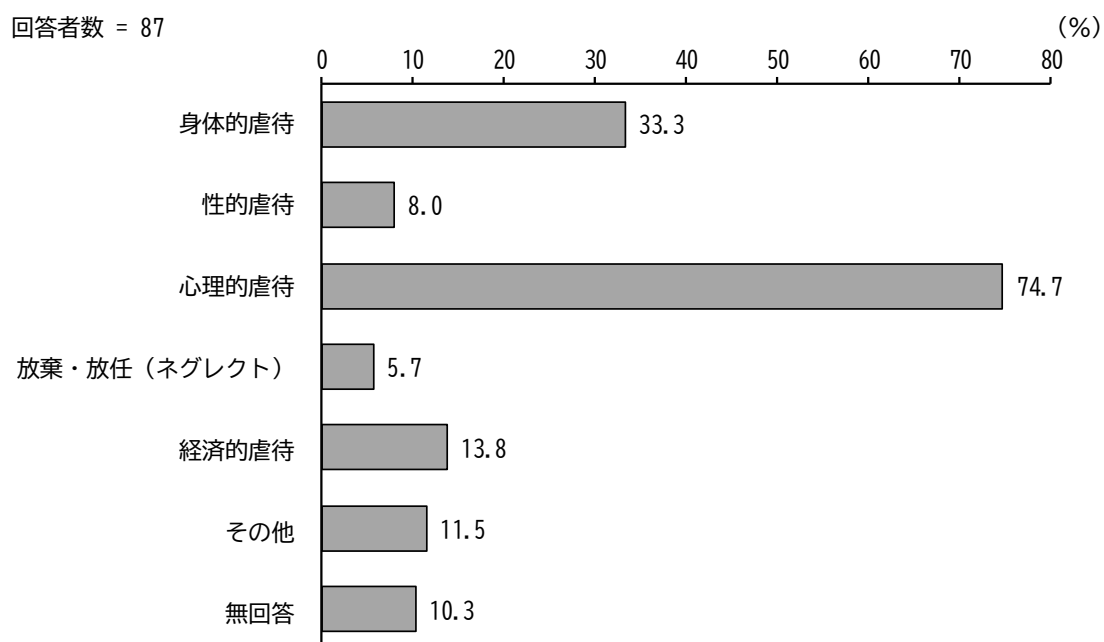
問 38-1～問 38-3 は、問 38 で「1. ある」に○をした方におたずねします。

問 38-1 虐待の内容はどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)

虐待を受けた内容は、「心理的虐待」が 74.7%と最も高く、次いで「身体的虐待」が 33.3%、「経済的虐待」が 13.8%となっている。

障害別にみると、精神障害、難病（特定疾病）、発達障害で「心理的虐待」がそれぞれ 80.0%、85.7%、81.3%と高くなっている。

<図表 I - 38 - 4 虐待を受けた内容（全体）>



<図表 I - 38 - 5 虐待を受けた内容（障害別）>

区分	回答者数 (件)	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待	放棄・放任 (ネグレクト)	経済的虐待	その他	無回答
全体	87	33.3	8.0	74.7	5.7	13.8	11.5	10.3
身体障害	32	21.9	6.3	62.5	3.1	6.3	6.3	21.9
知的障害	17	23.5	-	58.8	-	-	17.6	17.6
精神障害	35	40.0	14.3	80.0	8.6	20.0	8.6	14.3
難病 (特定疾病)	14	21.4	-	85.7	-	14.3	7.1	7.1
高次脳機能障害	2	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0
発達障害	16	31.3	6.3	81.3	6.3	12.5	6.3	12.5
その他	4	100.0	-	75.0	-	-	25.0	-

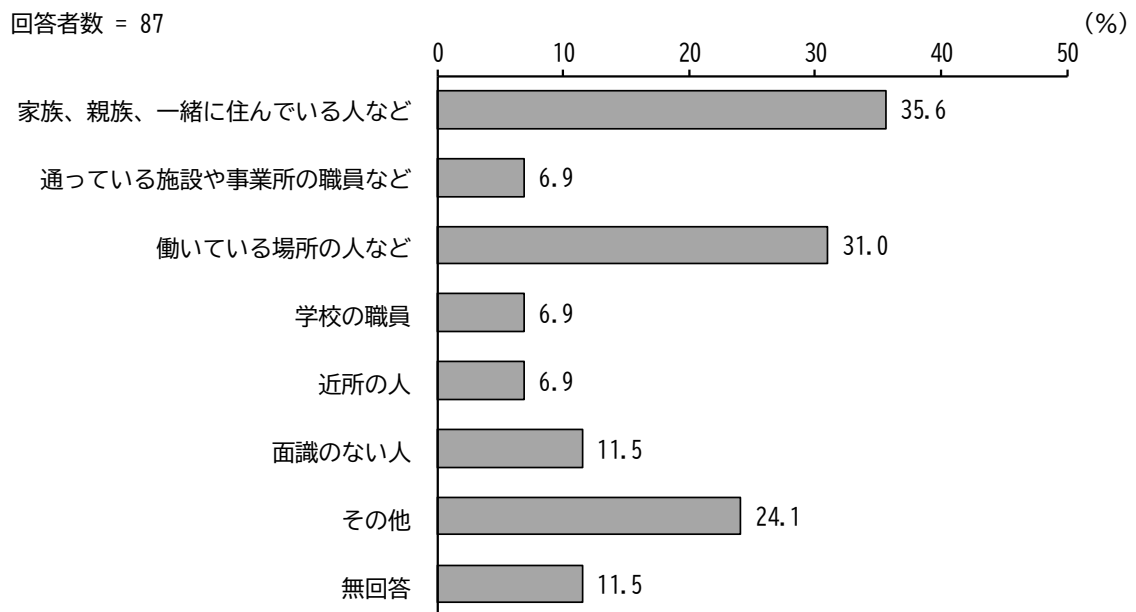
問 38-2 誰から虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

虐待を受けた人は、「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が 35.6%と最も高く、次いで「働いている場所の人など」が 31.0%、「面識のない人」が 11.5%となっている。

障害別にみると、精神障害、難病（特定疾病）、発達障害で「家族、親族、一緒に住んでいる人など」がそれぞれ 40.0%、42.9%、43.8%となっており、知的障害で「働いている場所の人など」が 41.2%と高くなっている。

虐待の内容別にみると、「経済的虐待」で「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が 66.7%、「心理的虐待」で「働いている場所の人など」が 40.0%と高くなっている。

<図表 I - 38 - 6 虐待を受けた人（全体）>



<図表 I - 38 - 7 虐待を受けた人（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族、親族、一緒に 住んでいる人など	通っている施設や 事業所の職員など	働いている場所の 人など	学校の職員	近所の人	面識のない人	その他	無回答
全体	87	35.6	6.9	31.0	6.9	6.9	11.5	24.1	11.5
身体障害	32	28.1	6.3	21.9	6.3	9.4	21.9	21.9	12.5
知的障害	17	11.8	5.9	41.2	-	5.9	17.6	35.3	5.9
精神障害	35	40.0	11.4	34.3	14.3	2.9	5.7	28.6	17.1
難病（特定疾病）	14	42.9	-	35.7	-	14.3	7.1	14.3	-
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
発達障害	16	43.8	-	25.0	-	-	18.8	25.0	-
その他	4	25.0	25.0	50.0	-	-	25.0	50.0	-

<図表 I - 38 - 8 虐待を受けた人（虐待の内容別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族、親族、一緒に 住んでいる人など	通っている施設や 事業所の職員など	働いている場所の 人など	学校の職員	近所の人	面識のない人	その他	無回答
全体	87	35.6	6.9	31.0	6.9	6.9	11.5	24.1	11.5
身体的虐待	29	48.3	13.8	31.0	13.8	6.9	3.4	34.5	13.8
性的虐待	7	42.9	14.3	-	-	14.3	-	57.1	28.6
心理的虐待	65	40.0	7.7	40.0	9.2	7.7	13.8	23.1	3.1
放棄・放任（ネグレクト）	5	80.0	40.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-
経済的虐待	12	66.7	16.7	25.0	16.7	-	-	33.3	8.3
その他	10	30.0	-	40.0	-	10.0	10.0	50.0	-

(5) 虐待を受けた際の相談先

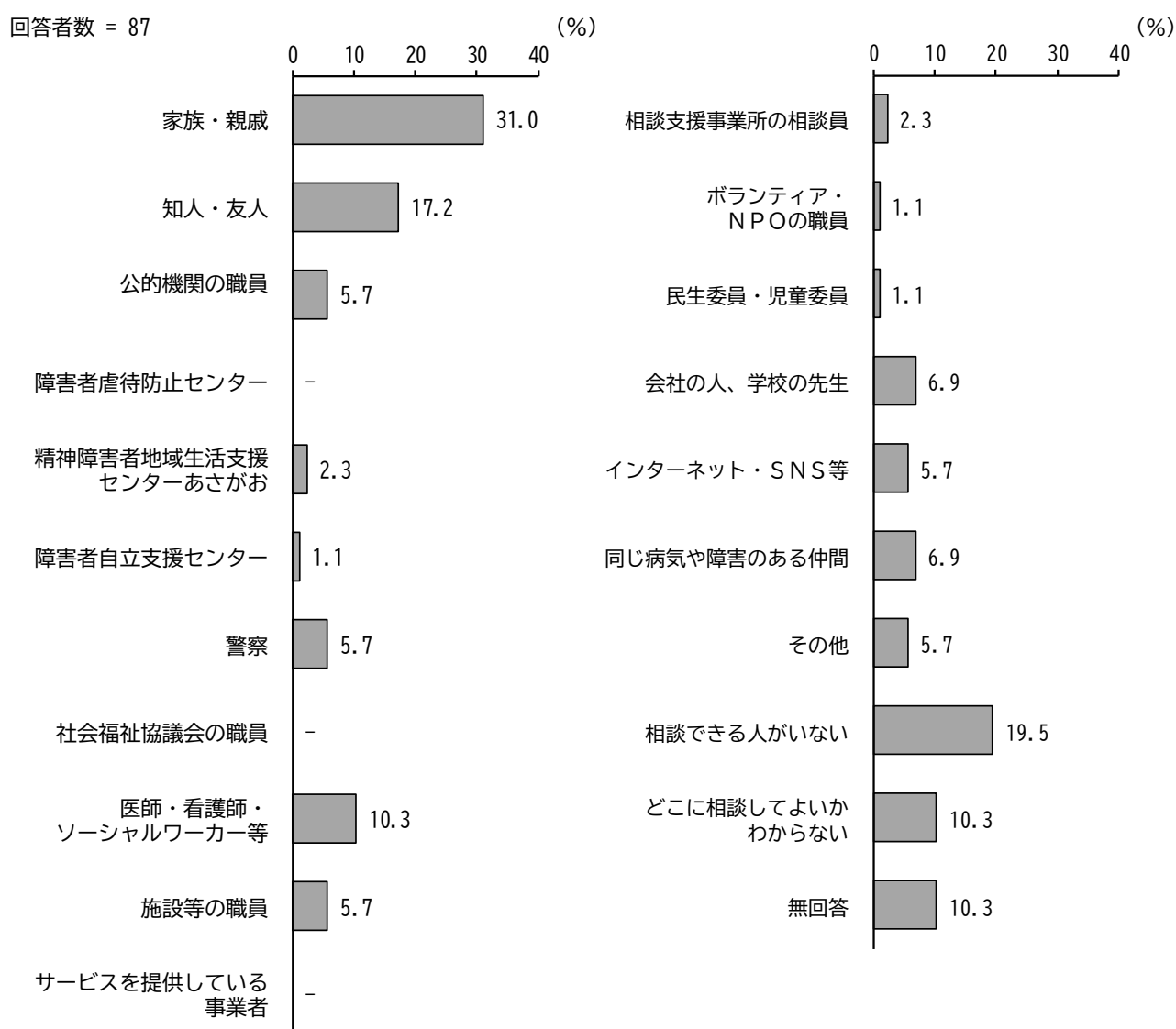
問 38-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

虐待を受けた際の相談先は、「家族・親戚」が 31.0%と最も高く、次いで「相談できる人がいない」が 19.5%、「知人・友人」が 17.2%となっている。

障害別にみると、知的障害で「施設等の職員」が 17.6%、難病（特定疾病）で「家族・親戚」が 50.0%、「知人・友人」が 28.6%、「警察」が 14.3%と高くなっている。また、発達障害で「相談できる人がいない」が 50.0%と高くなっている。

虐待の内容別にみると、「心理的虐待」で「家族、親族」が 38.5%と高くなっている。

<図表 I - 38 - 9 虐待を受けた際の相談先（全体）>



<図表 I - 38 - 10 虐待を受けた際の相談先（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	公的機関の職員	障害者虐待防止センター	精神障害者地域生活支援センターあさがお	障害者自立支援センター	警察	社会福祉協議会の職員	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	施設等の職員
全体	87	31.0	17.2	5.7	-	2.3	1.1	5.7	-	10.3	5.7
身体障害	32	21.9	12.5	-	-	3.1	-	-	-	12.5	6.3
知的障害	17	35.3	17.6	5.9	-	-	-	5.9	-	5.9	17.6
精神障害	35	31.4	22.9	5.7	-	-	2.9	2.9	-	14.3	5.7
難病（特定疾病）	14	50.0	28.6	7.1	-	-	-	14.3	-	14.3	7.1
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発達障害	16	12.5	6.3	12.5	-	6.3	-	6.3	-	12.5	12.5
その他	4	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-

区分	サービスを提供している事業者	相談支援事業所の相談員	ボランティア・NPOの職員	民生委員・児童委員	会社の人、学校の先生	SNS等	インターネット・SNS等	同じ病気や障害のある仲間	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	無回答
全体	-	2.3	1.1	1.1	6.9	5.7	6.9	5.7	19.5	10.3	10.3	
身体障害	-	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	6.3	6.3	15.6	21.9	12.5	
知的障害	-	5.9	5.9	-	5.9	5.9	5.9	11.8	5.9	-	11.8	
精神障害	-	2.9	-	2.9	8.6	5.7	8.6	2.9	22.9	5.7	11.4	
難病（特定疾病）	-	7.1	7.1	-	14.3	-	-	-	-	21.4	-	
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	
発達障害	-	6.3	6.3	-	-	6.3	6.3	-	50.0	-	6.3	
その他	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-	

<図表 I - 38 - 11 虐待を受けた際の相談先（虐待の内容別）>

(%)

区分	回答者数（件）	家族・親戚	知人・友人	公的機関の職員	障害者虐待防止センター	精神障害者地域生活支援センターあさがお	障害者自立支援センター	警察	社会福祉協議会の職員	医師・看護師・ソーシャルワーカー等	施設等の職員
全体	87	31.0	17.2	5.7	-	2.3	1.1	5.7	-	10.3	5.7
身体的虐待	29	20.7	17.2	6.9	-	3.4	-	10.3	-	-	3.4
性的虐待	7	28.6	28.6	14.3	-	-	-	-	-	-	-
心理的虐待	65	38.5	21.5	7.7	-	1.5	1.5	7.7	-	9.2	3.1
放棄・放任（ネグレクト）	5	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-
経済的虐待	12	33.3	25.0	16.7	-	-	-	8.3	-	-	-
その他	10	20.0	30.0	10.0	-	-	10.0	-	-	10.0	10.0

区分	事業者 サービスを 提供している	相談支援事業所の 相談員	ボランティア・NPOの 職員	民生委員・児童委員	会社の人、学校の先生	インターネット・SNS等	同じ病気や障害のある仲間	その他	相談できる人がいない	どこに相談して よいかわからない	無回答
全体	-	2.3	1.1	1.1	6.9	5.7	6.9	5.7	19.5	10.3	10.3
身体的虐待	-	-	-	-	3.4	3.4	-	6.9	37.9	6.9	6.9
性的虐待	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	-	14.3
心理的虐待	-	1.5	-	-	9.2	7.7	9.2	3.1	23.1	12.3	1.5
放棄・放任（ネグレクト）	-	-	-	-	-	-	-	-	60.0	-	20.0
経済的虐待	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	8.3	8.3
その他	-	-	-	-	-	10.0	10.0	40.0	-	10.0	10.0

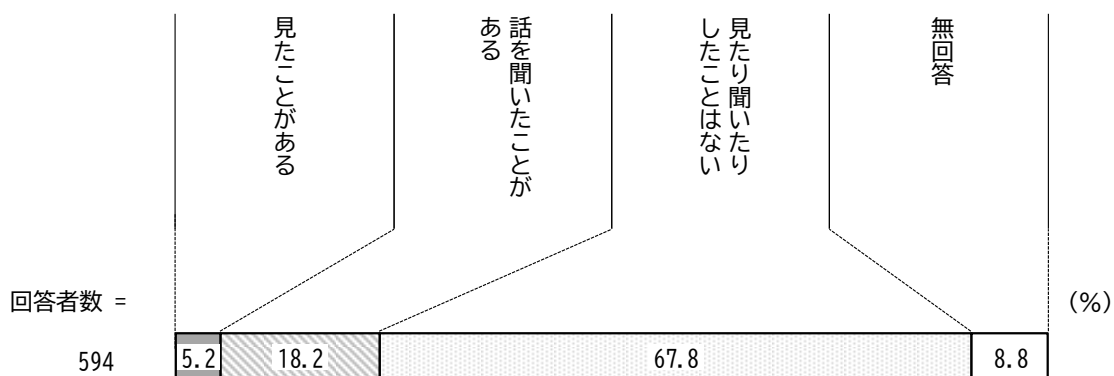
(6) 虐待場面に遭遇した経験

問 39 あなたの身の回りで、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。
(1つに○)

虐待場面に遭遇した経験は、「見たり聞いたりしたことはない」が 67.8%と大半を占めている一方、「話を聞いたことがある」が 18.2%、「見たことがある」が 5.2%となっている。

障害別にみると、高次脳機能障害で「見たことがある」が 10.5%と高くなっている。

<図表 I - 39 - 1 虐待場面に遭遇した経験 (全体) >



<図表 I - 39 - 2 虐待場面に遭遇した経験 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	見たことがある (%)	話を聞いたことがある (%)	見たり聞いたりしたことはない (%)	無回答 (%)
全体	594	5.2	18.2	67.8	8.8
身体障害	286	4.2	22.0	67.1	6.6
知的障害	75	4.0	17.3	58.7	20.0
精神障害	92	7.6	19.6	64.1	8.7
難病 (特定疾病)	161	4.3	16.8	74.5	4.3
高次脳機能障害	19	10.5	10.5	63.2	15.8
発達障害	36	8.3	19.4	69.4	2.8
その他	30	10.0	16.7	70.0	3.3

(7) 障害者虐待防止法の認知度

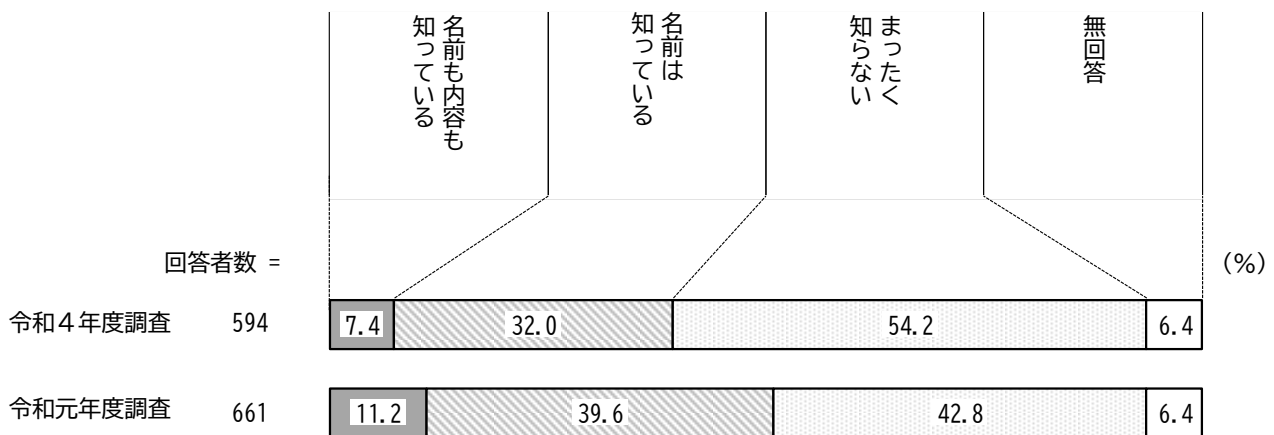
問 40 あなたは、障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。
(1つに○)

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」7.4%と「名前は知っている」32.0%をあわせた『知っている』が39.4%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『知っている』割合が減少している。

障害別に見ると、身体障害と発達障害で『知っている』が50.0%と高くなっている。

<図表 I - 40 - 1 障害者虐待防止法の認知度 (全体) >



<図表 I - 40 - 2 障害者虐待防止法の認知度 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	7.4	32.0	54.2	6.4
身体障害	286	12.2	37.8	44.4	5.6
知的障害	75	6.7	41.3	42.7	9.3
精神障害	92	6.5	27.2	62.0	4.3
難病 (特定疾病)	161	3.7	27.3	65.8	3.1
高次脳機能障害	19	-	36.8	52.6	10.5
発達障害	36	13.9	36.1	47.2	2.8
その他	30	3.3	10.0	83.3	3.3

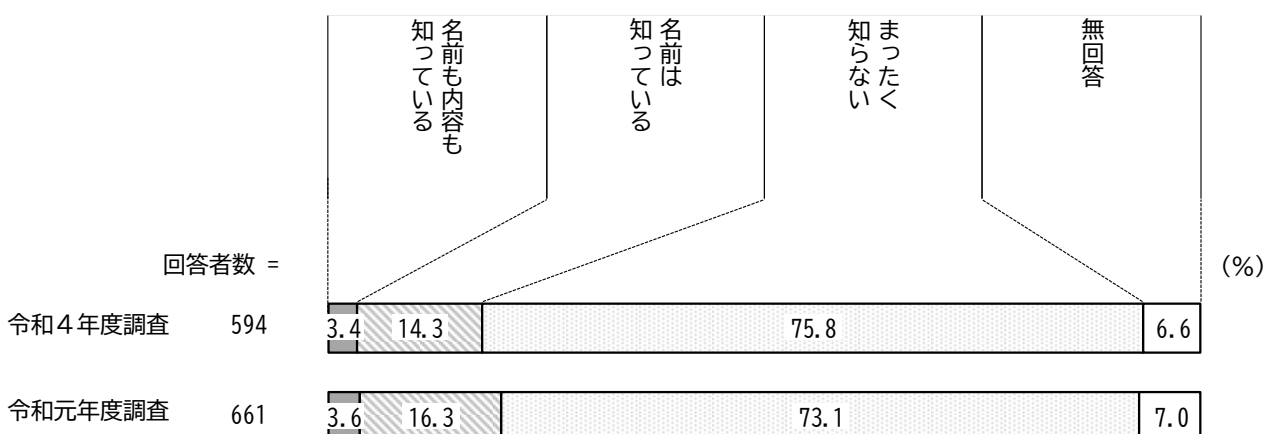
(8) 障害者虐待防止センターの認知度

問 41 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する 24 時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」を開設しています。あなたはこのことについて知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止センターの認知度は、「名前も内容も知っている」3.4%と「名前は知っている」14.3%をあわせた『知っている』が 17.7%となっている。

障害別にみると、知的障害、発達障害で『知っている』がそれぞれ 32.0%、33.4%と高くなっている。

<図表 I - 41 - 1 障害者虐待防止センターの認知度 (全体) >



<図表 I - 41 - 2 障害者虐待防止センターの認知度 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	3.4	14.3	75.8	6.6
身体障害	286	5.2	13.6	74.8	6.3
知的障害	75	6.7	25.3	56.0	12.0
精神障害	92	3.3	13.0	79.3	4.3
難病 (特定疾病)	161	2.5	12.4	82.0	3.1
高次脳機能障害	19	-	5.3	78.9	15.8
発達障害	36	5.6	27.8	63.9	2.8
その他	30	3.3	6.7	83.3	6.7

(9) 障害者差別解消法の認知度

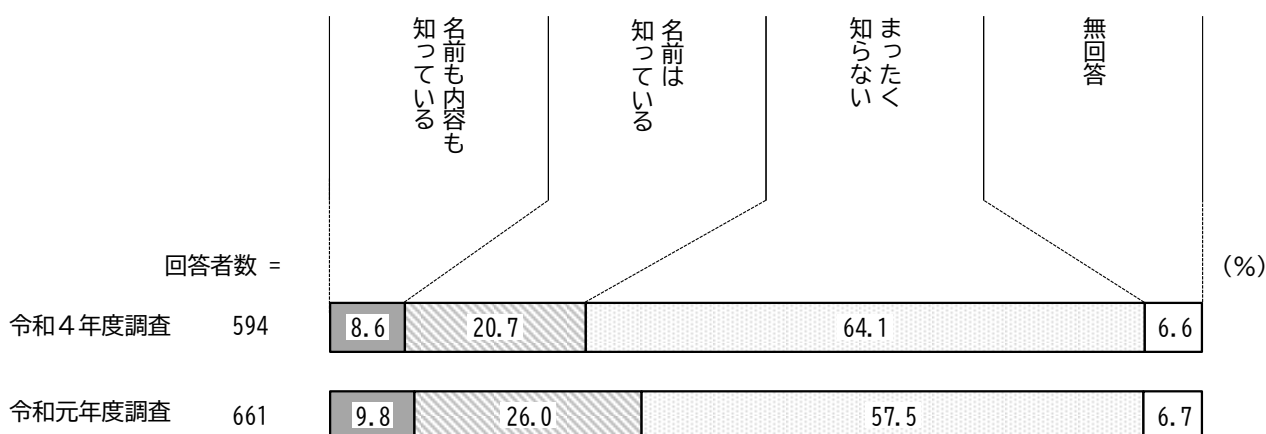
問 42 あなたは、障害者に対する「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の不提供」の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」8.6%と「名前は知っている」20.7%をあわせた『知っている』が29.3%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『知っている』の割合が減少している。

障害別にみると、発達障害で『知っている』が50.0%と高くなっている。

<図表 I - 42 - 1 障害者差別解消法の認知度 (全体) >



<図表 I - 42 - 2 障害者差別解消法の認知度 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	594	8.6	20.7	64.1	6.6
身体障害	286	12.6	23.4	58.7	5.2
知的障害	75	8.0	21.3	60.0	10.7
精神障害	92	8.7	15.2	71.7	4.3
難病 (特定疾病)	161	6.2	20.5	68.9	4.3
高次脳機能障害	19	-	15.8	68.4	15.8
発達障害	36	19.4	30.6	47.2	2.8
その他	30	-	13.3	80.0	6.7

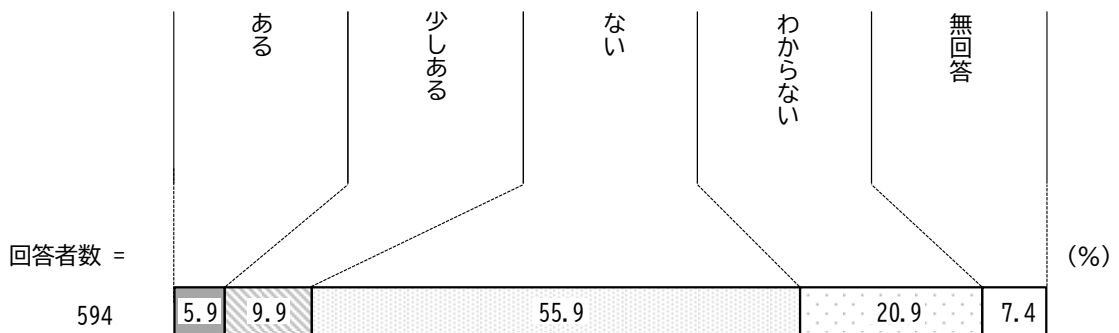
(10) 障害を理由とする差別を受けた経験

問 43 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。
(1つに○)

障害を理由とする差別を受けた経験は、「ない」が 55.9%と大半を占めている一方、「ある」5.9%と「少しある」9.9%をあわせた『ある』が 15.8%となっている。

障害別にみると、『ある』は身体障害で 19.9%、精神障害で 21.7%、発達障害で 30.6%と高くなっている。

<図表 I - 43 - 1 障害を理由とする差別を受けた経験 (全体) >



<図表 I - 43 - 2 障害を理由とする差別を受けた経験 (障害別) >

区分	回答者数 (件)	ある (%)	少しある (%)	ない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	594	5.9	9.9	55.9	20.9	7.4
身体障害	286	5.6	14.3	58.4	14.3	7.3
知的障害	75	8.0	8.0	33.3	40.0	10.7
精神障害	92	15.2	6.5	47.8	25.0	5.4
難病 (特定疾病)	161	3.1	8.7	62.1	20.5	5.6
高次脳機能障害	19	-	10.5	52.6	15.8	21.1
発達障害	36	16.7	13.9	27.8	38.9	2.8
その他	30	-	10.0	60.0	26.7	3.3

(11) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面

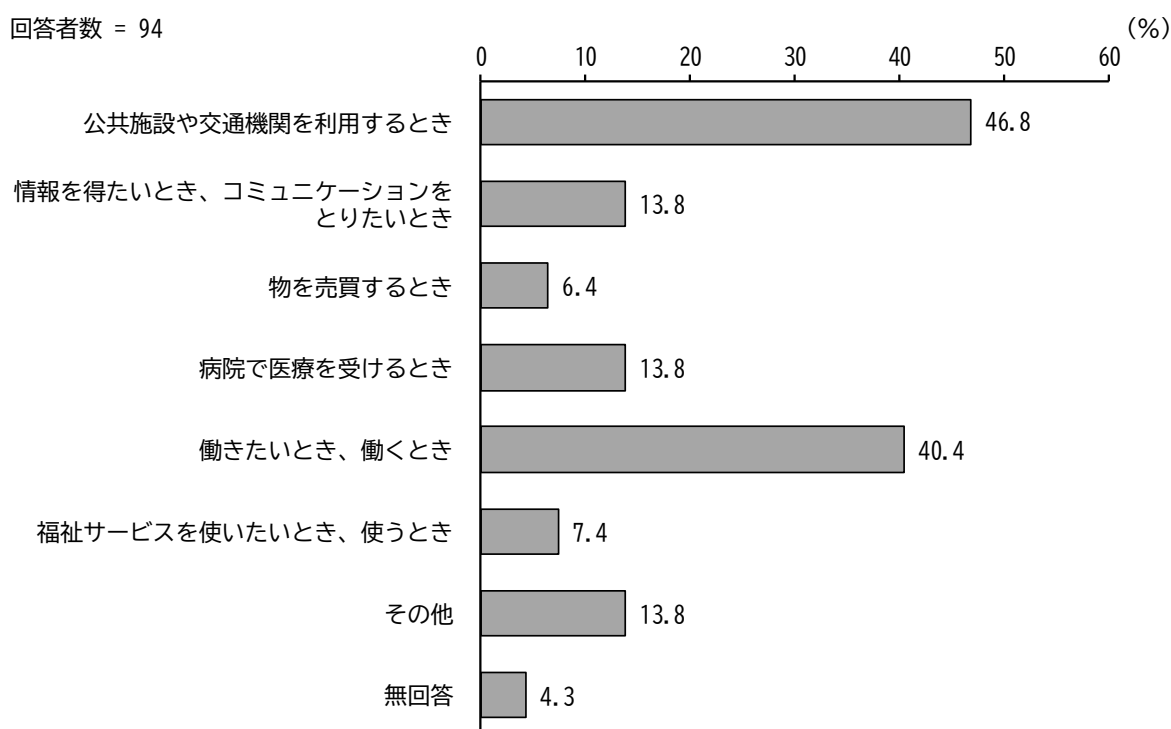
問 43-1 と問 43-2 は、問 43 で「1. ある」または「2. 少しある」に○をした方におたずねします。

問 43-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じましたか。
(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面は、「公共施設や交通機関を利用するとき」が 46.8%と最も高く、次いで「働きたいとき、働くとき」が 40.4%、「情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき」、「病院で医療を受けるとき」が 13.8%となっている。

障害別にみると、知的障害で「公共施設や交通機関を利用するとき」が 66.7%と高くなっている。また、身体障害と精神障害で「働きたいとき、働くとき」がそれぞれ 40.4%、45.0%となっている。

<図表 I - 43 - 3 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（全体）>



<図表 I - 43 - 4 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（障害別）> (%)

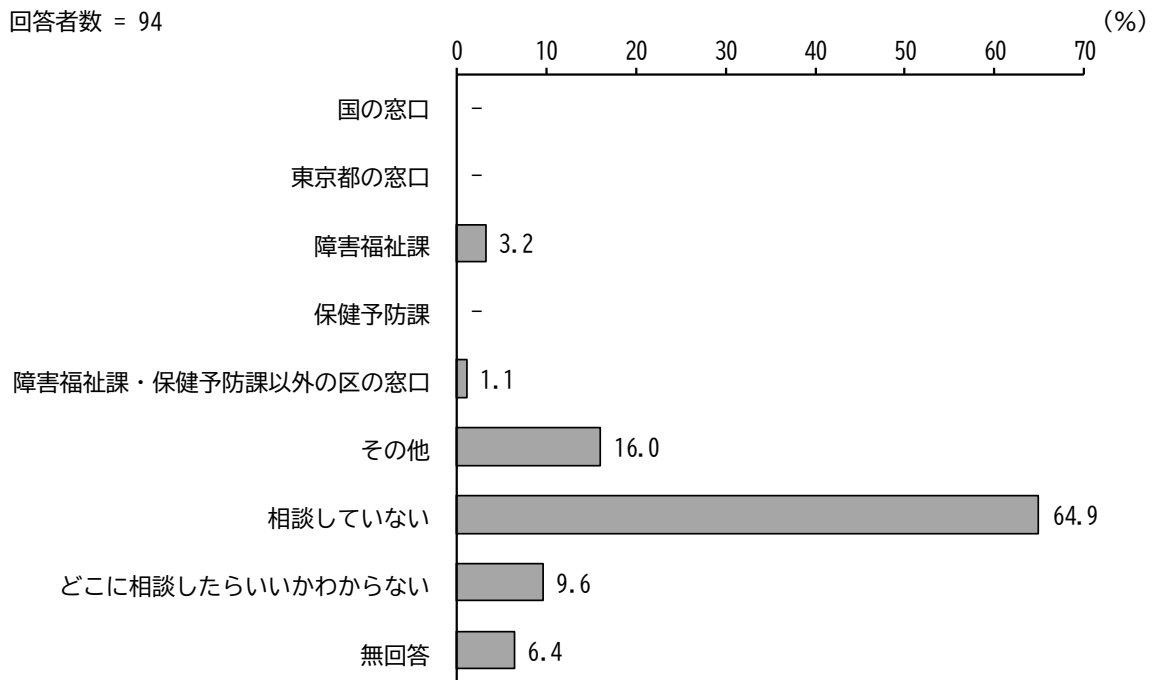
区分	回答者数 (件)	公共施設や交通機関 を利用するとき	情報を得たいとき、 コミュニケーション をとりたいたいとき	物を売買するとき	病院で医療を受ける とき	働きたいとき、 働くとき	福祉サービスを使 いたいとき、使うとき	その他	無回答
全体	94	46.8	13.8	6.4	13.8	40.4	7.4	13.8	4.3
身体障害	57	52.6	15.8	10.5	12.3	40.4	5.3	14.0	3.5
知的障害	12	66.7	8.3	8.3	8.3	-	8.3	8.3	-
精神障害	20	35.0	10.0	-	20.0	45.0	20.0	10.0	-
難病（特定疾病）	19	42.1	-	-	5.3	31.6	5.3	21.1	5.3
高次脳機能障害	2	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0
発達障害	11	45.5	18.2	9.1	9.1	36.4	36.4	9.1	-
その他	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-

(12) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先

問 43-2 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先は、「相談していない」が64.9%と最も高くなっている。

<図表 I - 43 - 5 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先 (全体) >



<図表 I - 43 - 6 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	国の窓口	東京都の窓口	障害福祉課	保健予防課	障害福祉課・保健予防課以外の区の窓口	その他	相談していない	どこに相談したらいいかわからない	無回答
全体	94	-	-	3.2	-	1.1	16.0	64.9	9.6	6.4
身体障害	57	-	-	5.3	-	-	10.5	70.2	8.8	5.3
知的障害	12	-	-	8.3	-	-	8.3	75.0	8.3	-
精神障害	20	-	-	-	-	-	25.0	55.0	15.0	5.0
難病 (特定疾病)	19	-	-	10.5	-	-	21.1	63.2	-	5.3
高次脳機能障害	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
発達障害	11	-	-	-	-	9.1	27.3	72.7	-	-
その他	3	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-

9. 災害・緊急時のことについて

(1) 災害時の困難・不安

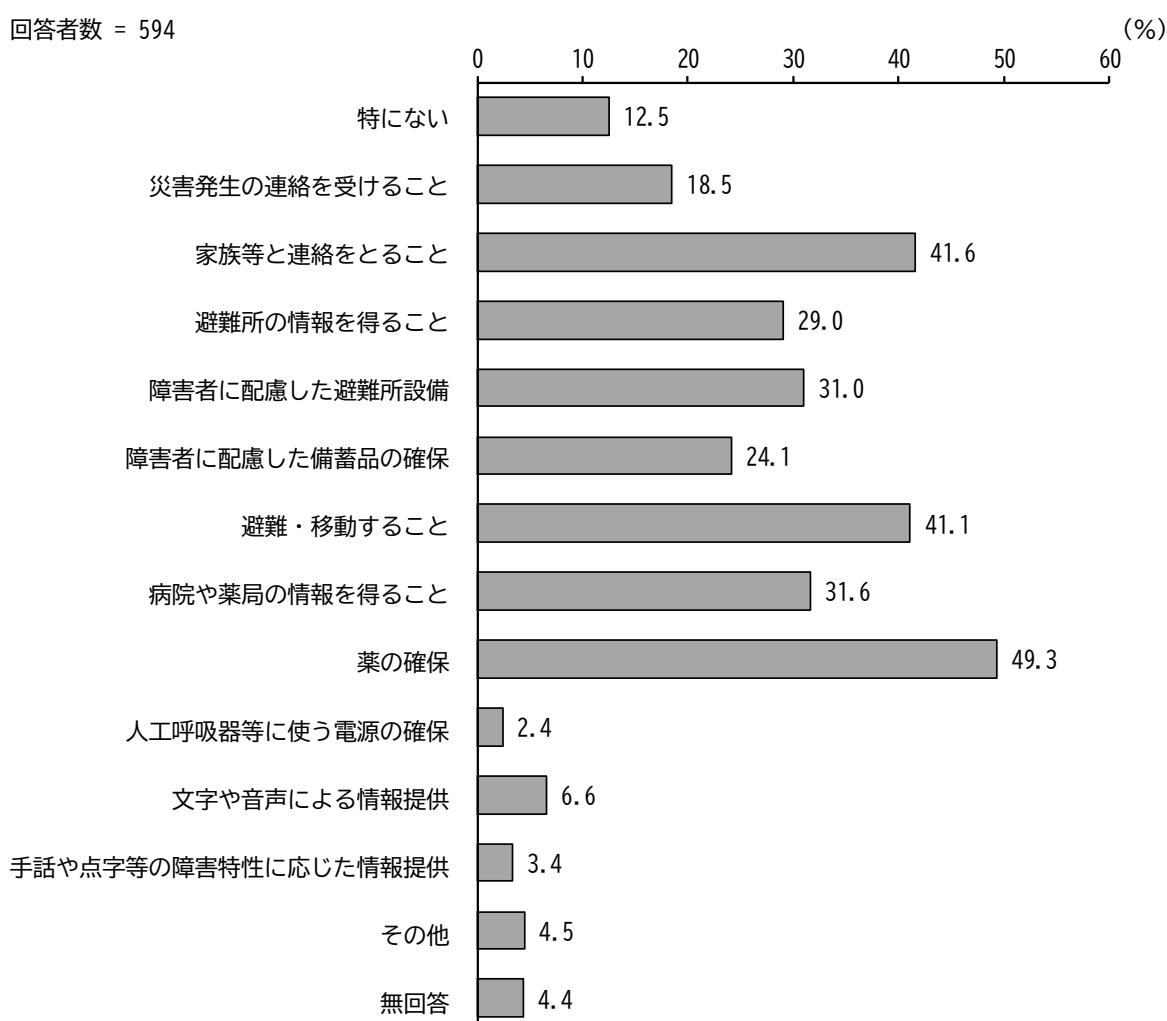
問 44 災害（地震等）が発生したときに、あなたが困ることや不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

災害時に困ること・不安に思うことは、「薬の確保」が 49.3%と最も高く、次いで「家族等と連絡をとること」が 41.6%、「避難・移動すること」が 41.1%となっている。

障害別にみると、精神障害、難病（特定疾病）で「薬の確保」がそれぞれ 67.4%、66.5%と高くなっている。

<図表 I - 44 - 1 災害時に困ること・不安に思うこと（全体）>

回答者数 = 594



<図表 I-44-2 災害時に困ること・不安に思うこと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	災 害 発 生 の 連 絡 を 受 け る こ と	家 族 等 と 連 絡 を と る こ と	避 難 所 の 情 報 を 得 る こ と	避 難 所 に 配 慮 し た 避 難 所 設 備	災 害 者 に 配 慮 し た 備 蓄 品 の 確 保	避 難 ・ 移 動 す る こ と	病 院 や 薬 局 の 情 報 を 得 る こ と	薬 の 確 保	電 源 の 確 保	人 工 呼 吸 器 等 に 使 う	提 供 文 字 や 音 声 に よ る 情 報	手 話 や 点 字 等 の 障 害 特 性 に 応 じ た 情 報 提 供	そ の 他	無 回 答
全体	594	12.5	18.5	41.6	29.0	31.0	24.1	41.1	31.6	49.3	2.4	6.6	3.4	4.5	4.4	
身体障害	286	10.5	20.6	43.7	31.5	42.0	30.1	48.6	34.3	44.4	1.7	9.8	5.9	6.3	3.5	
知的障害	75	17.3	17.3	41.3	25.3	38.7	26.7	48.0	17.3	29.3	-	6.7	2.7	1.3	9.3	
精神障害	92	12.0	19.6	39.1	28.3	23.9	21.7	29.3	33.7	67.4	1.1	4.3	2.2	6.5	1.1	
難病（特定疾病）	161	9.9	15.5	41.6	28.0	23.6	21.1	42.9	37.9	66.5	5.0	3.1	1.9	4.3	3.7	
高次脳機能障害	19	5.3	21.1	36.8	26.3	42.1	31.6	47.4	31.6	47.4	-	5.3	-	5.3	15.8	
発達障害	36	19.4	27.8	38.9	25.0	44.4	30.6	33.3	22.2	44.4	-	8.3	2.8	5.6	-	
その他	30	10.0	30.0	40.0	33.3	40.0	23.3	40.0	36.7	63.3	3.3	10.0	-	-	-	

(2) 緊急時の連絡先

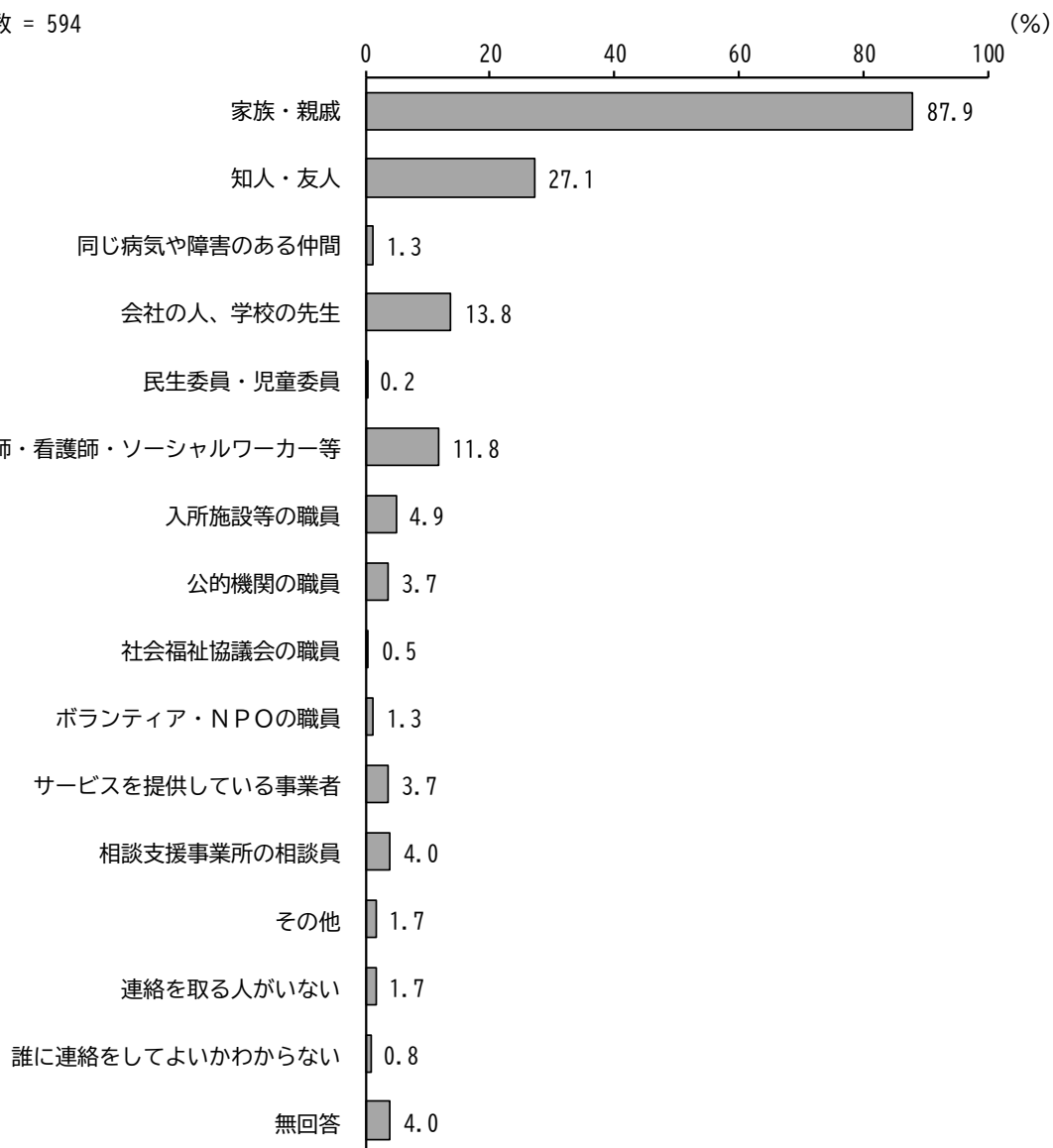
問 45 緊急時に連絡を取るのとはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

緊急時の連絡先は、「家族・親戚」が87.9%と最も高く、次いで「知人・友人」が27.1%、「会社の人、学校の先生」が13.8%となっている。

障害別にみると、知的障害は「家族・親戚」と「知人・友人」の割合が低く、「入所施設等の職員」が26.7%、「相談支援事業所の相談員」が14.7%と高くなっている。

<図表 I - 45 - 1 緊急時の連絡先 (全体) >

回答者数 = 594



<図表 I - 45 - 2 緊急時の連絡先（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	仲間 同じ病気や障害のある 仲間	会社の人、学校の先生	民生委員・児童委員	医師・看護師・ ソーシャルワーカー等	入所施設等の職員	公的機関の職員
全体	594	87.9	27.1	1.3	13.8	0.2	11.8	4.9	3.7
身体障害	286	91.3	29.4	2.4	16.8	0.3	12.6	3.5	4.2
知的障害	75	78.7	2.7	1.3	5.3	-	4.0	26.7	2.7
精神障害	92	80.4	22.8	1.1	6.5	1.1	19.6	5.4	5.4
難病（特定疾病）	161	93.2	34.8	0.6	15.5	-	12.4	1.9	2.5
高次脳機能障害	19	94.7	15.8	-	-	-	10.5	15.8	-
発達障害	36	86.1	22.2	-	25.0	-	11.1	11.1	2.8
その他	30	83.3	26.7	3.3	6.7	-	16.7	3.3	3.3

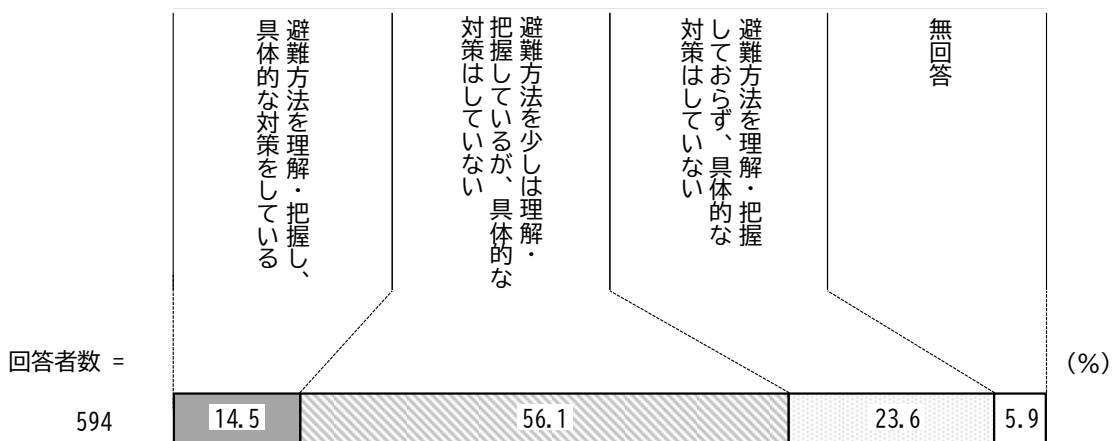
区分	社会福祉協議会の 職員	ボランティア・ NPOの職員	サービスを提供して いる事業者	相談支援事業所の 相談員	その他	連絡を取る人が いない	誰に連絡をして よいかわからない	無回答
全体	0.5	1.3	3.7	4.0	1.7	1.7	0.8	4.0
身体障害	0.7	1.7	3.5	3.8	1.0	1.7	0.3	2.4
知的障害	-	8.0	8.0	14.7	2.7	2.7	-	6.7
精神障害	1.1	-	2.2	3.3	2.2	4.3	1.1	2.2
難病（特定疾病）	-	0.6	3.7	2.5	1.9	1.2	0.6	3.1
高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	5.3
発達障害	-	2.8	8.3	13.9	-	5.6	2.8	-
その他	-	-	6.7	6.7	10.0	3.3	-	3.3

(3) 災害時の避難方法の理解・把握

問 46 あなたは、災害（地震等）が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。
（1つに○）

災害時の避難方法の理解・把握は、「避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない」が56.1%と最も高く、次いで「避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない」が23.6%、「避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている」が14.5%となっている。

<図表 I - 46 - 1 災害時の避難方法の理解・把握（全体）>



<図表 46 - 2 災害時の避難方法の理解・把握（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている	避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない	避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない	無回答
全体	594	14.5	56.1	23.6	5.9
身体障害	286	13.3	59.1	23.4	4.2
知的障害	75	14.7	37.3	34.7	13.3
精神障害	92	18.5	42.4	33.7	5.4
難病（特定疾病）	161	13.7	64.0	18.0	4.3
高次脳機能障害	19	10.5	26.3	47.4	15.8
発達障害	36	13.9	47.2	36.1	2.8
その他	30	10.0	66.7	20.0	3.3

10. 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症による困りごと

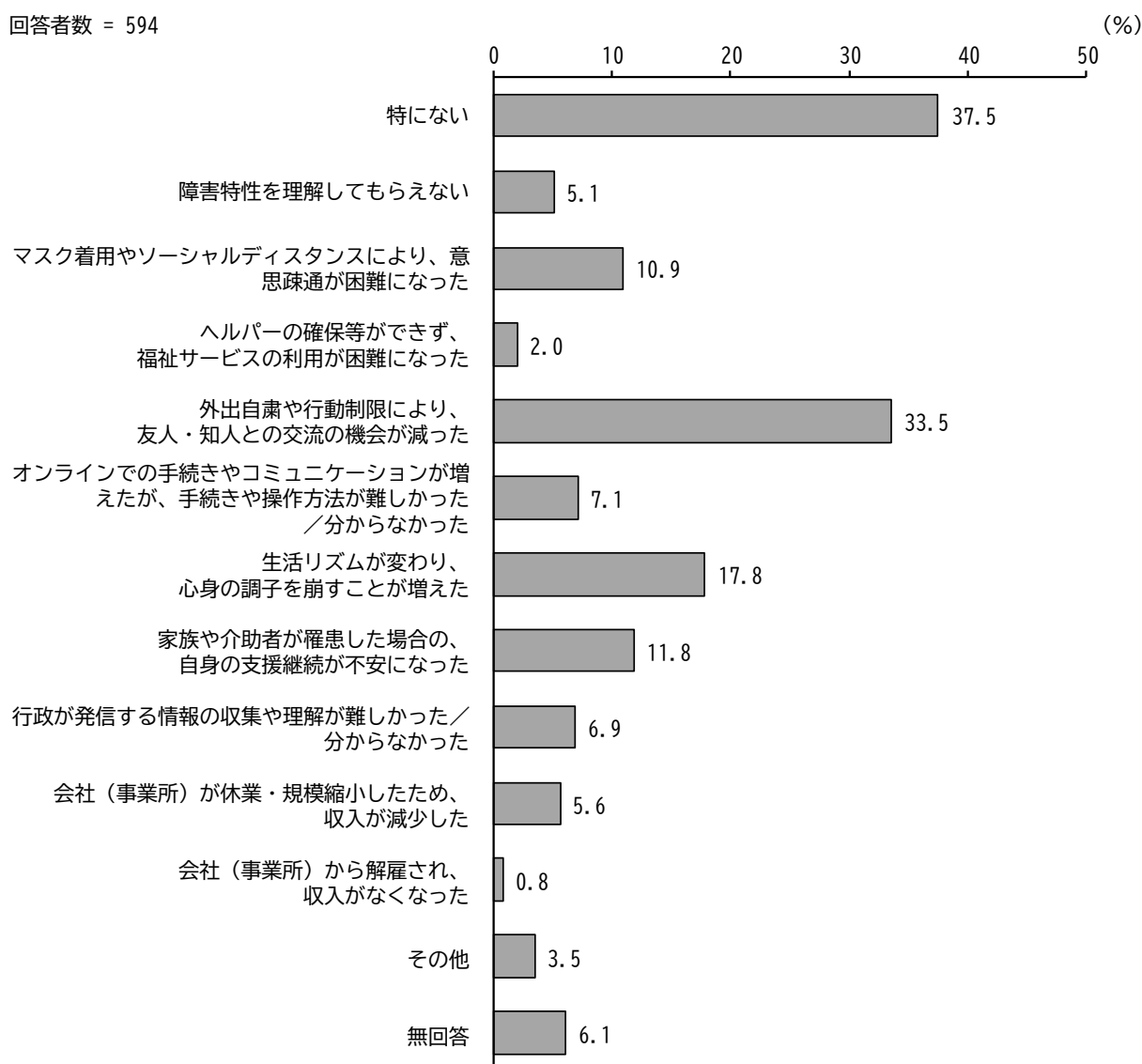
問 47 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で困ったことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス感染症による困りごとがあった割合は、56.4%（全体から「特にない」37.5%と「無回答」6.1%を除いたもの）となっている。具体的には、「外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った」が33.5%と最も高く、次いで「生活リズムが変わり、心身の調子を崩すことが増えた」が17.8%となっている。

障害別にみると、難病（特定疾病）で「特にない」が44.1%と高くなっている一方、発達障害で「外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った」が41.7%、「生活リズムが変わり、心身の調子を崩すことが増えた」が38.9%と高くなっている。

<図表 I-47-1 新型コロナウイルス感染症による困りごと（全体）>

回答者数 = 594



<図表 I-47-2 新型コロナウイルス感染症による困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	障 害 特 性 を 理 解 し て も ら え な い	マ ス ク 着 用 や ソ ー シ ヤ ル デ ィ ス タ ン ス に よ り 、 意 思 疎 通 が 困 難 に な っ た	ヘルパーの確保等ができず、福祉サービスの利用が困難になった	外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った	オンラインでの手続きやコミュニケーションが増えたが、手続きや操作方法が難しくかった／分からなかった
全体	594	37.5	5.1	10.9	2.0	33.5	7.1
身体障害	286	34.6	5.2	13.3	2.1	37.4	7.0
知的障害	75	32.0	9.3	17.3	9.3	28.0	6.7
精神障害	92	33.7	7.6	9.8	1.1	33.7	13.0
難病（特定疾病）	161	44.1	3.1	6.2	0.6	32.9	4.3
高次脳機能障害	19	31.6	-	10.5	-	31.6	5.3
発達障害	36	27.8	16.7	25.0	2.8	41.7	11.1
その他	30	26.7	6.7	6.7	-	33.3	10.0

区分	生活リズムが変わり、心身の調子を崩すことが増えた	家族や介助者が罹患した場合の、自身の支援継続が不安になった	行政が発信する情報の収集や理解が難しくかった／分からなかった	会社（事業所）が休業・規模縮小したため、収入が減少した	会社（事業所）から解雇され、収入がなくなった	その他	無回答
全体	17.8	11.8	6.9	5.6	0.8	3.5	6.1
身体障害	16.8	14.7	6.6	5.2	1.0	3.8	3.8
知的障害	20.0	17.3	14.7	6.7	-	2.7	9.3
精神障害	26.1	10.9	9.8	6.5	2.2	5.4	3.3
難病（特定疾病）	15.5	10.6	3.1	5.6	0.6	3.1	7.5
高次脳機能障害	5.3	21.1	5.3	5.3	-	5.3	15.8
発達障害	38.9	8.3	13.9	2.8	-	11.1	-
その他	23.3	20.0	6.7	3.3	-	10.0	3.3

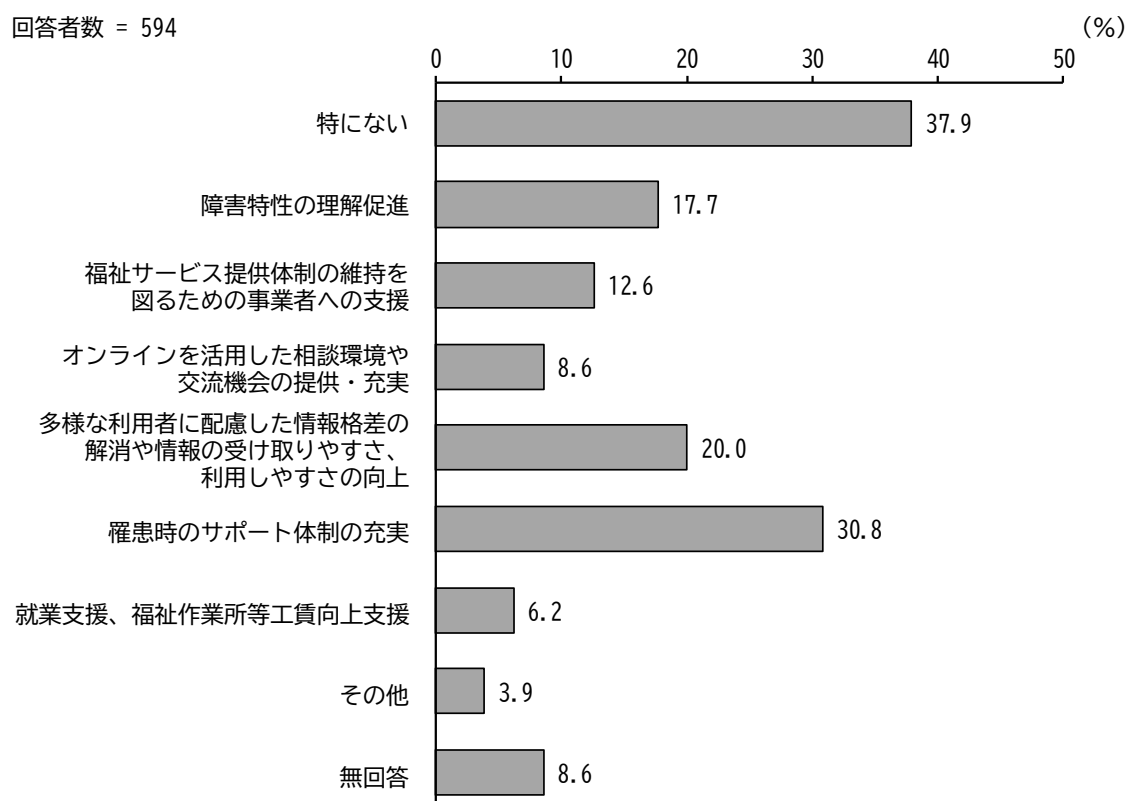
(2) 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの

問 48 新型コロナウイルス感染症を見据えて、行政に求めるものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるものは、「罹患時のサポート体制の充実」が30.8%と最も高く、次いで「多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上」が20.0%となっている。

障害別にみると、知的障害、発達障害で「障害特性の理解促進」、「福祉サービス提供体制の維持を図るための事業者への支援」が比較的高くなっている。

<図表 I-48-1 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの(全体)>



<図表 I - 48 - 2 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	障 害 特 性 の 理 解 促 進	福 祉 サ ー ビ ス 提 供 体 制 の 維 持 を 図 る た め の 事 業 者 へ の 支 援	オ ン ラ イ ン を 活 用 し た 相 談 環 境 や 交 流 機 会 の 提 供 ・ 充 実	多 様 な 利 用 者 に 配 慮 し た 情 報 格 差 の 解 消 や 情 報 の 受 け 取 り や す さ 、 利 用 し や す さ の 向 上	雇 用 時 の サ ポ ー ト 体 制 の 充 実	就 業 支 援 、 福 祉 作 業 所 等 工 賃 向 上 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	594	37.9	17.7	12.6	8.6	20.0	30.8	6.2	3.9	8.6
身体障害	286	39.2	19.6	14.7	7.3	21.7	33.6	3.1	4.2	6.3
知的障害	75	42.7	25.3	26.7	4.0	9.3	26.7	12.0	2.7	10.7
精神障害	92	28.3	20.7	14.1	13.0	21.7	34.8	9.8	4.3	10.9
難病（特定疾病）	161	32.3	15.5	13.0	10.6	23.6	32.3	4.3	5.6	11.2
高次脳機能障害	19	42.1	10.5	10.5	5.3	21.1	21.1	-	-	10.5
発達障害	36	22.2	44.4	30.6	27.8	27.8	44.4	27.8	5.6	2.8
その他	30	43.3	13.3	3.3	3.3	23.3	16.7	6.7	3.3	10.0

11. 台東区への要望等について

(1) 障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策

問 49 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、
どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

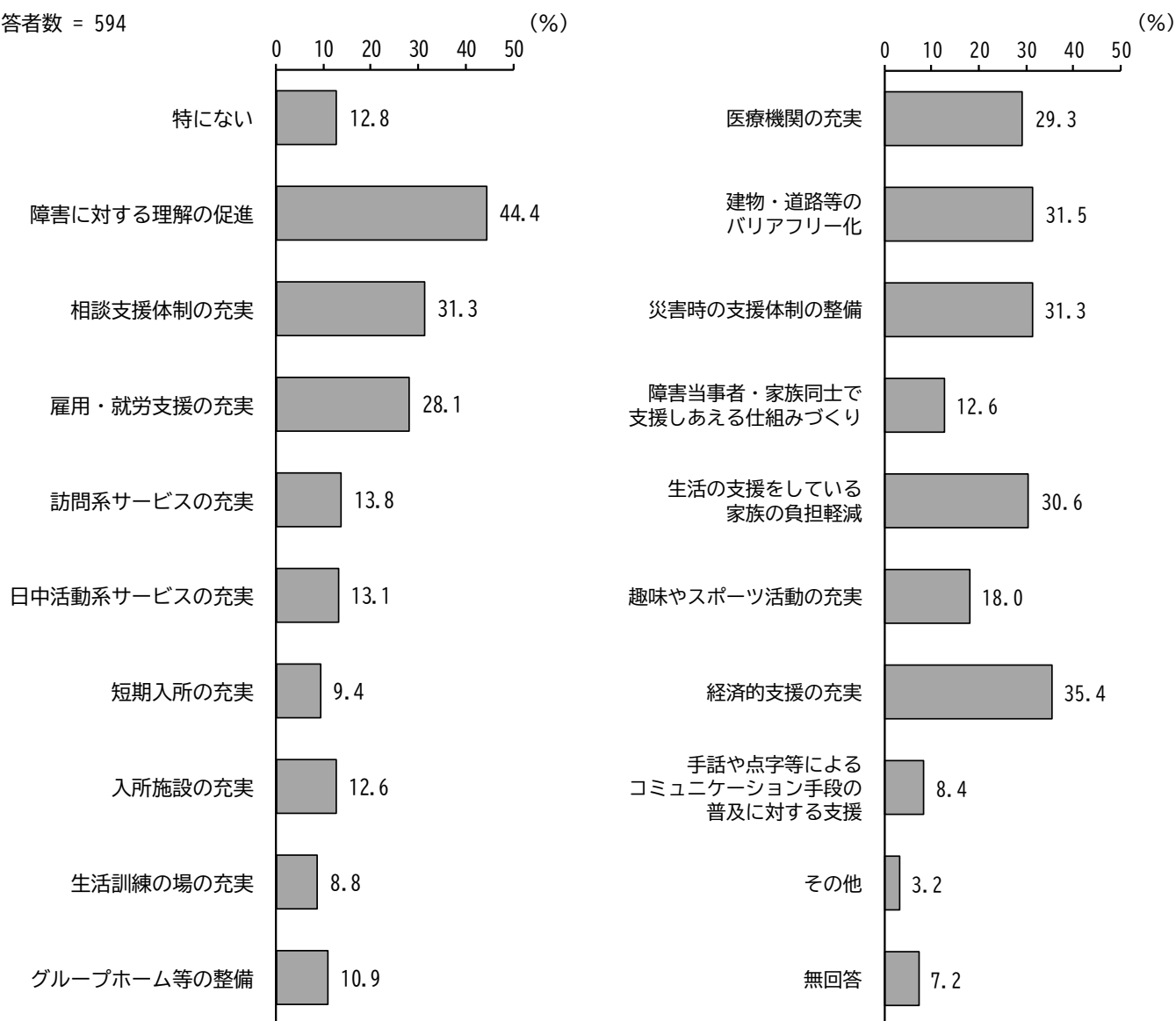
障害者が地域で安心して暮らすために重要と思う施策は、「障害に対する理解の促進」が 44.4%と最も高く、次いで「経済的支援の充実」が 35.4%、「建物・道路等のバリアフリー化」が 31.5%となっている。

障害別にみると、発達障害で「障害に対する理解の促進」が 75.0%、知的障害で「入所施設の充実」が 30.7%と比較的高くなっている。

年齢別にみると、18～39歳で「障害に対する理解の促進」、「雇用・就労支援の充実」、「経済的支援の充実」が高くなっている。

<図表 I - 49 - 1 障害者が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（全体）>

回答者数 = 594



<図表 I - 49 - 2 障害者が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（障害別）>
(%)

区分	回答者数（件）	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備
全体	594	12.8	44.4	31.3	28.1	13.8	13.1	9.4	12.6	8.8	10.9
身体障害	286	11.2	47.2	32.5	26.6	15.7	13.6	10.1	11.5	9.4	10.5
知的障害	75	17.3	40.0	36.0	26.7	10.7	22.7	25.3	30.7	14.7	25.3
精神障害	92	12.0	47.8	41.3	31.5	18.5	15.2	10.9	13.0	14.1	8.7
難病（特定疾病）	161	14.3	41.6	27.3	27.3	14.3	13.0	8.7	13.7	6.8	8.7
高次脳機能障害	19	5.3	47.4	26.3	15.8	26.3	21.1	15.8	15.8	21.1	15.8
発達障害	36	-	75.0	55.6	61.1	30.6	27.8	19.4	27.8	22.2	30.6
その他	30	23.3	33.3	33.3	13.3	23.3	6.7	6.7	13.3	6.7	6.7

区分	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	生 活 の 支 援 を し て い る 家 族 の 負 担 軽 減	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	29.3	31.5	31.3	12.6	30.6	18.0	35.4	8.4	3.2	7.2
身体障害	32.2	38.8	35.0	10.5	30.4	16.1	37.4	11.5	2.8	6.3
知的障害	22.7	18.7	32.0	14.7	28.0	25.3	26.7	8.0	-	8.0
精神障害	33.7	28.3	33.7	17.4	33.7	27.2	44.6	7.6	6.5	2.2
難病（特定疾病）	31.7	34.8	33.5	13.0	31.1	13.0	33.5	5.6	1.9	7.5
高次脳機能障害	36.8	47.4	36.8	31.6	36.8	26.3	36.8	5.3	5.3	10.5
発達障害	36.1	33.3	33.3	33.3	41.7	44.4	47.2	19.4	2.8	2.8
その他	30.0	23.3	20.0	20.0	40.0	10.0	26.7	6.7	3.3	3.3

<図表 I - 49 - 3 障害者が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（年齢別）>
(%)

区分	回答者数（件）	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備
全体	594	12.8	44.4	31.3	28.1	13.8	13.1	9.4	12.6	8.8	10.9
18～39 歳	186	8.6	57.0	32.8	47.8	14.5	16.7	13.4	15.6	13.4	18.3
40～64 歳	247	13.4	47.0	32.8	27.1	10.5	13.4	5.3	7.3	7.3	7.7
65～74 歳	65	18.5	27.7	30.8	9.2	13.8	10.8	9.2	20.0	4.6	7.7
75 歳以上	84	14.3	26.2	28.6	3.6	22.6	8.3	14.3	17.9	7.1	8.3

区分	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	生 活 の 支 援 を し て い る 家 族 の 負 担 軽 減	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	29.3	31.5	31.3	12.6	30.6	18.0	35.4	8.4	3.2	7.2
18～39 歳	32.3	40.3	33.3	18.3	36.6	26.9	43.5	15.6	1.6	3.2
40～64 歳	31.6	31.6	33.2	13.8	30.4	17.0	38.1	6.5	5.7	2.8
65～74 歳	24.6	21.5	33.8	4.6	23.1	10.8	29.2	4.6	—	10.8
75 歳以上	20.2	23.8	23.8	4.8	27.4	9.5	19.0	2.4	2.4	21.4

(2) 自由意見

問 50 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。
 ※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、
 どのようなことでもお書きください。

121 人の方から、延べ 128 件の意見があった。

※同一意見などは記載省略しているため、掲載意見数とカッコ内の数字は一致しない場合がある。

(1) サービス、制度について (26 件)

年齢	障害	意見、要望
40～64 歳	精神障害	医療、金銭でケアしても、心のケアをする部署がないように思えます。私から提案したいのは「ペットケア」です。〇〇カフェなどの癒し系カフェがありますが、ペットの触れ合いには、人を癒す効果があります。しかし、賃貸などの条件下では、やはりペットを手元に置くことは厳しいでしょう。集合住宅である時点で「うるさい」「臭い」等のクレームに発展し、問題となります。なので、台東区側でペットハウスを運営し、予約制として利用を行ってみてはどうかと考えます。老人ホーム向けの出張も行えれば、施設としての需要はさらに高まるのではないのでしょうか。
18～39 歳	難病（特定疾病）	現在、病院への通院は、コロナのこともありタクシーを利用しており、費用がかなりかさみます。タクシー券以外に、送迎車等が（公的な）あれば助かります。
18～39 歳	高次脳機能障害	現在、ヘルパーと入浴介助いただいております。高次脳に対しての外出及びコミュニケーション活動がもう少し出来ればと考えます。また、支援に対しても一層の向上を求めます。宜しくお願い致します。
40～64 歳	内部障害 （内臓等の障害）、 難病（特定疾病）	十数年前に他県から引っ越して来ましたが、東京都・台東区の福祉サービスはよくできていて、おおむね満足しています。特に、今、身体障害者 3 級ですが、内部障害には 1 級がないため、1・2 級の支援が受けられなかった（以前は）のですが、東京都・台東区は、内部は 3 級まで受けられる支援が多くて満足しています。今後も引き続き、3 級までの対象を維持・継続して頂けると助かります。
40～64 歳	内部障害 （内臓等の障害）、 難病（特定疾病）	困っていることは、坂道や階段を上るのが大変なので、そういった場所で、公共交通機関が利用できるといいなと思います。東京都からは、都営バスの定期券が交付されているので、便利に使わせて頂いています。めぐりんでもそういうのがあるといいなと思うのは贅沢でしょうか。
40～64 歳	難病（特定疾病）	現在は薬も効いており、自分が障害者手帳を持つ身ということをあまり考えずに暮らしています。未来、将来のことを考えないといけないのですが、リアルなことを考えたくないというのがあります。こういったアンケートなどで考えるきっかけをもらったことありがたいです。難病指定 2 つをもちますが（1 つで障害者手帳）、両方が一緒に管理され、診断書も一度で済むようになるといいなと思っています。JR の切符も購入しやすくしてほしいです。
40～64 歳	聴覚・平衡機能障害、 肢体不自由 （手足の欠損や麻痺等）、 難病（特定疾病）	問 35 にあるような医療的ケアが必要な障害者の支援について 身体の状態により、ショートステイやデイサービスを断られた事がある。まだ気管切開をする前、口腔からの喀痰吸引が夜間も含め何十回としなければならなかった時、特別養護老人ホームへの短期入所を申し出たが、「夜間は看護師が不在で対応できない」と利用を断られた。また数年にわたり通っていた老人保健施設でも、本人が経皮経肝胆道ドレナージを装着する処置を受けた事によって「前例が無い」とのことで利用を断られた。介護する家族の負担を援助してもらいたくても、医療的ケアが必要な障害者は在宅で頑張るしかない現状です。現在は気管切開している為、気切部にカニューレというシリコンのものを入れています。その交換も家では家族が日に 3～4 回替えているのに、施設や病院では医師しかやってはいけない事になっており、私(妻)が見れない時は痰にまみれてひどい事になっています。(8月の入院時は 10 日間で一度も交換なし(ガーゼも))医療に関わる制度などは簡単には変えられないものとわかってはいますが、看護師や、ヘルパーでも、家族を助けるという事でもう少し歩み込んだ援助をしていただけることを希望します。(妻記述)
75 歳以上	その他	ペースメーカーを挿入していますが、健常者と変わらない生活をしています。障害者へのいろいろな施設有難うございます。
40～64 歳	肢体不自由 （手足の欠損や麻痺等）	成年後見制度の利用をもっとしやすいものにしてほしい。申し立ての支援を気軽にうけたい。後見人を社協でもっとうけてほしい。
18～39 歳	肢体不自由 （手足の欠損や麻痺等）	制度上難しいのかもしれませんが、通勤の介助をしてもらえる支援があると助かります。足を痛めた時に通勤に困ったので。

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 難病(特定疾病)	おむつの補助券を使える指定の店が少ない。現在は同居している66歳の母に購入しに行ってもらっているが、近隣の店では使えず困っている。池之端、谷中にも使える店が欲しい。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	介護事業所に限らず、福祉タクシーなど福祉にかかわる事業所の管理監督を徹底してほしいです。こちらはサービスを受ける側なので、どうしても言いにくいことや不満があっても言えないことがあるので、こういったアンケートの場合は重要だと思います。相談事業所は厳密に言えば当事者ではないので、不平や不満をもう少し重く受け止めてもらいたいですし、台東区障害福祉課には各事業所をきちんと管理し、サービスを受ける側の最後の受け皿になってもらいたいです。福祉サービスを提供する側が減ってしまうのも困りますが、あまりにも信頼を築けないような(多くの人から評判が悪い)事業所に関しては認定取り消しなどの処分も含めて、管理の徹底をお願いします。

(2) 施設、設備の充実(11件)

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	知的障害	このアンケートは、本人の母が記入しています。重度の知的障害と行動障害の為、本人の意思はわかりませんが、利用している生活介護施設には満足しています。施設がないと、本人よりも家族の仕事ができず困ってしまうので、コロナで利用が制限された時は家族の仕事に影響が出て困りました。今後も家庭でいっしょに生活していきたいと思っていますが、福祉施設の支援が必要なので、台東区から事業者への支援もお願いしたいと思っています。
40～64歳	難病(特定疾病)	透析のできる施設を浅草に増やしてほしいです。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	グループホーム(特に重度障害者)がなかなかできないので、早く進めて欲しい。介護している父母が高齢であるので一日も早くグループホームに入れることを希望している。住み慣れた台東区で生活していきたい。
18～39歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 内部障害 (内臓等の障害)、 知的障害	グループホーム(身体)の新設を希望します。地元台東区内で今後も生活し、作業所へ行きたいです。身体の障がい者向けのスポーツに参加する事がしたいです。
40～64歳	精神障害	精神科病院の患者さんは、生活保護を受けている人がかなり多い。精神障害者の人も、親亡き後は、生活保護になる人がかなりでてくるのではないだろうか。東京都足立区は生活保護の人がかなり多い。台東区や荒川区には入院できる精神科病院はない。足立区は入院できる精神科病院はかなりある。台東区は、精神科のクリニックが少ない。精神科への通院は、人から白い目で見られる事が多い。7040問題や、8050問題、ひきこもりも、これから大きな問題になっていくのではないだろうか。

(3) 情報提供、相談支援体制(8件)

年齢	障害	意見、要望
75歳以上	知的障害	老々介護です。知的障害+高齢の為耳が遠く、目も良く見えません。でも道具が使えません(補聴器、めがね等)私が見ている間は安心ですが、私が認知又は動けなくなった場合はとても心配です。今の所、ケアマネージャーの方が要望を聞いて助けていただいています。本人が残された場合の施設の入り方(金銭面も含む)の情報が欲しいです。
40～64歳	聴覚・平衡機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	障害者全般的に必要な時必要な相談窓口を探すのに困惑することがしばしば。まずは細かい相談窓口があればいいと思う。お役所はタイ回しで不要な時間が掛ることが多々。
75歳以上	難病(特定疾病)	パーキンソンを患ってから、痴呆症が出ています。先日部屋で意識をなくし、救急車で運ばれ検査したところ脳卒中の心配はないが、アルツハイマーからによるてんかん発作を起こすよう。その為抗てんかん薬を処方されています。子供のようになってしまう、家族の言葉には反感を持っています。部屋からあまり出さずごはんもあまり食べず、痩せていっています。筋力も落ちていき便や尿をもらすので、紙パンツをはかせようとしても、ダメです。どこかに相談できるのでしょうか。もの忘れが多いだけでまだプライドを持っているようで家族も困っています。
40～64歳	知的障害、発達障害、 精神障害	精神障害者のための話を聞いてくれる気楽な所があると嬉しい。精神障害者の相談を真剣に聞いて協力して欲しい。自分が精神障害者である事を隠しています。

(4) 障害に対する理解 (9件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	精神障害	精神障害者はなかなか理解してもらえないことが多いのでその点が辛いです。外見は普通なのに障害がある事をたくさんの人に知っていただきたいです。
40～64歳	その他	私は4級の障害手帳を持っていますが使っていません。見た目は普通であり、心ないことを言われて傷つくのが嫌だからです。子供の学校でPTA役員を受け、あまりにいじめがひどく体調をくずしても理解はありませんでした。学校も保護者も見た目ですべて話をしてきます。子供は1型糖尿病ですが、それすら学校の保健室の先生の理解がなく、もう諦めています。傷つかないよう、それだけです。

(5) 経済的問題 (12件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	難病 (特定疾病)	台東区に魅力を感じ、現在のマンション (賃貸) に住んで約20年になる。難病に見舞われたが、幸い通常の生活は出来ており、仕事もこなせている。しかし、いつ病状が悪化するとも限らず、そうなった場合、今後も台東区に住み続けたいと思うのが困難である。低家賃のマンションの斡旋や家賃の補助などの制度があれば良いと思う。
18～39歳	精神障害	沢山の制度で支えて頂いているのに贅沢な話になりますが、経済的観点から結婚に関する展望が見えません。健常者の方でさえ独身のまま…なんて事も少なくないと思いますが、それでも良いご縁があった際に、少しでもお気持ちに伝えられる程度の生活力が欲しいのです。

(6) 行政の対応に関して (13件)

年齢	障害	意見、要望
40～64歳	内部障害 (内臓等の障害)、 難病 (特定疾病)	コロナで重症化リスクが高いのですが、国 (政府) がマスクを外してもいいとか、規制をゆるめたので、マスク未着用の人やソーシャルディスタンスを守らない人が増えて、心配とストレスが多くなってしまっています。引き続き、マスクとソーシャルディスタンスは徹底して守るようにしてほしいと思っています。
40～64歳	発達障害、精神障害	台東区役所や保健所の職員の方と接する機会があったのですが (各種手続きなど) とても親切丁寧でわかりやすく説明していただけるので安心して、相談や何う事が出来ています。今後も行政サービスを安定していただきたいとお願いたします。
75歳以上	難病 (特定疾病)	台東区は他区に比べ、遅れている。これ以上シルバーを病気にしないよう考えて下さい。(私、税金払っています) と、ほかの方から聞きました。納得、難病の人は。
40～64歳	聴覚・平衡機能障害	聴覚障害者に書類送る時、問合せ先にFAXNo.、メールアドレスの記載がないままのことが多く閉口しています。私宛に送られて来るものと言えば福祉課が多いのですが、その福祉課が障害を一番理解・意識しないとイケないことだと思いが…。何の為の福祉課なのか、と誤ってしまいます。
40～64歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	都営バスの運転手の車椅子の扱い方がとても怖い。ちゃんと講習を受けているのか。対応も怖い。都営バスに乗る機会が多いけど最悪。他のバス会社さんは親切。

(7) バリアフリーに関して (4件)

年齢	障害	意見、要望
18～39歳	視覚障害	道路の補正、障害物の除去、点字ブロックを充実させてほしい。道が狭い。上野公園内に目印がないため、上野駅まで行けない。
18～39歳	視覚障害	日頃より生活しやすい環境づくりをしてくださいまして、ありがとうございます。音声信号で押しボタンがあるにもかかわらず、音が鳴らない信号があります。点検等ご対応を頂けると幸いです。

(8) 調査に関して (6件)

年齢	障害	意見、要望
75歳以上	その他	御世話になります。今回、このようなアンケートに回答したのは初めての経験です。父のように高齢者が本人の場合、家族が対応せざるをえません。仕事とはいえ、日常生活の忙しい中、ましてこのコロナ禍の中、配慮してもよさそうなのにと思わざるをえません。これを最初で最後にしていただけることを望みます。項目も多すぎるし、大変で、というのが正直な気持ちです。よろしく、お願い申し上げます。
65～74歳	難病 (特定疾病)	包括的なアンケートであったため、個々のケースで回答することが難しく、又、質問項目が多すぎて大変だった。もっと、ピンポイントのアンケートを数種類のカテゴリーに分けて実施の方が良いのではないかと思います。

年齢	障害	意見、要望
40～64 歳	知的障害	本人は言葉での意志表示は困難ですのでアンケートに正確に答えることができません。又、親は高齢ですし、知識もないので解答困難な設問がありました。申し訳ありません。

(9) 療育、教育に関して (2件)

年齢	障害	意見、要望
65～74 歳	音声・言語・そしゃく機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 高次脳機能障害	障害者への理解を促進させる為には教育も必要だと思います。障害者への優しい人づくり町づくりをお願い致します。
40～64 歳	難病 (特定疾病)	7歳の双子、軽度知的障がい(の娘(手帳なし))と、不安感が強く子供とのコミュニケーションがとれない息子がいます。年少から行き渋り→登園拒否となり年中は通えず、退園し家庭保育となりました。台東区は発達面で心配のあるお子さんについては、すべての区立幼稚園、保育園、こども園で受け入れています、となっていますが、受け入れているだけ。出来ない事があれば迷惑がられる。敏感な子や障がいがあって、皆と同じ事ができない子供は通うのは難しいです。この様な子供が、少人数で安心して通える療育園があればいいと思いました。

(10) 緊急時の支援体制 (2件)

年齢	障害	意見、要望
75 歳以上	内部障害 (内臓等の障害)	私は人工肛門であり、毎朝洗腸しております 約1時間を要します。災害が発生し、トイレなどの場所が確保できなくなった場合の不安があります。その時の場所の指定などを予め告知されることを望みます。
65～74 歳	内部障害 (内臓等の障害)、 精神障害	地震後の通電火災を防ぐ為、自動的にボールが落ちてブレーカーが切れるアイデアがTVで流れていました。1ヶ400円～500円、まとめて買えばもっと安く手に入ると思います。老人がこれを探してつけようと思う。区でアルバイト、古い家にも役にたつと考える。

(11) 手続きに関して (4件)

年齢	障害	意見、要望
65～74 歳	難病 (特定疾病)	難病の診断を受け、保健所経由で医療費補助の申請手続き等を行いました。区の問題ではないですが、各種手続きで患者本人の私が、何枚も何枚も、氏名、ふりがな、生年月日、郵便番号、住所(住所より長いマンション名含む)、電話番号を感圧の”紙”に書き、3ヶ月近くかかって、都から通知が届きました。デジタル社会とは程遠く、削減されていたプロセスは朱肉で押す印鑑のみだったと思われます。簡素化に加えて、プロセスの見える化を期待します。(宅配の荷物追跡システムのような)3ヶ月近くかかった申請の処理の後、振込口座の申請書が別途送られてきて、回答を返信して更に2ヶ月、結局1つのことが片づくのに5ヶ月かかりました。かつ病院が提出した数字と別の数字が記載された通知が同封されていて、説明はなく、不服の場合のprocedureが書かれているだけで、また3ヶ月かかるかと思うと、治療中の身で理解するための質問をする気力も失せました。プロセスの円滑化を希望します。
40～64 歳	視覚障害	私は2020年に障害者認定をいただきましたが、その申請手続きと、認定後の手帳を受け取るのに区役所へ何度も行かなくてはならないということに不便を感じました。私よりもっと目の不自由な方や足の不自由な方もいらっしゃると思うので、近くの出張所でも対応してもらえるといいなと思いました。(せめて申請書類の用紙だけでも出張所でももらえるといいのに、と。)ご検討宜しくお願いします。

(12) 将来の不安 (3件)

年齢	障害	意見、要望
40～64 歳	知的障害	知的障害で、深く考える事が苦手。(理解力が足りない)グループホームでお世話になり、職員さんに大変お世話になり生活ができています。役所等の事は現在母親の私が行っておりますが高齢の為にいつまで出来るか心配です。将来親が居なくなり、現在の生活が保たれていられるのか不安です。台東区は障害者に手厚くとても感謝しております。どうぞ、これからも宜しくお願い致します。
65～74 歳	内部障害 (内臓等の障害)	4年程前に心臓病(大動脈弁置換術、三尖弁形成術、肺静脈隔離術、左心耳切除)の手術をした。術後やっと普通に生活出来ていたのが、今年3月頃、突然両足がむくみ、ひざの周りが水でズボンが履けないくらいひどいむくみで、肺には水がたまり、苦しい2ヶ月位だった。現在は飲み続けている利尿剤で生活はできています。今後の病状が心配な毎日です。

(13) 就労に関して (5件)

年齢	障害	意見、要望
40～64 歳	発達障害	目に見えない発達障害等は、精神的な支援と他者の理解が必要。苦手なことが、いかげんさや性格と思われてしまうため、心が病んでしまう。同じ発達障害の人と健常者と、分かち合える普通の場所があればいい。仕事の内容も、できればやりがいや責任が持てるものであれば、もう少し収入もアップできるのではないかと思う。経済的な不安から、障害手帳をもらわずに、就労支援を受けずに働いていた時期に、うつ病になってしまった事があった。又同じ状態の人が多かった。福祉(税金)に頼らずにできる限り自分で収入を得たい。ですから薬等はジェネリックを使用しています。
18～39 歳	視覚障害	障害に対する周囲の理解や支援は必須であるがそれだけでは不十分。例えば、職場で理解がある場合でも、同僚の善意頼みでは、職場の負担が増えてうまくいかない。自分の努力と時間をかけるだけではカバーしきれないところを、同僚の助けを借りやすくするには、制度として、障害者を雇用することで職場にメリットがあるような制度設計であると良いと思う。

(14) その他 (23件)

年齢	障害	意見、要望
40～64 歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 内部障害(内臓等の障害)	障害者になって、丸3年。思っていたよりも行政は良くなってきています。もう少し若者や子供達に道徳を教えて、思いやりのある社会を作って欲しい。新規転入の若夫婦のワガママを叱ってくれるガンコジジイが必要です。
75 歳以上	難病 (特定疾病)	私は難病の突発性間質性肺炎になり申請を致しました。呼吸が苦しくなる以外は生活に支障をきたしてはおりません。有難うございました。
40～64 歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	障害者自身が意見等を発信できる場があればいいと思います。
18～39 歳	内部障害 (内臓等の障害)	幸せに暮らしていきたいです。ありがとうございます。
40～64 歳	精神障害	障害者に心を寄せてくださりありがとうございます。私は引きこもっていますが、いろんなことを調べたり考えたりして日々生活していますので、福祉の部署の方にもっと意見を言いたいです。「こんなサービスを始めたいが障害者の視点ではどう思うか?」みたいな感じです。よくありますよね?雑誌で読者モデルと開発したコスメみたいな商品が。福祉サービス(施策?)なども、障害者と一緒に作りました、っていうのがあってもいいと思うんです。ですからこういうアンケートだけではなく、具体的にいろいろな意見を日々やりとりできる仕組みを作ってほしいですね。私達は障害のおかげで皆さんとは異なる独特の「繊細さ」があると思います。いろいろなことに気づいていても伝えるところがないのです。障害者に限らず目安箱のような仕組みを作り、良い意見は積極的に区の業務に取り入れたらもっと楽しい区になるのかなと思います。これには役所の側の皆さんの人間力も大いに必要になると思うのですが、やらない手はないと思います。私だったら時間に余裕があるので調子が悪いときでなければ意見求められたらお話したいです、いつでも。

Ⅱ 障害児

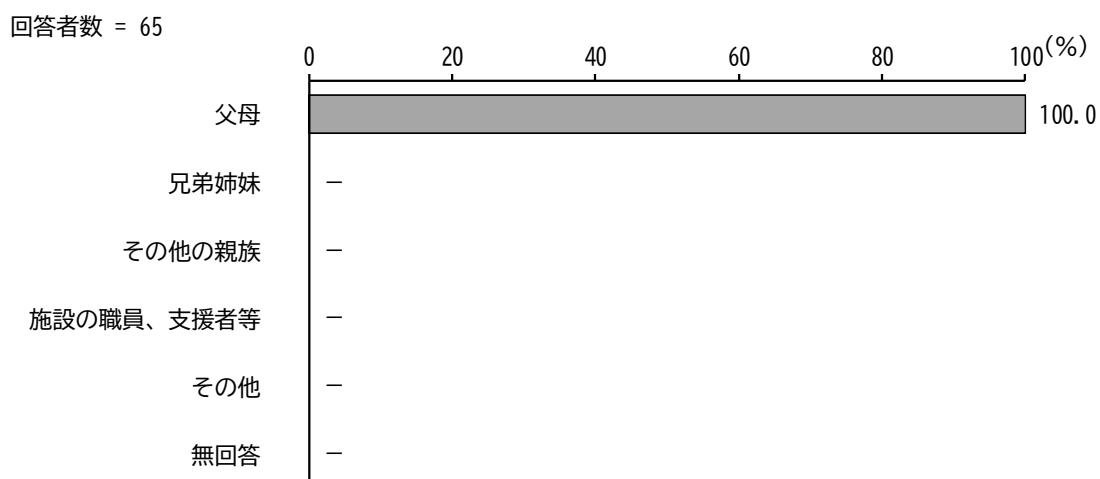
1. 基本的属性

(1) 調査回答者

問1 はじめに、このアンケートに回答いただく方はどなたですか。(1つに○)

調査回答者は、全て「父母」となっている。

<図表Ⅱ-1-1 調査回答者(全体)>



<図表Ⅱ-1-2 調査回答者(障害別)>

(%)

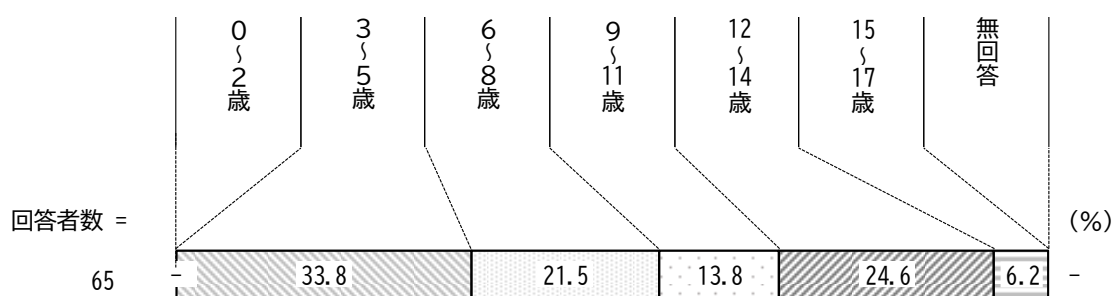
区分	回答者数(件)	父母	兄弟姉妹	その他の親族	施設の職員、支援者等	その他	無回答
全体	65	100.0	-	-	-	-	-
身体障害	13	100.0	-	-	-	-	-
知的障害	22	100.0	-	-	-	-	-
精神障害	2	100.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	100.0	-	-	-	-	-
発達障害	11	100.0	-	-	-	-	-
手帳未取得	31	100.0	-	-	-	-	-

(2) 年齢

問2 お子さんの令和4年9月1日現在の年齢をお答えください。

年齢は、「3～5歳」が33.8%と最も高く、次いで「12～14歳」が24.6%、「6～8歳」が21.5%となっている。

<図表Ⅱ-2-1 年齢（全体）>



<図表Ⅱ-2-2 年齢（障害別）>

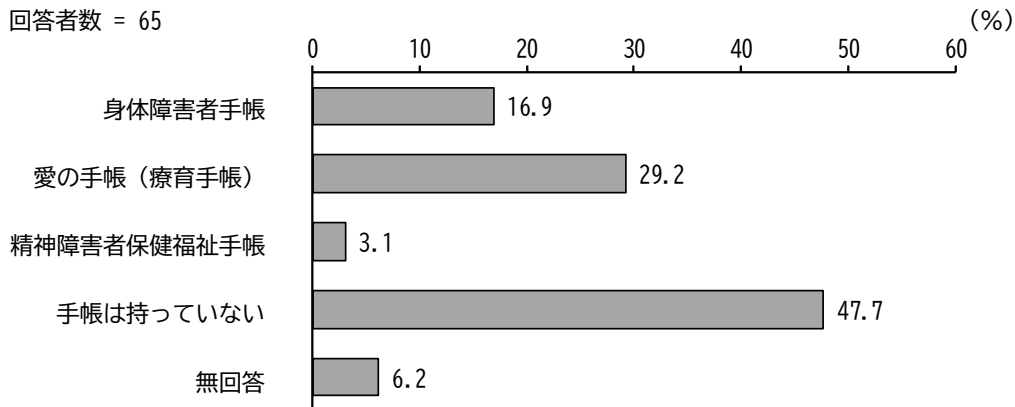
区分	回答者数 (件)	年齢 (%)			
		未就学児	就学期	中高生	無回答
全体	65	33.8	35.4	30.8	-
身体障害	13	30.8	38.5	30.8	-
知的障害	22	9.1	50.0	40.9	-
精神障害	2	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	3	-	-	100.0	-
発達障害	11	-	45.5	54.5	-
手帳未取得	31	48.4	38.7	12.9	-

(3) 手帳の等級

問3 お子さんは障害者手帳をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)
 お持ちの場合、手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに等級を記載)

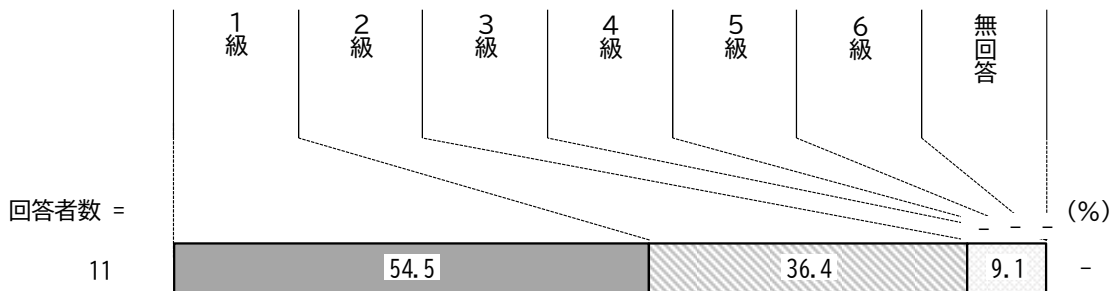
手帳を所持している割合は46.1% (全体から「手帳は持っていない」47.7%と「無回答」6.2%を除いたもの) となっている。具体的には、「愛の手帳 (療育手帳)」が29.2%、「身体障害者手帳」が16.9%と高くなっている。

<図表Ⅱ-3-1 手帳の種類 (全体) >



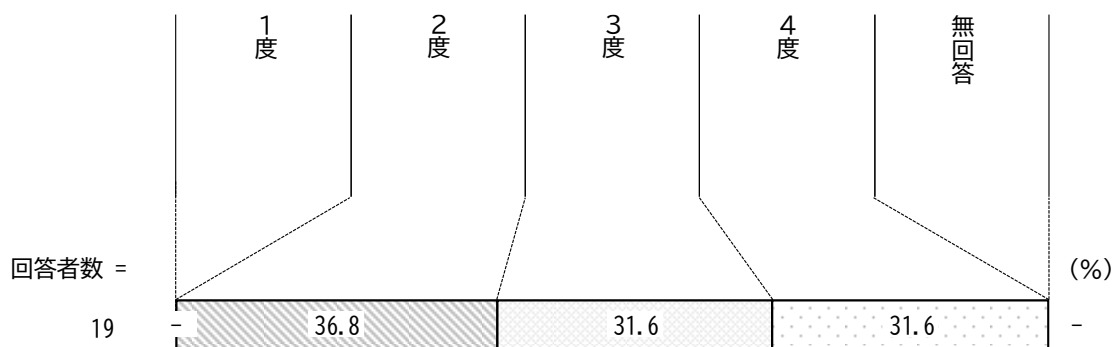
身体障害者手帳の等級は、「1級」が54.5%と最も高く、次いで「2級」が36.4%、「3級」が9.1%となっている。

<図表Ⅱ-3-2 身体障害者手帳の等級 (全体) >



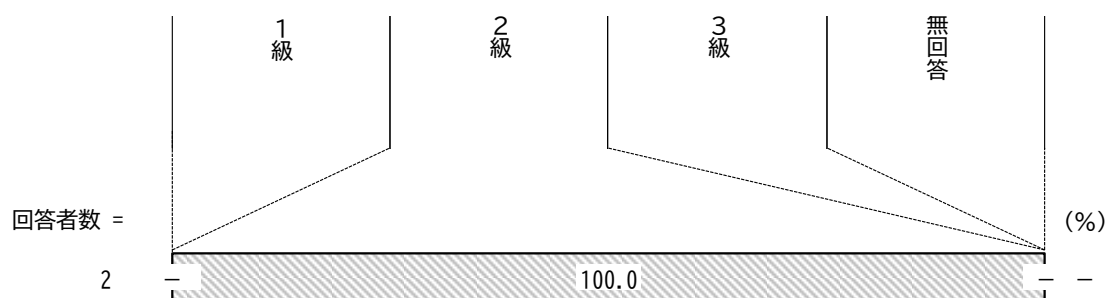
愛の手帳（療育手帳）の等級は、「2度」が36.8%と最も高く、次いで「3度」、「4度」が31.6%となっている。

<図表Ⅱ－3－3 愛の手帳（療育手帳）の等級（全体）>



精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が100.0%となっている。

<図表Ⅱ－3－4 精神障害者保健福祉手帳の等級（全体）>



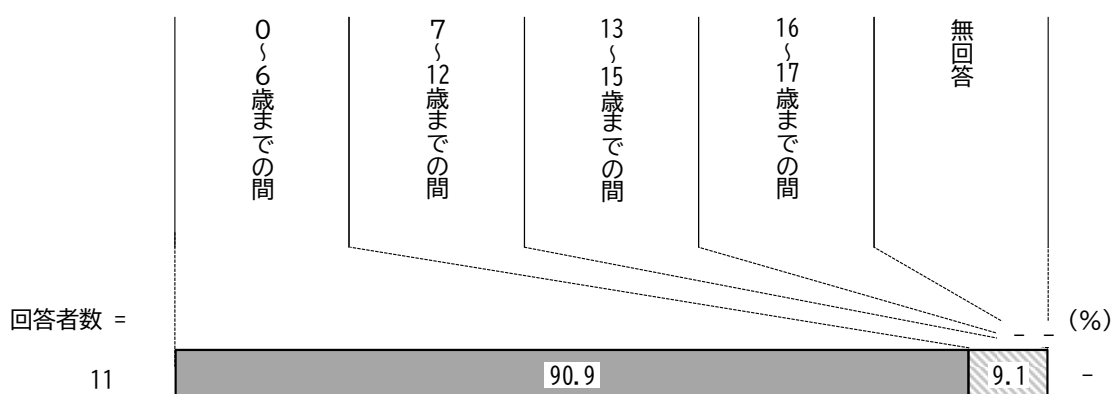
(4) 手帳の取得年齢

問3-1と問3-2は、問3で1~3に○をした方におたずねします。

問3-1 お子さんがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。
(手帳ごとに○は1つ)

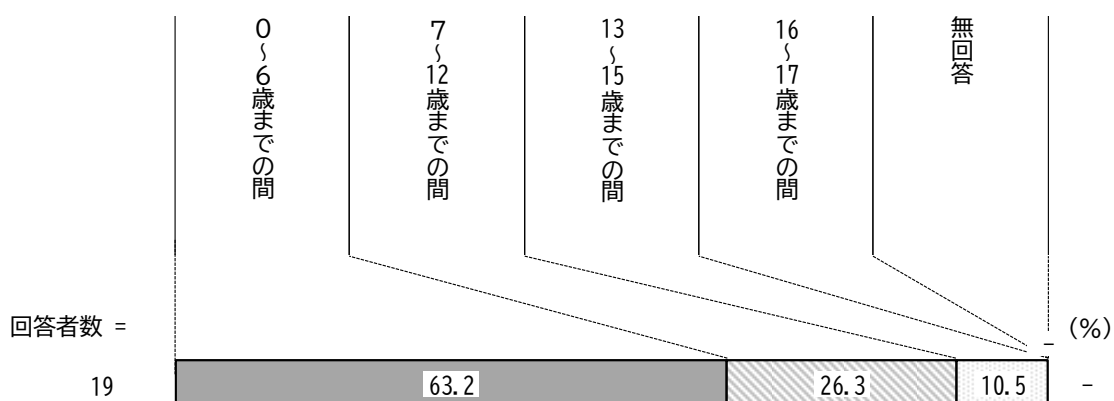
身体障害者手帳を取得した年齢は、「0～6歳までの間」が90.9%と最も高く、次いで「7～12歳までの間」が9.1%となっている。

<図表Ⅱ-3-5 手帳の取得時期：身体障害者手帳（全体）>



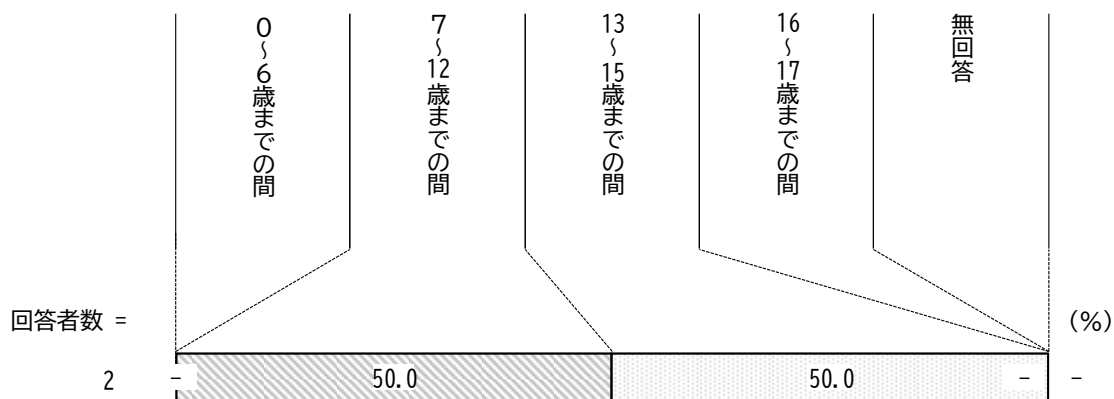
愛の手帳（療育手帳）を取得した年齢は、「0～6歳までの間」が63.2%と最も高く、次いで「7～12歳までの間」が26.3%、「13～15歳までの間」が10.5%となっている。

<図表Ⅱ-3-6 手帳の取得時期：愛の手帳（療育手帳）（全体）>



精神障害者保健福祉手帳を取得した年齢は、「7～12 歳までの間」、「13～15 歳までの間」が 50.0%となっている。

<図表Ⅱ－3－7 手帳の取得時期：精神障害者保健福祉手帳（全体）>



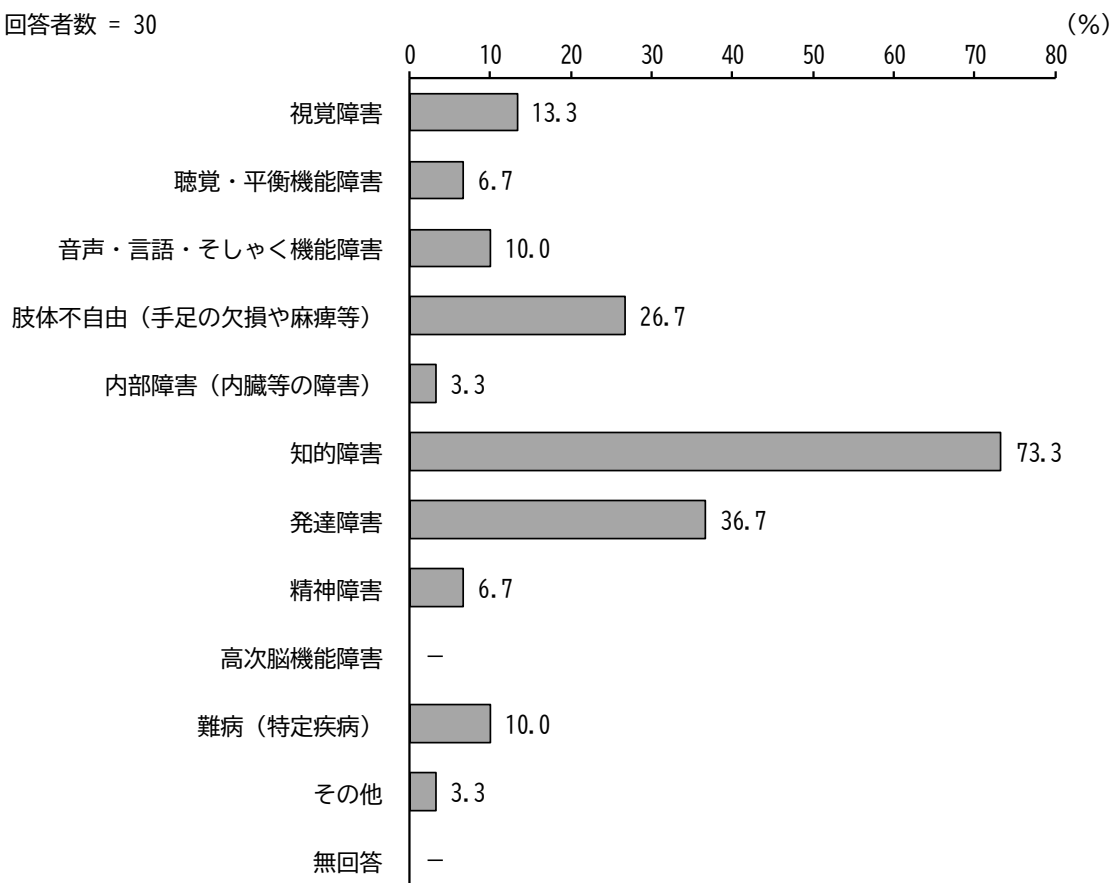
(5) 障害の種類

問3-2 お子さんの障害（疑いを含む）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

障害の種類は、「知的障害」が73.3%と最も高く、次いで「発達障害」が36.7%、「肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）」が26.7%となっている。

<図表Ⅱ-3-8 障害の種類（全体）>

回答者数 = 30



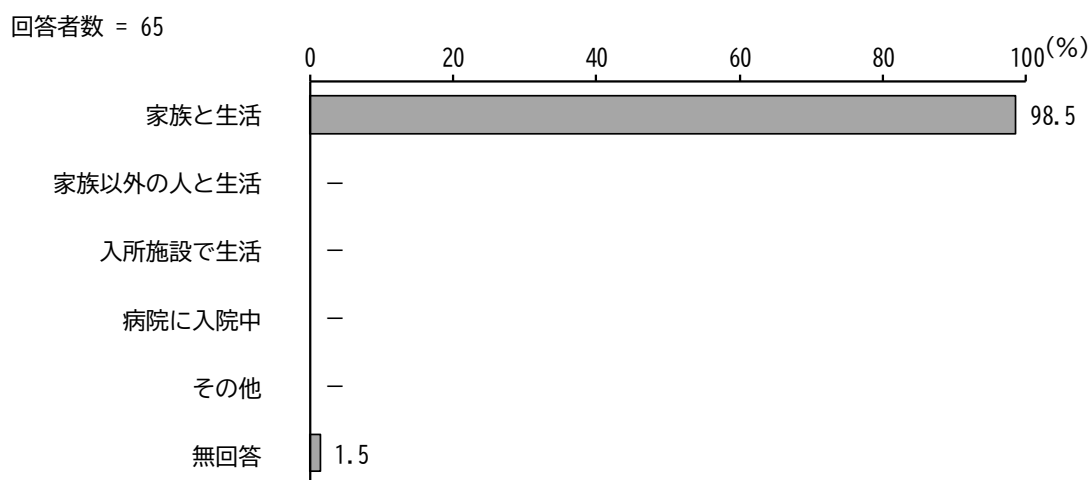
2. 暮らし方について

(1) 現在の暮らし方

問4 お子さんは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

現在の暮らし方は、無回答をのぞき、全員が「家族と生活」している。

<図表Ⅱ-4-1 現在の暮らし方(全体)>



<図表Ⅱ-4-2 現在の暮らし方(障害別)>

区分	回答者数(件)	(%)					
		家族と生活	家族以外の人と生活	入所施設で生活	病院に入院中	その他	無回答
全体	65	98.5	-	-	-	-	1.5
身体障害	13	100.0	-	-	-	-	-
知的障害	22	100.0	-	-	-	-	-
精神障害	2	100.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	100.0	-	-	-	-	-
発達障害	11	100.0	-	-	-	-	-
手帳未取得	31	96.8	-	-	-	-	3.2

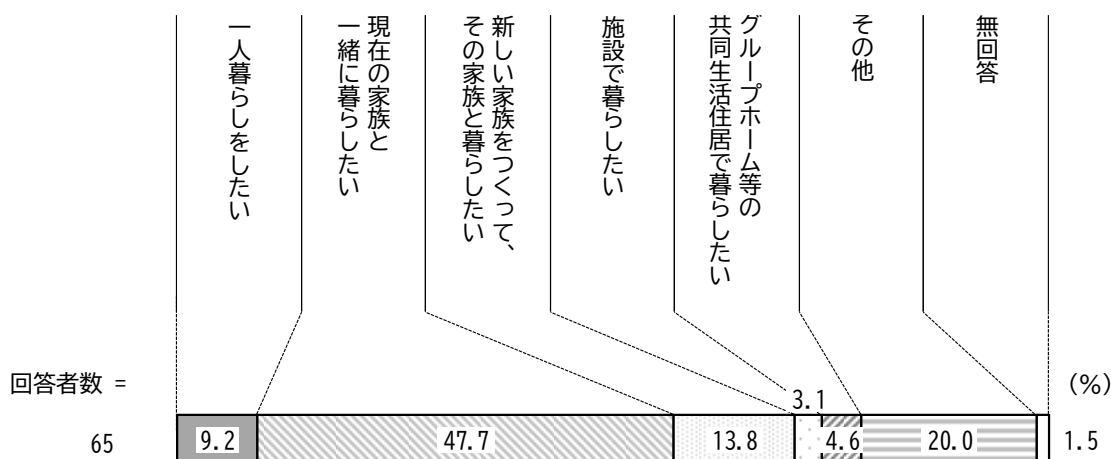
(2) 将来希望する暮らし方

問5 お子さんは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

将来希望する暮らし方は、「現在の家族と一緒に暮らしたい」が47.7%と最も高く、次いで「新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい」が13.8%となっている。

障害別にみると、発達障害で「現在の家族と一緒に暮らしたい」が63.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-5-1 将来希望する暮らし方(全体)>



<図表Ⅱ-5-2 将来希望する暮らし方(障害別)>

区分	回答者数(件)	一人暮らしをしたい	現在の家族と一緒に暮らしたい	新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい	施設で暮らしたい	グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい	その他	無回答
全体	65	9.2	47.7	13.8	3.1	4.6	20.0	1.5
身体障害	13	7.7	53.8	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7
知的障害	22	4.5	45.5	9.1	9.1	13.6	18.2	-
精神障害	2	-	100.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	-
発達障害	11	-	63.6	-	9.1	18.2	9.1	-
手帳未取得	31	9.7	41.9	19.4	-	-	29.0	-

3. 日常生活について

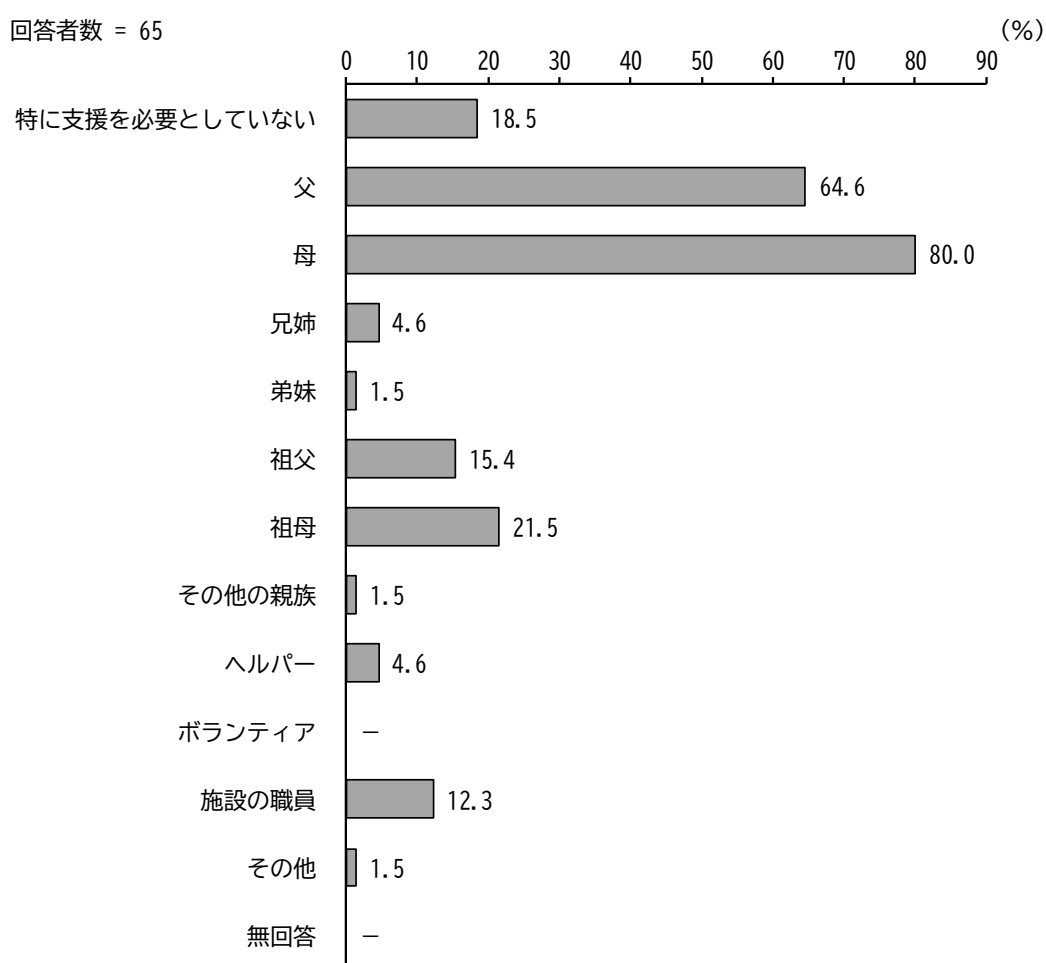
(1) 生活の支援者、支援者の年齢、必要な内容

問6 日常生活を送るうえで、お子さんの生活の支援をしている方はいますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活の支援の状況について、支援が必要な割合は、81.5%（全体から「特に支援を必要としない」18.5%を除いたもの）となっている。具体的な支援者は、「母」が80.0%、「父」が64.6%となっている。

障害別にみると、すべての項目で「母」が高くなっている。また、身体障害で「ヘルパー」が23.1%と高くなっている。

<図表Ⅱ-6-1 支援の状況（全体）>



<図表Ⅱ－6－2 支援の状況（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特に支援を必要と していない	父	母	兄弟	弟妹	祖父
全体	65	18.5	64.6	80.0	4.6	1.5	15.4
身体障害	13	7.7	76.9	92.3	7.7	7.7	30.8
知的障害	22	9.1	77.3	90.9	4.5	4.5	18.2
精神障害	2	-	50.0	100.0	-	-	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	100.0	-	33.3	33.3
発達障害	11	-	54.5	100.0	9.1	-	36.4
手帳未取得	31	29.0	61.3	67.7	3.2	-	9.7

区分	祖母	その他の親族	ヘルパー	ボランティア	施設の職員	その他	無回答
全体	21.5	1.5	4.6	-	12.3	1.5	-
身体障害	30.8	-	23.1	-	15.4	-	-
知的障害	31.8	-	9.1	-	13.6	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	33.3	-	33.3	-	33.3	-	-
発達障害	36.4	-	9.1	-	9.1	-	-
手帳未取得	12.9	3.2	-	-	9.7	-	-

問 6-1 と問 6-2 は、問 6 で 2～12 に○をした方におたずねします。

問 6-1 お子さんの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。
(○をした項目すべてについて○)

支援者の年齢は、「父」、「母」で「40歳～49歳」がそれぞれ 50.0%、61.5%と高くなっている。

<図表Ⅱ－6－3 支援者の年齢（全体）> (%)

区分	回答者数 (件)	17歳以下	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳以上	無回答
父	42	-	-	33.3	50.0	16.7	-	-
母	52	-	-	26.9	61.5	11.5	-	-
兄弟	3	100.0	-	-	-	-	-	-
弟妹	1	100.0	-	-	-	-	-	-
祖父	10	-	-	-	-	-	100.0	-
祖母	14	-	-	-	-	-	100.0	-
その他の親族	1	-	-	100.0	-	-	-	-
その他	1	-	-	100.0	-	-	-	-

<図表Ⅱ－6－4 支援者の年齢（全体）> (%)

区分	回答者数 (件)	不明	18歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳以上	無回答
ヘルパー	2	66.7	-	-	33.3	-	-	-
ボランティア	0	-	-	-	-	-	-	-
施設の職員	5	62.5	-	-	25.0	-	-	12.5

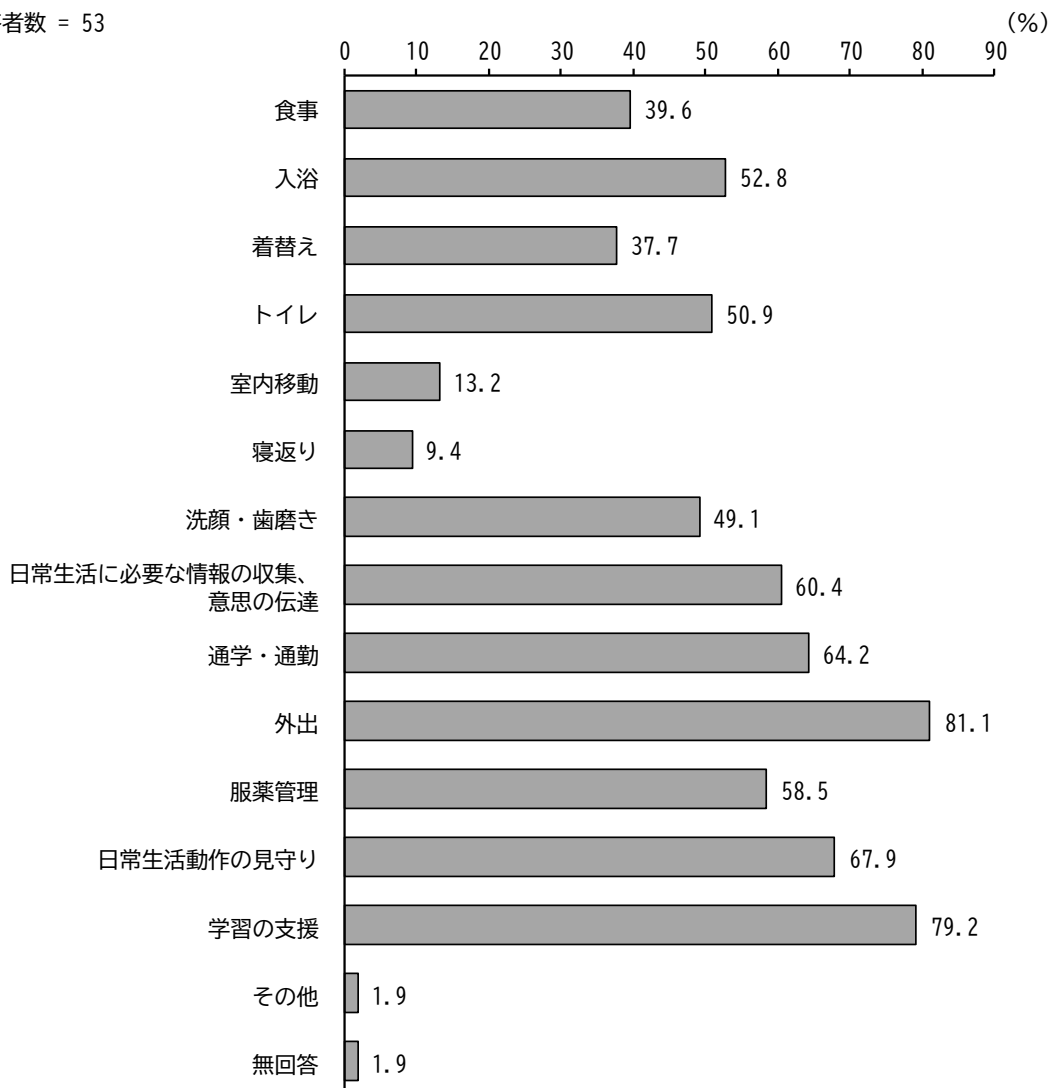
問 6-2 お子さんに必要な支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

必要な支援は、「外出」が81.1%と最も高く、次いで「学習の支援」が79.2%、「日常生活動作の見守り」が67.9%となっている。

障害別にみると、身体障害で「室内移動」が50.0%、「寝返り」が33.3%、「日常生活動作の見守り」が91.7%と高くなっている。また、発達障害で「服薬管理」が90.9%と高くなっている。

<図表Ⅱ－6－5 必要な支援（全体）>

回答者数 = 53



<図表Ⅱ－6－6 必要な支援（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	食事	入浴	着替え	トイレ	室内移動	寝返り	洗顔・ 歯磨き
全体	53	39.6	52.8	37.7	50.9	13.2	9.4	49.1
身体障害	12	58.3	75.0	66.7	75.0	50.0	33.3	75.0
知的障害	20	55.0	75.0	60.0	75.0	30.0	15.0	60.0
精神障害	2	-	50.0	50.0	50.0	-	-	100.0
難病（特定疾病）	3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	-	66.7
発達障害	11	45.5	63.6	63.6	72.7	18.2	18.2	63.6
手帳未取得	22	27.3	40.9	18.2	36.4	-	-	40.9

区分	日常生活に必要な 情報の収集、意思の 伝達	通学・通勤	外出	服薬管理	見守り 日常生活動作の	学習の支援	その他	無回答
全体	60.4	64.2	81.1	58.5	67.9	79.2	1.9	1.9
身体障害	83.3	91.7	83.3	75.0	91.7	91.7	-	-
知的障害	80.0	95.0	95.0	75.0	70.0	100.0	-	-
精神障害	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0	-	-
難病（特定疾病）	66.7	66.7	100.0	66.7	66.7	100.0	-	-
発達障害	81.8	90.9	100.0	90.9	72.7	100.0	-	-
手帳未取得	40.9	31.8	68.2	36.4	63.6	54.5	4.5	4.5

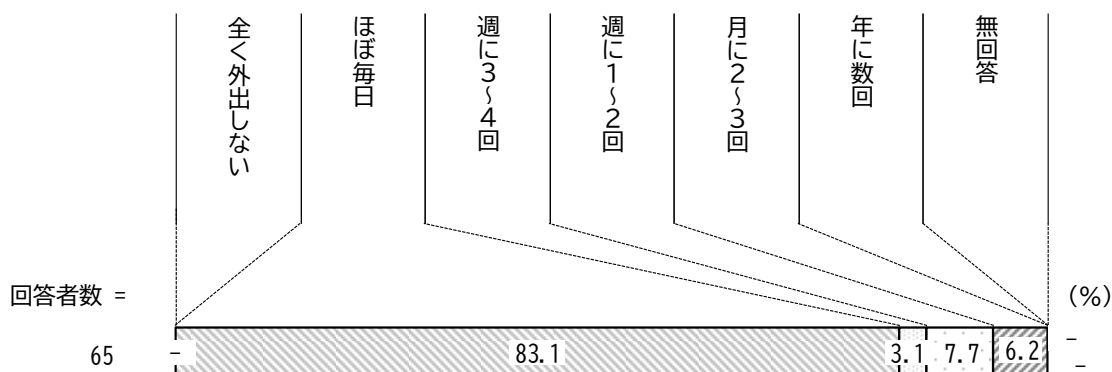
(2) 外出の頻度

問7 通院を含め、お子さんの外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

外出の頻度は、「ほぼ毎日」が83.1%となっている。

障害別にみると、身体障害、知的障害、手帳未取得で「ほぼ毎日」がそれぞれ84.6%、86.4%、87.1%と高くなっており、発達障害で「月に2～3回」が27.3%と高くなっている。

<図表Ⅱ-7-1 外出頻度(全体)>



<図表Ⅱ-7-2 外出頻度(障害別)>

区分	回答者数(件)	全く外出しない	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に2～3回	年に数回	無回答
全体	65	-	83.1	3.1	7.7	6.2	-	-
身体障害	13	-	84.6	-	-	15.4	-	-
知的障害	22	-	86.4	-	4.5	9.1	-	-
精神障害	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-
難病(特定疾病)	3	-	66.7	-	33.3	-	-	-
発達障害	11	-	63.6	9.1	-	27.3	-	-
手帳未取得	31	-	87.1	3.2	9.7	-	-	-

(3) 外出における困りごと

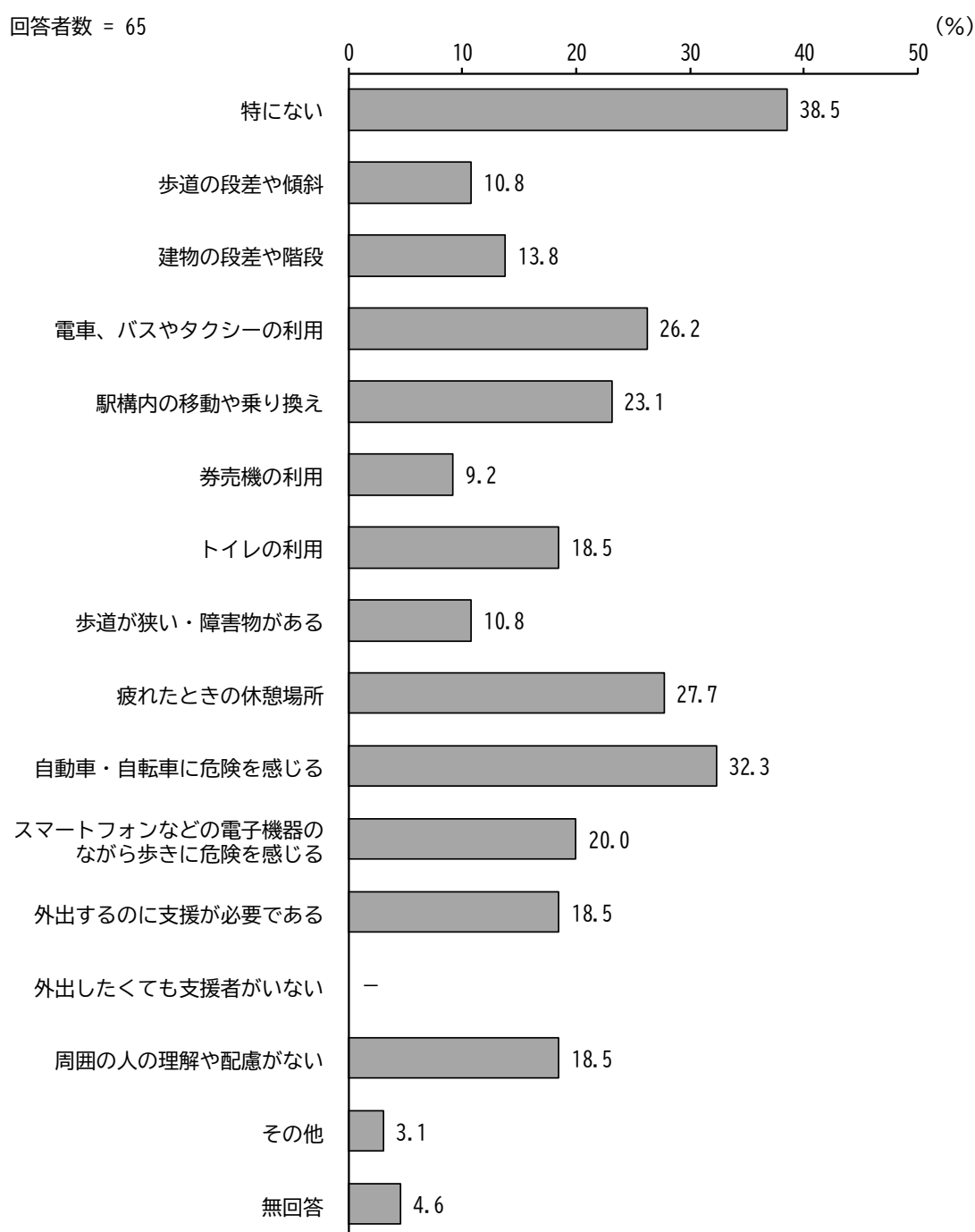
問8 お子さんとの外出について困っていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

外出における困りごとがある割合は、56.9%（全体から「特にない」38.5%と「無回答」4.6%を除いたもの）となっている。具体的には、「自動車・自転車に危険を感じる」が32.3%と最も高く、次いで「疲れたときの休憩場所」が27.7%となっている。

障害別にみると、身体障害で「建物の段差や階段」が61.5%、「電車、バスやタクシーの利用」、「トイレの利用」が69.2%と高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ「建物の段差や階段」、「駅構内の移動や乗り換え」、「外出するのに支援が必要である」が高くなる傾向がみられる。

<図表Ⅱ-8-1 外出での困りごと（全体）>



<図表Ⅱ－8－2 外出での困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る
全体	65	38.5	10.8	13.8	26.2	23.1	9.2	18.5	10.8
身体障害	13	7.7	53.8	61.5	69.2	76.9	15.4	69.2	38.5
知的障害	22	27.3	22.7	31.8	36.4	40.9	13.6	36.4	13.6
精神障害	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-
難病（特定疾病）	3	-	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3
発達障害	11	9.1	18.2	27.3	54.5	54.5	18.2	36.4	9.1
手帳未取得	31	58.1	-	-	12.9	3.2	3.2	3.2	3.2

区分	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る	ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き に 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 で あ る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 圍 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	そ の 他	無 回 答
全体	27.7	32.3	20.0	18.5	-	18.5	3.1	4.6
身体障害	61.5	46.2	46.2	38.5	-	46.2	7.7	-
知的障害	40.9	36.4	27.3	31.8	-	27.3	-	-
精神障害	100.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-
難病（特定疾病）	66.7	66.7	33.3	100.0	-	33.3	-	-
発達障害	54.5	45.5	36.4	36.4	-	36.4	9.1	-
手帳未取得	16.1	19.4	9.7	3.2	-	6.5	-	6.5

<図表Ⅱ－８－３ 外出での困りごと（年齢別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	歩 道 の 段 差 や 傾 斜	建 物 の 段 差 や 階 段	電 車 、 バ ス や タ ク シ ー の 利 用	駅 構 内 の 移 動 や 乗 り 換 え	券 売 機 の 利 用	ト イ レ の 利 用	歩 道 が 狭 い ・ 障 害 物 が あ る
全体	65	38.5	10.8	13.8	26.2	23.1	9.2	18.5	10.8
未就学児	22	45.5	9.1	9.1	27.3	13.6	4.5	18.2	18.2
就学期	23	39.1	8.7	13.0	21.7	26.1	4.3	17.4	4.3
中高生	20	30.0	15.0	20.0	30.0	30.0	20.0	20.0	10.0

区分	疲 れ た と き の 休 憩 場 所	自 動 車 ・ 自 転 車 に 危 険 を 感 じ る	ス マ ー ト フ ォ ン な ど の 電 子 機 器 の な が ら 歩 き に 危 険 を 感 じ る	外 出 す る の に 支 援 が 必 要 で あ る	外 出 し た く て も 支 援 者 が い な い	周 圍 の 人 の 理 解 や 配 慮 が な い	そ の 他	無 回 答
全体	27.7	32.3	20.0	18.5	-	18.5	3.1	4.6
未就学児	27.3	31.8	18.2	9.1	-	13.6	-	4.5
就学期	26.1	13.0	17.4	13.0	-	13.0	-	8.7
中高生	30.0	55.0	25.0	35.0	-	30.0	10.0	-

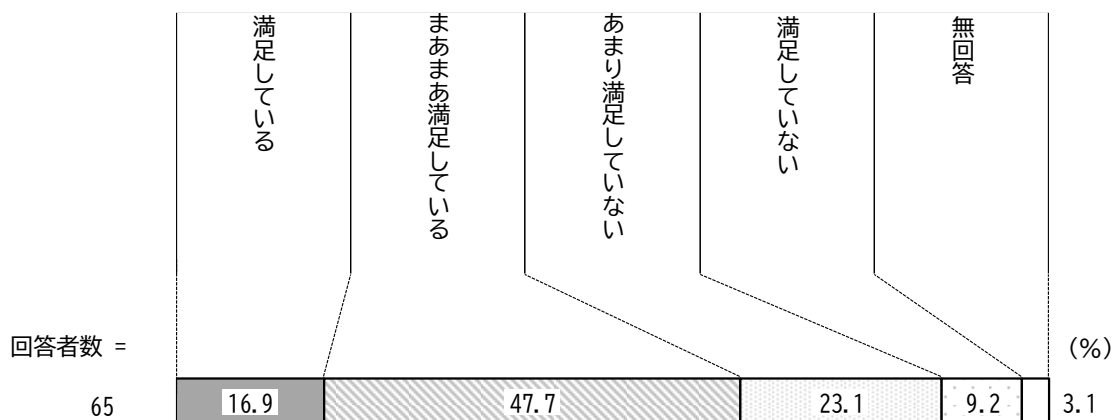
(4) まちのバリアフリー対応の満足度

問9 まちのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

まちのバリアフリー対応の満足度は、「満足している」16.9%と「まあまあ満足している」47.7%をあわせた『満足』が64.6%となっている。

障害別にみると、知的障害で『満足』が59.1%と高くなっている。

<図表Ⅱ-9-1 まちのバリアフリー対応の満足度(全体)>



<図表Ⅱ-9-2 まちのバリアフリー対応の満足度(障害別)>

区分	回答者数(件)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	65	16.9	47.7	23.1	9.2	3.1
身体障害	13	7.7	30.8	38.5	23.1	-
知的障害	22	18.2	40.9	27.3	13.6	-
精神障害	2	50.0	50.0	-	-	-
難病(特定疾病)	3	-	-	66.7	33.3	-
発達障害	11	9.1	36.4	36.4	18.2	-
手帳未取得	31	19.4	54.8	19.4	3.2	3.2

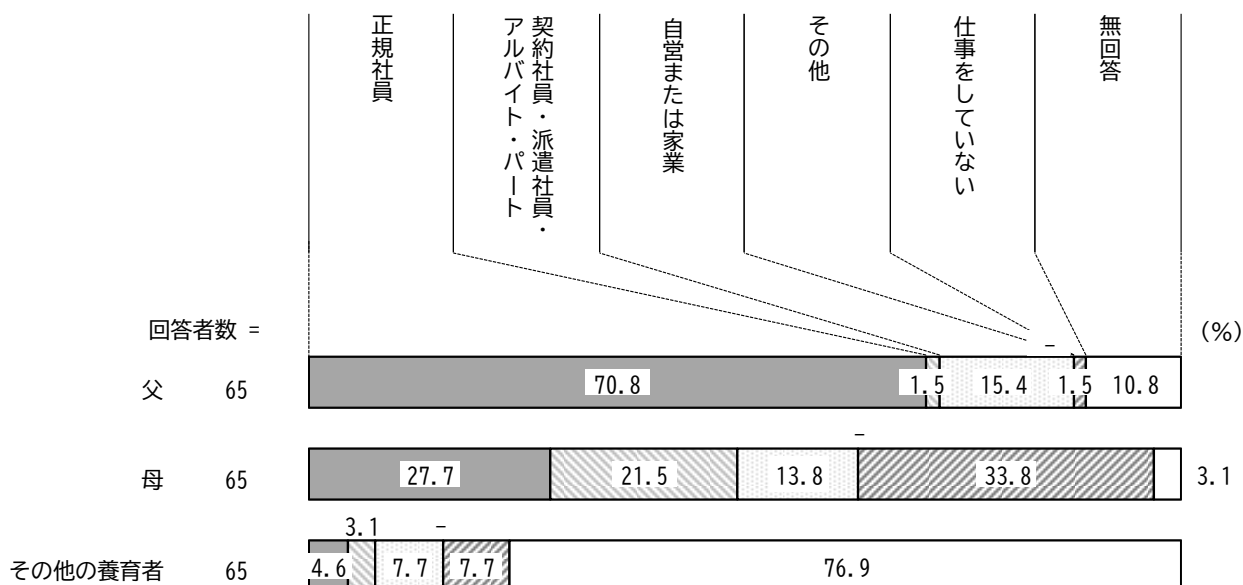
4. 生活を支援している方の仕事について

(1) 支援者の就業状況

問 10 現在の就業状況を教えてください。(あてはまる欄に○)

現在の就労状況は、父は「正規社員」が70.8%、母は「仕事をしていない」が33.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-10-1 現在の就業状況(全体)>



<図表Ⅱ-10-2 現在の就業状況(父：障害別)>

区分	回答者数(件)	正規社員	契約社員・派遣社員・アルバイト・パート	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
全体	65	70.8	1.5	15.4	-	1.5	10.8
身体障害	13	84.6	-	7.7	-	-	7.7
知的障害	22	77.3	4.5	13.6	-	-	4.5
精神障害	2	100.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	66.7	-	-	-	-	33.3
発達障害	11	54.5	9.1	18.2	-	-	18.2
手帳未取得	31	74.2	-	16.1	-	-	9.7

<図表Ⅱ-10-3 現在の就業状況（母：障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	正規社員	契約社員・派遣社員・ アルバイト・パート	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
全体	65	27.7	21.5	13.8	-	33.8	3.1
身体障害	13	38.5	15.4	7.7	-	38.5	-
知的障害	22	36.4	18.2	13.6	-	27.3	4.5
精神障害	2	-	-	-	-	100.0	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	33.3	-	33.3	-
発達障害	11	18.2	9.1	9.1	-	63.6	-
手帳未取得	31	22.6	19.4	12.9	-	41.9	3.2

<図表Ⅱ-10-4 現在の就業状況（その他の養育者：障害別）> (%)

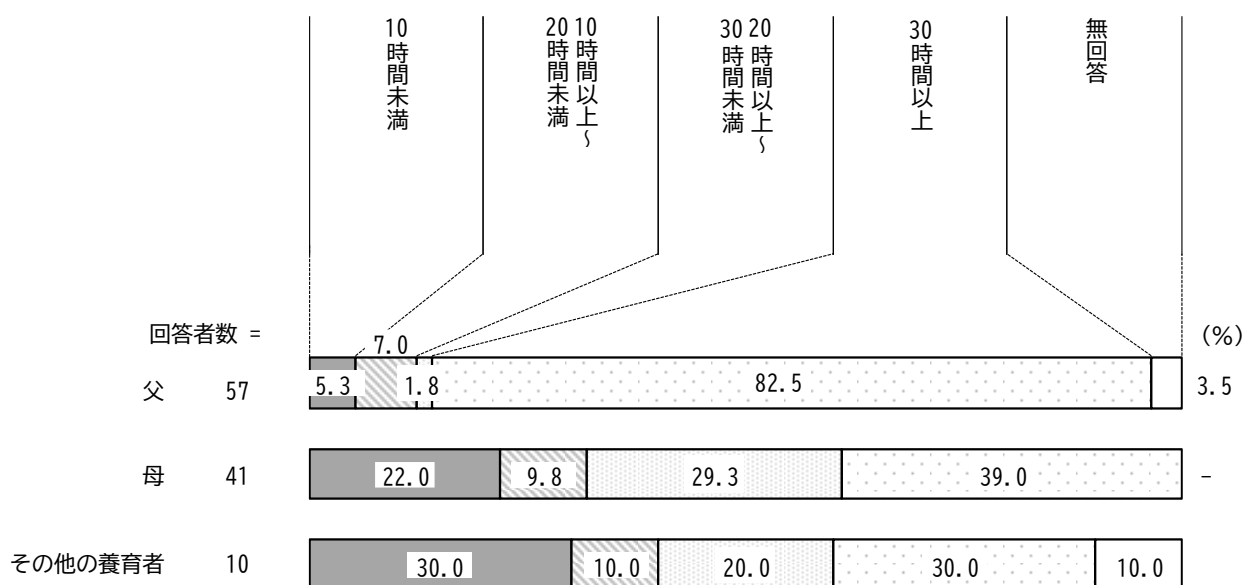
区分	回答者数 (件)	正規社員	契約社員・派遣社員・ アルバイト・パート	自営または家業	その他	仕事をしていない	無回答
全体	65	4.6	3.1	7.7	-	7.7	76.9
身体障害	13	-	-	-	-	23.1	76.9
知的障害	22	-	4.5	9.1	-	13.6	72.7
精神障害	2	-	-	-	-	-	100.0
難病（特定疾病）	3	-	-	-	-	33.3	66.7
発達障害	11	-	9.1	9.1	-	-	81.8
手帳未取得	31	6.5	3.2	9.7	-	3.2	77.4

(2) 支援者の就業時間

問 10-1 問 10 で 1~4 に○をした方におたずねします。
働いているのは、週に何時間くらいですか。(あてはまる欄に○)

支援者の就業時間は、父、母ともに「30 時間以上」が高くなっている。

<図表Ⅱ-10-5 週の労働時間（全体）>



<図表Ⅱ-10-6 週の労働時間（父：障害別）>

区分	回答者数 (件)	10時間未満	10時間以上 20時間未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上	無回答	(%)
全体	57	5.3	7.0	1.8	82.5	3.5	
身体障害	12	-	-	-	100.0	-	
知的障害	21	-	4.8	-	90.5	4.8	
精神障害	2	-	-	-	100.0	-	
難病（特定疾病）	2	-	-	-	100.0	-	
発達障害	9	-	11.1	-	77.8	11.1	
手帳未取得	28	7.1	7.1	3.6	78.6	3.6	

<図表Ⅱ-10-7 週の労働時間（母：障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	10 時間未 満	20 10 時間未 満以上 }	30 20 時間未 満以上 }	30 時間以上	無回 答
全体	41	22.0	9.8	29.3	39.0	-
身体障害	8	25.0	-	25.0	50.0	-
知的障害	15	13.3	13.3	13.3	60.0	-
精神障害	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	2	50.0	-	50.0	-	-
発達障害	4	25.0	-	25.0	50.0	-
手帳未取得	17	17.6	11.8	41.2	29.4	-

<図表Ⅱ-10-8 週の労働時間（その他の養育者：障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	10 時間未 満	20 10 時間未 満以上 }	30 20 時間未 満以上 }	30 時間以上	無回 答
全体	10	30.0	10.0	20.0	30.0	10.0
身体障害	-	-	-	-	-	-
知的障害	3	-	33.3	66.7	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	-	-	-	-	-	-
発達障害	2	-	50.0	50.0	-	-
手帳未取得	6	50.0	-	-	50.0	-

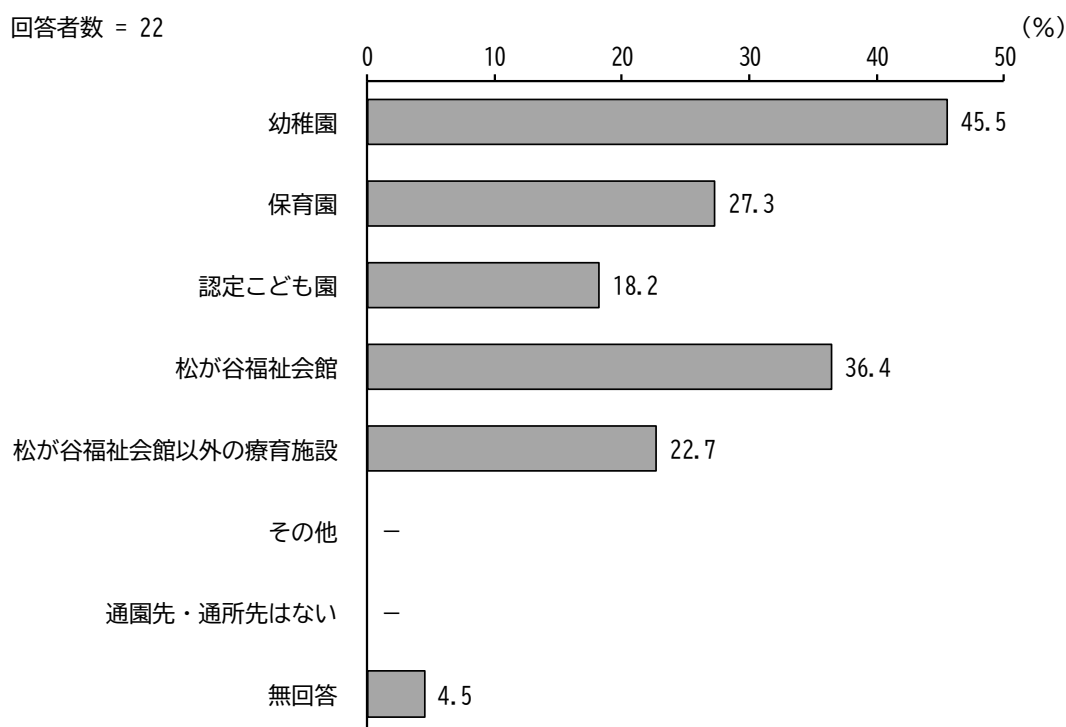
5. 療育・教育について

(1) 日中の活動の場

問11 お子さんは、平日の日中、どこで過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

未就学の方の日中の活動の場は、「幼稚園」が45.5%と最も高く、次いで「松が谷福祉会館」が36.4%、「保育園」が27.3%となっている。

<図表Ⅱ-11-1 日中の活動の場（未就学）>



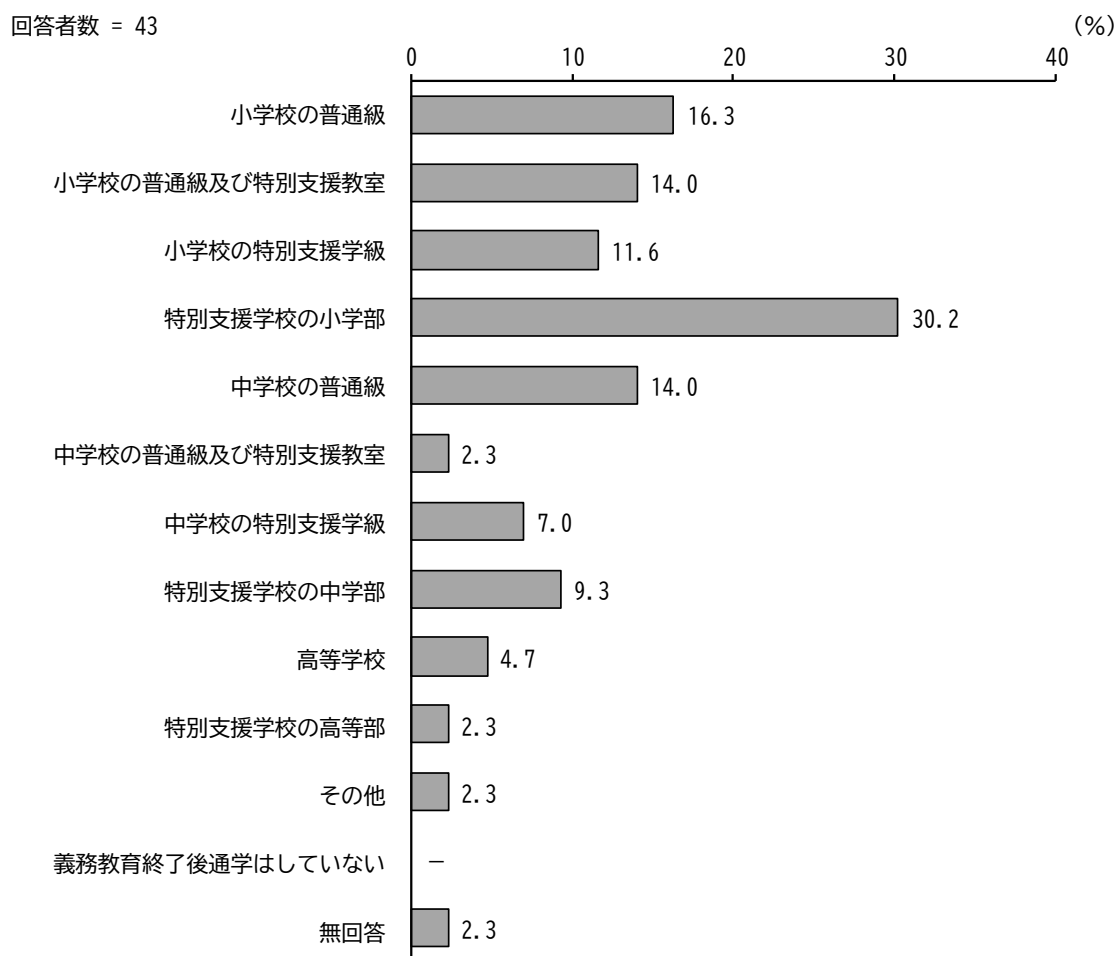
<図表Ⅱ-11-2 日中の活動の場（未就学）（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	幼稚園	保育園	認定こども園	松が谷福祉会館	松が谷福祉会館以外の療育施設	その他	通園先・通所先はない	無回答
全体	22	45.5	27.3	18.2	36.4	22.7	—	—	4.5
身体障害	4	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	—	—	—
知的障害	2	50.0	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—
精神障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—
難病（特定疾病）	—	—	—	—	—	—	—	—	—
発達障害	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手帳未取得	15	46.7	26.7	20.0	40.0	20.0	—	—	—

就学期以降の方の日中の活動の場は、「特別支援学校の小学部」が 30.2%と最も高く、次いで「小学校の普通級」が 16.3%、「小学校の普通級及び特別支援教室」、「中学校の普通級」が 14.0%となっている。

<図表Ⅱ-11-3 日中の活動の場（就学期以降）>



<図表Ⅱ-11-4 日中の活動の場（就学期以降）（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	小学校の普通級	小学校の普通級及び特別支援教室	小学校の特別支援学級	特別支援学校の小学部	中学校の普通級	中学校の普通級及び特別支援教室	中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部	高等学校	特別支援学校の高等部	その他	義務教育終了後通学はしていない	無回答
全体	43	16.3	14.0	11.6	30.2	14.0	2.3	7.0	9.3	4.7	2.3	2.3	—	2.3
身体障害	9	—	—	—	66.7	11.1	11.1	—	11.1	—	—	—	—	—
知的障害	20	5.0	—	15.0	60.0	5.0	—	10.0	15.0	5.0	5.0	—	—	—
精神障害	2	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—
難病 (特定疾病)	3	—	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—
発達障害	11	—	—	18.2	54.5	9.1	—	18.2	—	—	9.1	9.1	—	—
手帳未取得	16	37.5	37.5	6.3	—	18.8	—	—	—	—	—	—	—	6.3

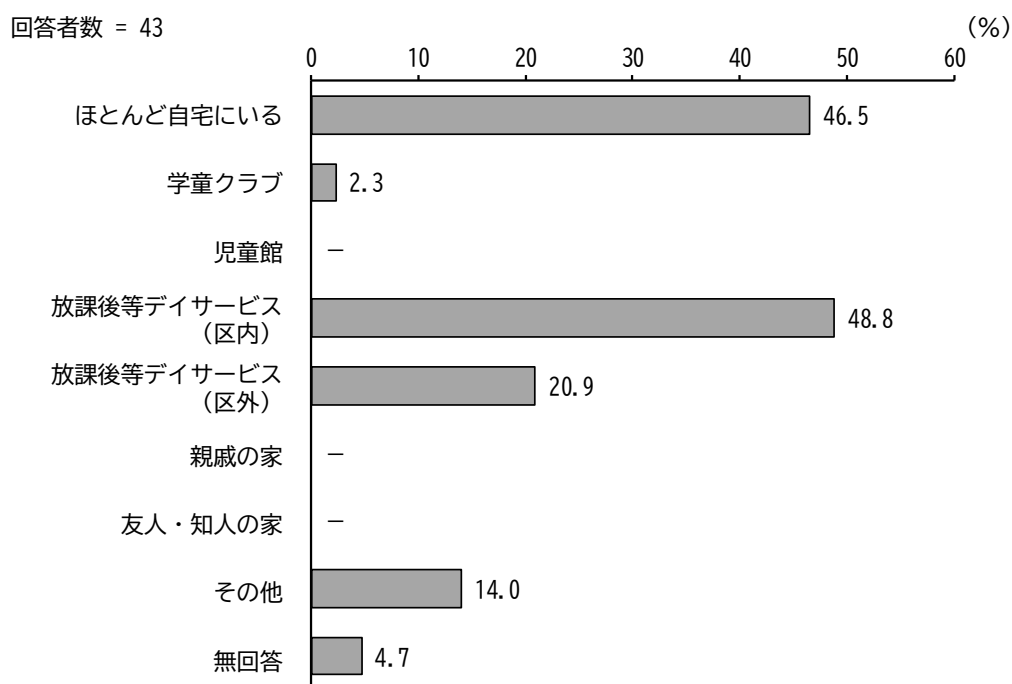
(2) 放課後の過ごし方

問 11-1 問 11 の B で 8～17 に ○ をした方におたずねします。
 お子さんは学校が終わった後、どこで過ごしていますか。
 (あてはまるものすべてに○)

放課後の過ごし方は、「放課後等デイサービス (区内)」が 48.8%と最も高く、次いで「ほとんど自宅にいる」が 46.5%、「放課後等デイサービス (区外)」が 20.9%となっている。

障害別にみると、身体障害、発達障害で「ほとんど自宅にいる」がそれぞれ 70.0%、60.0%、手帳未取得で「放課後等デイサービス (区内)」が 62.5%と高くなっている。

<図表Ⅱ-11-5 放課後の過ごし方 (全体) >



<図表Ⅱ-11-6 放課後の過ごし方 (障害別) > (%)

区分	回答者数 (件)	ほとんど自宅にいる	学童クラブ	児童館	放課後等デイサービス (区内)	放課後等デイサービス (区外)	親戚の家	友人・知人の家	その他	無回答
全体	43	46.5	2.3	-	48.8	20.9	-	-	14.0	4.7
身体障害	10	70.0	-	-	20.0	30.0	-	-	-	-
知的障害	20	35.0	-	-	55.0	25.0	-	-	10.0	-
精神障害	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
難病 (特定疾病)	3	66.7	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-
発達障害	10	60.0	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-
手帳未取得	16	37.5	6.3	-	62.5	25.0	-	-	25.0	12.5

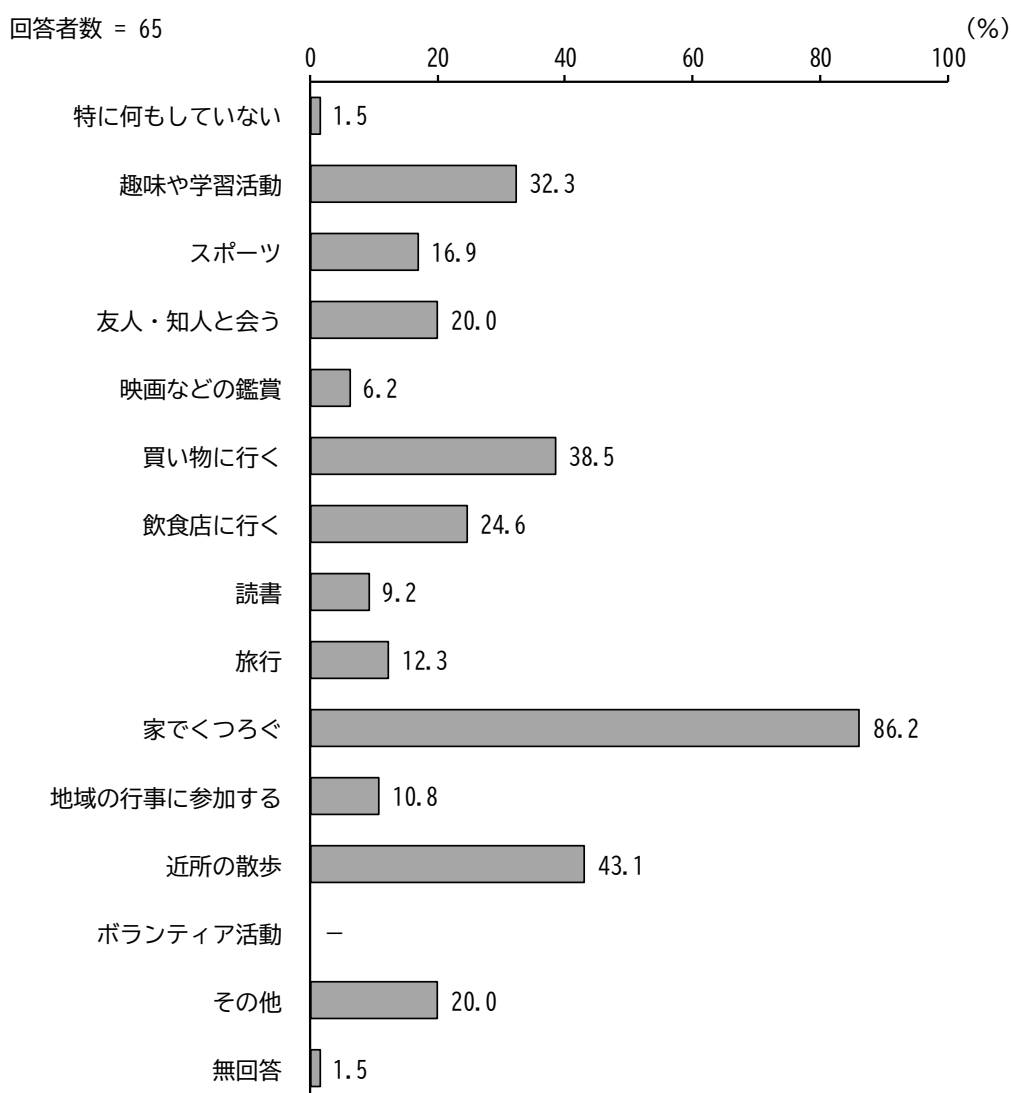
(3) 休日や余暇時間の過ごし方

問12 お子さんは、休日や時間的余裕のあるとき、どのように過ごしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

休日や余暇時間の過ごし方は、「家でくつろぐ」が86.2%と最も高く、次いで「近所の散歩」が43.1%、「買い物に行く」が38.5%となっている。

障害別にみると、身体障害で「飲食店に行く」が30.8%、「近所の散歩」46.2%と高くなっている。また、手帳未取得で「趣味や学習活動」が38.7%、「買い物に行く」が51.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-12-1 休日や余暇時間の過ごし方(全体)>



<図表Ⅱ-12-2 休日や余暇時間の過ごし方（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特に何もしていない	趣味や学習活動	スポーツ	友人・知人と会う	映画などの鑑賞	買い物に行く	飲食店に行く
全体	65	1.5	32.3	16.9	20.0	6.2	38.5	24.6
身体障害	13	7.7	7.7	15.4	23.1	-	23.1	30.8
知的障害	22	4.5	22.7	13.6	4.5	4.5	22.7	18.2
精神障害	2	-	50.0	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	3	-	-	33.3	-	-	-	-
発達障害	11	9.1	9.1	-	-	-	18.2	9.1
手帳未取得	31	-	38.7	19.4	25.8	9.7	51.6	25.8

区分	読書	旅行	家でくつろぐ	地域の行事に参加する	近所の散歩	ボランティア活動	その他	無回答
全体	9.2	12.3	86.2	10.8	43.1	-	20.0	1.5
身体障害	-	15.4	69.2	7.7	46.2	-	23.1	-
知的障害	-	-	77.3	9.1	40.9	-	27.3	-
精神障害	50.0	-	50.0	-	50.0	-	50.0	-
難病（特定疾病）	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-
発達障害	9.1	-	72.7	9.1	36.4	-	27.3	-
手帳未取得	16.1	19.4	96.8	9.7	41.9	-	22.6	-

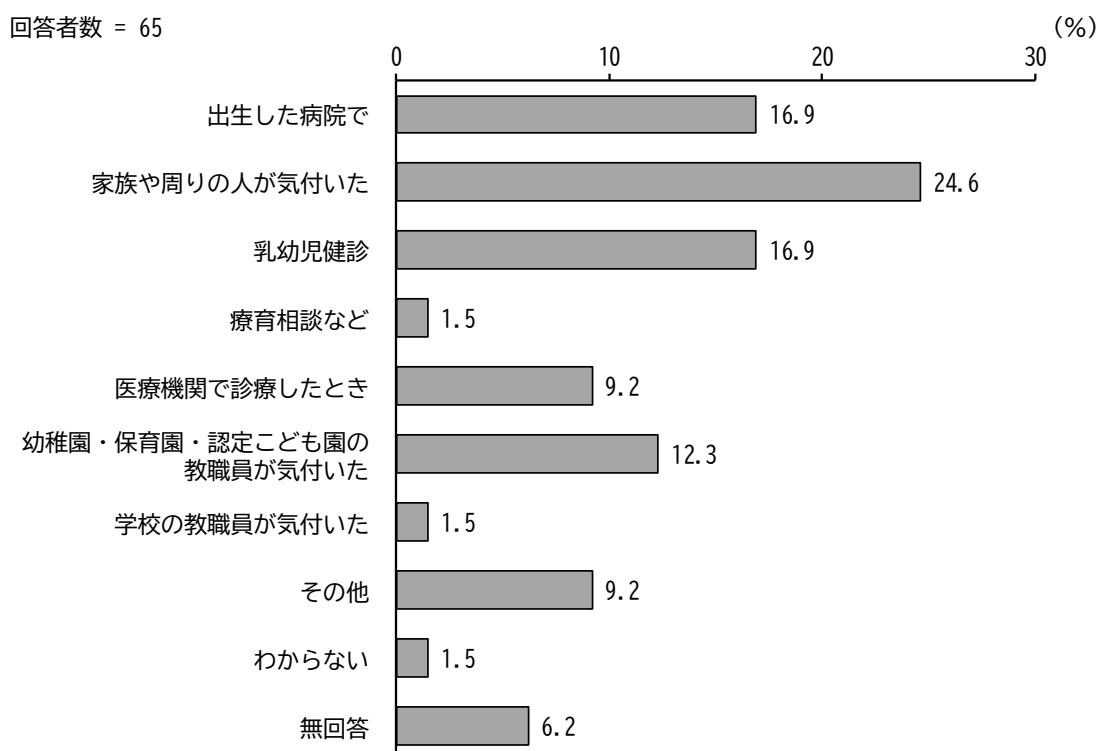
(4) 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ

問13 お子さんの成長や発達について、最初に気がかりなこと・心配なことがあったのはどのようなときでしたか。(1つに○)

成長や発達について気がかり・心配になったきっかけは、「家族や周りの人が気付いた」が24.6%と最も高く、次いで「出生した病院で」、「乳幼児健診」が16.9%となっている。

障害別にみると、身体障害、知的障害で「出生した病院で」がそれぞれ46.2%、45.5%と高くなっている。また、手帳未取得で「家族や周りの人が気付いた」が29.0%、「乳幼児健診」が22.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-13-1 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ(全体)>



<図表Ⅱ-13-2 成長や発達について気がかり・心配になったきっかけ(障害別)> (%)

区分	回答者数(件)	出生した病院で	家族や周りの人が気付いた	乳幼児健診	療育相談など	医療機関で診療したとき	幼稚園・保育園・認定こども園の教職員が気付いた	学校の教職員が気付いた	その他	わからない	無回答
全体	65	16.9	24.6	16.9	1.5	9.2	12.3	1.5	9.2	1.5	6.2
身体障害	13	46.2	15.4	7.7	-	15.4	15.4	-	-	-	-
知的障害	22	45.5	13.6	18.2	-	4.5	4.5	-	4.5	-	9.1
精神障害	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-
発達障害	11	27.3	18.2	18.2	-	9.1	-	-	9.1	-	18.2
手帳未取得	31	-	29.0	22.6	3.2	6.5	16.1	3.2	16.1	3.2	-

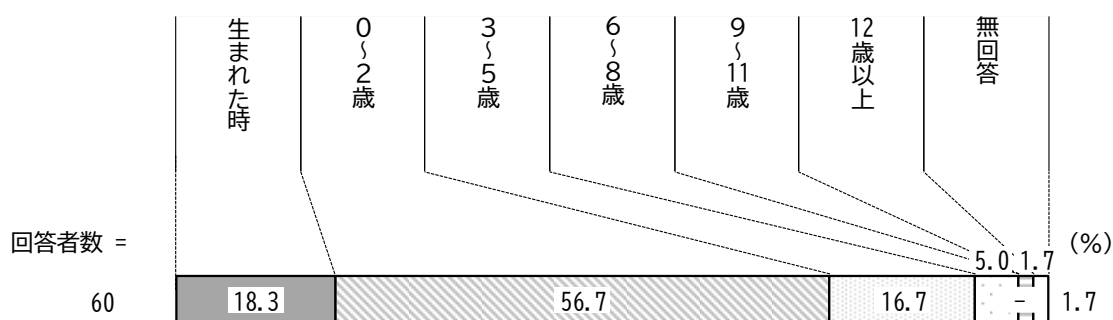
(5) 成長や発達について気がかり・心配になった時期

問13-1 問13で1～8に○をした方におたずねします。その時期はいつですか。
(1つに○) 選択肢2を選択した場合、その時の年齢はいくつでしたか。

成長や発達について気がかり・心配になった時期は、「0～2歳」が56.7%と最も高く、次いで「生まれた時」が18.3%、「3～5歳」が16.7%となっている。

障害別にみると、知的障害が「生まれた時」で50.0%、手帳未取得で「0～2歳」が70.0%と高くなっている。

<図表Ⅱ-13-3 成長や発達について気がかり・心配になった時期（全体）>



<図表Ⅱ-13-4 成長や発達について気がかり・心配になった時期（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	生まれた時	0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12歳以上	無回答
全体	60	18.3	56.7	16.7	5.0	-	1.7	1.7
身体障害	13	46.2	38.5	7.7	7.7	-	-	-
知的障害	20	50.0	45.0	5.0	-	-	-	-
精神障害	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0
難病（特定疾病）	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-
発達障害	9	44.4	44.4	-	-	-	-	11.1
手帳未取得	30	-	70.0	23.3	6.7	-	-	-

(6) 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先

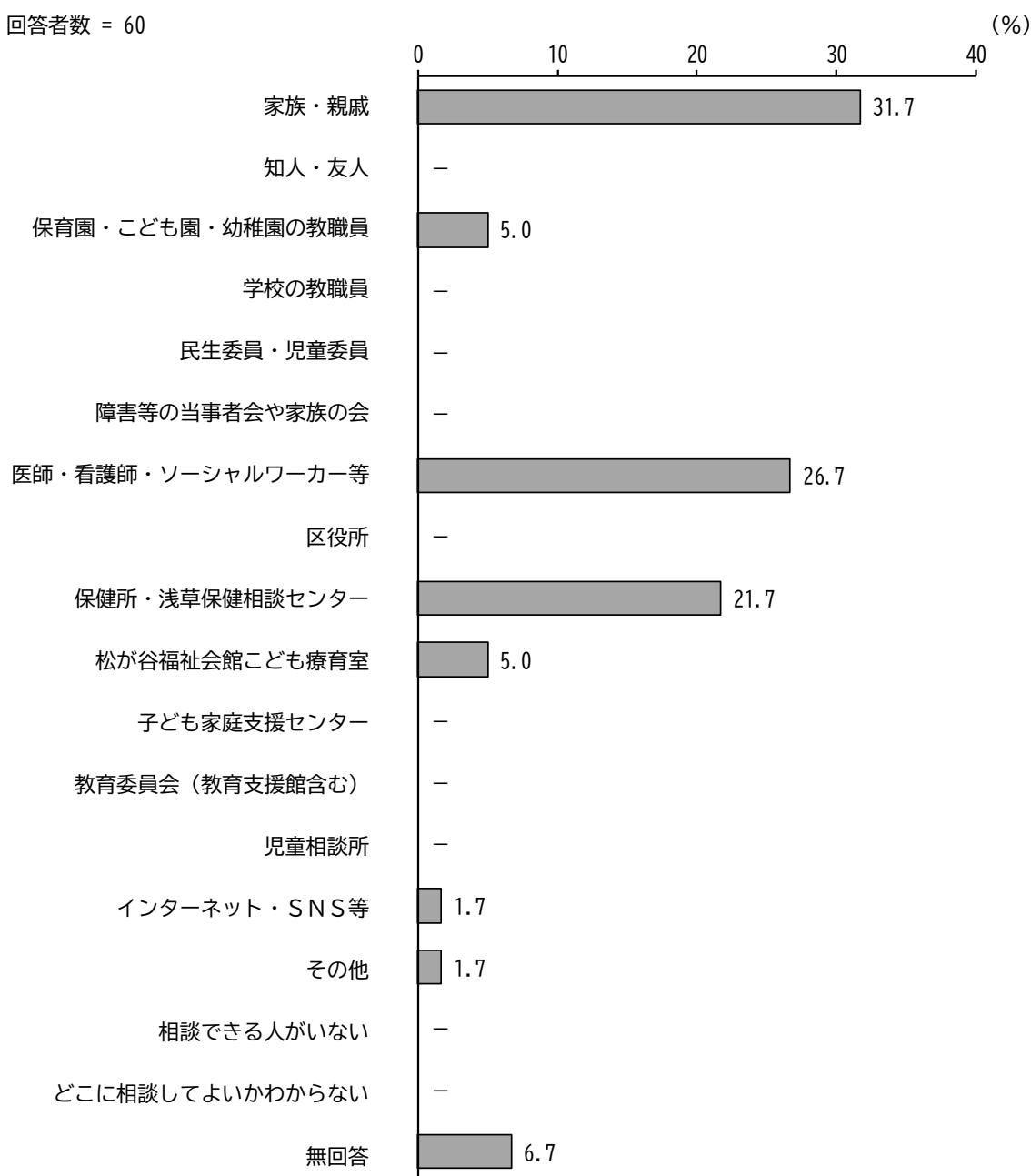
問 13-2 問 13 で 1～8 に○をした方におたずねします。お子さんの成長や発達について最初に気がかりなこと・心配なことがあったとき、相談した相手はだれですか。(1つに○)

成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先は、「家族・親戚」が 31.7%と最も高く、次いで「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が 26.7%、「保健所・浅草保健相談センター」が 21.7%となっている。

障害別にみると、身体障害で「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が 61.5%と高くなっている。また、手帳未取得で「家族・親戚」が 40.0%と高くなっている。

<図表Ⅱ-13-5 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先(全体)>

回答者数 = 60



<図表Ⅱ-13-6 成長や発達について気がかり・心配になったときの相談先（障害別）>（％）

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	幼稚園・こども園・ 保育園の教職員	学校の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会 や家族の会	医師・看護師・ソ シヤルワーカー等	区役所	保健所・浅草保健 相談センター
全体	60	31.7	-	5.0	-	-	-	26.7	-	21.7
身体障害	13	15.4	-	-	-	-	-	61.5	-	7.7
知的障害	20	20.0	-	-	-	-	-	40.0	-	25.0
精神障害	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
難病（特定疾病）	3	-	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3
発達障害	9	11.1	-	-	-	-	-	44.4	-	44.4
手帳未取得	30	40.0	-	10.0	-	-	-	13.3	-	20.0

区分	松が谷福祉社会館 こども療育室	子ども家庭支援 センター	教育委員会 (教育支援館含む)	児童相談所	インターネット・ SNS等	その他	相談できる人が いない	どこに相談して よいかわからない	無回答
全体	5.0	-	-	-	1.7	1.7	-	-	6.7
身体障害	-	-	-	-	7.7	-	-	-	7.7
知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	15.0
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手帳未取得	10.0	-	-	-	-	3.3	-	-	3.3

(7) 育児における悩みや不安

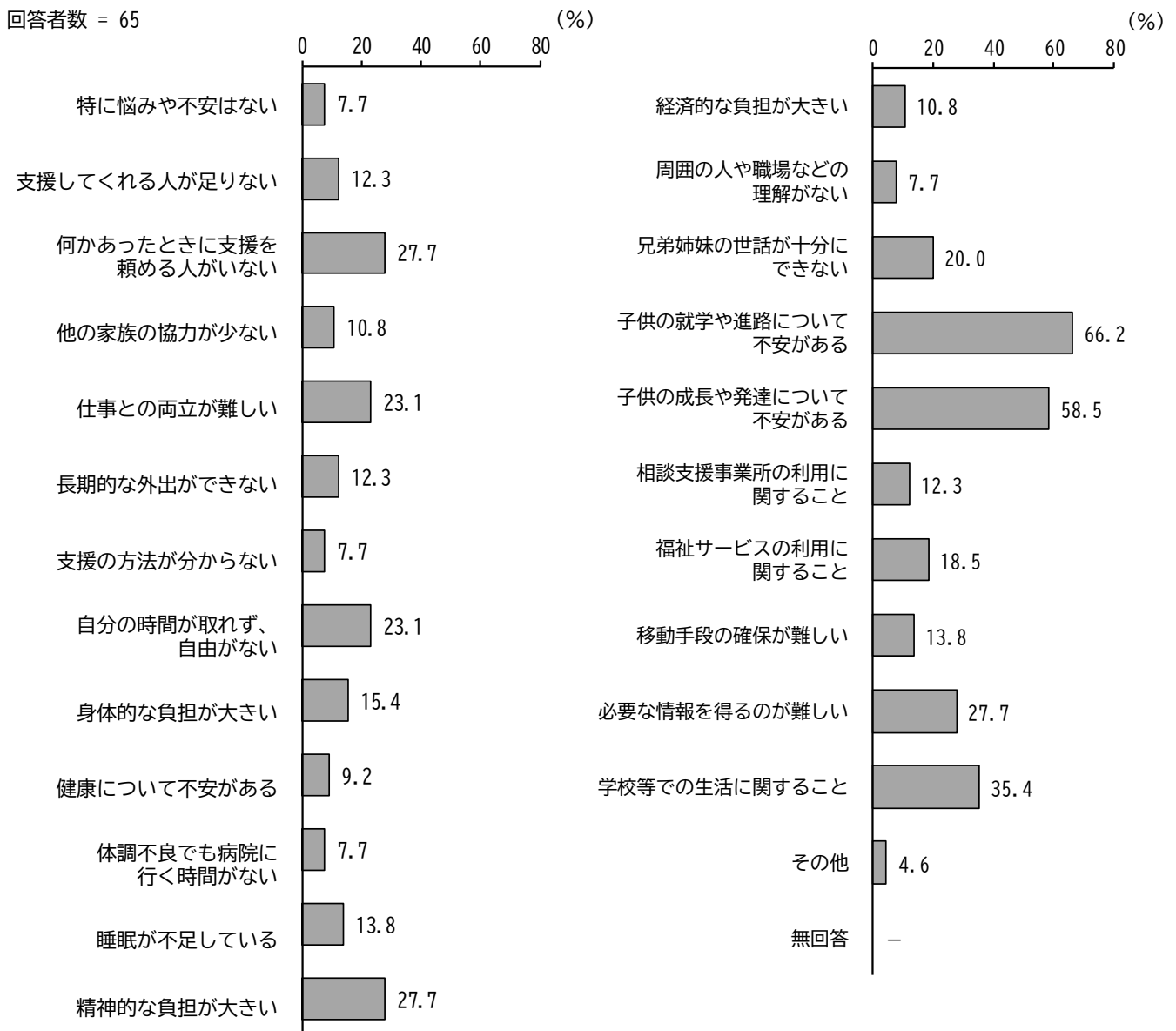
問 14 お子さんの育児をするにあたり、悩みや不安はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

育児における悩みや不安があると答えた割合は、92.3%（全体から「特に悩みや不安はない」7.7%を除いたもの）となっている。具体的には、「子供の就学や進路について不安がある」が66.2%と最も高く、次いで「子供の成長や発達について不安がある」が58.5%、「学校等での生活に関すること」が35.4%となっている。

障害別にみると、身体障害で「支援の方法が分からない」が23.1%、「自分の時間が取れず、自由がない」が53.8%、「身体的な負担が大きい」が69.2%と高くなっている。また、発達障害で「学校等での生活に関すること」が54.5%と高くなっている。

年齢別にみると、中高生で「子供の就学や進路について不安がある」が75.0%、未就学児で「子供の成長や発達について不安がある」が72.7%と高くなっている。

<図表Ⅱ-14-1 育児における悩みや不安（全体）>



<図表Ⅱ-14-2 育児における悩みや不安（障害別）>

(%)

区分	回答者数(件)	特に悩みや不安はない	支援してくれる人が足りない	何かあったときに支援を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	仕事との両立が難しい	長期的な外出ができない	支援の方法が分からない	自分の時間が取れず、自由がない	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している
全体	65	7.7	12.3	27.7	10.8	23.1	12.3	7.7	23.1	15.4	9.2	7.7	13.8
身体障害	13	-	38.5	46.2	30.8	46.2	38.5	23.1	53.8	69.2	15.4	30.8	46.2
知的障害	22	-	31.8	36.4	13.6	40.9	22.7	4.5	36.4	27.3	22.7	18.2	27.3
精神障害	2	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	50.0	-	-	50.0	50.0
難病（特定疾病）	3	-	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	-	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3
発達障害	11	-	45.5	45.5	18.2	45.5	36.4	9.1	36.4	27.3	27.3	27.3	45.5
手帳未取得	31	16.1	-	19.4	6.5	6.5	-	3.2	6.5	-	-	-	3.2

区分	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない	兄弟姉妹の世話が十分にできない	子供の就学や進路について不安がある	子供の成長や発達について不安がある	相談支援事業所の利用に関すること	福祉サービスの利用に関すること	移動手段の確保が難しい	必要な情報を得るのが難しい	学校等での生活に関すること	その他	無回答
全体	27.7	10.8	7.7	20.0	66.2	58.5	12.3	18.5	13.8	27.7	35.4	4.6	-
身体障害	53.8	38.5	23.1	46.2	69.2	61.5	7.7	23.1	38.5	38.5	30.8	7.7	-
知的障害	31.8	13.6	13.6	36.4	72.7	50.0	9.1	27.3	27.3	31.8	27.3	9.1	-
精神障害	50.0	50.0	-	-	50.0	100.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-
難病（特定疾病）	33.3	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-
発達障害	54.5	18.2	18.2	45.5	63.6	63.6	9.1	27.3	27.3	36.4	54.5	9.1	-
手帳未取得	22.6	-	-	9.7	61.3	54.8	16.1	12.9	3.2	22.6	38.7	3.2	-

<図表Ⅱ-14-3 育児における悩みや不安（年齢別）>

(%)

区分	回答者数(件)	特に悩みや不安はない	支援してくれる人が足りない	何かあったときに支援を頼める人がいない	他の家族の協力が少ない	仕事との両立が難しい	長期的な外出ができない	支援の方法が分からない	自分の時間が取れず、自由がない	身体的な負担が大きい	健康について不安がある	体調不良でも病院に行く時間がない	睡眠が不足している
全体	65	7.7	12.3	27.7	10.8	23.1	12.3	7.7	23.1	15.4	9.2	7.7	13.8
未就学児	22	22.7	4.5	13.6	13.6	18.2	4.5	4.5	22.7	18.2	—	4.5	13.6
就学期	23	—	17.4	21.7	8.7	21.7	13.0	8.7	26.1	13.0	8.7	4.3	13.0
中高生	20	—	15.0	50.0	10.0	30.0	20.0	10.0	20.0	15.0	20.0	15.0	15.0

区分	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	周囲の人や職場などの理解がない	兄弟姉妹の世話が十分にできない	子供の就学や進路について不安がある	子供の成長や発達について不安がある	相談支援事業所の利用に関すること	福祉サービスの利用に関すること	移動手段の確保が難しい	必要な情報を得るのが難しい	学校等での生活に関すること	その他	無回答
全体	27.7	10.8	7.7	20.0	66.2	58.5	12.3	18.5	13.8	27.7	35.4	4.6	—
未就学児	18.2	13.6	4.5	9.1	63.6	72.7	13.6	4.5	4.5	27.3	13.6	4.5	—
就学期	39.1	4.3	4.3	30.4	60.9	52.2	13.0	17.4	13.0	17.4	47.8	4.3	—
中高生	25.0	15.0	15.0	20.0	75.0	50.0	10.0	35.0	25.0	40.0	45.0	5.0	—

(8) 育児における悩みや不安の相談先

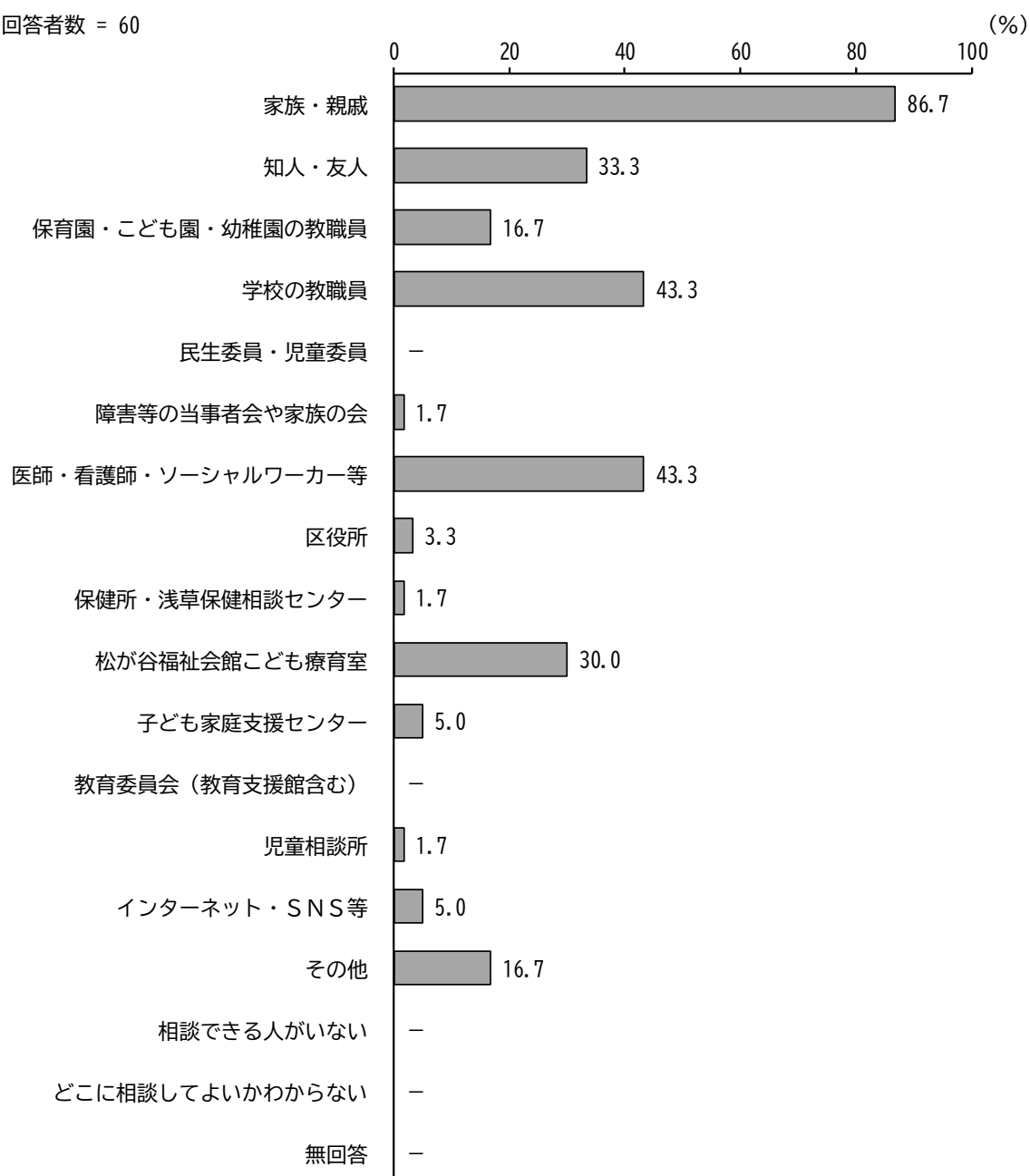
問 14-1 問 14 で 2～24 に○をした方におたずねします。お子さんの育児をするにあたり、悩みや困っていることを相談する相手はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

育児における悩みや不安の相談先は、「家族・親戚」が 86.7%と最も高く、次いで「学校の教職員」、「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が 43.3%となっている。

障害別にみると、身体障害で「医師・看護師・ソーシャルワーカー等」が 69.2%、知的障害と発達障害で「学校の教職員」がそれぞれ 68.2%、63.6%と高くなっている。また、発達障害で「インターネット・SNS等」が 18.2%、手帳未取得で「松が谷福祉会館こども療育室」が 42.3%と高くなっている。

<図表Ⅱ-14-4 育児における悩みや不安の相談相手（全体）>

回答者数 = 60



<図表Ⅱ-14-5 育児における悩みや不安の相談相手（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	知人・友人	保育園・こども園・ 幼稚園の教職員	学校の教職員	民生委員・児童委員	障害等の当事者会 や家族の会	医師・看護師・ソ シヤルワーカー等	区役所	保健所・浅草保健 相談センター
全体	60	86.7	33.3	16.7	43.3	-	1.7	43.3	3.3	1.7
身体障害	13	76.9	30.8	23.1	30.8	-	-	69.2	15.4	-
知的障害	22	81.8	31.8	9.1	68.2	-	4.5	40.9	9.1	-
精神障害	2	100.0	-	-	50.0	-	-	100.0	50.0	-
難病（特定疾病）	3	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-
発達障害	11	81.8	27.3	-	63.6	-	-	36.4	9.1	-
手帳未取得	26	84.6	30.8	19.2	38.5	-	-	46.2	-	3.8

区分	松が谷福祉会館 こども療育室	子ども家庭支 援センター	教育委員会 (教育支援館含む)	児童相談所	インターネット・ SNS等	その他	相談できる人が いない	どこに相談して よいかわからない	無回答
全体	30.0	5.0	-	1.7	5.0	16.7	-	-	-
身体障害	23.1	7.7	-	-	7.7	7.7	-	-	-
知的障害	18.2	4.5	-	-	13.6	27.3	-	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	-
発達障害	-	-	-	-	18.2	18.2	-	-	-
手帳未取得	42.3	7.7	-	3.8	-	15.4	-	-	-

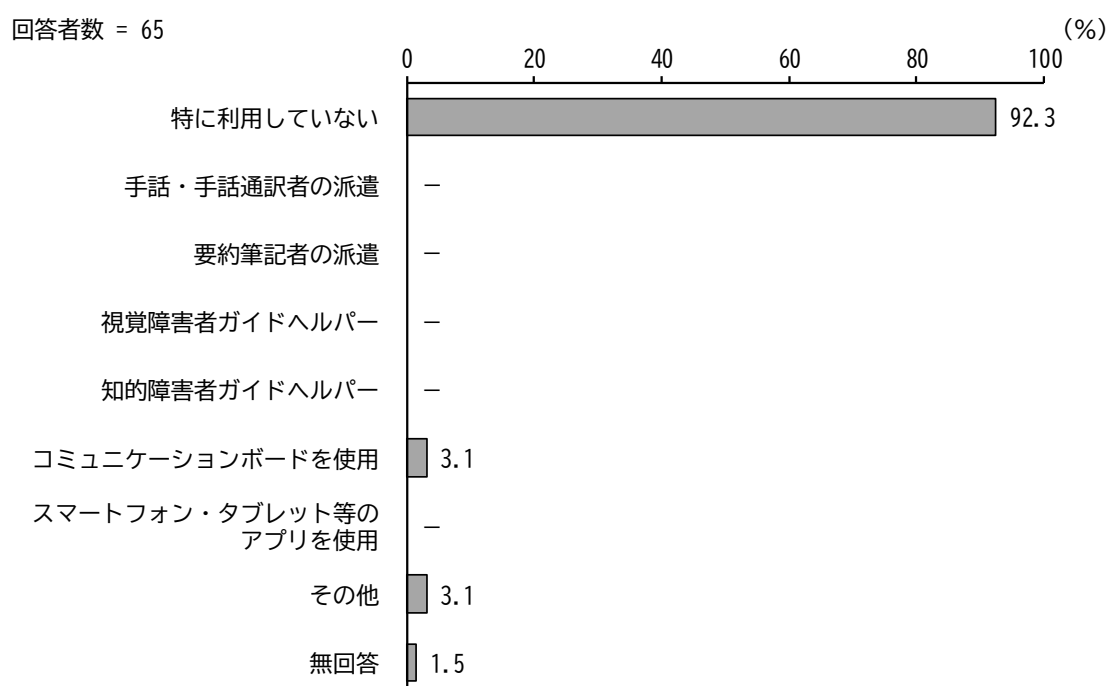
6. コミュニケーション・意思疎通について

(1) 利用する意思疎通手段・支援

問15 お子さんは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

利用する意思疎通手段・支援を利用している割合は、6.2% (全体から「特に利用していない」92.3%と「無回答」1.5%を除いたもの) となっている。具体的には「コミュニケーションボードを使用」が3.1%となっている。

<図表Ⅱ-15-1 利用する意思疎通手段・支援 (全体) >



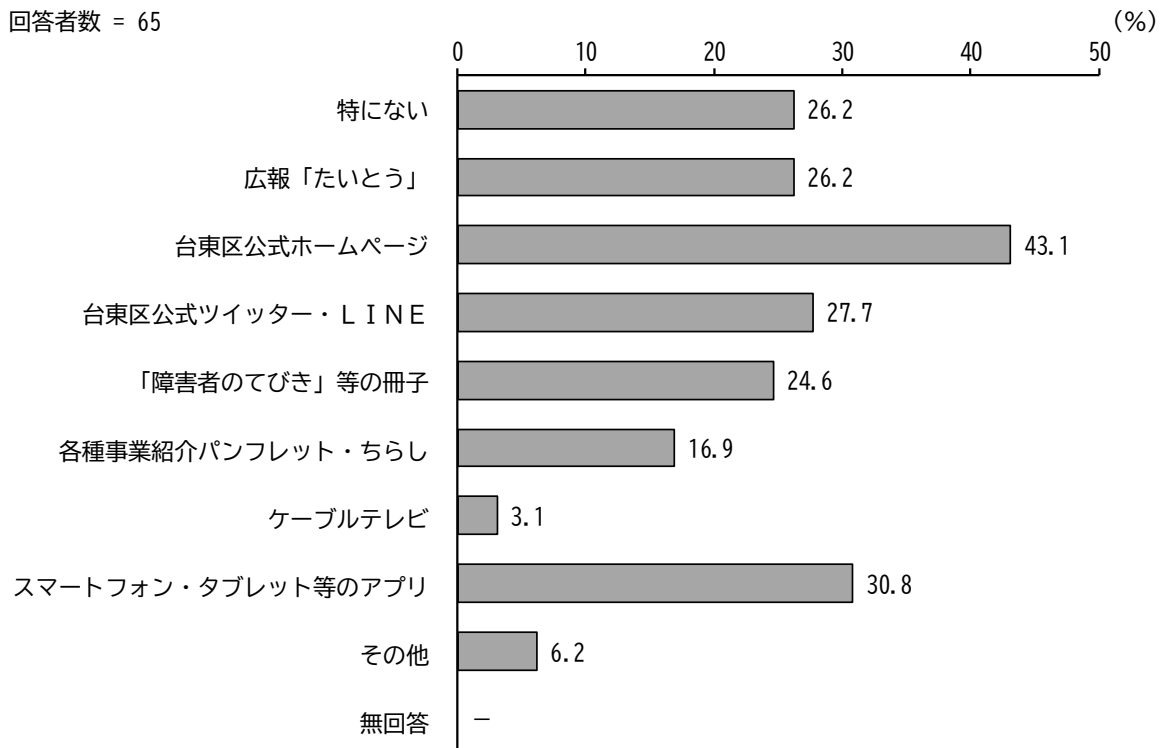
(2) 充実を希望する情報媒体

問 16 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

充実を希望する情報媒体は、「台東区公式ホームページ」が 43.1%と最も高く、次いで「スマートフォン・タブレット等のアプリ」が 30.8%、「台東区公式ツイッター・LINE」が 27.7%となっている。

障害別にみると、身体障害で「『障害者のてびき』等の冊子」が 61.5%、「各種事業紹介パンフレット・ちらし」が 30.8%と高くなっている。また、発達障害で「台東区公式ツイッター・LINE」が 45.5%、「スマートフォン・タブレット等のアプリ」が 72.7%と高くなっている。

<図表Ⅱ-16-1 充実を希望する情報媒体（全体）>



<図表Ⅱ-16-2 充実を希望する情報媒体（障害別）>

区分	回答者数 (件)	特にない	広報「たいとう」	台東区公式ホームページ	台東区公式ツイッター・LINE	「障害者のてびき」等の冊子	各種事業紹介パンフレット・ちらし	ケーブルテレビ	スマートフォン・タブレット等のアプリ	その他	無回答
全体	65	26.2	26.2	43.1	27.7	24.6	16.9	3.1	30.8	6.2	-
身体障害	13	7.7	30.8	53.8	23.1	61.5	30.8	15.4	38.5	-	-
知的障害	22	18.2	22.7	45.5	13.6	40.9	13.6	4.5	36.4	9.1	-
精神障害	2	-	-	50.0	100.0	50.0	-	50.0	100.0	-	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-
発達障害	11	-	27.3	54.5	45.5	36.4	-	9.1	72.7	-	-
手帳未取得	31	35.5	29.0	38.7	29.0	9.7	9.7	-	22.6	6.5	-

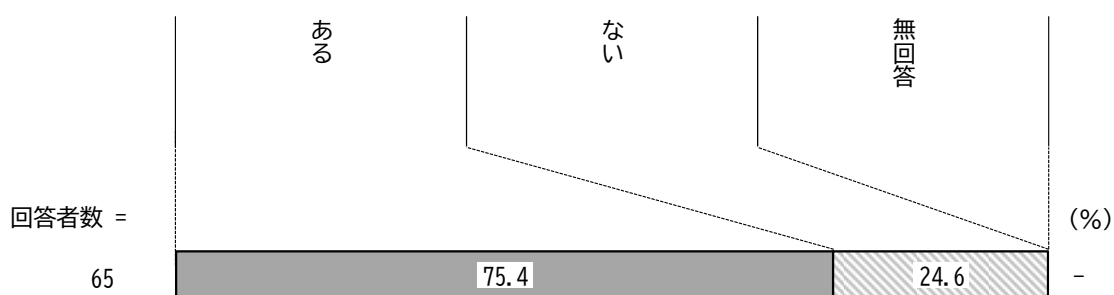
7. 障害福祉サービスについて

(1) 障害福祉サービスの利用状況、利用していない理由

問 17 お子さんは現在、利用している福祉サービスはありますか。(1つに○)

障害福祉サービスの利用状況は、「ある」が75.4%、「ない」が24.6%となっている。
障害別にみると、知的障害と手帳未取得で「ある」がそれぞれ86.4%、83.9%と高くなっている。

<図表Ⅱ-17-1 障害福祉サービスの利用状況(全体)>



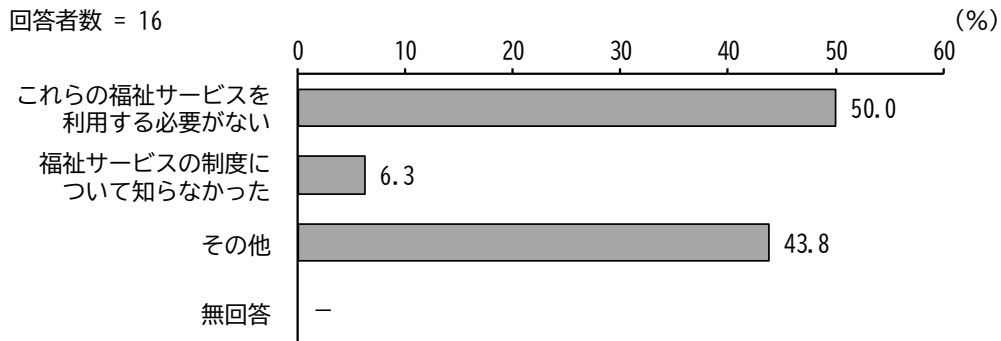
<図表Ⅱ-17-2 障害福祉サービスの利用状況(障害別)>

区分	回答者数(件)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	65	75.4	24.6	-
身体障害	13	69.2	30.8	-
知的障害	22	86.4	13.6	-
精神障害	2	-	100.0	-
難病(特定疾病)	3	66.7	33.3	-
発達障害	11	63.6	36.4	-
手帳未取得	31	83.9	16.1	-

問 17-1 問 17 で「2. ない」に○をした方におたずねします。
 利用していない理由は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

利用していない理由は、「これらの福祉サービスを利用する必要がない」が 50.0%、「福祉サービスの制度について知らなかった」が 6.3%となっている。

<図表Ⅱ-17-3 利用していない理由（全体）>



<図表Ⅱ-17-4 利用していない理由（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	これらの福祉サービスを利用する必要がない	福祉サービスの制度について知らなかった	その他	無回答
全体	16	50.0	6.3	43.8	-
身体障害	4	50.0	-	50.0	-
知的障害	3	33.3	-	66.7	-
精神障害	2	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	1	-	-	100.0	-
発達障害	4	50.0	25.0	25.0	-
手帳未取得	5	60.0	-	40.0	-

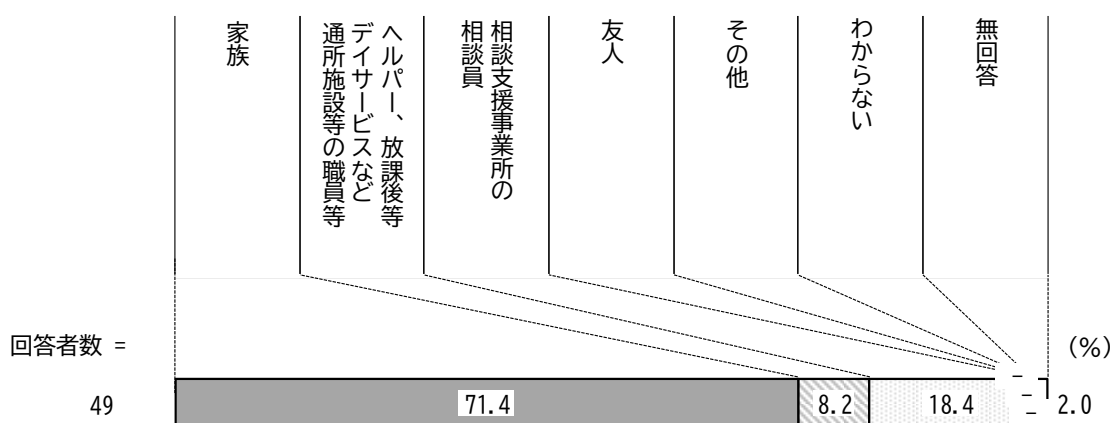
(2) サービスの申請手続き等を行っている人

問18～問21は、問17で「1.ある」に○をした方におたずねします。

問18 お子さんがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。(1つに○)

サービスの申請手続き等を行っている人は、「家族」が71.4%と最も高く、次いで「相談支援事業所の相談員」が18.4%となっている。

<図表Ⅱ-18-1 サービスを利用するための支援者(全体)>



<図表Ⅱ-18-2 サービスを利用するための支援者(障害別)>

(%)

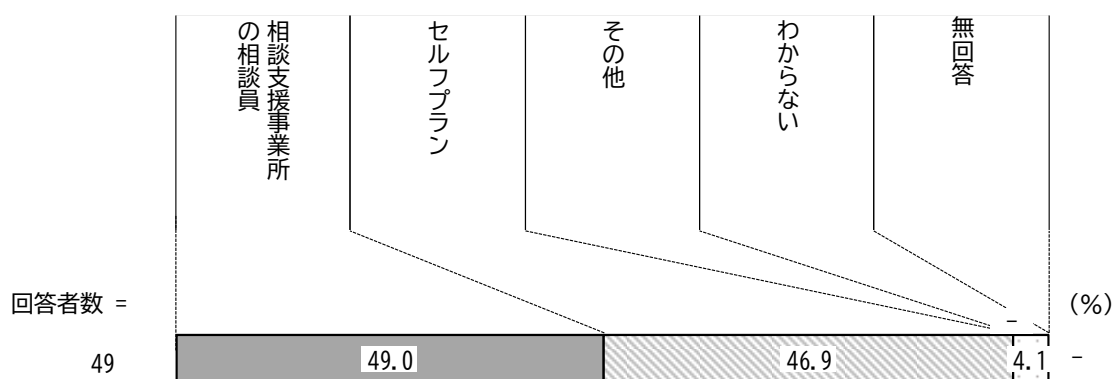
区分	回答者数(件)	家族	ヘルパー、放課後等デイサービスなど通所施設等の職員等	相談支援事業所の相談員	友人	その他	わからない	無回答
全体	49	71.4	8.2	18.4	-	-	-	2.0
身体障害	9	66.7	-	22.2	-	-	-	11.1
知的障害	19	63.2	10.5	21.1	-	-	-	5.3
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0
発達障害	7	71.4	14.3	14.3	-	-	-	-
手帳未取得	26	73.1	7.7	19.2	-	-	-	-

(3) 障害児支援利用計画の作成者

問 19 お子さんの障害児支援利用計画は、どなたが作成していますか。(1つに○)

障害児支援利用計画の作成者は、「相談支援事業所の相談員」が49.0%と最も高く、次いで「セルフプラン」が46.9%となっている。

<図表Ⅱ-19-1 障害児支援利用計画の作成者(全体)>



<図表Ⅱ-19-2 障害児支援利用計画の作成者(障害別)>

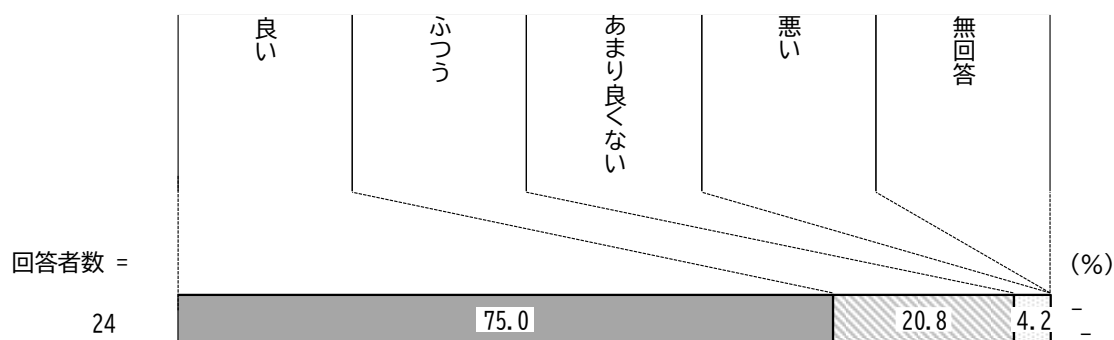
区分	回答者数(件)	相談支援事業所の相談員 (%)	セルフプラン (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	49	49.0	46.9	-	4.1	-
身体障害	9	77.8	22.2	-	-	-
知的障害	19	57.9	42.1	-	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	2	100.0	-	-	-	-
発達障害	7	57.1	42.9	-	-	-
手帳未取得	26	42.3	50.0	-	7.7	-

(4) 相談支援事業所利用の満足度

問 19-1 問 19 で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。
相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

障害児支援利用計画を「相談支援事業所の相談員」に作成してもらっている人の相談支援事業所への満足度は、「良い」が75.0%、「ふつう」が20.8%となっている。

<図表Ⅱ-19-3 相談支援事業所利用の満足度(全体)>



<図表Ⅱ-19-4 相談支援事業所利用の満足度(障害別)>

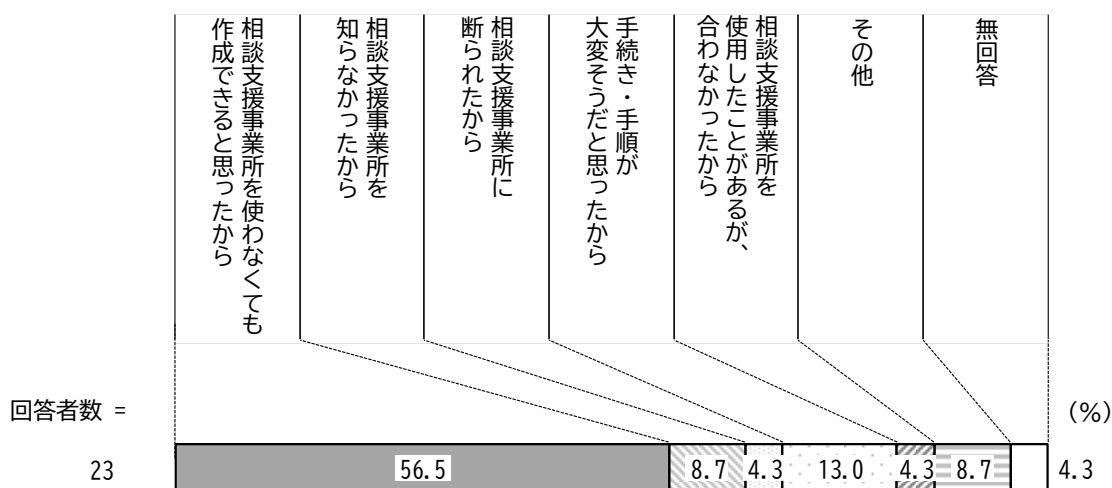
区分	回答者数(件)	良い	ふつう	あまり良くない	悪い	無回答
全体	24	75.0	20.8	4.2	-	-
身体障害	7	71.4	28.6	-	-	-
知的障害	11	63.6	27.3	9.1	-	-
精神障害	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	2	100.0	-	-	-	-
発達障害	4	50.0	50.0	-	-	-
手帳未取得	11	81.8	18.2	-	-	-

(5) セルフプランを選んだ理由

問 19-2 問 19 で「2.セルフプラン」に○をした方におたずねします。
なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

障害児支援利用計画を家族等で作成している人の理由は、「相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから」が 56.5%と最も高く、次いで「手続き・手順が大変そうだったから」が 13.0%となっている。

<図表Ⅱ-19-5 セルフプランを選んだ理由(全体)>



<図表Ⅱ-19-6 セルフプランを選んだ理由(障害別)>

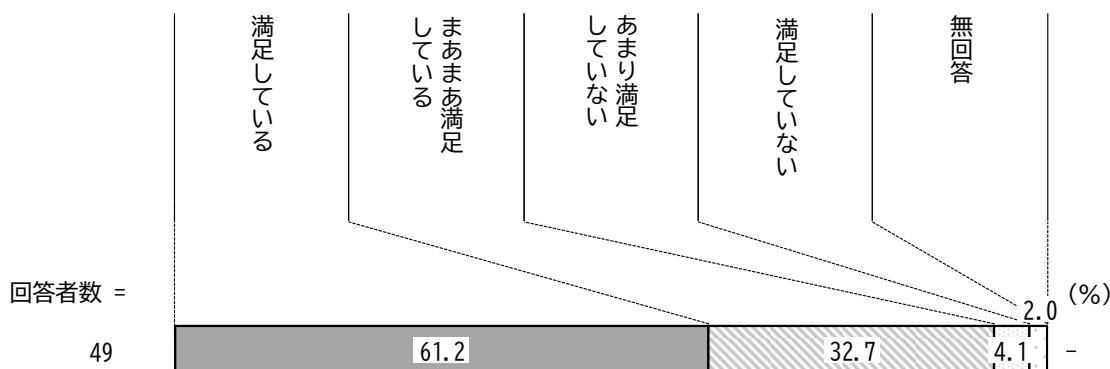
区分	回答者数(件)	相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから	相談支援事業所を知らなかったから	相談支援事業所に断られたから	手続き・手順が大変そうだったから	相談支援事業所を使用したことがあるが、合わなかったから	その他	無回答
全体	23	56.5	8.7	4.3	13.0	4.3	8.7	4.3
身体障害	2	100.0	-	-	-	-	-	-
知的障害	8	62.5	-	-	12.5	12.5	-	12.5
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	-	-	-	-	-	-	-	-
発達障害	3	66.7	-	-	33.3	-	-	-
手帳未取得	13	53.8	15.4	7.7	15.4	-	7.7	-

(6) 事業者の対応の満足度

問 20 福祉サービスを提供する事業者の対応について、満足していますか。
(1つに○)

事業者の対応の満足度は、「満足している」61.2%と「まあまあ満足している」32.7%をあわせた『満足』が93.9%となっている。

<図表Ⅱ-20-1 事業者の対応の満足度（全体）>



<図表Ⅱ-20-2 事業者の対応の満足度（障害別）> (%)

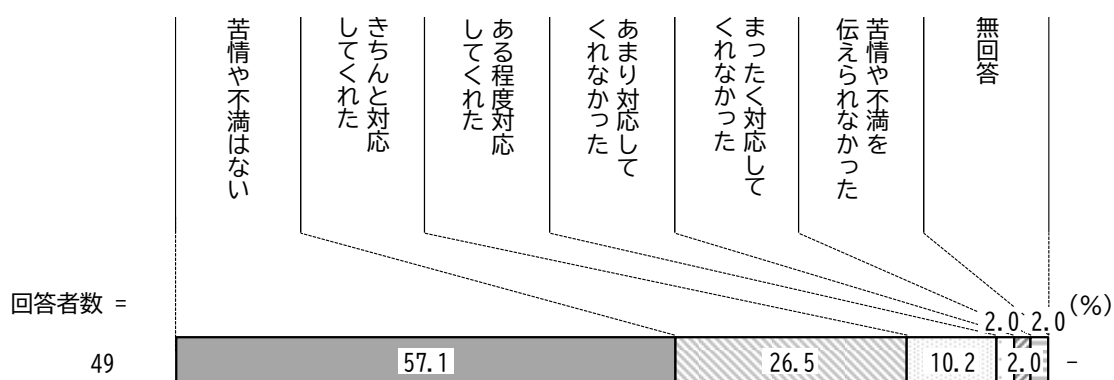
区分	回答者数 (件)	満足している	まあまあ満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答
全体	49	61.2	32.7	4.1	2.0	-
身体障害	9	55.6	33.3	11.1	-	-
知的障害	19	52.6	36.8	5.3	5.3	-
精神障害	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	2	50.0	50.0	-	-	-
発達障害	7	42.9	42.9	14.3	-	-
手帳未取得	26	61.5	34.6	3.8	-	-

(7) 苦情や不満があったときの事業者の対応状況

問 21 福祉サービスを提供する事業者に苦情や不満を伝えたとき、その事業者は十分に内容を聞きお子さんに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

苦情や不満があったときの事業者の対応は、「きちんと対応してくれた」26.5%と「ある程度対応してくれた」10.2%をあわせた『対応してくれた』が36.7%、「あまり対応してくれなかった」2.0%と「まったく対応してくれなかった」2.0%をあわせた『対応してくれなかった』が4.0%となっている。

<図表Ⅱ-21-1 苦情や不満があったときの事業者の対応(全体)>



<図表Ⅱ-21-2 苦情や不満があったときの事業者の対応(障害別)> (%)

区分	回答者数(件)	苦情や不満はない	きちんと対応してくれた	ある程度対応してくれた	あまり対応してくれなかった	まったく対応してくれなかった	苦情や不満を伝えられなかった	無回答
全体	49	57.1	26.5	10.2	2.0	2.0	2.0	-
身体障害	9	55.6	22.2	11.1	-	-	11.1	-
知的障害	19	42.1	31.6	21.1	-	-	5.3	-
精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-
難病(特定疾病)	2	100.0	-	-	-	-	-	-
発達障害	7	42.9	28.6	14.3	-	-	14.3	-
手帳未取得	26	61.5	26.9	3.8	3.8	3.8	-	-

(8) 今後、充実を希望するサービス

問 22 今後、充実を希望するサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

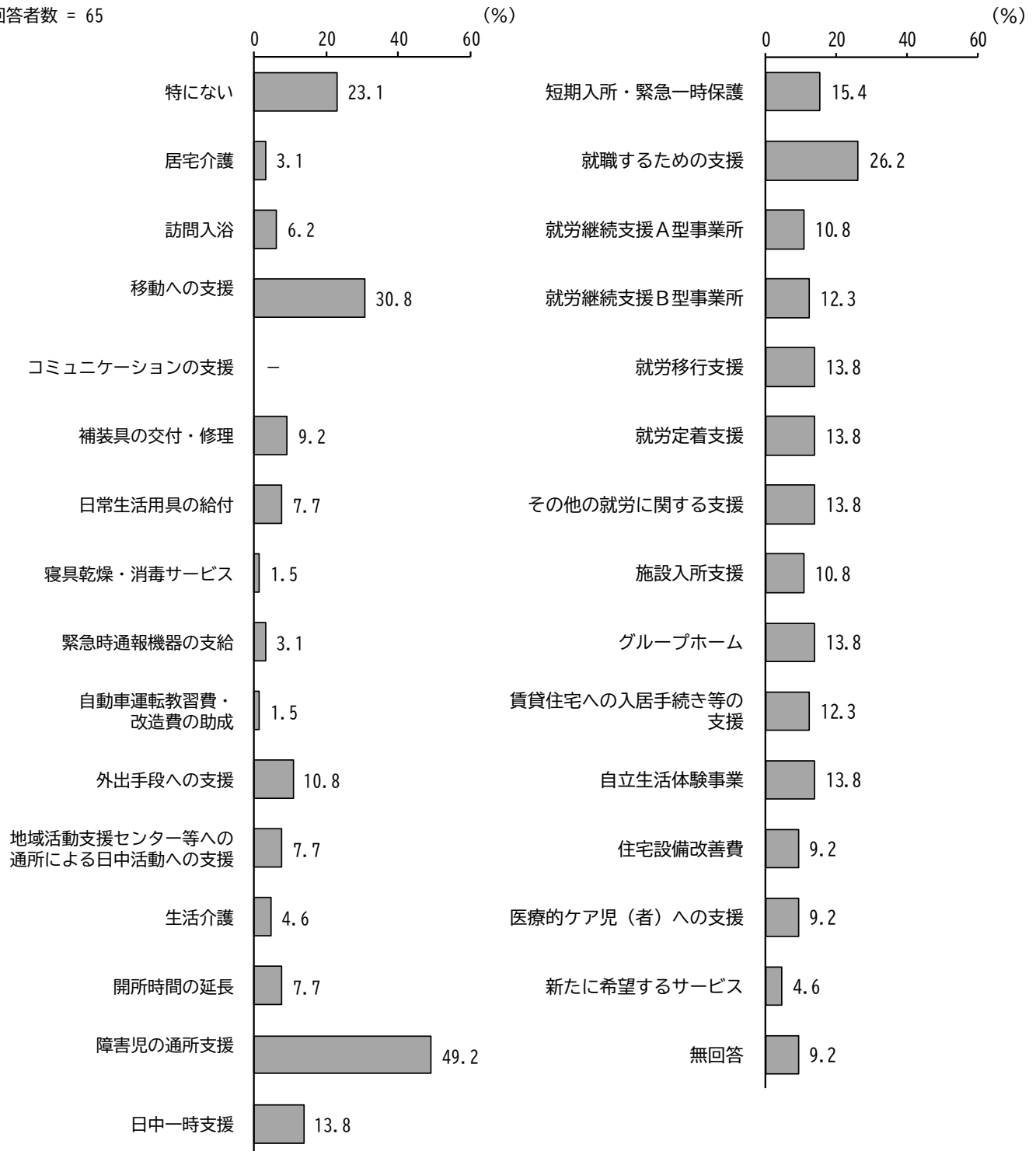
今後、充実を希望するサービスがある割合は、67.7% (全体から「特にない」23.1%と「無回答」9.2%を除いたもの) となっている。具体的には、「障害児の通所支援」が49.2%と最も高く、次いで「移動への支援」が30.8%、「就職するための支援」が26.2%と高くなっている。

障害別にみると、身体障害で「補装具の交付・修理」が46.2%、発達障害で「障害児の通所支援」が81.8%と高くなっている。

年齢別にみると、就学期で「障害児の通所支援」が60.9%と高くなっている。

<図表Ⅱ-22-1 今後、充実を希望するサービス (全体) >

回答者数 = 65



<図表Ⅱ-22-2 今後、充実を希望するサービス（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に な い	居 宅 介 護	訪 問 入 浴	移 動 へ の 支 援	コ ミ ュ ニ ケー ション の 支 援	補 装 具 の 交 付 ・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	寝 具 乾 燥 ・ 消 毒 サ ー ビ ス	緊 急 時 通 報 機 器 の 支 給	自 動 車 運 転 教 習 費 ・ 改 造 費 の 助 成
全体	65	23.1	3.1	6.2	30.8	-	9.2	7.7	1.5	3.1	1.5
身体障害	13	-	7.7	30.8	46.2	-	46.2	30.8	7.7	-	-
知的障害	22	4.5	4.5	13.6	54.5	-	22.7	18.2	4.5	9.1	-
精神障害	2	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	3	-	-	33.3	66.7	-	66.7	-	-	-	-
発達障害	11	-	-	9.1	63.6	-	27.3	18.2	-	9.1	9.1
手帳未取得	31	41.9	-	-	16.1	-	-	-	-	-	-

区分	外 出 手 段 へ の 支 援	地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー 等 へ の 通 所 に よ る 日 中 活 動 へ の 支 援	生 活 介 護	開 所 時 間 の 延 長	障 害 児 の 通 所 支 援	日 中 一 時 支 援	短 期 入 所 ・ 緊 急 一 時 保 護	就 職 す る た め の 支 援	就 労 継 続 支 援 A 型 事 業 所	就 労 継 続 支 援 B 型 事 業 所	就 労 移 行 支 援
全体	10.8	7.7	4.6	7.7	49.2	13.8	15.4	26.2	10.8	12.3	13.8
身体障害	30.8	-	15.4	15.4	53.8	38.5	38.5	38.5	7.7	7.7	7.7
知的障害	27.3	9.1	13.6	18.2	68.2	36.4	40.9	36.4	22.7	31.8	31.8
精神障害	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
難病（特定疾病）	66.7	-	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	-	-	-
発達障害	27.3	9.1	18.2	9.1	81.8	36.4	36.4	45.5	36.4	45.5	36.4
手帳未取得	-	6.5	-	-	41.9	-	-	16.1	-	-	-

<図表Ⅱ-22-2 今後、充実を希望するサービス（障害別つづき）> (%)

区分	就労定着支援	その他の就労に関する支援	施設入所支援	グループホーム	賃貸住宅への入居手続き等の支援	自立生活体験事業	住宅設備改善費	医療的ケア児（者）への支援	新たに希望するサービス	無回答
全体	13.8	13.8	10.8	13.8	12.3	13.8	9.2	9.2	4.6	9.2
身体障害	7.7	-	23.1	23.1	-	-	38.5	23.1	-	23.1
知的障害	31.8	22.7	27.3	36.4	13.6	22.7	18.2	13.6	-	13.6
精神障害	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
難病（特定疾病）	-	-	66.7	66.7	-	-	33.3	-	-	33.3
発達障害	36.4	27.3	27.3	36.4	27.3	36.4	27.3	27.3	9.1	-
手帳未取得	-	6.5	-	-	6.5	9.7	-	6.5	6.5	3.2

<図表Ⅱ-22-3 今後、充実を希望するサービス（年齢別）> (%)

区分	回答者数（件）	特にない	居宅介護	訪問入浴	移動への支援	コミュニケーションの支援	補装具の交付・修理	日常生活用具の給付	寝具乾燥・消毒サービス	緊急時通報機器の支給	自動車運転教習費・改造費の助成
全体	65	23.1	3.1	6.2	30.8	-	9.2	7.7	1.5	3.1	1.5
未就学児	22	45.5	4.5	9.1	18.2	-	4.5	9.1	4.5	-	-
就学期	23	17.4	-	4.3	39.1	-	8.7	8.7	-	-	-
中高生	20	5.0	5.0	5.0	35.0	-	15.0	5.0	-	10.0	5.0

<図表Ⅱ-22-3 今後、充実を希望するサービス（年齢別つづき）>

(%)

区分	外出手段への支援	地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援	生活介護	開所時間の延長	障害児の通所支援	日中一時支援	短期入所・緊急一時保護	就職するための支援	就労継続支援A型事業所	就労継続支援B型事業所	就労移行支援
全体	10.8	7.7	4.6	7.7	49.2	13.8	15.4	26.2	10.8	12.3	13.8
未就学児	9.1	4.5	-	4.5	31.8	9.1	9.1	22.7	4.5	4.5	4.5
就学期	8.7	8.7	8.7	8.7	60.9	17.4	17.4	17.4	8.7	13.0	8.7
中高生	15.0	10.0	5.0	10.0	55.0	15.0	20.0	40.0	20.0	20.0	30.0

区分	就労定着支援	その他の就労に関する支援	施設入所支援	グループホーム	賃貸住宅への入居手続き等の支援	自立生活体験事業	住宅設備改善費	医療的ケア児(者)への支援	新たに希望するサービス	無回答
全体	13.8	13.8	10.8	13.8	12.3	13.8	9.2	9.2	4.6	9.2
未就学児	4.5	4.5	4.5	9.1	4.5	9.1	4.5	13.6	4.5	4.5
就学期	8.7	8.7	8.7	8.7	4.3	13.0	13.0	8.7	-	8.7
中高生	30.0	30.0	20.0	25.0	30.0	20.0	10.0	5.0	10.0	15.0

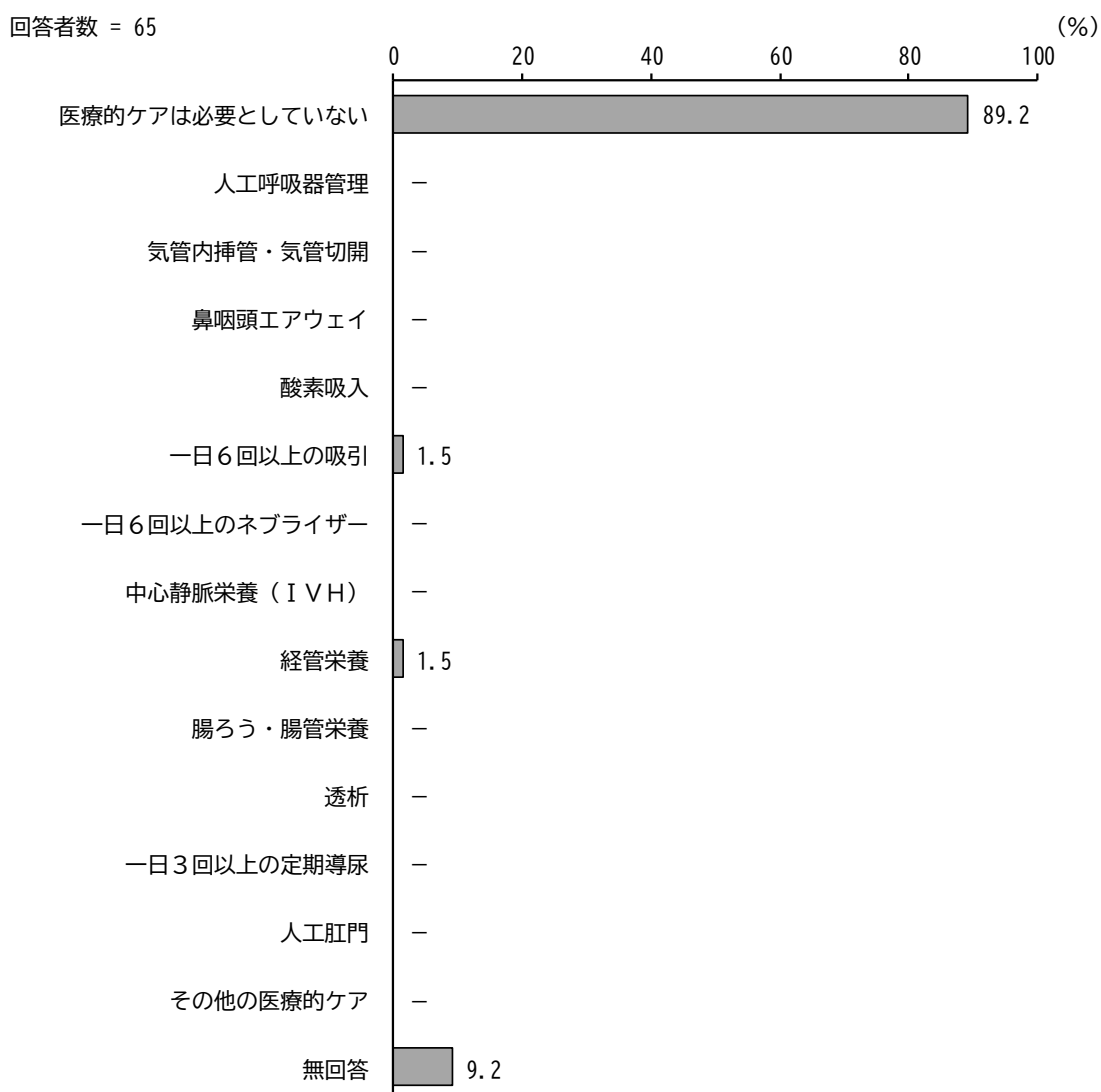
8. 医療的ケアについて

(1) 必要とする医療的ケア

問 23 お子さんは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

医療的ケアの必要性がある割合は、1.6% (全体から「医療的ケアは必要としていない」89.2%と「無回答」9.2%を除いたもの) となっている。

<図表Ⅱ-23-1 必要な医療的ケア (全体) >

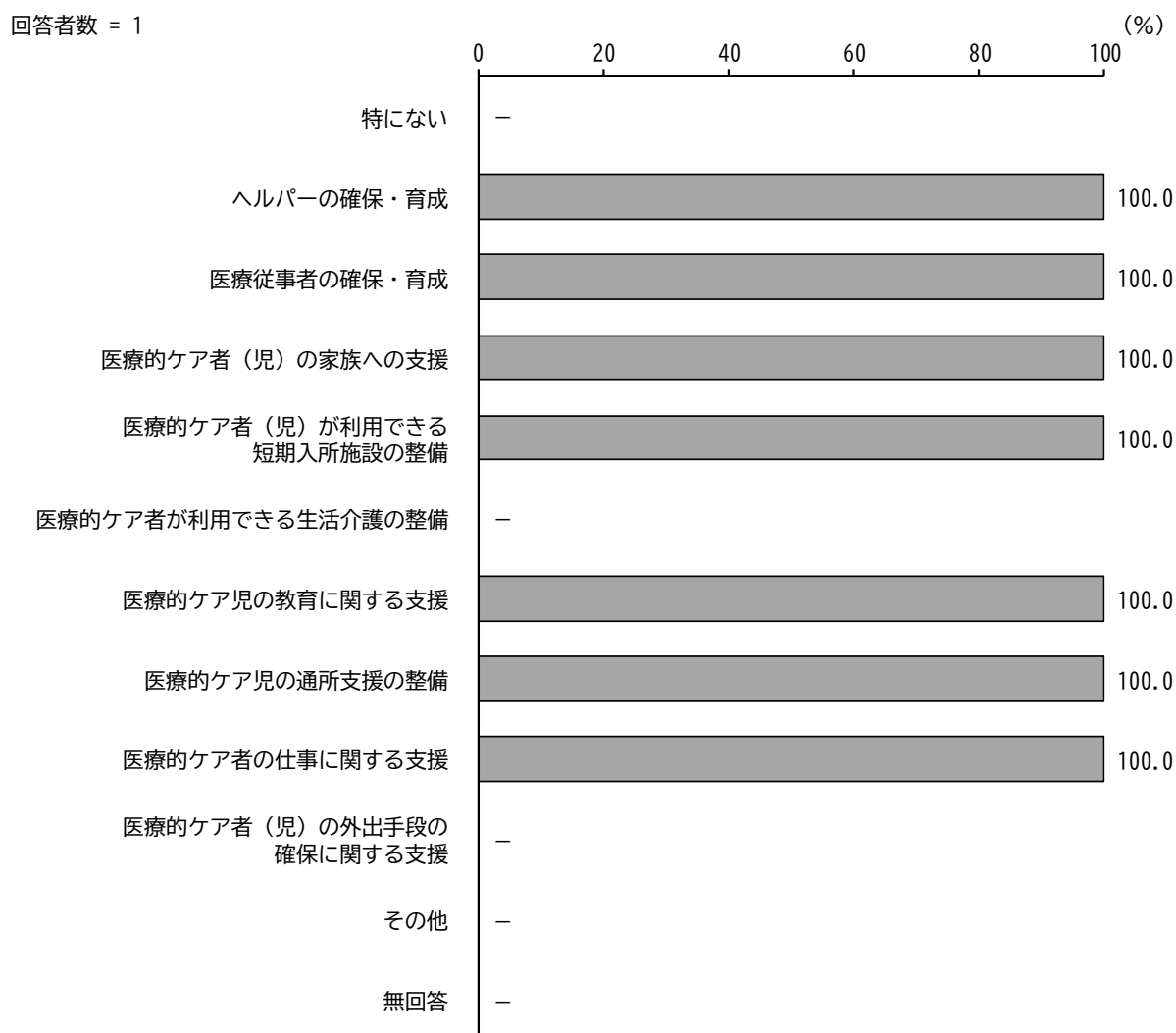


(2) 医療的ケアに関し充実が必要な支援

問 23-1 問 23 で 2～14 に○をした方におたずねします。医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

医療的ケアを必要としている人が充実を希望する支援は、回答者数が1件のみだったことから、分析は省略する。

<図表Ⅱ-23-2 充実が必要な支援（全体）>



9. 障害者の権利擁護、虐待、差別について

(1) 虐待を受けた経験

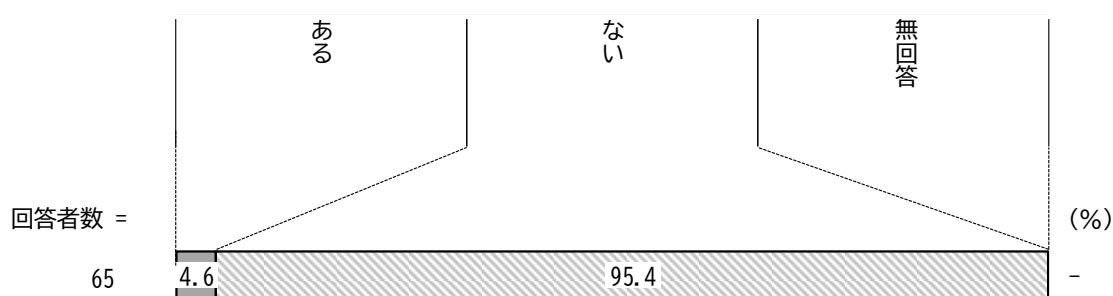
問 24 お子さんは、いままでに自分の体や心を傷つけられた（虐待された）ことはありますか。（1つに○）

虐待を受けた経験は、「ない」が95.4%と大半を占めている一方、「ある」が4.6%となっている。

障害別にみると、手帳未取得で「ある」が6.5%となっている。

年齢別にみると、中高生で「ある」が15.0%となっている。

<図表Ⅱ-24-1 虐待を受けた経験（全体）>



<図表Ⅱ-24-2 虐待を受けた経験（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全体	65	4.6	95.4	-
身体障害	13	-	100.0	-
知的障害	22	4.5	95.5	-
精神障害	2	-	100.0	-
難病（特定疾病）	3	-	100.0	-
発達障害	11	-	100.0	-
手帳未取得	31	6.5	93.5	-

<図表Ⅱ-24-3 虐待を受けた経験（年齢別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	ある	ない	無回答
全体	65	4.6	95.4	—
未就学児	22	—	100.0	—
就学期	23	—	100.0	—
中高生	20	15.0	85.0	—

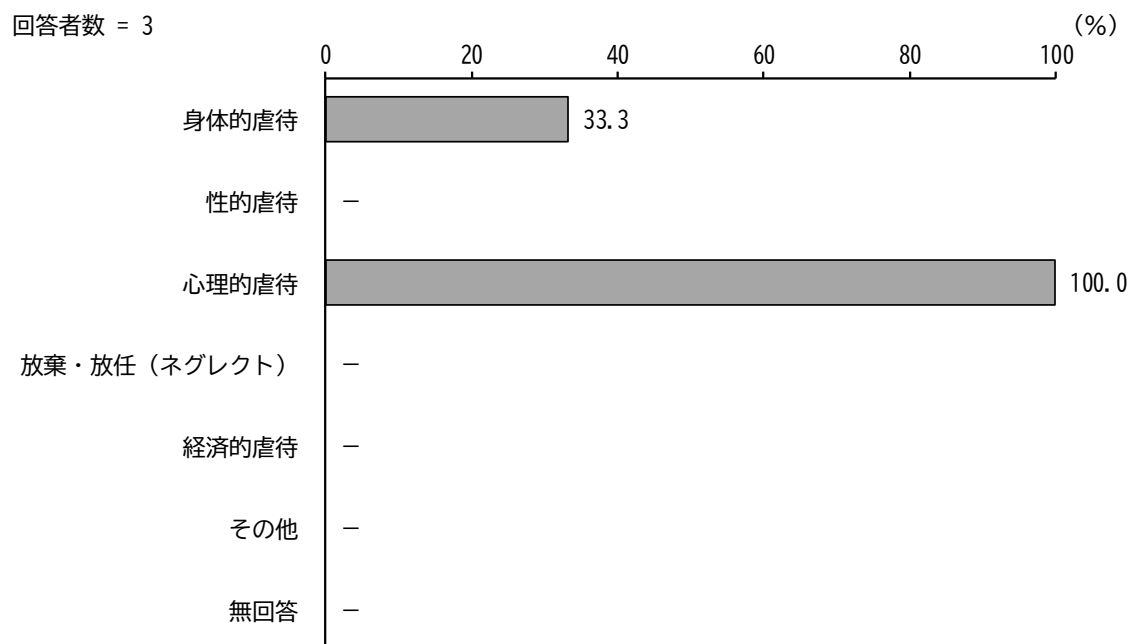
(2) 虐待の内容、虐待者

問 24-1～問 24-3 は、問 24 「1. ある」に○をした方におたずねします。

問 24-1 虐待の内容はどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)

虐待を受けた内容は、「心理的虐待」が100%となっている。

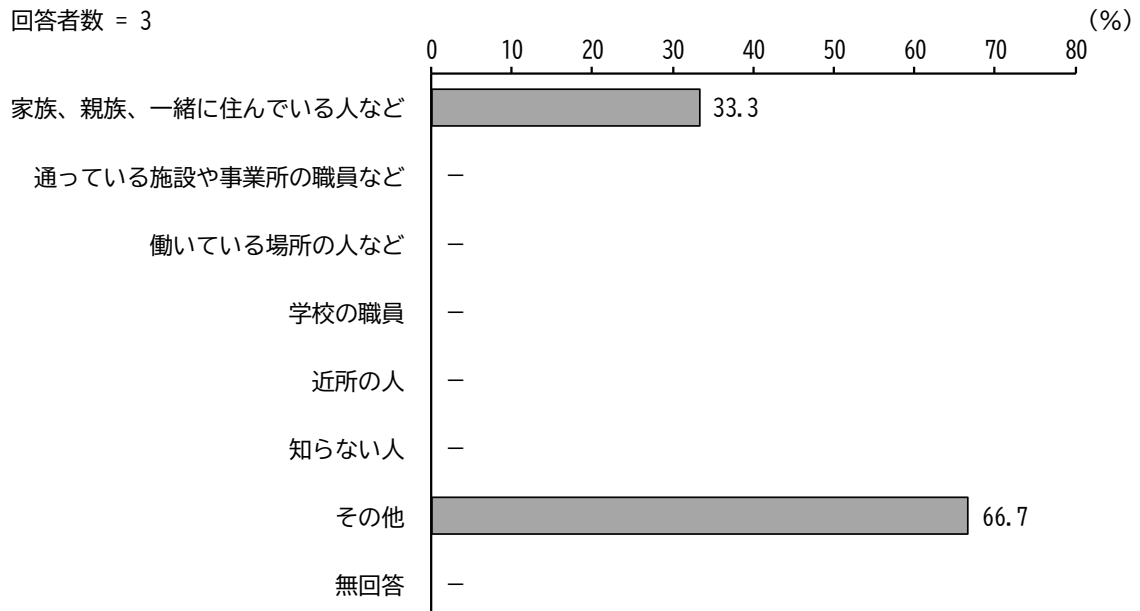
<図表Ⅱ-24-4 虐待を受けた内容(全体)>



問 24-2 誰から虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

虐待を受けた人は、「家族、親族、一緒に住んでいる人など」が 33.3%となっている。

<図表Ⅱ-24-5 虐待を受けた人(全体)>

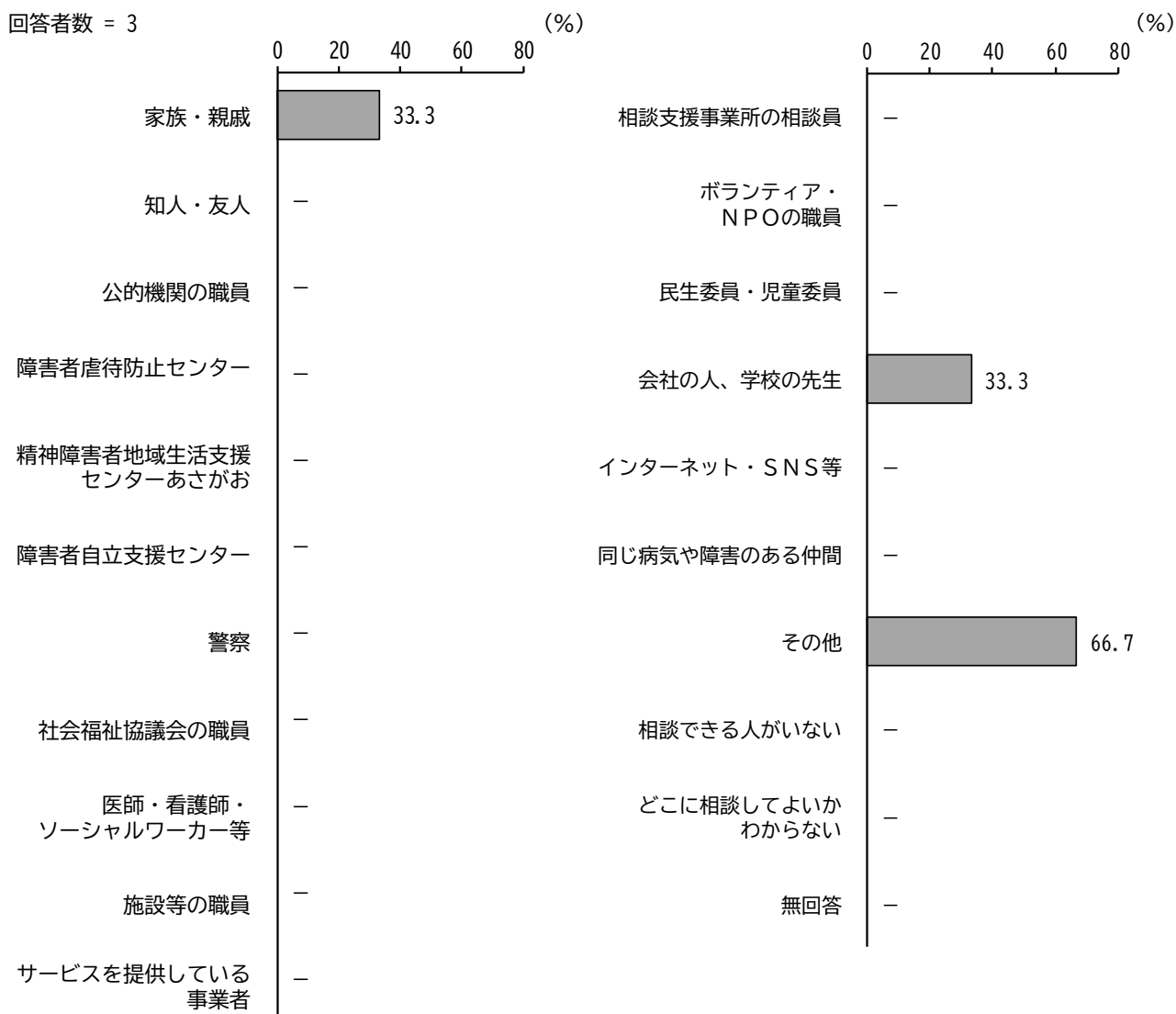


(3) 虐待を受けた際の相談先

問 24-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。

虐待を受けた際の相談先は、「家族・親戚」、「会社の人、学校の先生」が 33.3%となっている。

<図表Ⅱ-24-6 虐待を受けた際の相談先（全体）>



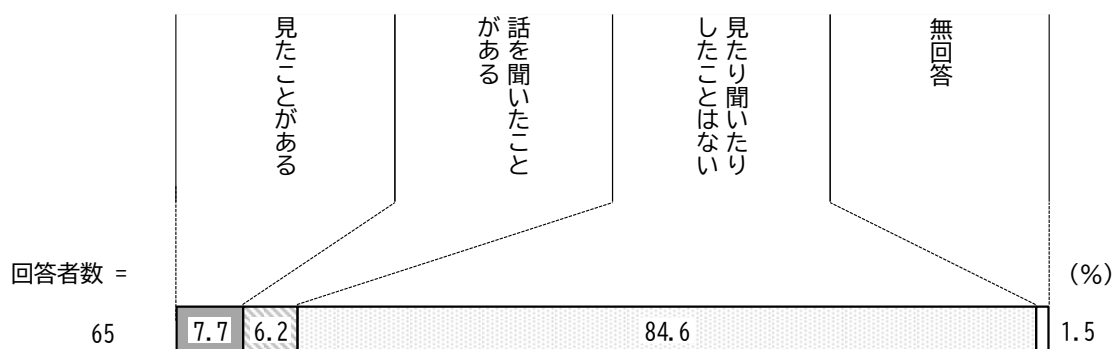
(4) 虐待場面に遭遇した経験

問 25 お子さんの身の回りでは、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。(1つに○)

虐待場面に遭遇した経験は、「見たり聞いたりしたことはない」が84.6%と大半を占めている一方、「見たことがある」が7.7%、「話を聞いたことがある」が6.2%となっている。

障害別にみると、身体障害、発達障害で「見たことがある」がそれぞれ15.4%、18.2%と高くなっている。また、知的障害で「話を聞いたことがある」が18.2%と高くなっている。

<図表Ⅱ-25-1 虐待場面に遭遇した経験(全体)>



<図表Ⅱ-25-2 虐待場面に遭遇した経験(障害別)>

区分	回答者数(件)	見たことがある	話を聞いたことがある	見たり聞いたりしたことはない	無回答
全体	65	7.7	6.2	84.6	1.5
身体障害	13	15.4	7.7	76.9	-
知的障害	22	9.1	18.2	68.2	4.5
精神障害	2	-	-	100.0	-
難病(特定疾病)	3	-	33.3	66.7	-
発達障害	11	18.2	9.1	72.7	-
手帳未取得	31	3.2	-	96.8	-

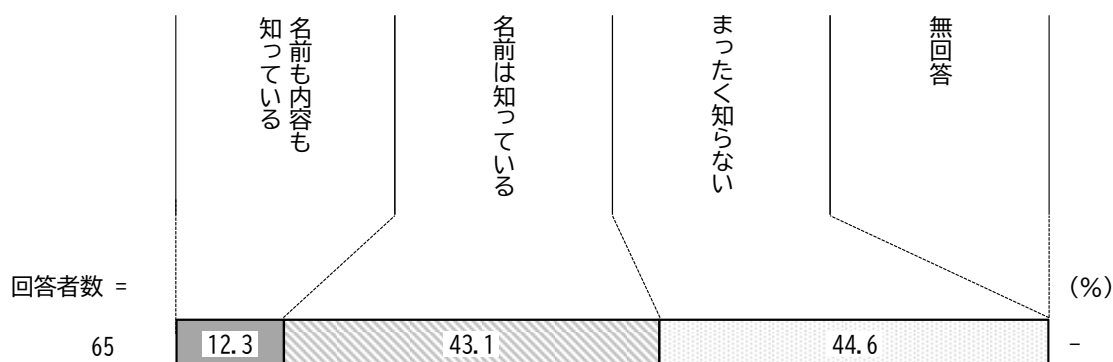
(5) 障害者虐待防止法の認知度

問 26 障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。(1つに○)

障害者虐待防止法の認知度は、「名前も内容も知っている」12.3%と「名前は知っている」43.1%をあわせた『知っている』が55.4%となっている。

障害別にみると、発達障害で「名前は知っている」が81.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-26-1 障害者虐待防止法の認知度(全体)>



<図表Ⅱ-26-2 障害者虐待防止法の認知度(障害別)>

区分	回答者数(件)	名前も内容も知っている (%)	名前は知っている (%)	まったく知らない (%)	無回答 (%)
全体	65	12.3	43.1	44.6	-
身体障害	13	7.7	38.5	53.8	-
知的障害	22	9.1	54.5	36.4	-
精神障害	2	-	50.0	50.0	-
難病(特定疾病)	3	-	66.7	33.3	-
発達障害	11	-	81.8	18.2	-
手帳未取得	31	19.4	45.2	35.5	-

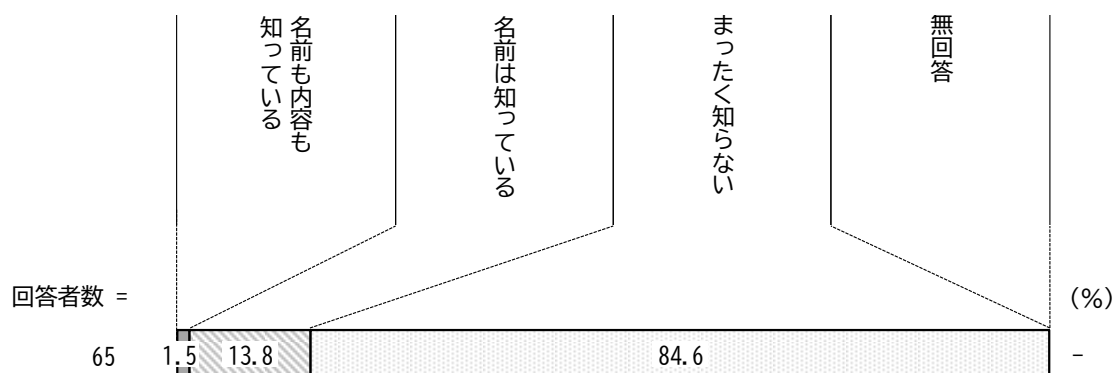
(6) 障害者虐待防止センターの認知度

問 27 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する 24 時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」を開設しています。このことについて知っていますか。(1つに○)

虐待防止センターの認知度は、「名前も内容も知っている」1.5%と「名前は知っている」13.8%をあわせた『知っている』が 15.3%となっている。

障害別にみると、知的障害で「名前は知っている」が 31.8%と高くなっている。

<図表Ⅱ-27-1 障害者虐待防止センターの認知度（全体）>



<図表Ⅱ-27-2 障害者虐待防止センターの認知度（障害別）> (%)

区分	回答者数 (件)	名前も内容も知っている	名前は知っている	まったく知らない	無回答
全体	65	1.5	13.8	84.6	-
身体障害	13	-	15.4	84.6	-
知的障害	22	-	31.8	68.2	-
精神障害	2	-	-	100.0	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	66.7	-
発達障害	11	-	27.3	72.7	-
手帳未取得	31	3.2	6.5	90.3	-

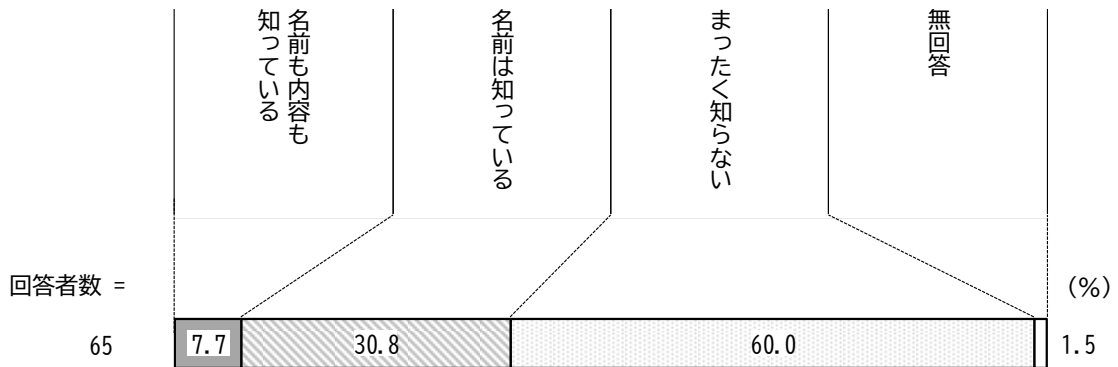
(7) 障害者差別解消法の認知度

問 28 障害者に対する「不当な差別的取扱い」や「合理的配慮の不提供」の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法の認知度は、「名前も内容も知っている」7.7%と「名前は知っている」30.8%をあわせた『知っている』が38.5%となっている。

障害別にみると、知的障害と発達障害で『知っている』が54.6%と高くなっている。

<図表Ⅱ-28-1 障害者差別解消法の認知度(全体)>



<図表Ⅱ-28-2 障害者差別解消法の認知度(障害別)>

区分	回答者数(件)	名前も内容も知っている	名前は知っている	まったく知らない	無回答
全体	65	7.7	30.8	60.0	1.5
身体障害	13	23.1	30.8	46.2	-
知的障害	22	18.2	36.4	45.5	-
精神障害	2	50.0	50.0	-	-
難病(特定疾病)	3	33.3	33.3	33.3	-
発達障害	11	9.1	45.5	36.4	9.1
手帳未取得	31	3.2	32.3	64.5	-

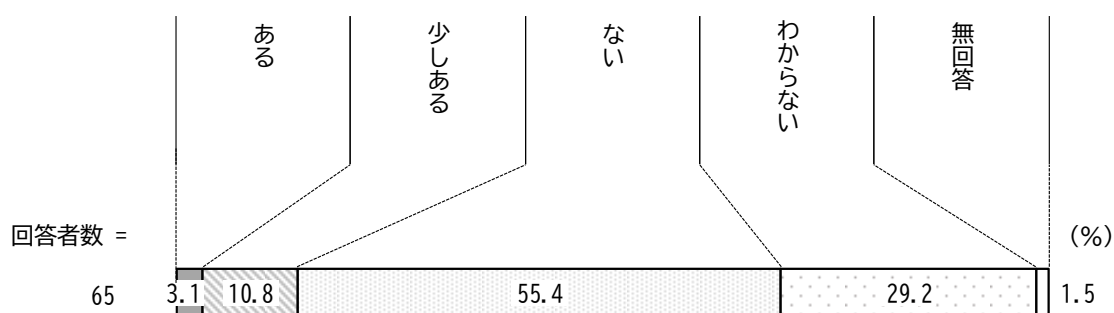
(8) 障害を理由とする差別を受けた経験

問 29 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。
(1つに○)

障害を理由とする差別を受けた経験は、「ない」が 55.4%となっている一方、「ある」3.1%と「少しある」10.8%をあわせた『ある』が 13.9%となっている。

障害別にみると、知的障害と発達障害で『ある』がそれぞれ 22.7%、27.3%と高くなっている。

<図表Ⅱ-29-1 障害を理由とする差別を受けた経験（全体）>



<図表Ⅱ-29-2 障害を理由とする差別を受けた経験（障害別）>

区分	回答者数 (件)	ある (%)	少しある (%)	ない (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体	65	3.1	10.8	55.4	29.2	1.5
身体障害	13	15.4	-	61.5	23.1	-
知的障害	22	4.5	18.2	50.0	27.3	-
精神障害	2	-	-	100.0	-	-
難病（特定疾病）	3	-	-	66.7	33.3	-
発達障害	11	9.1	18.2	36.4	27.3	9.1
手帳未取得	31	-	9.7	61.3	29.0	-

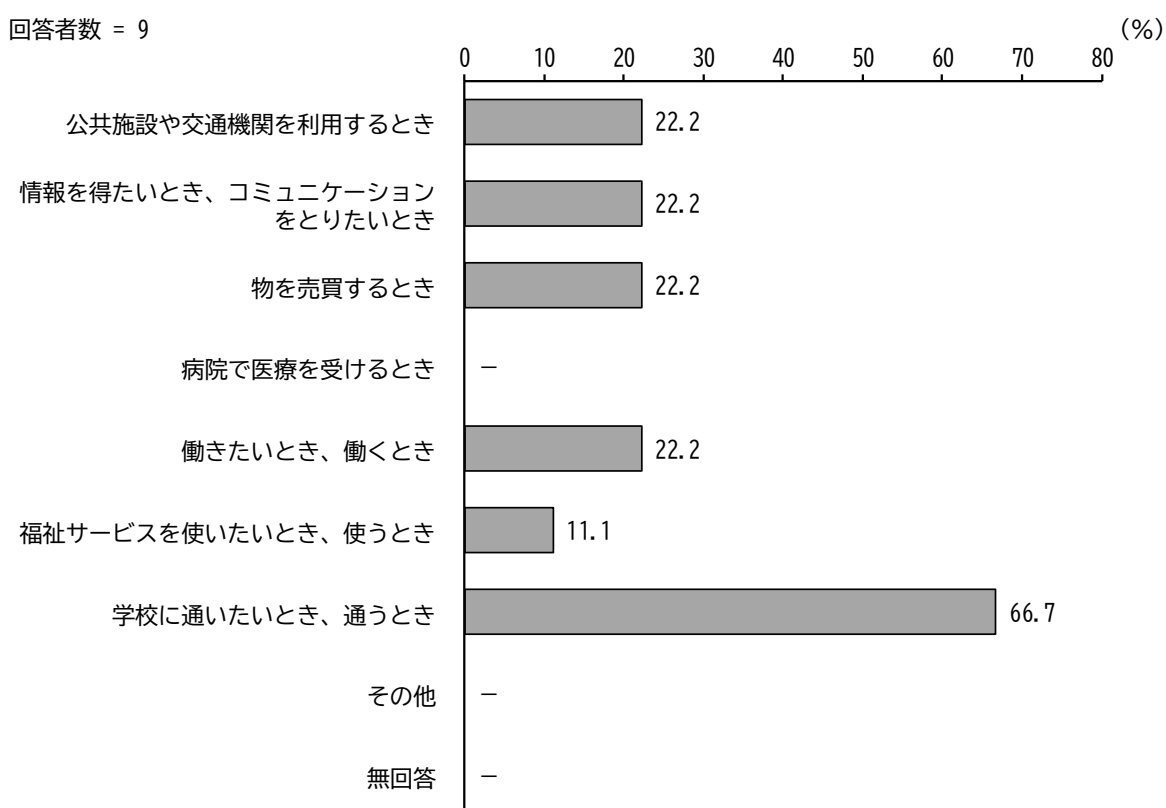
(9) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面

問 29-1 と問 29-2 は、問 29 で「1. ある」または「2. 少しある」に○をした方におたずねします。

問 29-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面は、「学校に通いたいとき、通うとき」が 66.7%となっている。また、「公共施設や交通機関を利用するとき」、「情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき」、「物を売買するとき」、「働きたいとき、働くとき」が 22.2%となっている。

<図表Ⅱ-29-3 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じた場面（全体）>

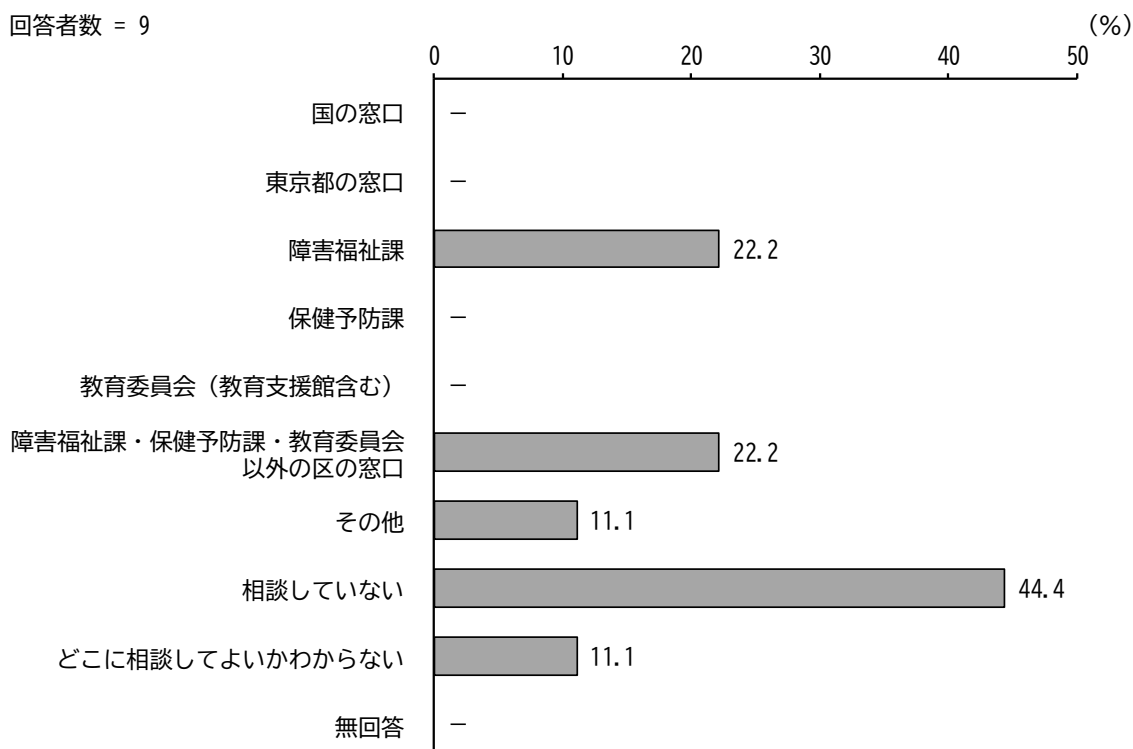


(10) 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先

問 29-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先は、「相談していない」が44.4%と最も高く、次いで「障害福祉課」、「障害福祉課・保健予防課・教育委員会以外の区の窓口」が22.2%となっている。

<図表Ⅱ-29-4 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときの相談先（全体）>



10. 新型コロナウイルス感染症について

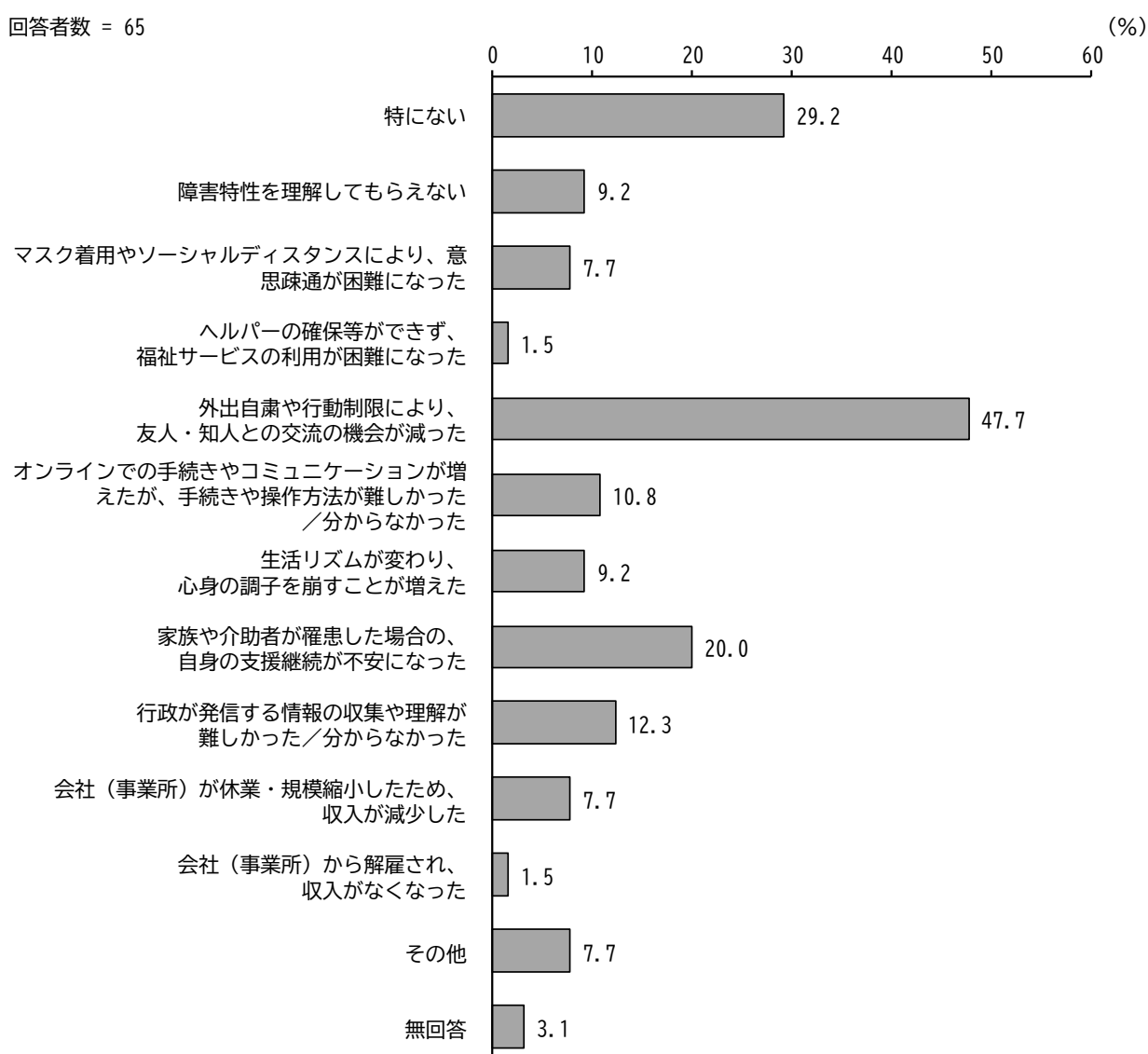
(1) 新型コロナウイルス感染症による困りごと

問 30 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で困ったことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス感染症による困りごとがあった割合は、67.7%（全体から「特にない」29.2%と「無回答」3.1%を除いたもの）となっている。具体的には、「外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った」が47.7%と最も高く、次いで「家族や介助者が罹患した場合の、自身の支援継続が不安になった」が20.0%と高くなっている。

障害別にみると、身体障害で「障害特性を理解してもらえない」が23.1%、発達障害で「行政が発信する情報の収集や理解が難しかった／分からなかった」が45.5%、手帳未取得で「外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った」が58.1%と高くなっている。

<図表Ⅱ-30-1 新型コロナウイルス感染症による困りごと（全体）>



<図表Ⅱ-30-2 新型コロナウイルス感染症による困りごと（障害別）>

(%)

区分	回答者数 (件)	特 に ない	障 害 特 性 を 理 解 し て も ら え ない	マ ス ク 着 用 や ソ ー シ ヤ ル デ ィ ス タ ン ス に よ り 、 意 思 疎 通 が 困 難 に な っ た	ハ ル パ ー の 確 保 等 が で き ず 、 福 祉 サ ー ビ ス の 利 用 が 困 難 に な っ た	外 出 自 粛 や 行 動 制 限 に よ り 、 友 人 ・ 知 人 と の 交 流 の 機 会 が 減 っ た	オ ン ラ イ ン で の 手 続 き や コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン が 増 え た が 、 手 続 き や 操 作 方 法 が 難 し か っ た ／ 分 か ら な か っ た
全体	65	29.2	9.2	7.7	1.5	47.7	10.8
身体障害	13	23.1	23.1	7.7	7.7	53.8	15.4
知的障害	22	31.8	13.6	9.1	4.5	40.9	9.1
精神障害	2	50.0	50.0	-	-	50.0	-
難病（特定疾病）	3	-	33.3	-	33.3	33.3	-
発達障害	11	27.3	18.2	9.1	-	36.4	27.3
手帳未取得	31	25.8	9.7	6.5	-	58.1	9.7

区分	生 活 リ ズ ム が 変 わ り 、 心 身 の 調 子 を 崩 す こ と が 増 え た	家 族 や 介 助 者 が 罹 患 し た 場 合 の 、 自 身 の 支 援 継 続 が 不 安 に な っ た	行 政 が 発 信 す る 情 報 の 収 集 や 理 解 が 難 し か っ た ／ 分 か ら な か っ た	会 社 （ 事 業 所 ） が 休 業 ・ 規 模 縮 小 し た た め 、 収 入 が 減 少 し た	会 社 （ 事 業 所 ） か ら 解 雇 さ れ 、 収 入 が な く な っ た	そ の 他	無 回 答
全体	9.2	20.0	12.3	7.7	1.5	7.7	3.1
身体障害	7.7	46.2	15.4	7.7	-	15.4	-
知的障害	13.6	40.9	22.7	13.6	4.5	4.5	4.5
精神障害	-	50.0	-	-	-	-	-
難病（特定疾病）	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-
発達障害	18.2	45.5	45.5	9.1	-	-	-
手帳未取得	3.2	9.7	6.5	-	-	9.7	3.2

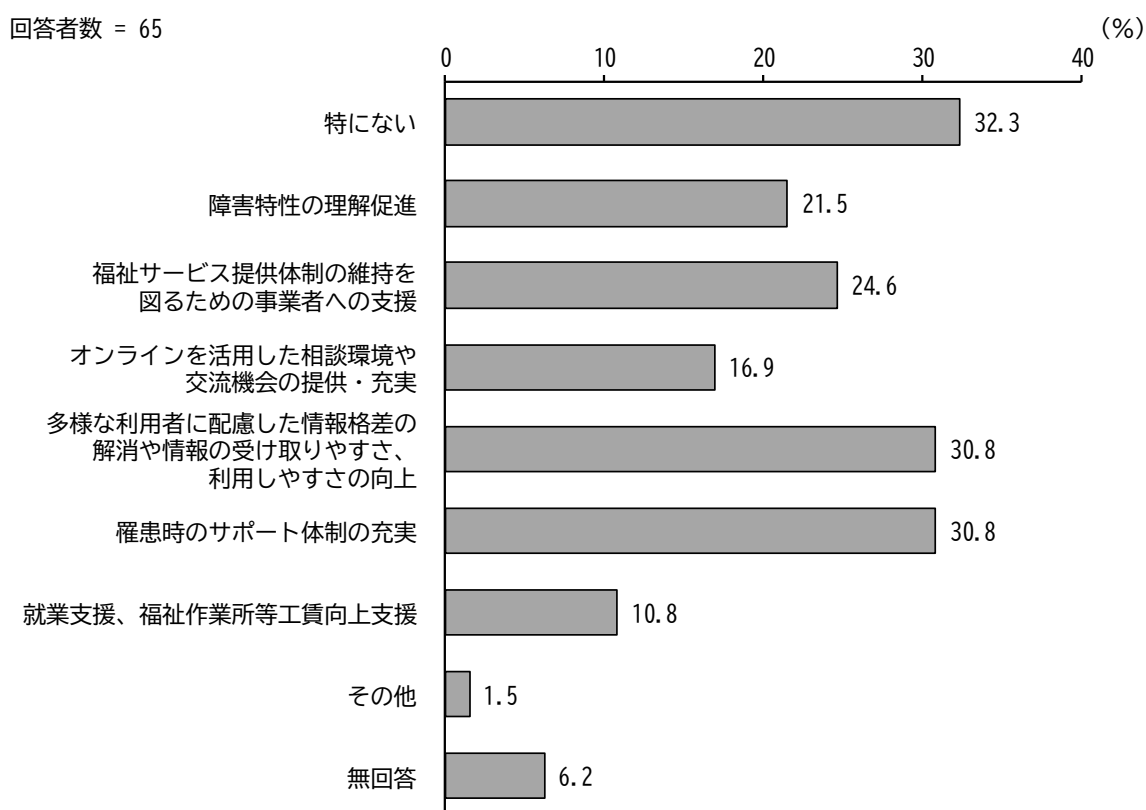
(2) 新型コロナウイルス感染症に関し行政に求めるもの

問 31 新型コロナウイルス感染症を見据えて、行政に求めるものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるものは、「多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上」、「罹患時のサポート体制の充実」が30.8%と高くなっている。

障害別にみると、身体障害で「罹患時のサポート体制の充実」が61.5%、発達障害で「障害特性の理解促進」、「福祉サービス提供体制の維持を図るための事業者への支援」、「オンラインを活用した相談環境や交流機会の提供・充実」、「多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上」が45.5%と高くなっている。

<図表Ⅱ-31-1 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの(全体)>



<図表Ⅱ-31-2 新型コロナウイルス感染症を見据えて行政に求めるもの（障害別）>（％）

区分	回答者数 (件)	特 に ない	障 害 特 性 の 理 解 促 進	福 祉 サ ー ビ ス 提 供 体 制 の 維 持 を 図 る た め の 事 業 者 へ の 支 援	オ ン ラ イ ン を 活 用 し た 相 談 環 境 や 交 流 機 会 の 提 供 ・ 充 実	多 様 な 利 用 者 に 配 慮 し た 情 報 格 差 の 解 消 や 情 報 の 受 け 取 り や す さ 、 利 用 し や す さ の 向 上	罹 患 時 の サ ポ ー ト 体 制 の 充 実	就 業 支 援 、 福 祉 作 業 所 等 工 賃 向 上 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	65	32.3	21.5	24.6	16.9	30.8	30.8	10.8	1.5	6.2
身体障害	13	23.1	38.5	46.2	23.1	38.5	61.5	7.7	-	-
知的障害	22	18.2	31.8	40.9	27.3	40.9	45.5	13.6	-	4.5
精神障害	2	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-
難病（特定疾病）	3	33.3	33.3	66.7	-	66.7	66.7	-	-	-
発達障害	11	18.2	45.5	45.5	45.5	45.5	36.4	18.2	-	-
手帳未取得	31	41.9	16.1	19.4	9.7	25.8	19.4	6.5	-	9.7

11. 台東区への要望等について

(1) 障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策

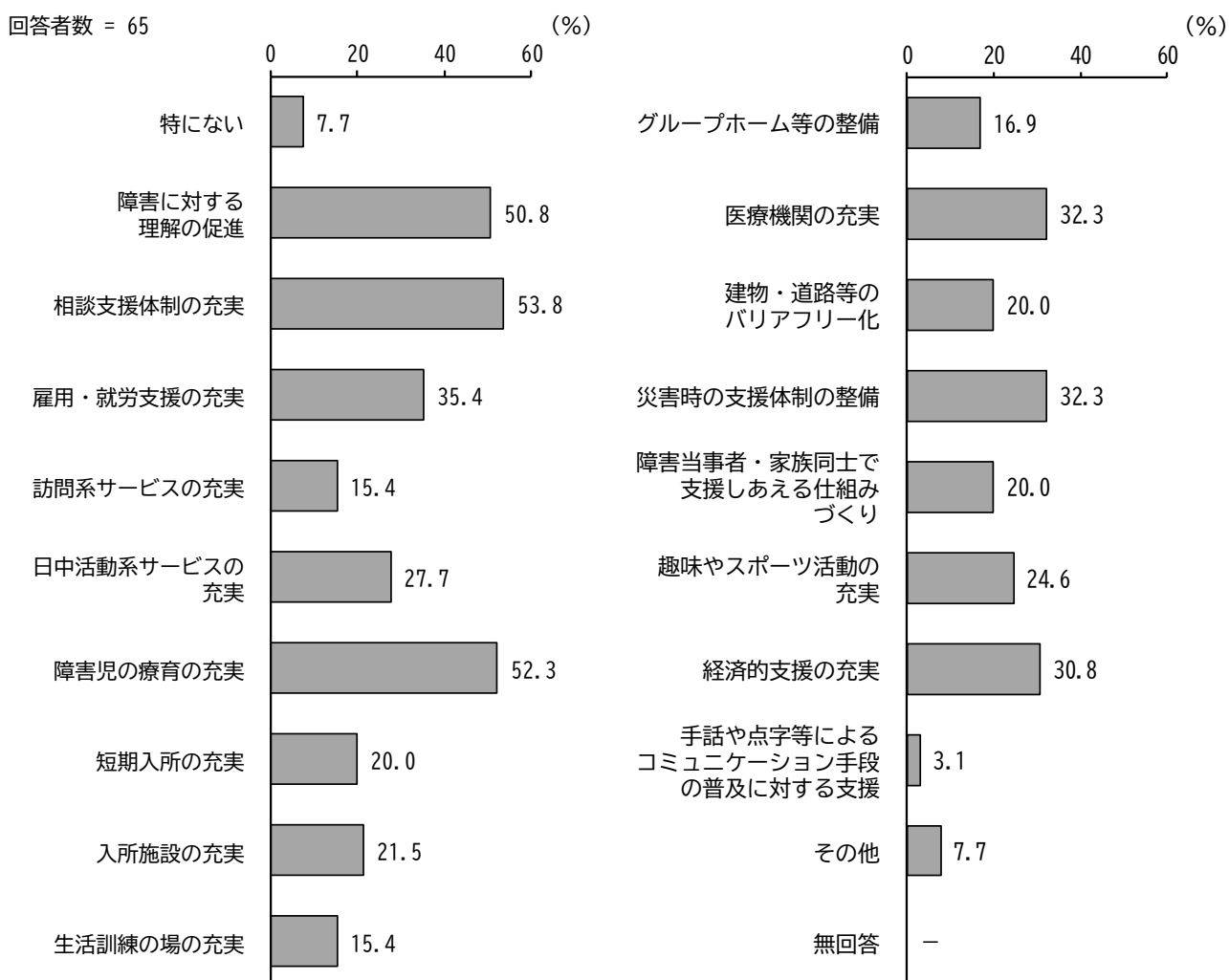
問 32 お子さんが地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害児が地域で安心して暮らすために重要と思う施策は、「相談支援体制の充実」が 53.8%と最も高く、次いで「障害児の療育の充実」が 52.3%、「障害に対する理解の促進」が 50.8%となっている。

障害別にみると、身体障害で「相談支援体制の充実」、「障害児の療育の充実」が 76.9%、発達障害で「障害に対する理解の促進」、「雇用・就労支援の充実」、「障害児の療育の充実」、「障害当事者・家族同士で支援しあえる仕組みづくり」が 63.6%と高くなっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ、「雇用・就労支援の充実」、「訪問系サービスの充実」、「日中活動系サービスの充実」、「短期入所の充実」、「生活訓練の場の充実」、「障害当事者・家族同士で支援しあえる仕組みづくり」、「趣味やスポーツ活動の充実」が高くなる傾向がみられる。

<図表Ⅱ-32-1 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（全体）>



<図表Ⅱ-32-2 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（障害別）>
(%)

区分	回答者数(件)	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 系 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 系 サ ー ビ ス の 充 実	障 害 児 の 療 育 の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実
全体	65	7.7	50.8	53.8	35.4	15.4	27.7	52.3	20.0	21.5	15.4
身体障害	13	-	61.5	76.9	38.5	38.5	53.8	76.9	53.8	46.2	15.4
知的障害	22	4.5	59.1	36.4	50.0	27.3	36.4	54.5	40.9	36.4	18.2
精神障害	2	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	50.0
難病（特定疾病）	3	-	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	-
発達障害	11	9.1	63.6	54.5	63.6	45.5	54.5	63.6	45.5	45.5	45.5
手帳未取得	31	9.7	41.9	61.3	22.6	3.2	16.1	51.6	6.5	9.7	6.5

区分	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み づ く り	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	16.9	32.3	20.0	32.3	20.0	24.6	30.8	3.1	7.7	-
身体障害	23.1	53.8	53.8	69.2	23.1	23.1	38.5	7.7	7.7	-
知的障害	40.9	36.4	27.3	45.5	31.8	40.9	45.5	-	-	-
精神障害	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-
難病（特定疾病）	66.7	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	-	-	-
発達障害	45.5	45.5	36.4	54.5	63.6	45.5	54.5	-	9.1	-
手帳未取得	-	29.0	9.7	16.1	12.9	12.9	19.4	3.2	9.7	-

<図表Ⅱ-32-3 障害児が地域で安心して暮らしていくために重要だと思う施策（年齢別）>
(%)

区分	回答者数（件）	特 に な い	障 害 に 対 す る 理 解 の 促 進	相 談 支 援 体 制 の 充 実	雇 用 ・ 就 労 支 援 の 充 実	訪 問 サ ー ビ ス の 充 実	日 中 活 動 サ ー ビ ス の 充 実	障 害 児 の 療 育 の 充 実	短 期 入 所 の 充 実	入 所 施 設 の 充 実	生 活 訓 練 の 場 の 充 実
全体	65	7.7	50.8	53.8	35.4	15.4	27.7	52.3	20.0	21.5	15.4
未就学児	22	9.1	54.5	59.1	27.3	9.1	9.1	54.5	9.1	22.7	9.1
就学期	23	4.3	43.5	43.5	34.8	13.0	26.1	56.5	21.7	17.4	13.0
中高生	20	10.0	55.0	60.0	45.0	25.0	50.0	45.0	30.0	25.0	25.0

区分	グ ル ー プ ホ ー ム 等 の 整 備	医 療 機 関 の 充 実	建 物 ・ 道 路 等 の バ リ ア フ リ ー 化	災 害 時 の 支 援 体 制 の 整 備	障 害 当 事 者 ・ 家 族 同 士 で 支 援 し あ え る 仕 組 み つ く り	趣 味 や ス ポ ー ツ 活 動 の 充 実	経 済 的 支 援 の 充 実	手 話 や 点 字 等 に よ る コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 手 段 の 普 及 に 対 す る 支 援	そ の 他	無 回 答
全体	16.9	32.3	20.0	32.3	20.0	24.6	30.8	3.1	7.7	-
未就学児	9.1	27.3	18.2	31.8	9.1	4.5	27.3	4.5	4.5	-
就学期	8.7	26.1	17.4	21.7	21.7	17.4	17.4	-	8.7	-
中高生	35.0	45.0	25.0	45.0	30.0	55.0	50.0	5.0	10.0	-

(2) 自由意見

問 33 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。
 ※お子さんの意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、
 どのようなことでもお書きください。

25 名の方から、延べ 29 件の意見があった。

※同一意見などは記載省略しているため、掲載意見数とカッコ内の数字は一致しない場合がある。

(1) サービス、制度について (6 件)

年齢	障害	意見、要望
9～11 歳	知的障害、発達障害	現在、学校通学へは家族で協力してやっているが通学支援を希望している。しかし人手が足りず断われています。人の確保を要望します。
9～11 歳	視覚障害、 音声・言語・ そしゃく機能障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害、発達障害	台東区内での看護師のいる放課後等デイサービスがない。 子育て支援やイベントなど障害児の使えるもの、行けるものがない。
15～17 歳	—	放課後等デイサービスの利用を希望していたが、自分で見てまわって、空きがあるところを予約してから行政に申し込むというのは、いろいろな意味で難しく、結局利用できていない。
6～8 歳	—	放課後等デイサービスを利用するのに送迎システムがあるといい。台東区にもっと放課後等デイサービスの施設が増えるといい。
3～5 歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	おむつ購入補助券に使用者の名前を書く仕組みを変えてほしいです。 このご時世、もしご自身がそれを使って購入すると仮定して、ドラッグストアなどで自分の名前が書いてあるおむつ補助券を店員に渡す事に抵抗はありませんか？区役所の方が集計等でご使用になられることは理解していますが、記号や番号等の記載でも可に変える等、やり方は色々あると思いますので、是非ご検討頂ければと思います。

(2) 施設、設備の充実 (1 件)

年齢	障害	意見、要望
12～14 歳	視覚障害、 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害、 難病 (特定疾病)	いつも福祉サービスを受けさせて頂き、助かっています。区の方、先輩方が築き上げて下さったサービスに満足していますが、親が年を取った後のことが不安でたまりません。区内にグループホームが増えたらありがたいですが、難しいのであれば、地方でもよいので斡旋して頂けると安心できます。どうぞよろしくをお願いします。

(3) 情報提供、相談支援体制 (2 件)

年齢	障害	意見、要望
15～17 歳	知的障害	グレー～軽度の子供達の相談先・事業所がまだまだ少ないように感じます。自分の子供の状態(障がい)に気がついていない親御さんに向けてのパンフレットみたいな物があるといいなと思います。(習い事の場等に置いて、相談先の情報がすぐ得られるように)個人的には相談先によって進路が狭められるなど思いました。もちろん最終的には本人や親に決定権はありますが、断りづらい雰囲気になるので、相談先を決める際の指針があると助かります。
12～14 歳	—	思春期になった子どものメンタルケアを相談できるところが欲しい。松ヶ谷福祉会館(子ども療育)でお世話になっていた頃は先生方に相談する機会がありましたが、利用は小学 1 年生で終了してしまいます。親だけでもその後も定期的に相談できる環境であって欲しいと思います。子どものことを知っている先生も多く、適確なアドバイスをいただけるかと思っています。スクールカウンセラーさんへ相談したりもしていますが、単発的なので難しいところも正直あります。

(4) 障害に対する理解 (2件)

年齢	障害	意見、要望
12～14歳	聴覚・平衡機能障害	難聴児ですが、外から見ると普通の子にしか見え、後ろからの自転車のベル、車のクラクションが聞こえず、たまに怒られます。一応、耳マークのキーホルダーや、自転車にも耳マークのシールを貼っていますが、見てくれる人はいません。耳マークをよく知らない人が多いのかもしれない。
6～8歳	知的障害、発達障害	健常者(児)と障害者(児)の関わりが少ないため、障害に対する知識不足、理解不足、偏見が生まれるのだと思います。私自身も自分の子供が障害を持って生まれるまで、何の知識もありませんでした。というか、知識が必要だと思っていませんでした。これまで生きてきた中で、障害のある方と触れ合う機会が無かったからです。身近にいなかったからです。身体に障害のある方には、なんとなく、何に配慮すべきか分かります。でもそれも深くはわかりません。知的障害、発達障害、精神障害のある方は、ぱっと見、何に配慮すべきか、またどんな特性があるのかわからない方が多いです。突然動いたり、大きな声を出したり、びっくりされる方や、怖いと思う方もいると思います。その時の周りの目は家族にとってとても辛いと思ってしまいます。そこから、人の目に触れないようにと隠してしまう家族が多いと聞きます。地域で健常者も障害者も安心して暮らす為には、知ることが大事であり、知ってもらう事が大事だと思います。知る機会、知ってもらう機会が、学校で特に小さな頃から、あれば違ってくるのではないかなと思います。障害児を育てる親として、出来る限りのことをしていきたいと考えております。

(5) 行政の対応に関して (2件)

年齢	障害	意見、要望
6～8歳	視覚障害、音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由(手足の欠損や麻痺等)、知的障害、発達障害	松が谷福祉会館や台東区役所障害福祉課で今まで関わって下さった方々はとても丁寧に説明対応をして下さって大変感謝しております。分からないことが多く今後も何かと何う事が多いと思いますがよろしくお願い致します。
3～5歳	—	こちらに書く内容ではないかもしれませんが、2年前の9月頃子どもの三歳児健診の後日の発達相談の時に、色々な専門の先生方との面談の中で女性の小児科の先生に(子どもがたぶんADHDで落ち着きがないという前提の元)たまたま椅子に座って大人しく遊ぶことができているのを見て、また事前アンケートで「躰は厳しいほうですか？」に○をつけていたのをふまえてだと思いますが、「座っていられるんですか？」の問いに、「そう言う時もあります」と答えたら、親の躰が厳しすぎると、健常児でも発達障害の様な症状が出ると言われました。ほぼ、母親である私のせいのように聞こえましたので、この方とはそういう話はしたくないと思い、当時ひとかった喘息の相談に切り替えました。その後、その日、次の日…と、悲しい気持ちと怒りの気持ちが大きくなってしまい、初めて相談した時だったので困惑もありました。でも2年たった今やはり思うことはまだ診断も受けていない初めての相談、ましてや区が行っている場でその様な発言をされる先生がいた事は強く憤りを感じます。その後に私の様な思いをされる保護者の方がいないと良いなと思う2年でした。区の相談の場なのでショックも大きかったんだと思います。どうぞ、配慮をいただけたらと思います。

(6) バリアフリーに関して (1件)

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	肢体不自由(手足の欠損や麻痺等)	区営の駐車場は身障者用を拡充してほしい。

(7) 調査に関して (1件)

年齢	障害	意見、要望
6～8歳	知的障害	このようなアンケートを実施して下さってありがとうございます。私や子どもは生きづらさを感じていたり、困っている事はありませんが、困っている方の声が行政に届くことを切に願っています。

(8) 療育、教育に関して (7件)

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	知的障害	今年は就学相談があったので、その中で気になったこと、壁に感じたことを書きます。蔵前小の支援級の定員が5名「だけ」と聞きました。何人いるかわからない対象に対して学校が区の都合で5名と言われるのは納得がいきません。オーバーしたらどう5名を決めるんですか？IQ？住所？いずれにせよ家族の希望がベースであるべきなので、必要に応じて体制を整備するのが行政の仕事ですよね？定員の問題だけでなく台東区の支援級は少なすぎます。いつから3校だけの体制でやっているのか(どこかにデータがあれば良いですが、分かりませんでした)存じあげませんが、支援級に行く可能性のある発達障害等が増えている社会的状況を考えても、支援級の拡充は急務だと思います。またエリア的な偏りが大きすぎるのではと感じています。
3～5歳	—	療育室を増やして欲しいです(現状定期的に通ってはいませんが通所するのが立地的に大変)。
9～11歳	—	学校で1人1台、ノートパソコンが配布されていますが、あまり活用されていない気がします。感染症の予防で学校を休むときや、入院中の体調のいいときなどは、希望すればオンライン授業を受けられるようにしてくれたらいいと思います。何週間も学校を休むと、授業のおくれが出てしまうので、学校に戻ったとき、ついていけないのか不安です。
3～5歳	—	未就学児の民間療育はとても素晴らしいと感じていますが、小学生の放課後デイはまず入れないと先輩ママから聞きます。せっかく今成長しているのに、卒園と同時に終わってしまうのが勿体無く感じます。
9～11歳	—	来年からの法律改正で、特別支援教室の継続が困難。通室は難しそうなので、せめてスクールカウンセラーなど専門の知識をもった教員が、巡回ではなく各学校の専属でほしい。毎日いてほしい。
12～14歳	内部障害 (内臓等の障害)	台東区は支援学校に通っていないと通学のための介助支援が受けられないので、どの学校に通っていても手帳等で、介助の必要性が明らかな場合は、通学支援を受けられるようにしてほしい。学校にエレベーターをつけてほしい。学校に昇降機をつけてもらうには誰がどのような申請をしたらいいのか、台東区の教育委員会に問い合わせしたが、一度確認するも時間がかかるとのことです。教育委員会の担当者が電話対応してくださいましたがその後ご連絡ないです。体調調整でオンライン授業を受ける教科が日々ありますが、パソコンのカメラで映しているため、全体が映らず角度も微妙です。また移動教室はオンラインで見えることもできないので配信してほしいです。カメラ等専用機材でもっと黒板などをしっかり映して欲しいです。タブレットを大事にしすぎるのではなく、もっと柔軟な連絡ツールやオンラインツールにしてもらいたいです。

(9) 緊急時の支援体制 (1件)

年齢	障害	意見、要望
12～14歳	聴覚・平衡機能障害	外出先での緊急時、難聴児は、マイクの放送、ブザーの音など、音での情報は耳に入らなく、文字情報や、周りの人達の行動や様子で状況を判断するので、何か外でも難聴の方が緊急時でも安心して状況判断できる方法があればと思います。

(10) 将来の不安 (3件)

年齢	障害	意見、要望
6～8歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	障害をもつ人が、誰のどんな集まりにも、当たり前にいる、そういう社会になっていない。だから子供の将来が不安で心配である。
9～11歳	—	台東区は学校卒業後の生活について数が不足していると聞きます。親なき後、障害を持った子供が安心して暮らせる環境の充実を要望します。

(11) 就労に関して (1件)

年齢	障害	意見、要望
12～14歳	—	台東区在住者が台東区内で働きたいと思えるようなサステナブルな仕組み作りがうまく回るといいと思います。ただ、台東区内だけで考えても、よい案にたどりつかないことが多いと思いますので、仕組みづくりの専門家の目をいれてはどうでしょうか。台東区に住みはじめて13年。息子も、この町で職を得ることができたらと思います。夢物語かも知れませんが発達障害の特徴(こだわりや過集中、定型外発想など)を活かせる場(アメリカでは発達障害者のみの会社があります)が増えることを願っています。身体障害も然りです。

(12) その他 (2件)

年齢	障害	意見、要望
3～5歳	—	たばこを吸う人のマナーがひどい。歩きタバコや吸う場所がないため、外ならどこでも吸えると思っている。保育園の入口付近で吸っている人もいたため不要である。(煙も窓から入ってしまうこともあった。)子供が遊んでいる公園内でも子供が遊んでいる時も吸っている人が多いと思う。
6～8歳	肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)、 知的障害	台東区は歩きタバコが禁止になっておらず、タバコの煙を感じることが多い。呼吸器に影響が出るので、道を歩く事に不安を感じる事もあります。近隣区のようにしっかり、歩きタバコ禁止にしてほしい。路上駐車が多く、自転車レーンにもよく停めてある。スクールバスの乗降の邪魔になったり、自転車レーンを走れない自転車と歩道ですれ違い、怖い思いをすることがある。

第3章 調査票

(ID「●●●●●」)

者

台東区障害者等の生活についてのアンケート 台東区障害者実態調査 (台東区障害者実態調査)

—ご回答にあたってのお願い—

- ◇このアンケートで「あなた」とは、封筒のあて名のご本人のことを指します。
- ◇このアンケートは、原則としてあて名のご本人が回答してください。
- ◇ご本人が回答することが難しい場合は、ご家族や身近な支援者の方などが代わりにご本人の意見を聞きながら回答してください。

◇ご回答方法は2通りございます。いずれかの方法でご回答ください。

①調査票・・・調査票（アンケート）へ回答を直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れてご返送ください。（切手は不要です）

②WEBページ・・・下記URLまたは二次元コードより、回答ページへアクセスしてご回答ください。



<https://www15.webcas.net/form/pub/weburvey/taitokuseijin>
入力する際は、IDを入力してください。（ID「●●●●●」）

◇ご回答は、令和4年10月2日（日）までをお願いいたします。

台東区役所 障害福祉課 庶務担当（身体障害・知的障害）
電話 03-5246-1207 FAX 03-5246-1179

台東保健所 保健予防課 精神保健担当（精神障害・難病）
電話 03-3847-9405 FAX 03-3847-9424

1. 障害者調査票

問1 はじめに、このアンケートにご回答いただく方はどなたですか。（1つに○）

1. あなた（あて名のご本人）	4. その他の親族
2. 父母	5. 施設の職員、支援者等
3. 配偶者	6. その他（同居人・友人等）

◆あなた自身について、おたずねします。

問2 あなたの令和4年9月1日現在の年齢をお答えください。

満（ ）歳

問3 あなたの障害は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 視覚障害	7. 発達障害
2. 聴覚・平衡機能障害	8. 精神障害
3. 音声・言語・そしゃく機能障害	9. 高次脳機能障害
4. 肢体不自由（手足の欠損や麻痺等）	10. 難病（特定疾病）
5. 内部障害（内臓等の障害）	11. その他
6. 知的障害	（ ）

問3-1 問3で「10. 難病（特定疾病）」に○をした方におたずねします。

難病医療費助成を受けている方は、身体障害者手帳を持っていないでも、必要と認められた障害福祉サービス等の利用が可能です。

あなたはこのことを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている	2. 知らなかった
----------	-----------

問4 あなたがお持ちの手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身体障害者手帳 (えんじ色の手帳)	⇒ ()	級
2. 愛の手帳 (療育手帳) (黄色の手帳)	⇒ ()	度
3. 精神障害者保健福祉手帳 (緑色の手帳)	⇒ ()	級
4. 手帳は持っていない ----→	4 ページの問5へすすむ	

問4-1 問4で1~3に○をした方におたずねします。あなたがはじめて手帳を取得

したのは何歳のときですか。(手帳ごとに○は1つ)

身体障害者手帳	1. 0~5歳までの間 2. 6~17歳までの間 3. 18~39歳までの間	4. 40~64歳までの間 5. 65歳以上
愛の手帳 (療育手帳)	1. 0~5歳までの間 2. 6~17歳までの間 3. 18~39歳までの間	4. 40~64歳までの間 5. 65歳以上
精神障害者保健福祉手帳	1. 0~5歳までの間 2. 6~17歳までの間 3. 18~39歳までの間	4. 40~64歳までの間 5. 65歳以上

◆あなた自身の暮らし方について、おたずねします。

問5 あなたは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

1. 一人暮らし	5. グループホーム等で共同生活
2. 家族と生活	6. 病院に入院中
3. 家族以外のひとと生活	7. その他
4. 入所施設で生活	()

問6 あなたは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

1. 一人暮らしをしたい
2. 現在の家族と一緒に暮らしたい
3. 新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい
4. 施設で暮らしたい (グループホームを希望する方は5に○)
5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい
6. その他 ()

問6-1 問6で「5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい」に○をした方に

おたずねします。いつからグループホーム等の共同生活住居で暮らしたいですか。(1つに○)

1. 今すぐに入居したい	4. 5~9年以内に入居したい
2. 1~2年以内に入居したい	5. 10年以上先でいいので入居したい
3. 3~4年以内に入居したい	6. その他 ()

問7 あなたは現在、台東区に住んでいますか。(1つに○)

1. はい	---->	問8 へすむ
2. いいえ	---->	問7-1 へすむ

問7-1 問7で「2.いいえ」に○をした方におたずねします。

将来、住みたい地域はどこですか。(1つに○)

1. 今住んでいるところ	2. 台東区	3. その他 ()
--------------	--------	------------

◆日常生活について、おたずねします。

問8 日常生活を送るうえで、あなたの生活の支援をしている方はいますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特に支援を必要としていない	---->	8 ページの問9 へすむ
2. 父	5. 子	8. ボランティア
3. 母	6. その他親族	9. 施設の職員
4. 配偶者	7. ヘルパー	10. その他 ()

★問8-1 から問8-4 は、問8 で 2～10 に○をした方におたずねします。

問8-1 あなたの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。

(○をした項目すべてについて○)

※5～10 を回答された方は、主に支援をしている方についてお答えください。

1. 父	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上

※5 ページの問8-1の続きです。

2. 母	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
3. 配偶者	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
4. 子	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
5. その他の親族	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
6. ヘルパー	1. 不明	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
7. ボラン	1. 不明	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
8. 施設の職員	1. 不明	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上
9. その他 ()	1. 17歳以下	3. 40歳～64歳	5. 75歳～79歳
	2. 18歳～39歳	4. 65歳～74歳	6. 80歳以上

問8-2 支援が必要な時間帯はいつですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 一日中	2. 早朝	3. 昼間	4. 夜間
--------	-------	-------	-------

問8-3 支援が必要となるのは週に何日くらいですか。(1つに○)

1. 1～2日	2. 3～6日	3. 毎日
---------	---------	-------

問8-4 支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食事(支度を含む)	9. 外出(通院や趣味の外出を含む)	14. 日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達
2. 入浴	10. 服薬管理	15. 日常生活動作の見守り
3. 着替え	11. 医療的ケア	16. その他
4. トイレ	12. お金の管理のこと	[]
5. 室内移動	13. 役所や銀行、職場や事業所等の手続き	
6. 掃除、洗濯		
7. 買い物		
8. 通学・通勤		

問9 悩みごとや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	13. 健康のこと
2. 教育・学習のこと	14. 相談支援事業所を探すこと
3. リハビリのこと	15. 障害福祉サービス事業所を探すこと
4. 経済的なこと	16. 福祉サービスの申請・契約のこと
5. お金の管理のこと	17. 交通手段のこと
6. 手帳・受給者証・医療証等の管理のこと	18. 住まいのこと
7. 家庭生活のこと	19. 必要な情報を得ること
8. 現在の支援(介護)のこと	20. ご近所の方の理解を得ること
9. 将来の支援(介護)のこと	21. 友達や相談相手に関すること
10. 仕事のこと	22. 結婚のこと
11. 趣味や生きがいに関すること	23. 子供のこと
12. 医療のこと	24. 社会参加のこと
	25. その他 ()

問10 悩みや困っていることを相談する相手はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親戚	9. 同じ病気や障害のある仲間
2. 知人・友人	10. ボランティア・NPOの職員
3. 会社の人、学校の先生	11. サービスを提供している事業者
4. 民生委員・児童委員	12. 相談支援事業所の相談員
5. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	13. インターネット・SNS等
6. 施設等の職員	14. その他
7. 公的機関の職員(区役所、保健所等)	()
8. 社会福祉協議会の職員 (あんしん台東等)	15. 相談できる人がいない
	16. どこに相談してよいかわからない

問11 平日(月曜日から金曜日)の日中は、主にどのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事(一般就労)をしている	7. 趣味等で外出している
2. 生活介護に通っている	8. 病院に通院している
3. 就労移行支援に通っている	9. 病院に入院している
4. 就労継続支援A型・B型に通っている	10. 施設に入所して過ごしている
5. 地域活動(生活)支援センターに通っている	11. 自宅やグループホームで過ごしている
6. 趣味の活動等をしている	12. その他()

問12 今後、平日(月曜日から金曜日)の日中は、主にどのように過ごしたいですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	7. 趣味の活動をしたい
2. 仕事(一般就労)をしたい	8. 外出をしたい
3. 生活介護に通いたい	9. 施設に入所して過ごしたい
4. 就労移行支援に通いたい	10. 自宅やグループホームで過ごしたい
5. 就労継続支援A型・B型に通いたい	11. その他
6. 地域活動(生活)支援センターに通いたい	()

問13 通院を含め、外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

1. ほぼ毎日	4. 月に2～3回
2. 週に3～4回	5. 年に数回
3. 週に1～2回	6. 全く外出しない

問14 あなたは、外出について困っていることはありませんか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特でない	9. 疲れたときの休憩場所
2. 歩道の段差や傾斜	10. 自動車・自転車の危険を感じる
3. 建物の段差や階段	11. スマートフォンなどの電子機器の
4. 電車、バスやタクシーの利用	ながら歩きに危険を感じる
5. 駅構内の移動や乗り換え	12. 外出するのに支援が必要である
6. 券売機の利用	13. 外出したくても支援者がいない
7. トイレの利用	14. 周囲の人の理解や配慮がない
8. 歩道が狭い・障害物がある	15. その他 ()

問15 あなたはまちのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

1. 満足している	★差し支えなければ、理由を記入してください
2. まあまあ満足している	
3. あまり満足していない	
4. 満足していない	

◆仕事について、おたずねします。

問16 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

1. 仕事をしています	-----→	間16-1へすすむ
2. 今は仕事をしていないが 今後は仕事をしたい	-----→	14ページの問17へすすむ
3. 仕事をしておらず、今後も 仕事をすることをほしくない	-----→	14ページの問18へすすむ

★問16-1から問16-5は、問16で「1.仕事をしています」に○をした方におたずねします。

問16-1 どのような働き方をしていますか。(1つに○)

1. 正規社員
2. 契約社員・派遣社員・アルバイト・パート
3. 自営または家業に従事している
4. 就労継続支援A型事業所
5. 就労継続支援B型事業所
6. その他 ()

問16-2 働いているのは、週に何時間くらいですか。(1つに○)

1. 10時間未満	3. 20時間以上～30時間未満
2. 10時間以上～20時間未満	4. 30時間以上

問16-3 ひと月あたりの仕事による収入は、平均してどれくらいですか。

(1つに○)

1. 2,999円以下	5. 40,001円 ~ 80,000円
2. 3,000円 ~ 10,000円	6. 80,001円 ~ 100,000円
3. 10,001円 ~ 24,000円	7. 100,001円 ~ 200,000円
4. 24,001円 ~ 40,000円	8. 200,001円以上

問16-4 今の仕事について、悩みごとや困っていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 悩みや不満はない	6. 人間関係がうまくいかない
2. 仕事が難しすぎる	7. 通勤・通所が大変である
3. 仕事が多すぎる	8. 賃金・待遇に不満がある
4. 内容が自分の能力や希望にあっていない	9. 行きたくないときがある
5. 障害に対する理解が不足している	10. その他 ()

問16-5 あなたは、職場や作業所のバリアフリーについて満足していますか。

(1つに○)

1. 満足している	★差し支えなければ、理由を記入してください
2. まあまあ満足している	
3. あまり満足していない	
4. 満足していない	

問17 問16で「1. 仕事をしている」または「2. 今は仕事をしていないが今後は仕事をしたい」に○をした方におたずねします。

今後は、どのような働き方をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 正規社員
2. 契約社員・派遣社員・アルバイト・パート
3. 自営または家業に従事したい
4. 就労継続支援A型事業所
5. 就労継続支援B型事業所
6. その他 ()

→ 15 ページの間19へすすむ

問18 問16で「3. 仕事をしておらず、今後も仕事をするつもりはない」に○をした方におたずねします。仕事をしていない理由は次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし	8. 通勤・通所が困難なため
2. 重度の障害のため	9. 仕事が見つからないため
3. 病気のため	10. 家事のため
4. 高齢のため	11. 家族の面倒を見ているため
5. 障害の程度にあった仕事がないため	12. 仕事をする必要がないため
6. 自分の生活にあった仕事がないため	13. なんとなく行きたくないため
7. 労働条件があわないため	14. その他 ()

問19 障害がある方が働きやすい環境にするためには、どのようなことが必要だ
と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にな い	7. 企業等での障害者雇用を進めること
2. 周囲の人たちの障害への理解	8. 勤務時間を短くすること
3. 仕事を始める前の訓練・相談	9. 通勤ラッシュの時間帯を外した通勤 時間にする
4. 仕事を始めた後の定期的な面接や 定着支援の充実	10. 個別の障害に対応した環境の整備 (建物やトイレのバリアフリー化等)
5. 通勤や移動手段の確保	11. 通院や医療上の配慮があること
6. 職場におけるコミュニケーション 手段(手話や弱視対応等)の確保	12. その他()

◆コミュニケーション・意思疎通について、おたずねします。

問20 あなたは、ふだん、どのくらい家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーシ
ョンをとっていますか。(電話やメール等を含む)(1つに○)

1. ほぼ毎日	4. 月に1～2回
2. 2～3日に1回	5. ほとんどコミュニケーションをとっていない
3. 1週間に1回	6. その他()

問21 この1年間に、コミュニケーションに困った場所や場面はどこでしたか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 特につ まったこと はない	4. 駅	7. 通所先や勤務先
2. 役所や銀行の窓口	5. 買い物や飲食店	8. 自宅
3. 医療機関	6. 電話	9. その他()

問22 あなたは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、
どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 特に利用していない	6. コミュニケーションボードを使用
2. 手話・手話通訳者の派遣	7. スマートフォン・タブレット等の アプリを使用
3. 要約筆記者の派遣	8. その他 ()
4. 視覚障害者ガイドヘルパー	
5. 知的障害者ガイドヘルパー	

問23 障害福祉に関する情報の入手方法について、今後、充実を希望するものは
次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にな い	6. 各種事業紹介パンフレット・チラシ
2. 広報「たいとう」	7. ケーブルテレビ
3. 台東区公式ホームページ	8. スマートフォン・タブレット等のアプリ
4. 台東区公式ツイッター・LINE	9. その他 ()
5. 「障害者のてびき」等の冊子	

◆障害福祉サービスについて、おたずねします。

※下記サービスを利用している場合には、あなたに受給者証（水色の冊子）が交付されていますので、サービス名がわからない場合には、受給者証をご確認ください。

介護給付	居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行搬送、行動援護、短期入所（ショートステイ）、療養介護、施設入所支援
訓練等給付	自立訓練（機能訓練）、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労定着支援、共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助

問24 あなたは現在、利用している障害福祉サービスはありますか。（1つに○）

1. ある -----> 18 ページの間25 へすすむ
2. ない -----> 19 ページの間27-2 へすすむ

問24-1 問24で「2.ない」に○をした方におたずねします。

利用していない理由は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. これらの障害福祉サービスを利用する必要がない
2. 介護保険サービスを利用している
3. 障害福祉サービスの制度について知らなかった
4. その他（ ）
- > 20 ページの間31 へすすむ

★問25～問30は、問24で「1.ある」に○をした方におたずねします。

問25 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。受けている場合は、その区分にも○をしてください。

1. 受けている -----> 区分（ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ）
2. 受けていない

問26 あなたがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡・調整を行っているのは主にどなたですか。（1つに○）

1. あなた（あて名のご本人）
2. 家族
3. ヘルパー、グループホームの世話人、入所施設の職員等
4. 相談支援事業所の相談員
5. 友人
6. その他（ ）
7. わからない

問27 あなたのサービス等利用計画は、どなたが作成していますか。（1つに○）

1. 相談支援事業所の相談員 -----> 19 ページの間27-1 へすすむ
2. セルフプラン
（本人、家族、友人、その他） -----> 19 ページの間27-2 へすすむ
3. 介護保険のケアマネジャー
4. その他（ ） } -----> 19 ページの間28 へすすむ
5. わからない

問27-1 問27で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。
相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。(1つに○)

1. 良い	2. ふつう	3. あまり良くない	4. 悪い
-------	--------	------------	-------

★差し支えなければ、理由を記入してください
()

問28へすすむ

問27-2 問27で「2. セルフプラン」に○をした方におたずねします。
なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

1. 自分で使うサービスは自分で決めたかったから

2. 相談支援事業所を知らなかったから

3. 相談支援事業所に断られたから

4. 手続き・手順が大変そうだと思ったから

5. 相談支援事業所を使用したことがあるが、自分には合わなかったから

6. その他 ()

問28 あなたは、ご自身の障害福祉サービスの支給決定内容(量)について、
どのように感じていますか。(1つに○)

1. 多い	2. ちょうど良い	3. 少ない
-------	-----------	--------

問29 あなたは、障害福祉サービス事業者の対応について、満足していますか。
(1つに○)

1. 満足している	★差し支えなければ、理由を記入してください
2. まあまあ満足している	[]
3. あまり満足していない	
4. 満足していない	

問30 障害福祉サービス事業者に苦情や不満を伝えたと、その事業者は、十分に内容を聞き、あなたに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

1. 苦情や不満はない	4. あまり対応してくれなかった
2. きちんと対応してくれた	5. まったく対応してくれなかった
3. ある程度対応してくれた	6. 苦情や不満を伝えられなかった

問31 今後、あなたが充実を希望するサービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	
日常生活の こと	2. 居宅介護(ホームヘルプ)
	3. 訪問入浴
	4. 移動への支援(ガイドヘルプ、通字支援等)
	5. コミュニケーションの支援(手話通訳者の派遣、視覚障害者 ガイドヘルパーの利用等)

※20 ページの問31の続きです。

日常生活の こと	6. 補装具の交付・修理（白杖、補聴器、義手、義足、義足、車いす等）
	7. 日常生活用具の給付
	8. 寝具乾燥・消毒サービス
	9. 緊急時通報機器の支給
	10. 自動車運転教習費・改造費の助成
	11. 外出手段への支援（リフト付きタクシー費の助成、福祉タクシー利用券の交付、自動車燃料費の助成等）
	12. 地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援
	13. 生活介護
	14. 開所時間の延長
	15. 日中一時支援（日帰りのショートステイ）
	16. 短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護
	17. 就職するための支援
	18. 就労継続支援A型事業所
	19. 就労継続支援B型事業所（福祉作業所）
	20. 就労移行支援
	21. 就労定着支援
	22. その他の就労に関する支援

※20 ページの問31の続きです。

住まいの こと	23. 施設入所支援
	24. グループホーム
	25. 賃貸住宅への入居手続き等の支援（単身生活サポート）
	26. 自立生活体験事業
	27. 住宅設備改善費
医療的ケアの こと	28. 医療的ケア者への支援
	29. 新たに希望するサービス（ ）
その他の こと	【充実内容について具体的なご意見がありましたら、ご記入ください】

問32 介護保険サービスを利用している方はその内容を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 利用していない	24 ページの問34 へすすむ
2. 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	7. 通所リハビリテーション (デイケア)
3. 訪問入浴介護	8. 短期入所 (ショートステイ)
4. 訪問リハビリテーション	9. 介護予防サービス
5. 訪問看護	10. 福祉用具レンタル・購入
6. 通所介護 (デイサービス)	11. その他 ()

問33 問32 で、2～11に○をつけた方におたずねします。あなたは、介護保険サービス移行後のサービス内容について満足していますか。(1つに○)

1. 満足している	★差し支えなければ、理由を記入してください
2. まあまあ満足している	
3. あまり満足していない	
4. 満足していない	

問34 ◆医療的ケアについて、おたずねします。

あなたは、次のような医療的ケアを必要としていますか。

(必要としているものすべてに○)

1. 医療的ケアは必要としていない	25 ページの問36 へすすむ
2. 人工呼吸器管理	9. 経管栄養 (経鼻・胃ろうを含む)
3. 気管内挿管・気管切開	10. 腸ろう・腸管栄養
4. 鼻咽喉エアウェイ	11. 透析 (腹膜灌流を含む)
5. 酸素吸入	12. 一日3回以上の定期導尿
6. 一日6回以上の吸引	13. 人工肛門
7. 一日6回以上のネブライザー	14. その他の医療的ケア
8. 中心静脈栄養 (IVH)	()

問35 問34 で、2～14に○をつけた方におたずねします。医療的ケアに関して、

どのような支援の充実が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	7. 医療的ケア者が利用できる生活介護の整備
2. 医療的ケア支援にかかる相談窓口	8. 医療的ケア者の仕事に関する支援
3. ヘルパーの確保・育成	9. 医療的ケア者の外出手段の確保に関する支援
4. 医療従事者の確保・育成	10. その他 ()
5. 医療的ケア者の家族への支援	
6. 医療的ケア者が利用できる短期入所施設の整備	

問38-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親戚	10. 施設等の職員
2. 知人・友人	11. サービスを提供している事業者
3. 公的機関の職員（区役所、保健所等）	12. 相談支援事業所の相談員
4. 障害者虐待防止センター（障害者支援施設浅草ほうらい 内）	13. ボランティア・NPOの職員
5. 精神障害者地域生活支援センター	14. 民生委員・児童委員
あさがお	15. 会社の人、学校の先生
6. 障害者自立支援センター	16. インターネット・SNS等
7. 警察	17. 同じ病気や障害のある仲間
8. 社会福祉協議会の職員（あんしん台東等）	18. その他 ()
9. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	19. 相談できる人がいない
	20. どこに相談してよいかわからない

問39 あなたの身の回りで、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。（1つに○）

1. 見たことがある	2. 話を聞いたことがある	3. 見たり聞いたりしたことはない
------------	---------------	-------------------

問40 あなたは、障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。（1つに○）

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

問41 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」

（※）を開設しています。あなたはこのことについて知っていますか。

（1つに○）

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

※障害者虐待防止センター（障害者支援施設浅草ほうらい 内）

（身体障害・知的障害）

電話：03(5808)0067 F A X：03(5824)5631

※精神障害者地域生活支援センターあさがお（精神障害）

電話：070(1555)8910 F A X：03(5823)4299

問42 あなたは、障害者に対する「不当な差別的取扱い」(※1)や「合理的配慮の不提供」(※2)の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

※1 不当な差別的取扱いとは、正当な理由がないのに、障害があることで、サービスの利用を拒否したり、提供場所や時間帯を制限することなどをいいます。

※2 合理的配慮の不提供とは、障害者から手助けや必要な配慮についての意思が伝えられたときに、必要な配慮を行わないことなどをいいます。

問43 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。(1つに○)

1. ある	3. ない
2. 少しある	4. わからない

31 ページの問44へ進む

★問43-1と問43-2は、問43で「1. ある」または「2. 少しある」に○をした方におたずねします。

問43-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき	4. 病院で医療を受けるとき
2. 情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき	5. 働きたいとき、働くとき
3. 物を売買するとき	6. 福祉サービスを使いたいとき、使うとき
7. その他	
()	

問43-2 あなたは、不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 国の窓口	5. 障害福祉課・保健予防課以外の区の窓口
2. 東京都の窓口	6. その他 ()
3. 障害福祉課	7. 相談していない
4. 保健予防課	8. どこに相談したらいいかわからない

◆災害・緊急時のことについて、おたずねします。

問44 災害（地震等）が発生したときに、あなたが困ることや不安に思うことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 特にない	8. 病院や薬局の情報を得ること
2. 災害発生との連絡を受けること	9. 薬の確保
3. 家族等と連絡をとること	10. 人工呼吸器等に使う電源の確保
4. 避難所の情報を得ること	11. 文字や音声による情報提供
5. 障害者に配慮した避難所設備	12. 手話や点字等の障害特性に応じた情報提供
6. 障害者に配慮した備蓄品の確保	13. その他（ ）
7. 避難・移動すること	

問45 緊急時に連絡を取るのほどなですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族・親戚	9. 社会福祉協議会の職員 （あんしん台東等）
2. 知人・友人	10. ボランティア・NPOの職員
3. 同じ病気や障害のある仲間	11. サービスを提供している事業者
4. 会社の人、学校の先生	12. 相談支援事業所の相談員
5. 民生委員・児童委員	13. その他 （ ）
6. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	14. 連絡を取る人がいない
7. 入施設等の職員	15. 誰に連絡をしてよいかわからない （区役所、保健所等）
8. 公的機関の職員	

問46 あなたは、災害（地震等）が発生したときの避難方法を理解・把握していますか。（1つに○）

1. 避難方法を理解・把握し、具体的な対策をしている
2. 避難方法を少しは理解・把握しているが、具体的な対策はしていない
3. 避難方法を理解・把握しておらず、具体的な対策はしていない

◆新型コロナウイルス感染症について、おたずねします。

問47 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で困ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 特にない	7. 生活リズムが変わり、心身の調子を崩すことが増えた
2. 障害特性を理解してもらえない	8. 家族や介助者が罹患した場合の、自身の支援継続が不安になった
3. マスク着用やソーシャルディスタンスにより、意思疎通が困難になった	9. 行政が発信する情報の収集や理解が難しかった／分からなかった
4. ハルパーの確保等ができず、福祉サービスの利用が困難になった	10. 会社（事業所）が休業・規模縮小したため、収入が減少した
5. 外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った	11. 会社（事業所）から解雇され、収入がなくなった
6. オンラインでの手続きやコミュニケーションが増えたが、手続きや操作方法が難しかった／分からなかった	12. その他 （ ）

問48 新型コロナウイルス感染症を克服して、行政に求めるものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	6. 権息時のサポート体制の充実
2. 障害特性の理解促進	7. 就業支援、福祉作業所等工賃向上支援
3. 福祉サービス提供体制の維持を図るための事業者への支援	8. その他
4. オンラインを活用した相談環境や交流機会の提供・充実	〔 〕
5. 多様な利用者に配慮した情報格差の解消や情報の受け取りやすさ、利用しやすさの向上	

◆その他、台東区への要望等について、おたずねします。

問49 障害者が地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	13. 災害時の支援体制の整備
2. 障害に対する理解の促進	14. 障害当事者・家族同士で支援しあえる仕組みづくり
3. 相談支援体制の充実	15. 生活の支援をしている家族の負担軽減
4. 雇用・就労支援の充実	16. 趣味やスポーツ活動の充実
5. 訪問系サービスの充実	17. 経済的支援の充実
6. 日中活動系サービスの充実	18. 手話や点字等によるコミュニケーション
7. 短期入所の充実	19. その他
8. 入所施設の充実	〔 〕
9. 生活訓練の場の充実	〔 〕
10. グループホーム等の整備	〔 〕
11. 医療機関の充実	〔 〕
12. 建物・道路等のバリアフリー化	〔 〕

問50 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

※ご本人の意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、

どのようなことでもお書きください。

—ご協力ありがとうございました—



(I D 「 ●●●●●●」)

台東区障害者等の生活についてのアンケート (台東区障害者実態調査)

一ご回答にあたってのお願いー

- ◇このアンケートで「お子さん」とは、封筒のあて名のご本人のことを指します。
- ◇このアンケートは、原則として、お子さんの意見を聞きながら、お子さんのご家族や身近な支援者の方が回答してください。

- ◇ご回答方法は2通りございます。いずれかの方法でご回答ください。
- ①調査票・・・調査票(アンケート)へ回答を直接ご記入いただき、封筒の返信用封筒に入れてご返送ください。(切手は不要です)

②WEBページ・・・下記URLまたは二次元コードより、回答ページへアクセスしてご回答ください。

<https://www15.webcas.net/form/pub/websurvey/taidotokujidou>

入力する際は、IDを入力してください。(I D 「 ●●●●●●」)



◇ご回答は、令和4年10月2日(日)までお願いいたします。

台東区役所 障害福祉課 庶務担当 (身体障害・知的障害)
 電話 03-5246-1207 FAX 03-5246-1179

台東保健所 保健予防課 精神保健担当 (精神障害・難病)
 電話 03-3847-9405 FAX 03-3847-9424

2. 障害児調査票

問1 はじめに、このアンケートに回答いただく方はどなたですか。(1つに○)

1. 父母	4. 施設の職員、支援者等
2. 兄弟姉妹	5. その他(同居人・友人等)
3. その他の親族	

◆お子さん自身について、おたずねします。

問2 お子さんの令和4年9月1日現在の年齢をお答えください。

満 () 歳

問3 お子さんは障害者手帳をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)

お持ちの場合、手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに等級を記載)

1. 身体障害者手帳 (えんじ色の手帳)	⇒ ()	級
2. 愛の手帳 (療育手帳) (黄色の手帳)	⇒ ()	度
3. 精神障害者保健福祉手帳 (緑色の手帳)	⇒ ()	級
4. 手帳は持っていない	----→	4ページの問4へすすむ

★問3-1と問3-2は、問3で1～3に○をした方におたずねします。

問3-1 お子さんがはじめて手帳を取得したのは何歳のときですか。

(手帳ごとに○は1つ)

身体障害者手帳	1. 0～6歳までの間	3. 13～15歳までの間
	2. 7～12歳までの間	4. 16～17歳までの間
愛の手帳 (療育手帳)	1. 0～6歳までの間	3. 13～15歳までの間
	2. 7～12歳までの間	4. 16～17歳までの間
精神障害者保健福祉手帳	1. 0～6歳までの間	3. 13～15歳までの間
	2. 7～12歳までの間	4. 16～17歳までの間

問3-2 お子さんの障害 (疑いを含む) は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚障害	7. 発達障害
2. 聴覚・平衡機能障害	8. 精神障害
3. 音声・言語・そしゃく機能障害	9. 高次脳機能障害
4. 肢体不自由 (手足の欠損や麻痺等)	10. 難病 (特定疾病)
5. 内部障害 (内臓等の障害)	11. その他
6. 知的障害	()

◆お子さん自身の暮らし方について、おたずねします。

問4 お子さんは現在、どのような暮らし方をしていますか。(1つに○)

1. 家族と生活	4. 病院に入院中
2. 家族以外のひとと生活	5. その他
3. 入所施設で生活	()

問5 お子さんは将来、どのような暮らし方を望んでいますか。(1つに○)

1. 一人暮らしをしたい
2. 現在の家族と一緒に暮らしたい
3. 新しい家族をつくって、その家族と暮らしたい
4. 施設で暮らしたい (グループホームを希望する方は5に○)
5. グループホーム等の共同生活住居で暮らしたい
6. その他 ()

◆ 日常生活について、おたずねします。

問6 日常生活を送るうえで、お子さんの生活の支援をしている方はいますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特に支援を必要としていない	7 ページの間7へすむ
2. 父	6. 祖父
3. 母	7. 祖母
4. 兄弟	8. その他の親族
5. 弟妹	9. ヘルパー
	10. ボランティア
	11. 施設の職員
	12. その他
	()

★問6-1 と問6-2 は、問6 で2～12に○をした方におたずねします。

問6-1 お子さんの生活の支援をしている方の年齢はいくつですか。

(○をした項目すべてについて○)

※8～11 を回答された方は、主に支援をしている方についてお答えください。

1. 父	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
2. 母	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
3. 兄弟	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上

※5 ページの間6-1の続きです。

4. 弟妹	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
5. 祖父	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
6. 祖母	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
7. その他	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
の親族	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
8. ヘルパー	1. 不明	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
9. ボラン	1. 不明	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
ティア	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
10. 施設の職員	1. 不明	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上
11. その他	1. 17歳以下	3. 30歳～39歳	5. 50歳～59歳
()	2. 18歳～29歳	4. 40歳～49歳	6. 60歳以上

問6-2 お子さんに必要な支援の内容はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食事	7. 洗顔・歯磨き	11. 服薬管理
2. 入浴	8. 日常生活に必要な情報の収集、意思の伝達	12. 日常生活動作の見守り
3. 着替え	9. 通学・通勤	13. 学習の支援
4. トイレ	10. 外出 (通院や趣味の外出を含む)	14. その他
5. 室内移動		()
6. 寝返り		

問7 通院を含め、お子さんの外出の頻度は、どのくらいですか。(1つに○)

1. 全く外出しない	
2. ほぼ毎日	5. 月に2～3回
3. 週に3～4回	6. 年に数回
4. 週に1～2回	

問8 お子さんとの外出について困っていることはありませんか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	9. 疲れたときの休憩場所
2. 歩道の段差や傾斜	10. 自動車・自転車に危険を感じる
3. 建物の段差や階段	11. スマートフォンなどの電子機器の
4. 電車、バスやタクシーの利用	ながら歩きに危険を感じる
5. 駅構内の移動や乗り換え	12. 外出するのに支援が必要である
6. 券売機の利用	13. 外出したくても支援者がいない
7. トイレの利用	14. 周囲の人の理解や配慮がない
8. 歩道が狭い・障害物がある	15. その他 ()

問9 まちのバリアフリー対応について、満足していますか。(1つに○)

1. 満足している	★差し支えなければ、理由を記入してください
2. まあまあ満足している	
3. あまり満足していない	
4. 満足していない	

◆お子さんの生活を支援している方のお仕事について、おたずねします。

問10 現在の就業状況を教えてください。(あてはまる欄に○)

	父	母	その他の養育者
1. 正規社員			
2. 契約社員・派遣社員 ・アルバイト・パート			
3. 自営または家業			
4. その他	()	()	()
5. 仕事をしていない			

10 ページの間11へすむ

問10-1 問10で1~4に○をした方におたずねします。働いているのは、週に

何時間くらいですか。(あてはまる欄に○)

	父	母	その他の養育者
1. 10時間未満			
2. 10時間以上～ 20時間未満			
3. 20時間以上～ 30時間未満			
4. 30時間以上			

◆療育・教育について、おたずねします。

問11 お子さんは、平日の日中、どこで過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

A 就学前

1. 幼稚園	5. 松が谷福祉会館以外の療育施設 (児童発達支援事業所等)
2. 保育園	
3. 認定こども園	6. その他 ()
4. 松が谷福祉会館	7. 通園先・通所先はない

B 就学期以降

8. 小学校の普通級	15. 特別支援学校の中学部
9. 小学校の普通級及び特別支援教室	16. 高等学校
10. 小学校の特別支援学級	17. 特別支援学校の高等部
11. 特別支援学校の小学部	18. その他 ()
12. 中学校の普通級	
13. 中学校の普通級及び特別支援教室	19. 義務教育終了後通学はしていない
14. 中学校の特別支援学級	11 ページの間12へすむ

問11-1 問11のBで8～17に○をした方におたずねします。お子さんは学校が終わった後、どこで過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ほとんど自宅にいる	5. 放課後等デイサービス (区外)
2. 学童クラブ	6. 親戚の家
3. 児童館	7. 友人・知人の家
4. 放課後等デイサービス (区内)	8. その他 ()

問12 お子さんは、休日や時間的余裕のあるとき、どのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特に何もしていない	7. 飲食店に行く	12. 近所の散歩
2. 趣味や学習活動	8. 読書	13. ボランティア活動
3. スポーツ	9. 旅行	14. その他
4. 友人・知人と会う	10. 家でくつろぐ	[]
5. 映画などの鑑賞	11. 地域の行事に参加する	
6. 買い物に行く		

問13 お子さんの成長や発達について、最初に気がかりなこと・心配なことがあったのはどのようなときでしたか。(1つに○)

1. 出生した病院で	6. 幼稚園・保育園・認定こども園の教職員が気付いた
2. 家族や周りの人が気付いた	7. 学校の教職員が気付いた
3. 乳幼児健診	8. その他 ()
4. 療育相談など	9. わからない
5. 医療機関で診療したとき	14ページの問14へ進む

問13-1 問13で1～8に○をした方におたずねします。その時期はいつですか。

(1つに○)

選択肢2を選択した場合、その時の年齢はいくつでしたか。

1. 生まれた時	2. 満 () 歳
----------	------------

問13-2 問13で1～8に○をした方におたずねします。お子さんの成長や発達について最初に気がかりなこと・心配なことがあったとき、相談した相手はどれですか。(1つに○)

1. 家族・親戚	10. 松が谷福祉会館子ども療育室
2. 知人・友人	11. 子ども家庭支援センター
3. 保育園・子ども園・幼稚園の教職員	12. 教育委員会(教育支援館含む)
4. 学校の教職員	13. 児童相談所
5. 民生委員・児童委員	14. インターネット・SNS等
6. 障害等の当事者会や家族の会	15. その他
7. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	()
8. 区役所	16. 相談できる人がいない
9. 保健所・浅草保健相談センター	17. どこに相談してよいかかわからない

問14 お子さんの育児をするにあたり、悩みや不安はありませんか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特に悩みや不安はない	---->	16ページの問15へすすむ
2. 支援してくれる人が足りない		15. 周囲の人や職場などの理解がない
3. 何かあったときに支援を頼める人がいない		16. 兄弟姉妹の世話が十分にできない
4. 他の家族の協力が少ない		17. 子供の就学や進路について不安がある
5. 仕事との両立が難しい		18. 子供の成長や発達について不安がある
6. 長期的な外出ができない		19. 相談支援事業所の利用に関すること
7. 支援の方法が分からない		20. 福祉サービスの利用に関すること
8. 自分の時間が取れず、自由がない		21. 移動手段の確保が難しい
9. 身体的な負担が大きい		22. 必要な情報を得るのが難しい
10. 健康について不安がある		23. 学校等での生活に関すること
11. 体調不良でも病院に行く時間がない		24. その他
12. 睡眠が不足している		[]
13. 精神的な負担が大きい		
14. 経済的な負担が大きい		

問14-1 問14で2～24に○をした方におたずねします。お子さんの育児をするにあたり、悩みや困っていることを相談する相手はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族・親戚	10. 松が谷福祉会館子ども療育室
2. 知人・友人	11. 子ども家庭支援センター
3. 保育園・子ども園・幼稚園の教職員	12. 教育委員会(教育支援館含む)
4. 学校の教職員	13. 児童相談所
5. 民生委員・児童委員	14. インターネット・SNS等
6. 障害等の当事者会や家族の会	15. その他
7. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	()
8. 区役所	16. 相談できる人がいない
9. 保健所・浅草保健相談センター	17. どこに相談してよいかかわからない

◆コミュニケーション・意思疎通について、おたずねします。

問15 お子さんは、家族・親族・知人・支援者等とコミュニケーションをとるときに、どのような意思疎通手段・支援を利用していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特にご利用していない	6. コミュニケーションボードを使用
2. 手話・手話通訳者の派遣	7. スマートフォン・タブレット等のアプリを使用
3. 要約筆記者の派遣	8. その他
4. 視覚障害者ガイドヘルパー	()
5. 知的障害者ガイドヘルパー	

問16 障害福祉に関する情報入手方法について、今後、充実に希望するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	6. 各種事業紹介パンフレット・ちらし
2. 広報「たいとう」	7. ケーブルテレビ
3. 台東区公式ホームページ	8. スマートフォン・タブレット等のアプリ
4. 台東区公式ツイッター・LINE	9. その他
5. 「障害者のてびき」等の冊子	()

◆福祉サービスについて、おたずねします。

※下記サービスを利用している場合には、お子さんに受給者証（水色の冊子）が交付されていますので、サービス名がわからない場合には、受給者証をご確認ください。

障害福祉サービス	居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、同行援護、行動援護、短期入所（ショートステイ）、療養介護、施設入所支援
障害児通所給付	児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児入所施設

問17 お子さんは現在、利用している福祉サービスはありますか。（1つに○）

1. ある -----> 18 ページの間18へすすむ

2. ない -----> 問17-1へすすむ

問17-1 問17で「2. ない」に○をした方におたずねします。

利用していない理由は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. これらの福祉サービスを利用する必要がない

2. 福祉サービスの制度について知らなかった

3. その他（ ）

-----> 20 ページの間22へすすむ

★問18～問21は、問17で「1. ある」に○をした方におたずねします。

問18 お子さんがサービスを利用するにあたって、申請手続きや事業者との連絡調整を行っているのは主にどなたですか。（1つに○）

1. 家族	4. 友人
2. ヘルパー、放課後等デイサービス	5. その他
など通所施設等の職員等	（ ）
3. 相談支援事業所の相談員	6. わからない

問19 お子さんの障害児支援利用計画は、どなたが作成していますか。（1つに○）

1. 相談支援事業所の相談員	-----> 問19-1へすすむ
2. セルフプラン（家族、その他）	-----> 19 ページの間19-2へすすむ
3. その他（ ）	} 19 ページの間20へすすむ
4. わからない	

問19-1 問19で「1. 相談支援事業所の相談員」に○をした方におたずねします。

相談支援事業所を利用して、どのように感じていますか。（1つに○）

1. 良い

2. ぶつう

3. あまり良くない

4. 悪い

★差し支えなければ、理由を記入してください

-----> 19 ページの間20へすすむ

問19-2 問19で「2.セルフプラン」に○をした方におたずねします。

なぜ、セルフプランを選びましたか。(1つに○)

1. 相談支援事業所を使わなくても作成できると思ったから
2. 相談支援事業所を知らなかったから
3. 相談支援事業所に断られたから
4. 手続き・手順が大変そうだったから
5. 相談支援事業所を使用したことがあるが、合わなかったから
6. その他 ()

問20 福祉サービスを提供する事業者の対応について、満足していますか。

(1つに○)

1. 満足している
2. まあまあ満足している
3. あまり満足していない
4. 満足していない

問21 福祉サービスを提供する事業者が苦情や不満を伝えたとき、その事業者は十分に内容を聞きお子さんに何らかの対応をしてくれましたか。(1つに○)

1. 苦情や不満はない
2. きちんと対応してくれた
3. ある程度対応してくれた
4. あまり対応してくれなかった
5. まったく対応してくれなかった
6. 苦情や不満を伝えられなかった

問22 今後、充実を希望するサービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし	
日常生活のこと	2. 居宅介護 (ホームヘルプ) 3. 訪問入浴 4. 移動への支援 (ガイドヘルプ、通学支援等) 5. コミュニケーションの支援 (手話通訳者の派遣、視覚障害者ガイドヘルパーの利用等) 6. 補装具の交付・修理 (白杖、補聴器、義手、義足、車いす等) 7. 日常生活用具の給付 8. 寝具乾燥・消毒サービス 9. 緊急時通報機器の支給 10. 自動車運転教習費・改造費の助成 11. 外出手段への支援 (リフト付きタクシー費の助成、福祉タクシー利用券の交付、自動車燃料費の助成等) 12. 地域活動支援センター等への通所による日中活動への支援
通所のこと	13. 生活介護 14. 開所時間の延長 15. 障害児の通所支援 (児童発達支援、放課後等デイサービス等)
短期預かりのこと	16. 日中一時支援 (日帰りのショートステイ) 17. 短期入所 (ショートステイ)・緊急一時保護

※20 ページの問22 の続きです。

18. 就職するための支援	
19. 就労継続支援A型事業所	
20. 就労継続支援B型事業所 (福祉作業所)	
21. 就労移行支援	
22. 就労定着支援	
23. その他の就労に関する支援	
24. 施設入所支援	
25. グループホーム	
26. 賃貸住宅への入居手続き等の支援 (単身生活サポート)	
27. 自立生活体験事業	
28. 住宅設備改善費	
29. 医療的ケア児 (者) への支援	
30. 新たに希望するサービス ()	
医療的ケアのこと	
その他のこと	
【充実内容について具体的なご意見がありましたら、ご記入ください】	
()	

◆医療的ケアについて、おたずねします。

問23 お子さんは、次のような医療的ケアを必要としていますか。
(必要としているものすべてに○)

1. 医療的ケアは必要としていない	23 ページの間24へすすむ
2. 人工呼吸器管理	9. 経管栄養 (経鼻・胃ろうを含む)
3. 気管内挿管・気管切開	10. 腸ろう・腸管栄養
4. 鼻咽喉工アウェイ	11. 透析 (腹膜灌流を含む)
5. 酸素吸入	12. 一日3回以上の定期導尿
6. 一日6回以上の吸引	13. 人工肛門
7. 一日6回以上のネブライザー	14. その他の医療的ケア
8. 中心静脈栄養 (IVH)	()

問23-1 問23 で2～14に○をした方におたずねします。医療的ケアに関して、どのような支援の充実が必要だとお思いですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特になし	7. 医療的ケア児の教育に関する支援
2. ヘルパーの確保・育成	8. 医療的ケア児の通所支援の整備 (児童発達支援・放課後等デイサービス)
3. 医療従事者の確保・育成	9. 医療的ケア児の住居に関する支援
4. 医療的ケア児 (児) の家族への支援	10. 医療的ケア児 (児) の外出手段の確保に関する支援
5. 医療的ケア児 (児) が利用できる短期入所施設の整備	11. その他 ()
6. 医療的ケア児が利用できる生活介護の整備	

◆障害者の権利擁護、虐待、差別について、おたずねします。

問24 お子さんは、いままでに自分の体や心を傷けられた（虐待された）ことはありますか。（1つに○）

1. ある	2. ない
-------	-------

★問24-1～問24-3は、問24「1.ある」に○をした方におたずねします。

問24-1 虐待の内容はどのような内容ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 殴る、蹴る、縛り付ける、閉じ込める、必要のない薬を飲ませる など (身体的虐待)
2. 性的行為の強要、身体への接触、裸にする、いやらしい話をする など (性的虐待)
3. 怒鳴る、悪口を言う、仲間に入れない、わざと無視する など (心理的虐待)
4. 十分な食事を与えない、不潔な住環境で生活させる など (放棄・放任 (ネグレクト))
5. 必要なお金を与えない、勝手にお子さんのお金を使う など (経済的虐待)
6. その他 ()

問24-2 誰から虐待を受けましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族、親族、一緒に住んでいる人など	5. 近所の人
2. 通っている施設や事業所の職員など	6. 知らない人
3. 働いている場所の人など	7. その他 ()
4. 学校の職員	

問24-3 虐待を受けたとき、だれ（どこ）に相談しましたか。

1. 家族・親戚	10. 施設等の職員
2. 知人・友人	11. サービスを提供している事業者
3. 公的機関の職員（区役所、保健所等）	12. 相談支援事業所の相談員
4. 障害者虐待防止センター（障害者支援施設浅草ほうらい 内）	13. ボランティア・NPOの職員
5. 精神障害者地域生活支援センター	14. 民生委員・児童委員
あさがお	15. 会社の人、学校の先生
6. 障害者自立支援センター	16. インターネット・SNS等
7. 警察	17. 同じ病気や障害のある仲間
8. 社会福祉協議会の職員 (あんしん台東等)	18. その他 ()
9. 医師・看護師・ソーシャルワーカー等	19. 相談できる人がいない
	20. どこに相談してよいかわからない

問25 お子さんの身の回り、障害者に対する虐待を見たり聞いたりしたことはありますか。(1つに○)

1. 見たことがある	2. 話を聞いたことがある	3. 見たり聞いたりしたことは無い
------------	---------------	-------------------

問26 障害者への虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取り組み等を定めた「障害者虐待防止法」について知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

問27 「障害者虐待防止法」の施行をうけ、区では虐待防止に関する24時間対応の相談や一時的な保護の提供等を行う「障害者虐待防止センター」(※)を開設しています。このことについて知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

※障害者虐待防止センター(障害者支援施設浅草ほうらい 内)

(身体障害・知的障害)

電話：03(5808)0067 FAX：03(5824)5631

※精神障害者地域生活支援センターあさがお(精神障害)

電話：070(1555)8910 FAX：03(5823)4299

問28 障害者に対する「不当な差別的取扱い」(※1)や「合理的配慮の不提供」(※2)の禁止について規定した「障害者差別解消法」を知っていますか。(1つに○)

1. 名前も内容も知っている	2. 名前は知っている	3. まったく知らない
----------------	-------------	-------------

※1 不当な差別的取扱いとは、正当な理由がないのに、障害があることで、サービスの利用を拒否したり、提供場所や時間帯を制限することなどをいいます。

※2 合理的配慮の不提供とは、障害者から手助けや必要な配慮についての意思が伝えられたときに、必要な配慮を行わないことなどをいいます。

問29 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたことがありますか。(1つに○)

1. ある	3. ない
2. 少しある	4. わからない

28 ページの間30へ進む

★問29-1と問29-2は、問29で「1.ある」または「2.少しある」に○をした方におたずねします。

問29-1 どのようなときに不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 公共施設や交通機関を利用するとき	5. 働きたいとき、働くとき
2. 情報を得たいとき、コミュニケーションをとりたいとき	6. 福祉サービスを使いたいとき、使うとき
3. 物を売買するとき	7. 学校に通いたいとき、通うとき
4. 病院で医療を受けるとき	
8. その他	

問29-2 不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供を感じたときに、どこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 国の窓口	6. 障害福祉課・保健予防課・教育委員会以外の区の窓口
2. 東京都の窓口	7. その他 ()
3. 障害福祉課	8. 相談していない
4. 保健予防課	9. どこに相談してよいかわからない
5. 教育委員会 (教育支援館含む)	

◆新型コロナウイルス感染症について、おたずねします。

問30 新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活で困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にない	8. 家族や介護者が罹患した場合、自身の支援継続が不安になった
2. 障害特性を理解してもらえない	9. 行政が発信する情報の収集や理解が難しかった／分からなかった
3. マスク着用やソーシャルディスタンスにより、意思疎通が困難になった	10. 会社(事業所)が休業・減産・減小したため、収入が減少した
4. ヘルパーの確保等ができず、福祉サービスの利用が困難になった	11. 会社(事業所)から解雇され、外出自粛や行動制限により、友人・知人との交流の機会が減った
5. オンラインでの手続きやコミュニケーションが増えたが、手続きや操作方法が難しかった／分からなかった	12. その他
6. オンラインでの手続きやコミュニケーションが増えたが、手続きや操作方法が難しかった／分からなかった	
7. 生活リズムが変わり、心身の調子を崩すことが増えた	

問31 新型コロナウイルス感染症を見据えて、行政に求めるものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 特にな い	6. 権限時のサポート体制の充 実
2. 障害特性の理解促進	7. 就業支援、福祉作業所等工賃向上 支援
3. 福祉サービス提供体制の維持を図 る	8. その他
ための事業者への支援	
4. オンラインを活用した相談環境や 交流機会の提供・充実	
5. 多様な利用者に配慮した情報格差の 解消や情報の受け取りやすさ、利用 しやすさの向上	

◆その他、台東区への要望等について、おたずねします。

問32 お子さんが地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だ
と恐れますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 特にな い	13. 建物・道路等のバリアフリー化
2. 障害に対する理解の促進	14. 災害時の支援体制の整備
3. 相談支援体制の充実	15. 障害当事者・家族同士で支援しあえ る仕組みづくり
4. 雇用・就労支援の充実	16. 趣味やスポーツ活動の充実
5. 訪問系サービスの充実	17. 経済的支援の充実
6. 日中活動系サービスの充実	18. 手話や点字等によるコミュニケーション の普及に対する支援
7. 障害児の療育の充実	19. その他
8. 短期入所の充実	
9. 入所施設の充実	
10. 生活訓練の場の充実	
11. グループホーム等の整備	
12. 医療機関の充実	

問33 その他、ご意見・ご要望等がございましたら、ご目田にお書きください。
※お子さんの意見以外にも、ご家族やお近くの方からお聞きしたことなど、
どのようなことでもお書きください。

—ご協力ありがとうございました—

台東区障害者実態調査 報告書
令和4年12月
令和4年度登録第51号

発行:台東区福祉部障害福祉課
〒110-8615 台東区東上野4-5-6
TEL : 03 (5246) 1206